

はじめに

I 研究の背景

中国に関する報道のない日はない。その中国は、いま大きな「変化」の中にある。WTOへの加盟を果たし、GDPも日本の水準に迫る勢いで成長を続けているし、また今後も2008年の北京五輪、2010年の上海万国博と世界的イベントが予定されている。このように、近年の中国の変貌ぶりはさまざま、人々の意識や生活も一昔前に比べて大きく変わりつつある。

このような中国の「変化」をめぐるには、「世界の工場」化や高成長に目を向けた「脅威論」、環境の悪化やエネルギー危機、地域格差の広がり等に着目した「発展限界論」、更には共産党の単一支配の弊害を指摘する論調などもあって、事象の全体像を的確にとらえることは容易でない。

しかし、いま、日本社会の中には中国のモノ・ヒト・情報があふれている。電気製品、衣類、日用品をはじめ、野菜や冷凍食品など、毎日の食卓に上るものまで、あらゆる種類のものがある。SARS騒ぎで若干減りはしたものの、中国からの観光客をはじめ、留学生も多く日本で学んでいる。もちろん、犯罪なども目立ってはいるが、日中間で大きな結びつきがみられるのは否定しがたい。

それだけに、面積は日本の約25倍、人口は約10倍という巨大な中国を、日本の中学生にできるだけ偏りなく理解させ、同時に、日本のマンガやテレビゲームに夢中になっている中国の生徒に日本の姿をより正しく理解させることは、次世代の友好を芽生えさせる上でいま必要なことではないかと思われる。

II 研究の概要

本研究は、以上の問題意識をもとに、研究題目として「日中相互理解のための教材開発に関する基礎的研究」を設定し、以下のねらいや方法等で平成13年度から3年計画で取り組んだ。

1. 題目設定の理由

平成14年度からの「総合的な学習の時間」の導入を前に、国際理解のための教材開発が多様なかたちですすめられている。これまでも、小学校では、まずは異文化や他国への関心をもたせるために、食文化や衣文化等の体験を伴う学習がすすめられてきた。それらの成果にはみるべきものもあるが、多くの場合、先進校の後追いでワンパターン化し、それを越える展開がみられていない。

また、異文化や他国理解のための認知レベルの実践も、小学校高学年以上ですすめられてはいる。しかしこれらも、時間、空間、人間を総合する本質的取り組みにまで至っていない。それは、一つには、適切な教材が欠如していることによるものと思われる。

そこで本研究では、本財団による平成11～12年度の「総合的な学習」（研究代表 星村平和）の研究成果を更に深化させるため、「中国」を対象に選び、相互理解のためのモデル教材の開発を行うことにした。では、なぜ「中国」なのか。

2002年には、日中国交正常化30周年を迎える。その間、体制を異にする社会主義中国との関係は紆余曲折を経ながらも、さまざまなレベルで友好・協調の増進が図られてきた。30年前に1万人足らずだった日中間の人の往来は、いまでは200万人を超え、貿易総額も70倍超に達している。経済を基軸に、日中関係は段階的に深まりつつあるといえる。その中国は、改革開放後着実に力をつけ、懸案のWTO加盟も果たした。各種調査では、21世紀には、中国が国際社会で大きく飛躍すること

が指摘されている。他方、中国が世界中から投資を吸い込み、一大生産拠点となったことによる中国経済脅威論もあれば、中国自身、貧富の格差拡大、環境破壊という負の副産物も背負い込むなど、問題がないわけではない。

しかし、国交正常化30周年を迎えた今、日中相互の緊密な関係づくりは欠かせない。相互理解のための教材開発は緊急の課題といえるのである。

日米間に関しては、米日財団の助成による教材開発がなされており、日韓間に関しても、科学研究費の補助による研究成果など豊富な資料が蓄積されている。しかし、日中間の研究蓄積は皆無に近い。そこで、3年計画による研究に取り組むこととした。

2. 研究の方法

- (1) 地理・歴史・公民の各領域ごとに中国事情研究と教科書記述の分析を行う。
- (2) 日本の中学生と社会科教師の中国観についてアンケートによる調査を行う。
- (3) 中国の中学生と社会科教師の日本観についてアンケートによる調査を行う。
- (4) (1)～(3)の結果を受けて、中国理解のための視点と方法を検出する。
- (5) 地理・歴史・公民の各領域ごとに教材の選択と開発を行う。
- (6) 日中相互理解のための教材モデルをつくる。

3. 研究の経過

- <1年次> 国際理解に関する理論的整理、中国事情研究と教科書分析、アンケートの作成
 <2年次> アンケートの実施、教材選択の視点づくり、教材開発の具体化
 <3年次> 中国理解のための視点の折出、アンケート結果の分析、教材モデルの作成

4. 研究の組織

氏名	所属	分担
星村 平和	国立教育政策研究所名誉所員	総括
森茂 岳雄	中央大学教授	中国理解の理論化
原田 智仁	兵庫教育大学教授	中国事情分析と教材開発の視点づくり
工藤 文三	国立教育政策研究所総括研究官	中国事情分析と教材選択の視点づくり
田尻 信壹	筑波大学附属高等学校教諭	アンケートの作成と歴史領域
戸田 善治	千葉大学教育学部助教授	アンケートの作成と分析
草原 和博	鳴門教育大学講師	アンケートの作成と地理領域
竹澤 伸一	市川市立大洲中学校教諭	アンケートの作成と公民領域
二井 正浩	国立教育政策研究所主任研究官	アンケートの作成と教材開発

(研究協力者)

- 讃井 唯充 (中央大学教授) - 平成13年度
 鑑屋真理子 (国立教育政策研究所総括研究官)
 大塚 豊 (名古屋大学大学院教授)
 劉 煜 (中央大学大学院生)

5. まとめ

本研究は、以上のようなねらいや計画のもとにすすめられたが、対象が外国ということもあって共同研究というかたちがとれず、その全体をカバーすることができなかった。また、日中をめぐる

問題は流動的で、この研究期間中にもいろいろな問題が噴出し、「動く中国」をとらえることの難しさを痛感した。しかし、そうした中でも、未来志向の動きが出てきたことは、本研究にとって歓迎すべきことであった。歴史問題に象徴される過去にこだわらず、それを克服して未来を見すえた隣人関係を築くべきだとする論調である。馬立誠氏に代表される「対日関係の新思考」である。もちろん、これをめぐっては、「百家争鳴」の議論が展開されているが、「若い世代が対日関係の再構築を目指していることは特筆されてよい。

一方教育界においても、これまで教育内容を堅く縛ってきた「教育大綱」（日本の学習指導要領に当たる）を、地域や学校の実態に合わせて弾力的に運用できるように、「課程標準」へと改訂がすすみ、それに準拠した教科書づくりが行われている。いわゆる「一綱一本」から「一綱多本」、「多綱多本」への動きである。このことについては、別稿の森茂論文で紹介されている。

そうした動きの中での研究ではあったが、教材開発の視点・方法とモデルづくりにおいては、一定の成果を得ることができた。またアンケートによる調査では、国内のほか中国の大連、北京、上海の3地区の教師・生徒の協力を得ることができた。この点は大きい成果といえる。

お世話いただいた大連地区の遼寧師範大学干沛霖先生、北京地区の北京師範大学裴娣娜先生、蘇真先生、斉建国先生、上海地区の上海師範大学呉偉民先生に心より感謝申し上げたい。また、国内で調査に協力して下さった各校に対してもお礼を申し上げたい。

なお、本研究の推進に当たっては、社会科教育学の代表的研究者や第一線で活躍中の若手研究者・実践者の参加を得ることができた。熱意あふれる研究意欲に改めて敬意を表したい。また、翻訳をはじめ、中国の新しい研究動向を紹介して下さった劉焜さんに対しても感謝の意を表したい。

最後に、本研究を進めるに当たっては、日本教材文化研究財団のお世話になった。財団の助成金なしには本研究を全うすることはできなかった。財団の高鷲近氏、吉本昌司氏には殊のほかお世話になった。両氏に厚くお礼申し上げたい。

平成16年3月

日中相互理解研究会 代表 星村 平和

目 次

はじめに

第Ⅰ部 日本側から見た中国理解	7
第1章 日中相互理解に関する教材開発の視点と方法	8
第2章 日本の教科書における中国の扱い	18
第1節 小学校社会科	18
第2節 中学校地理的分野	27
第3節 中学校歴史的分野	33
第4節 中学校公民的分野	39
第3章 日中相互理解における教材開発の実際	45
第1節 地理的視野に立つ日中相互理解の教材開発	45
— 「市場経済移行国：中国・ロシア」 —	
第2節 歴史的視野に立つ日中相互理解の教材開発	72
— 沈没船の謎を追う 「新安沖沈船」 —	
第3節 経済的視野に立つ日中相互理解の教材開発	93
「わたしたちの暮らしと経済」 — 変化し続ける日中の経済交流 —	
第4節 政治的視野に立つ日中相互理解の教材開発	115
— 憲法の相互比較から見た中国の政治の理解 —	
第5節 社会的視野に立つ日中相互理解の教材開発	121
第6節 文化的視野に立つ日中相互理解の教材開発(1)	137
— 「漢字文化圏」の近代化・日中関係を中心に —	
第7節 文化的視野に立つ日中相互理解の教材開発(2)	154
— 「中国における日本のポピュラー文化」 —	
第Ⅱ部 日中相互理解に関するアンケート調査	177
第Ⅲ部 中国側から見た日中相互理解	227
第1章 中国の教育課程改革と新しい社会系教科の構造と特色	228
第2章 中国の中学生の「日本イメージ」と	256
中国の社会科系教科教育における日本学習の新たな課題	
— 「日本イメージ」から「日本理解」へ —	

目 錄

前言

第 I 部 關於日本的中国理解教育	7
第 1 章 中日相互理解的教材開發的視点和方法	8
第 2 章 日本的教科書对中国的描写	18
第 1 節 小学社会科	18
第 2 節 中学地理	27
第 3 節 中学歷史	33
第 4 節 中学公民	39
第 3 章 關於中日相互理解的教材開發的實際情況	45
第 1 節 從地理教科教育看中日相互理解教材開發的可能性 ——「向市場經濟過渡的国家：中国・俄罗斯」——	45
第 2 節 從歷史教科教育中看中日相互理解教材開發的可能性 ——追跡沉船之謎 「新安沖沉船事件」——	72
第 3 節 從經濟學習的視点出發看中日相互理解教材開發的可能性 「我们的生活与經濟」——不断变化的中日經濟交流——	93
第 4 節 從政治學習的視点出發看中日相互理解教材的開發 ——從憲法的相互比較来看中国的政治——	115
第 5 節 從社会的視点来看日中相互理解教材的開發的可能性	121
第 6 節 從文化的視点来看中日相互理解教材的開發(1) ——以「漢字文化圈」的近代化和中日關係為中心——	137
第 7 節 從文化的視点来看中日相互理解教材的開發(2) ——「在中国興起的日本大衆文化」——	154
第 II 部 關於中日相互理解調查	177
第 III 部 関与中国的日本理解教育	227
第 1 章 中国的教育課程改革与新的社会系教科的構成和特点	228
第 2 章 關於中国中学生的「日本想像」与 中国社会科系教科教育中存在的新課題 ——從「日本想像」到「日本理解」——	256

第 I 部 日本側から見た中国理解

第1章 日中相互理解に関する教材開発の視点と方法

1 はじめに——教材開発への見直し

教材開発を単なる机上のプランに終わらせることなく、実質的な成果を上げようとするれば、何よりもまず主題に関わる現状把握が不可欠である。

本研究の場合、目的は日中相互理解のための教材開発であるから、そこで把握すべき現状とは、第一に日中両国民の相手国認識の実態であろう。だが、それらに関しては新聞社等による大がかりな意識調査はなされているものの、内容・対象ともに一般論的傾向は否めず、われわれの意図する具体的な教材開発に資するデータは少ない。そこで、今回は日中両国の中学生と中学校社会科教師に対し、相手国についてどの程度基礎的知識を有し、いかなるイメージや期待を抱いているか、また相互理解の課題をどのように捉えているか調査することにした。

第二に、両国の中学生が現在使用している教科書の中で、相手国がどのように捉えられ、どのように記述されているかを知ることも、現状を把握する上で重要だろう。もとより、われわれの他国認識を左右する情報源は多様であり、教科書の占める割合は小さいかもしれない。だが、マスコミ等から得られる情報にはきわめて偏りがあり、また一過性の興味本位のものも少なくない。だからこそ、学校教育で確かな情報を提供することに意義があるのである。そこで、本研究では中国の社会系教科の教科書を分析するほか、日本の小学校の社会科教科書、中学校の地理的分野と歴史的分野の教科書、高校の公民科教科書を取り上げ、分析することにした。

そして、これら二つの調査結果を踏まえて、日中両国の相互理解のための教材開発の視点を抽出し、それを基に中学校社会科の教材を複数開発したい。しかしながら、実際には研究のための時間とスタッフの制約により、アンケート調査と並行して教材開発に取りかからざるを得ないために、十分にアンケートの結果を生かすことは難しいかもしれない。また、中国の教科書に記述された日本についても、その分析結果は当面は参考程度にしかならないだろう。さらに、日本の生徒の中国理解のための教材は複数開発し、そのうちのいくつかは実験授業を通してモデルとしての妥当性を確かめ得ようが、中国の中学生のための教材は仮に開発したとしても現実的な意義(=実効性)は低いといわざるを得ない。そこで、アンケート結果に関しては調査データを協力校に返送することで、先方に独自の教材開発を期待するしかないと考えている。

教材開発に当たっては、まず上記の現状把握が大切だが、同時に、相互理解の方法論についても考察することが必要である。さらに、一般的な意味での教材開発の視点と方法を吟味しておくことが望まれよう。以下、これらの問題を順に論じていく。

2 相互理解へのアプローチ

日中間に限らず、国際関係における相互理解とは、何をどうすることなのか。それが、ただお題目を唱えるだけのことであれば、綺麗事を駆使して何とでも定義し得よう。しかし、本研究が目指すのはそうしたものではない。では、いったい相互理解をどう定義し、理解すればよいのか。あるいはそもそも相互理解など不可能なのか。不可能ではないにしても、困難があるとすればその要因は何か。また、どうすればそのアポリアを克服しうるのか。はじめに、こういった問題から考えてみたい。その後、相互理解につながる教材開発の視点と方法を論ずることにする。

さて、相互理解をどう捉えたらよいのか。この問題は、異文化(間)コミュニケーション研究の

主要テーマであるが、近年、歴史学研究でもたびたび取り上げられている。

例えば、1992年から1993年にかけて刊行された荒野泰典・石井正敏・村井章介編『アジアのなかの日本史』（全6巻、東京大学出版会）の第5巻は『自意識と相互理解』を扱っているし、2001年に東京大学と財団法人日本国際教育協会（AIEJ）の共催で開かれた国際シンポジウム「東西交流と日本」の歴史分科会テーマは、「世界と日本の相互認識の歩み」であった。なお、後者の議論の様子は、小島孝之・小松親次郎編『異文化理解の視座 世界からみた日本、日本からみた世界』（東京大学出版会、2003年）にまとめられている。ここでは、これら二つの研究成果を手がかりに、相互理解の問題にアプローチしてみたい。

(1) 情報の意義と限界

『自意識と相互理解』の中で注目される論考は田中健夫の「相互認識と情報」である。日本の中世対外関係史を専門とする田中氏は、本論考に先立って、中世東アジアにおける国際認識を地域の視点から類型化し、I 中華型、II 中国周辺型、III 島嶼孤立型の三類型を提起した。中国の国際認識がI、日本のそれがIIIに位置付くことは容易に見て取れよう。Iの中華型認識の事例を、明末以降の中国で刊行された絵入り百科全書の類から探ると、当時の中国人は近隣諸国について「着衣の高麗国人」、「はだかの日本人」、「はだしの大琉球国人」として描いていたことがわかる。「はだかの日本人」については、明らかに『魏志倭人伝』以来の固定観念であろうし、それは倭寇の姿とも重なってくる。中華型認識が、いかに曖昧で独善的なものであったかを例証していよう。しかし、日本人とて、近代以降の朝鮮認識、中国認識を思い起こせば、これを笑うことはできない。

さて、田中氏は本論考において、国際関係史の事例を考察し、貴重な提言を行っている。

以下、それを紹介しながら、相互理解の留意点を確認しておこう。

われわれは往々にして日本（中国）人の中国（日本）観といった概括をしがちであるが、本来、認識の主体は個人でしかあり得ない。勿論、個人の認識が彼（女）を取り巻く集団、階層や環境に影響され、規制されるのは言うまでもないが、だからといって個人的経験や認識を安易に一般化してはならないだろう。また、異国認識は個人的であると同時に部分的でもある。対象が大国であるなしかかわらず、われわれは部分認識を集積し、そこから帰納したり推論したりすることによってしか、全体認識に迫ることはできない。しかし、それでもなおそれは全体像とはほど遠いものかもしれないのである。そうした認識面における、ある種の謙虚さなくして、相互理解は望めないだろう。

田中氏は、明や高麗の倭寇認識、秀吉による東アジアの国際慣行に対する無知・無理解等の歴史的事例を挙げながら、異国認識における誤解を生み出す要因として、次の四点を指摘する。

表1 <異国認識における誤解要因>

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">i) 情報の誤認に基づく誤解ii) 無知に基づく誤解ないし情報処理能力の欠如に基づく無理解・誤解iii) 固定観念ないし先入観に基づく誤解、勘違いiv) 希望的願望または悲観的予測に基づく誤解 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

概括すれば、確かな情報を収集し、先入観を排してそれ分析することの重要性を指摘したものと言える。だが、同時に田中氏は誤解・曲解が決して理解の拒絶ではなかった点にも注意を促す。そして、「誤解・曲解の直視がむしろ理解への正道と認識すべき」（『自意識と相互理解』233頁）だと

言う。本研究においても、できるだけ正確な情報の入手に努めながら、他方で誤解や曲解を伴わない理解はあり得ないとの前提に立ち、先入見や希望的観測を排した教材開発を行うことが求められよう。

仏教や儒教にとどまらず、法律制度、農業技術から衣食住などの生活文化に至るまで、日本文化は中国文化を始めとする外来文化を輸入し、日本化した結果出来上がったものに他ならない。田中氏は外来文化の日本化を単なる模倣や直訳としてではなく、「外来文化の選別輸入・独創的解釈（＝曲解）」（同上書、237頁）と捉え、日本文化を曲解文化と位置づける。これは、あくまで事実に基づいて、自文化に対し冷静な眼差しを保ち続けることの重要性を示唆したものと受け取れよう。

(2) 相互理解のメカニズム

『異文化理解の視座』の中で注目される論考は、孫歌の『「相互認識」の立て方、語り方について』と、高山博の「歴史学と異文化認識」である。

まず、前者から見ていこう。中国社会科学院文学研究所の孫氏は、翻訳という作業と異文化間の相互認識の類似性に着目し、20世紀前半に日本と中国のそれぞれで闘わされた翻訳論争を紹介する。それは、原語にできるだけ忠実に翻訳することが異文化認識に繋がるという立場と、文化を形作る価値体系を離れてどんなに厳密に翻訳したところで、結局正確な認識にはならないとする立場の論争である。そして、翻訳作業に現れる「空白」と「転換」という二つの方法に注意を促す。

すなわち、ある言語にあって別の言語にない事物や観念に出会った場合、無理に翻訳しようとせずにカットしてしまうのが「空白」である。また、完全に一致しないまでも、近似する概念があればそれを充て、あるいは意識するのが「転換」である。「転換」には、意識的であれ無意識であれ、何らかの政治（＝文化）性がつきまとう。それゆえ、孫氏は『「相互認識」を語る時には、我々と自分の所属している、あるいは生きているコンテクスト、あるいは自分の国籍の国との関係も問われている』（『異文化理解の視座』144頁）と指摘する。

次に、西洋中世史を専攻する高山氏は相互認識の前提として、他者性・異質性を挙げる。だが、それは異文化間のみならず、同一文化内においても当てはまる。同じ言葉を使い、同じ環境にいる者の間でさえ相互理解が容易でないことは、誰しも経験していよう。だからこそ、他者性・異質性の了解から出発することが重要なのである。

他方、異文化が理解できるということは、裏返せばもはやそれは他者でも異質でもなくなったことを意味する。つまり、かつての異文化が今や「自分の思考体系や世界観の一部を構成するようになっている」のである。それゆえ「異文化を理解するということは、自らの文化に立脚する思考構造を脱却して、両文化を理解するための新たな思考構造を作るという自己変革のプロセス」（『異文化理解の視座』152頁）かもしれないという。

以上の二つの研究成果を踏まえると、相互理解とは、相手の他者性・異質性を認識し、確かな情報（言語・観察・体験等）を集めてコンテクストを読み取ろうとすること、それでもなお部分認識に留まり、誤解や曲解を避けられないことを謙虚に受け止めること、そして最終的には自己変革を迫られることとまとめられよう。これは容易なことではない。だが、これ以外に相互理解にアプローチする方法がないこともまた確かなのである。

3 教材開発の視点

(1) 理解の対象と学びの主体

教材開発においては、まず理解の対象（＝中国）をどう捉えるかを考えねばならないが、同時に学びの主体（＝子ども）の現状をどう把握するのも等閑視できない点であろう。つまり、中国の何をどのように理解させたいのかという視点とともに、現在の日本の子どもが中国の何を知っているのかいないのか、またそれを踏まえて何を理解させようのかという視点が重要なのである。

そもそも中国を理解するために、日本の小・中学生に伝えたい（教えるべき）情報とはいかなるものだろうか。おそらく歴史、地理、政治、経済等の個別的知識ではなく、現在の中国の社会・生活・文化の総体に関わる知識であろう。それも、雑学的な情報ではなく、日本の社会・生活・文化との共通性や異質性を浮き彫りにする知識でなくてはならない。それは日中間に限らず、国際理解の基本であろう。中国の場合、共通性とは子どもたちの学校生活や東アジア文化圏としての特質を理解することであり、異質性とは歴史や風土、政治体制、社会意識などを理解することを意味しよう。

だが、現状では日本の子どもたちの中国に関する知識はきわめて乏しいことが予想される。今回のアンケートでは細かな知識の有無まで調査しなかったため、正確なところは分からないが、社会科の授業時間が減少し、事例学習や子ども主体の調べ学習が推進されている昨今の状況から判断する限り、子どもたちが中国に関してまとまった知識を持っている可能性は低い。せいぜいテレビや新聞などから得た断片的な知識を持っている程度であろう。それゆえ、教材化に際しては、子どもたちの既有的知識をあてにするのではなく、授業を通して知識を習得し理解を深めるような手法が求められよう。

(2) 総合的な学習と社会科における視点の違い

従来、学校での国際理解教育は、主として社会科と外国語（英語）の授業で行われていたが、先の学習指導要領の改訂以降、総合的な学習の時間に行われるケースが多くなった。これまでに総合的な学習の実践として報告された国際理解教育を整理すると、①人的交流（地域在住の外国人や留学生との交流、姉妹都市・姉妹校との交流、修学旅行での交流等）、②外国語学習（主として英語）、③料理体験（外国の民族料理を作って味わう）、④ボランティア活動（ユニセフ募金等）、⑤外国文化の理解（挨拶・祭り・音楽・舞踊等を調べて実演）に大別することができる。

いずれも参加・体験型の学習が主になっているが、各種報告書を見ても中国理解の学習は意外と少なく、それも①に偏る傾向が見られる。中国語の会話は難しい反面、漢字や儒教、中国料理などはかなり日本社会に溶け込んでおり、かえって教材化しづらいのかもしれない。そもそも、総合的な学習自体が子どもの活動を促すことを第一に考え、知識理解を深める学習は想定されていないといえる。しかし、前項で考察したように、真の異国認識には情報が不可欠であり、その点で一定の認識内容（＝教育内容）の獲得を目指した教材開発がもっと重視されてしかるべきであろう。

こうした点を踏まえると、オーソドクスではあるが、中国の地理、歴史、政治、経済、社会、文化等に関する基本的な知識を習得した上で、現代の課題の考察に進むのが妥当であろう。もとより、それには膨大な時間を要するし、子どもの関心の程度によっても左右される。また、部分認識の総和が全体認識を意味するわけでもない。それゆえ、地理や歴史等の部分の視点に立ち、子どもの目に見える現象を手がかりにしながら、現代中国の本質や課題に迫る教材を開発したい。その方が、分野制をとる中学校社会科の教材としても実効性が高いし、地域の特性や子どもの実態に応じて教材を選択する上で有効だろう。この「現象から本質へ」こそ、社会科固有の教材開発の視点といつてよい。

4 教材開発の手順と方法

(1) 教材開発の一般的手順

現象から出発して本質に至るための教材を、いかにして開発するのか。具体的には次節以降で明らかにするが、ここでは一般的な教材開発の手順を整理しておこう。

表2 <教材開発の手順>

第一段階：主題に対応した素材の探索
第二段階：教育内容と子どもの実態を踏まえた素材の決定
第三段階：素材の教材化（発見と探求を促す問いの構成）
第四段階：データの収集（問いを検証するための情報・資料の収集）
第五段階：学習過程の構成（“見えるものから見えないものへ”）

(2) 素材の探索

第一段階は主題に対応した素材を見つけるために、あれこれと情報を探索することである。その情報源（取材先）は、以下の三つに分類される。

表3 <素材探索の情報源>

① 活字メディア	… 専門書、事典、年鑑、新聞記事、雑誌等
② 映像メディア	… テレビ、映画、ホームページ、ビデオ、写真等
③ 聞き取り	… インタビュー、アンケート等

本研究の場合、大半の教材が①の活字メディアからアイデアを得て開発されているが、同時に映像メディア等も利用している場合が多い。特に地理的視野に立つ草原氏の教材は、②の映像メディアのうちテレビ（NHK制作のドキュメンタリー番組）に、また歴史的視野に立つ田尻氏と文化的視野に立つ戸田氏の教材は、②の映像メディアでもインターネット（田尻氏は福岡市立博物館のホームページ、戸田氏は日本のポピュラー文化に関する中国のホームページ）にそれぞれ依拠して開発されている。さらに、経済的視野に立つ竹澤氏の教材は、③の聞き取り調査（株式会社ユニクロ、トヨタ、生協エルの担当者への取材）によって開発されている。

(3) 素材の決定

第二段階は教師の「ひらめき」ないし「発見」による素材の決定である。おそらく教師は中国事情に関する多様な図書を渉猟し、内容を検討することになる。並行して、新聞・雑誌、テレビのドキュメンタリー番組、映画などに目配りするかもしれないし、主題に関わる先行授業実践を収集して参照するかもしれないが、「これだ！」と判断するのは教師の直感である。その意味で、教師のセンスが問われるのはいうまでもない。だが、そのセンスを支えているものは何だろうか。私見では、教師自身の社会（＝本質）を見る目と、子どもを見る目の確かさである。つまり、先述の教材開発の視点がこれに該当しよう。

マスコミ等で報道される出来事、あるいは研究書に記述された現象に対し、「なぜ～なのか?」「本

当のところはどうなっているのか？」といった問いを立て、探求していく。その結果、社会の見方考え方が明らかになってくる。これこそ、近年流行りの「学び方」の極意に他ならない。同時に、授業対象となる子どもたちの顔を思い浮かべ、「あの子に、この問いは通用するだろうか。果たしてこの素材に食らいついてくるだろうか？」と自問し、過去の経験を顧みつつ、よりよい素材探しに努めるのである。「これで行こう！」という決断は、瞬時になされることもあれば、あれこれと思ひあぐねることもあるが、そこにはこうした教育内容の発見と教育的加工をめぐる自問自答が隠れているのである。

教材を構成する主要な素材に着目すると、次の表4に示した五つに分類される。

表4 <教材を構成する素材>

① 人（ヒト）	… 働く人（労働）、子ども（学生）、外国人、歴史上の人物等
② 物（モノ）	… 商品、貨幣、食物、建造物、道具、機械、遺物・遺跡等
③ 事（コト）	… 事件、戦争、貧困、法律、制度、スポーツ大会等
④ 情報	… 文字、言説、テレビドラマ、アニメ、遊び、旅行（観光）等
⑤ 環境	… 自然・風土、学校、地域（村や町）、都市、公害等

本研究の場合、地理的視野に立つ草原氏の教材は①のヒト（中国の農民：鉄麦客と老麦客）を、歴史的視野に立つ田尻氏の教材は②のモノ（新安沖沈船の積み荷であった商品）を、経済的視野に立つ竹澤氏の場合も同じく②のモノ（メイド・イン・チャイナの商品）を主たる素材にしている。また、政治的視野に立つ工藤氏の教材は③のコト（中国と日本の憲法）を、社会的視野に立つ原田の教材は④の情報（中国人と日本人の行動に関する両国の人々の言説）を、文化的視野に立つ二井氏と戸田氏の教材も同じく④の情報（二井氏は漢字、戸田氏は日本のテレビドラマとアニメ）を、それぞれ主要な素材として取り上げている。

なお、今回の研究で直接取り扱わなかったが、⑤の環境に関する教材化は、今後に残された課題である。

(4) 素材の教材化

第三段階は、素材の教材化である。選択した素材がそのまま教材となるわけではない。いわばそれはまだ原石の段階であり、磨かなければ教材にはならない。では、どうやって磨けばよいのか。

そもそも教師の選択した素材がすぐれていれば、生徒の「ひらめき」や「発見」を生む。さらには分析的探求を促すことにもなり、本物の教材、すなわち教師の意図した教育内容を習得させるための材料になる。因みに、1960～70年代の米国のいわゆる新社会科運動をリードしたマシヤラス（Byron G. Massialas）は、ゼビン（Jack Zevin）との共著『教室における創造的出会い』（田浦武雄他訳、黎明書房、1973年）において、発見や分析的探求を促す教材、すなわち「発見的エピソード（discovery episodes）」、「分析のエピソード（analytical episodes）」を紹介している。

例えば、高校段階の世界史授業での発見的エピソードとして、芭蕉、蕪村、一茶らの俳句を用いた実践を挙げている。そこでは、まず英訳した短詩10篇を提示し、黙読させる。その後何かが書かれているのか、これは一体何かを問う。勿論、日本について学習させるための教材なのだが、教師は一切そうした説明をせずに、生徒たちがそれらの短詩のもつ非欧米的な価値に気づくまで待つ

である。そして、それらの詩が仏教徒またはヒンドゥー教徒のものであると結論づけられると、今度はその根拠を探そう指示する。そして、4日目にしてついに生徒たちはこれが日本の俳句であることを突き止めるのである。要するに、俳句は生徒が日本を学習するための「跳躍台 (springboards)」ないし「創造的出会い (creative encounters)」と位置づけられる。

また、同じく高校世界史のための分析的エピソードの事例として、インドの音楽をレコードで鑑賞させ、そこからインド社会の特質を分析させる実践を紹介している。授業は教師により「指導された討論 (directed discussion)」として展開する。前述のエピソードと同様、インドの音楽であることは伏せたままである。教師の主な発問を取り出すと、次の表5のようになる。

表5 <マシャラス「音楽の分析」実践における発問の系統>

- | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>Q1 私は、君たちに一つの音楽を聞かせようと思います。それを聞いてそしてあなたがたがそれについて考えることを、話して下さい。</p> <p>Q2 君たちはこれがどこから来たものだと思いますか。</p> <p>Q3 なぜ君たちは、中国、日本あるいはインドから来たと思うのですか。</p> <p>Q4 それはどんな種類の音楽であると、君たちは考えますか。</p> <p>Q5 この音楽を聞くことによって、音楽の発生した社会について、何かを、君たちは話すことができますか。</p> <p>Q6 君たちは、かれらの音楽から、社会についてなんらかの結論にいたりましたか。</p> <p>Q7 音楽の目的が何であったと、君たちは思いますか。</p> <p>Q8 よく考えなさい。君たちは明日再び議論するつもりでいますね。それでは、私は君たちに、レコードジャケットを見せましょう。</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

このエピソードの分析を通して、例えばマイクは「かれらは弦をもった楽器をつくったので、ある種の技術をもっている…」、グレゴリーは「この音楽は、この社会がそれ自身の特別の音楽を発展させたことを、示している」、マイアナは「このような音楽を発展させることは、長い時間を要したにちがいない…」との認識に到達する。音楽を聞くという点では俳句の場合と同じであるが、単なる発見に留まらず、さらに音楽の文化的背景をも探求している。それを促したのが、教師の分析的な発問である。先の発見的エピソードを用いた授業では、教師はただ生徒の議論の聞き役に徹したが、この分析的エピソードでは、積極的な指示や発問を行っている。つまり、すぐれた素材を教材化するには、素材に対し問いかけを行うことが重要なのである。まずは発見を促す問い、次いで探求を促す分析的な問いを組織する。こうした素材への問いの構築こそが、原石を宝石に変える技術を意味するのであり、教材開発の第三段階の手立てとなるのである。

(5) データの収集

教材開発の手順の第四段階は、データの収集である。これにはあまり説明は要しまい。子どもの発見と探求を促す素材が主教材とすれば、子どもの仮説を検証したり補強したりするデータ(情報)は副教材といってもよい。マシャラスの提示したようなエピソード(素材)が常にあるわけではないし、子どもの学年段階や能力によっては、多様な副教材を駆使して学習意欲を持続させることも必要になろう。その点で、データ収集は欠かせない作業である。

(6) 学習過程の構成

教材開発の手順の第五段階は学習（授業）過程の構成である。かつて伊東亮三が指摘したように（伊東亮三編著『達成目標を明確にした社会科授業改造入門』明治図書、1982年）、授業設計の過程は「見えないものから見えるものへ」向かって進むが、学習（授業）過程は逆に「見えるものから見えないものへ」向かうのが原則である。ここでいう「見えるもの」とは、文字通り見たり、聞いたり、触れたりできる、子どもにとって接しやすい素材を指す。また、「見えないもの」とは、社会の見方考え方を指す。先の教材開発の視点との関連でいえば、「見えるもの」は現象を、「見えないもの」は本質を意味する。つまり教師は、子どもに見えない社会の諸関係や構造を捉えさせるために、身近に接することのできる素材を教材化しようとするのである。

したがって、学習過程はまず素材を提示し、そこから多様な情報を読み取り、問題の発見を促すことになる。次いで、問題に関する仮説を立て、具体的なデータを手がかりに吟味・検証していく。いわゆる探求の過程である。そして、社会的論争問題などを扱う場合は、価値判断や意思決定を迫ることにもなる。以上のプロセスを整理して示せば、次の表6のようになろう。

表6 <学習過程の基本的構成>

I. 事実（地理・歴史・政治・経済・社会・文化）認識 How? に基づく問い→現象把握（記述による説明） 例「中国ってどんな国？ 人々はどんな生活をしているの？」
II. 問題の発見、探求 Why? に基づく問い→関係思考（推論による説明） 例「なぜ共産党政権なのに市場経済なの？なぜ台湾と対立しているの？」
III. 未来予測から意思決定へ How? に基づく問い→事実判断（事実分析を踏まえた未来予測） 例「一人っ子政策を続けるとどうなるのだろう？」 Which? に基づく問い→価値判断（価値分析を踏まえた意思決定） 例「中国の環境問題に日本はどう対処すべきだろう？」 「日本と中国が一層の友好を深めるには、どうしたらよいのだろう？」

これはいわば基本形であり、本研究で開発した教材が、すべて上記の学習過程をとっているわけではない。しかし、例えば経済的視野に立つ竹澤氏の授業構想は、

- I 中国はどんな国か？
- II 中国経済はなぜ急成長しているのか？
- III 中国が抱える問題は どうすれば解決できるのか？

という展開をとっている。また、社会的視野に立つ原田の授業構想も、

- I 中国人と日本人の行動様式にはどのような違いが見られるか？
- II 両国人の行動にはなぜそのような違いが生ずるのか？
(それぞれの行動様式を生み出す原理＝文化は何か？)

III 日本人と異質な中国人の行動様式をどう考えたらよいのか？
になっている。

この他の教材についても、未来予測や価値判断に関わる第三段階を除けば、原則として同じ学習過程をとっている。それは、すでに幾度も触れたように、社会科における教材開発の視点が「現象から本質へ」、「見えるものから見えないものへ」を基本としていることによる。この点でも教材開発の視点と方法は不可分の関係にあることが了解されよう。

5 おわりに——教材開発の課題

以上、まず教材開発の見通しを示し、次いで相互理解の方法論を考察した。そして教材開発の視点と方法に関する一般論を整理した。そこで、最後にこれらを踏まえて教材開発の課題を述べ、まとめにかきたい。

はじめにも指摘したように、現代人の他国認識の情報源は学校での授業（教科書）より、テレビや映画、新聞・雑誌等に負うところが大きい。それは、日本では小・中学校の社会科で、中国など諸外国について学ぶ時間が減ってきている（場合によっては全く学ばなくなっている）にもかかわらず、生徒と教師の中国（その他の外国も含め）に対する親しみの度合いが変わらないことから明らかであろう。だが、興味という点では、生徒の中国への興味は概して低く、教師のそれは現代の中国より歴史や伝統文化の方に偏る傾向が見られる。また、相手国に対する基礎的知識の点でも、日本の生徒はかなり低く、その少ない知識の源は学校での授業と答える者が多数を占めている。それゆえ、学校教育できちんとした基礎的知識を提供しなければ、興味の赴くままに流され、親しみを増すどころか偏見や誤解を生むことにもなりかねない。なぜなら、確かな知識を欠いた友好意識は脆く、何かの拍子に敵対心に様変わりすることもあり得るからである。学校教育の重要性、とりわけ中国理解のための授業の重要性を示唆しているといえよう。

他方、中国人の場合、生徒は日本への親しみと興味はかなりあり、知識の点でも日本の生徒に比べるとはるかに多くの知識を有している。特に、日本のアニメやファッション、スポーツ、芸能人等への関心が高いのは、大衆文化・情報化の波が現状では日本から中国へと流れているからであろう。だが、教師の日本への親しみは低くイメージも決してよくない。それは日本との戦争のしこりや戦後責任の問題が、依然として彼らの心を捉えているからだと考えられる。教師の対日意識は中国人一般の、いわば公的な対日観の表れでもあり、それは教育を通じて子どもにも伝えられる。つまり、中国の若者は家庭（親から）や学校（教師から）では日本の非道ぶりを学び、テレビや雑誌では日本の技術や文化に触れるというねじれた日本認識をしているのである。一体どちらが日本の本当の姿なのか、若者の日本に対する意識には一種のディレンマが生じている。それゆえ、中国においても、日本理解のための教育の重要性が示唆されるのである。

以上の分析を踏まえると、次のことが結論として導かれよう。すなわち、①現状では、日中両国ともに若者は学校教育とマスメディアの双方から相手国の情報を得ているが、その内容には偏りがあり、また両国間で知識の量と興味の方向で開きがある。②どんなに情報化が進み、マスコミの影響が高まっても、学校教育での他国理解（国際理解）教育の重要性はなくなる。③大人（教師）の価値観を伝達するだけでは、生徒の他国認識は深まらず、場合によっては生徒の意識にディレンマを生み出す。④それゆえ相手国に対する確かな知識を提供するとともに、生徒の関心にもつながる教材開発が求められる。⑤そのためには、地理、歴史、政治、経済、社会、文化といったオーソドクスな視点に基づきながらも、漫画やアニメ、テレビ、映画、実物教具、聞き取り調査など、多様な媒体を通じた教材を開発し、生徒の関心に応じた切り口から授業に臨む準備が必要である。

これら5つの結論に基づいた具体的な教材は、第3章に示す。果たして意図した通りのモデルと

なっているか、課題はなお多い。できるだけ多くの地域・学校で、これらのモデルに基づく授業を
実践し、その結果を吟味検討する中で、さらによりよい中国理解のための教材に仕上げていただく
ことが、われわれ一同の願いである。なお、中国での日本理解のための教材開発は、先述の通り現
状では困難であり、今後の課題としたい。

(原田 智仁)

第2章 日本の教科書における中国の扱い

第1節 小学校社会科

1 中国学習の位置づけ

小学校社会科で、おもに中国の学習が行われるのは、小学校六年生の、いわゆる「国際理解」単元である。本稿では、前回改定の平成元年版の学習指導要領とそれに準拠した教科書で中国がどのように扱われているかをみていきたい。

あえて現行版ではなく旧版をもちいるのは、本研究でアンケート調査を行った中学・高校生の中国像には、彼／彼女が小学校時代に使った教科書のほうが影響していると考えられるからである。また、各出版社の修正と改善の結果、均質化・画一化がすすんでいる現行版以上に、中国像形成の視点と方法の多様なアプローチが、よりクリアーに読み取れるからである。本稿では以上のような理由で、前世代の教科書における中国の扱いと、その特質と課題を解明したい。

指導要領では、小学校の国際理解単元の内容とその指導のし方について、以下のように規定していた¹⁾。

内 容

3) 今日、我が国は経済や文化の交流などで世界の国々と深いつながりをもっていることを理解できるようにするとともに、平和を願う日本人として世界の国々と協調していくことが大切であることを自覚できるようにする。

ア 我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国があることを調べて、それらの国の人々の生活の様子などを理解し、他国と協調を図るためには正しい国際理解が必要であることを考えること。

内容の取り扱い

ア アについては、数カ国を取り上げること。

イ ア及びイについては、観念的、抽象的な指導にならないように留意し、正しい国際理解と世界平和への努力が大切であることを理解させるよう配慮すること。また、我が国の国旗と国歌の意義を理解させ、これを尊重する態度を育てるとともに、諸外国の国旗と国歌も同様に尊重する態度を育てるよう配慮すること。

指導要領では、日本人としての自覚を育て、国際協調の大切さを理解させるために、経済的、文化的なつながりの深い国を、複数取り上げて指導することを求める。また、抽象的な指導に陥らない、人々の具体的な姿がみえる扱いを要請していた。教科書における中国の記述は、このような指導要領の規定のもとに具体化されることになる²⁾。

元年版準拠の各社の教科書は、表1のように外国理解の対象国として、三～四つの諸国を例示した。中国はほとんどの教科書で選ばれており、同様の扱いを受けたのは、アメリカ合衆国に過ぎない。当時の政治・社会情勢とアジアにおける中国の地位・影響力を評価してだろうか、各社とも近隣諸国として、韓国以上に中国を重視した結果となった。

なお、表1で取り上げた六社のうち、教育出版・日本文教出版・光村図書は、中国を扱う章節に、副題（「二千年来の文化交流国」「歴史的なつながりが深い国」「日本文化のふるさと」）をつけている。各社とも、指導要領が課した事例選択の条件「つながりの深さ」を、形容詞をつけたり（「歴史的」）、他の言葉で言い換えたりして（「交流・ふるさと」）、強調しようとしたと解される。

表1 六年生社会科教科書「国際理解」単元の内容構成

【東京書籍】『新訂新しい社会6下』東京書籍、平成12年

- 3 世界の中の日本
 - 1 日本と関係の深い国々
 - 外国のみなさんを招待して
 - 日本と韓国
 - 日本とアメリカ
 - 日本と中国
 - 日本とサウジアラビア

【大阪書籍】『小学社会6下』大阪書籍、平成8年

- 3 世界の中の日本
 - (一) 貿易や文化でつながりの深い国々
 - 1 アメリカ合衆国の人々の生活
 - 2 オーストラリアの人々の生活
 - 3 中華人民共和国の人々の生活
 - 4 大韓民国の人々の生活

【日本書籍】『わたしたちの小学社会6下』日本書籍、平成4年

- 3 21世紀の世界に生きる
 - 1 世界と結びつくわたしたちの暮らし
 - 2 未知の国へー世界の旅
 - ペルー共和国
 - アメリカ合衆国
 - 中華人民共和国

【教育出版】『社会6下』教育出版、平成12年

- 6 世界の中の日本
 - 1 日本と深く結びつく国々と人々の暮らし
 - 日本とつながる国々を調べてみよう
 - 二千年来の文化交流国 中国ー真弓さんのグループー
 - 最大の貿易相手国 アメリカー光ーさんのグループー
 - 多くの日本人が移り住んだ国 ブラジルー健太さんのグループー
 - 熱帯林が危ない マレーシアー奈々さんのグループー

【日本文教出版】『世界の中の日本 小学生の社会6下』日本文教出版、平成8年

3 世界の中の日本

1 日本と関係の深い国々に

国際化の時代

①太平洋をへだてたとなりの国 アメリカ合衆国

②歴史的なつながりが深い国 中華人民共和国

③広大で豊かな国 オーストラリア

【光村図書】『社会6下』光村図書、平成8年

3 世界の中の日本

1 世界と日本の結びつき

つながりの深い国はどこだろう

ポップコーンのふるさと アメリカ合衆国（アメリカ）

砂ばくと石油の国 サウジアラビア王国（サウジアラビア）

日本文化のふるさと 中華人民共和国（中国）

世界の人々とのつながりを深めるために

（筆者作成。下線部は、中国が位置している章節をあらわす。）

2 教科書に描かれた中国像の類型化

(1) 類型化の視点

アンケートの結果が示すように、子どもたちは教科書だけを介して中国像を形成しているわけではない。実際には、読書を通じて得た知識、またはテレビ・映画などのメディアが伝える中国像に影響を受けている部分も多いだろう。本稿では、中国理解の大半を教科書とそれに依拠した学習指導（授業）に依存している場合を仮定して、教科書はどのような中国像を伝えうるのか、また伝えてきたかを検討してゆく。

教科書における諸外国の取り扱い、同じ指導要領に規制されながらも、具体化のし方は各社によって微妙な違いがみられる。そこで、本節では、小学校社会科における外国理解の内容構成を原理的に類型化して説明を試みたい。さらに各類型の実際を、各教科書の中国叙述（本文、側註および図版）を使って例示することにしよう。なお、取り上げる事例は、各類型の考え方がもっとも顕著に、分かりやすい形で現われた部分に過ぎず、各社の中国叙述全体ではない。

教科書の編集者が無意識のうちにもっている外国理解の枠組み・視点は、図1のように大きくは「異文化理解型」と「相互関係理解型」に大別される。各アプローチは、さらに二つの類型に下位分類されるので、全部で四つの類型が認められることになる。

A：異文化理解型

A 1……人々の日常生活（ライフスタイル）→【日本文教出版】pp.36-39

A 2……地域の地理・歴史の概略→【日本書籍】pp.52-53

B：相互関係理解型

B 1 ……国家レベルの外交史・交易史 →【教育出版】 pp.28-31

B 2 ……民間レベルの文化交流 →【東京書籍】 pp.45-46

図1 小学校社会科教科書における外国理解の類型化

(筆者作成)

「異文化理解型」とは、対象国に独自の文化を、日本のそれとの比較を通して提示し、捉えさせるものである。キーワードは、「ちがひ」「くらべて」。他の国とは異なる対象国の固有性を理解してこそ外国理解が深まった、と考える類型である。

一方、「相互関係理解型」とは、対象国と日本とのかかわりを、政治的・経済的・文化的な交わりを通して提示し、捉えさせるものである。キーワードは、「結びつき」「伝わる」。対象国の固有性の理解にとどまらず、自国との相互作用まで把握しないかぎり外国理解は深まったといえない、とみなす類型である。

前者の「異文化理解型」は、さらに理解すべき固有の文化を何に求めるかで、二つの下位類型に分けることができる。第一に、人々の、一般民衆の日常生活である。家庭や学校での暮らしぶり、衣食住の慣習など、社会のミクロなレベルで見えてくるライフスタイルにこそ、当該国の文化が投影されているとみる視点である。第二に、地理や歴史の全体像である。人々の日常生活は、文化の表層に過ぎない、そのような生活を規定し生み出してきたマクロな存在に、具体的には、自然環境や悠久の時間の流れに、文化の本質を見出そうとする視点である。

後者の「相互関係理解型」は、理解すべき結びつき・関係を何に求めるかで、二つの下位類型を設定できる。第一に、国家レベルのフォーマルなかかわりである。日本との間で展開された使節の交換やそれにともなう経済的な取り引き、不幸な戦争と条約の締結などの外交・交易関係を知ること、教育上の価値を認める立場である。第二に、民間レベルでのインフォーマルなかかわりである。政治・経済上の関係は重要ではあるけれども、それらは人々が普段に実感できるものではない。もっと生活に密着したレベルで、日本と当該国の人々が共有している文化の諸様式と、それを広めるにいたったヒト・モノ・知識の交流に、理解の意義を見出そうとする立場である。

以下、これら四つの類型を枠組みにして、社会科教科書にあらわれた中国像の実際を検討してゆこう。

(2) 異文化理解型

A-1「人々の日常生活(ライフスタイル)型」の典型と考えられるのが、日本文教出版の表現である。表2には、教科書から具体的な中国叙述の内容を引用、抽出した。同書では、読み手と同じ小学生の一日の生活を追いかけることで、家庭での食生活から学校での学習活動までを広く扱っている。とくに学校生活については一週間の時間割を示すことで、(暗に日本のそれとの比較を促すことで)中国ならではの教科・時間の存在を強調している。写真は、一家勢ぞろいでの食事のようす、卓球をして無邪気に遊ぶ子どもの姿、厳格な雰囲気ただよう朝礼と授業を映し出している。抽象的な出来事は意図的に排し、生活者の視線、子どもの眼差しから浮かび上がる範囲で人々の暮らしを描き出すことで、中国文化を理解させようとするところに特徴がある。

表2 人々の日常生活(ライフスタイル)型としての中国理解

○家族の生活

・ペキンの朝は道路が自転車で込み合う、一人に一台の自転車

- ・朝食は、パンや肉まん、油餅を食べる
- ・昼食は、家に帰ってとることが多い
- ・夕食は、家族そろって食べる
- ・魚、にわとり、豚の肉を使った料理や野菜いためを食べる

○学校の生活

- ・「思想品德」や「労働」の時間がある
- ・授業は1日6時間、水曜と土曜は半日で終わる
- ・授業開始前に「早読」、授業終了後には「補導班」がある
- ・国語と数学以外は教科担任制をとる、担任の多くは女性である
- ・春と秋には遠足、日曜日に補習塾に通うものもいる

○写真

- ・ペキンの街に溢れる自転車、高層ビル
- ・丸テーブルを囲んだ食事の様子
- ・学校の教室、国旗を掲揚した朝礼、卓球で遊ぶ子ども

A-2の「地域の地理・歴史の概略型」の典型は、日本書籍の表現である（表3）。同書の内容は、中学校の地理的分野・歴史的分野の教科書から中国に関する箇所を抜き出し、それらを要約したものに近い。歴史的には、黄河文明から書き起こし、古代における文化・政治の先進性を述べるとともに、欧米・日本による支配から共産党による新国家の建設と近代化までの流れを概略している。地理的には、国土を形づくる山脈や川、砂漠などの地形を大観し、そのような自然が産する資源、資源を活かし発展した産業を紹介している。人々の姿こそ出てこないが、中国の広大な国土と歴史発展の全体像を理解してこそ中国文化に迫ることができる、それを欠いては中国理解にはならない、という考え方が明確にあらわれた構成になっている。

表3 地域の地理・歴史の概略型としての中国理解

○中国の歴史

- ・世界で最も古くから文明が開けた
- ・卑弥呼以前から、米づくりや政治を学んできた
- ・日本の侵略やイギリス、フランスの支配を受けた
- ・中国共産党を中心とする政府によって、外国支配を断ち切った
- ・中華人民共和国は、農民に土地を解放した
- ・農業、工業、科学技術、国防の4つの近代化

○中国の地理

- ・ヨーロッパ全体ほどの国土の広さ
- ・人口は11億人を越え、黄河と長江流域の都市に集まる
- ・西部には、チョモランマやクンルンの火山脈がある
- ・西部の山すそには、草原と砂漠がひろがる
- ・産業は、人手にたよる農業が中心
- ・地下資源が豊富なので、工業も盛んになってきた

○写真

- ・長江の雄大な流れと断崖絶壁
- ・街に溢れる自転車

(3) 相互関係理解型

分析の結果、「相互関係理解型」だけで捉えることのできる中国叙述は存在しなかった。あくまで「相互関係理解型」は、「異文化理解型」とのセットで存在し、具体化されている。結びつきの理解が、文化理解に比べて一步引いた補足的扱いになっているのは、指導要領が、「国の人々の生活の様子など」の理解を第一義的な目的にしているためと解される。そこで以下では、各教科書のなかからとくに「相互関係理解型」の条件が顕著にあらわれた箇所を抜き出し、検討することにしたい。

B-1「国家レベルの外交史・交易史型」の典型と目されるのは、教育出版の表現である（表4）。古代では、日本は中国に、政治制度を始めとして、米づくりや土木技術に代表される各種の生産技術を学んだことを扱う。近現代については、日清・日中戦争の事実とその影響、国交正常化後の日本企業の進出と貿易関係の拡大を示している。写真には、肉親との再会を喜ぶ中国残留孤児、電気店のショーウィンドウにならんだ日本製品を選ぶなど、本文記述との対応も認められる。本類型にもとづく叙述は、中国をそれ単体としてではなく、中国－日本の広範な交わりを通して紹介しようとするところに特徴がある。ただし、政治・経済中心の交流史になっている点は否めず、技術・宗教等の受け入れも古代国家の発展過程の一環として語られている。

表4 国家レベルの外交史・交易史型としての中国理解

○古代の関係

- ・縄文から弥生時代には、米づくりの技術を学んだ
- ・古墳時代になると、渡来人がやってきた
- ・渡来人には、鉄の農具や土木技術、漢字、仏教を学んだ
- ・その後も、国のしくみや政治の進め方などを学んだ

○近現代の外交関係

- ・明治時代には、日清戦争が起こった
- ・満州事変や日中戦争では、日本は中国を侵略し、被害を与えた
- ・国交正常化後は、中国残留孤児が祖国に帰れるようになった
- ・戦後時間がたっているので、肉親に再会できな人も多い

○今日の経済関係

- ・国交正常化後は、日中の会社が共同で工場をたてるようになった
- ・中国でつくられた衣料品や食料品が日本へ輸出されている

○写真

- ・シャンハイのビル群
- ・電気屋にならぶ日本の電気製品
- ・公園で太極拳をするひとたち
- ・肉親と再会する中国残留孤児

B-2「民間レベルの文化交流型」の典型は、東京書籍の表現である（表5）。国家間でどのような関係が構築されているか（されてきたか）よりも、国家や人々の交流の成果が日常生活にどのように根付き、解け込んでいるかを、具体的に描き出そうとする。例えば、お茶や漢方薬、漢字、シューマイ・ギョウザの文化的要素をはじめとして、私たちが日々食し、使っている中国産の野菜・果物、衣料品・電器製品が紹介されている。写真でも、京劇や中華街、ペーロン競争など、日本における中国文化の痕跡・影響を際立たせる事象が選ばれている。本類型にもとづく叙述は、描くべき日中間の交わりを、政治・経済的な関係から社会・文化的な交流へとシフトさせる、そして、その関係を疎遠な存在としてではなく、身近なところに定着したものとして実感させるところに特徴がある。

表5 民間レベルの文化交流型としての中国理解

<p>○身近な生活のなかにある中国</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お茶や漢方薬、毛筆習字と漢字、シューマイやギョーザは、中国から伝わってきた ・長崎のペーロン競争は、中国から伝わってきた ・食べ物や習慣にも中国から伝わったものが多い ・衣料品や野菜、果物なども、中国から輸入している ・テレビやビデオなどの電気製品は、中国でつくっている <p>○写真</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京劇の演舞 ・横浜の中華街 ・長崎のペーロン競争

3 教科書を通じた中国像形成の特質と課題

以上の分析の結果、小学校社会科教科書をもちいた中国像の形成に関して、次のような特質が明らかになった。

第一に、各教科書の本文では、外国理解のための四つの枠組みから選ばれた事実——厳密には解釈——にもとづいて、編集者が伝えようとする「ある一つの中国像」「日中関係の一断面」が再構成されていた点である。具体的には、

- ・異国探訪のごとく人々の日常生活をドキュメンタリータッチで描いた教科書から、国家の地誌と通史を薄墨にして解説した教科書まで（異文化理解型）
- ・国際的な友好・対立関係と今後の課題を説いた教科書から、文化交流の痕跡をローカルなレベルで発見させる教科書まで（相互関係理解型）

多様な叙述スタイルが確認された。逆にいうと、教科書とその使い方次第では、子どもに形成される中国像にも違いが出てくることが考えられる。

第二に、各教科書では、図版を巧みに活用することで、子どもの理解を助けていた（子どもへのインパクトは文字以上かもしれない）点である。どの社も、本文に関連させて中国の個性や日中関係を表象する写真を掲載し、形成したい解釈を強く読者に印象づけようとしていた。なお、事例分

析に取り上げた四社の教科書は、いずれも「大通りを走る自転車群」を提示していたことは、注目されてよい。



図2 写真で示された社会科教科書の中国像

(左上：日本文教出版、p.38、右上：日本書籍、p.52、左下：教育出版、p.29、
右下：東京書籍、p.44、より引用、出典の詳細は表1を参照せよ)

これら中国像形成の特質からみちびかれる課題として、次の二点が指摘できる。

第一に、中国ならではの個性・特色を理解させるために、対象国の事実を単純化したり、象徴化したりして表現すればするほど、ステレオタイプ化された国家像を再生産し、強化しかねない点である（異文化理解型）。どんな事実や解釈も、一定の視点・枠組みから切り取られ、意味付けられたものである。もちろん教科書が提示する中国像も同様で、執筆者のひとつの見方が表現されたものに過ぎないが（実際、同じ中国を描いても教科書会社によって内容に違いがあった）、子どもはそれを紛れもない実像として受けとめ内面化しようとする。教科書の「批判的な読み」の場が与えられなければ、子どもは教科書が語るストーリーを絶対的な真理として信じるほかないわけである。

教科書を持ちいて中国理解を形成しようとする教師には、①教科書の書き手＝執筆者の存在を意識させるとともに、②その書き手はどのような視点から対象＝中国を捉えていたか、執筆者の中国理解の視点を、③さらには、そこに託されたメッセージや意図を、子どもに読み取らせる指導が求められるだろう³⁾。

第二に、中国との長く深い交わりを理解させるため、対象国と自国＝日本の関係にかかわる事実を優先的に取り上げ、強調しようとするほど、そのねらいとは裏腹に、偏狭なエスノセントリズムやナショナリズムを喚起しかねない点である（相互関係理解型）。地域・国家相互の関係を記述した事実は、どちらがどちらに恩義を売っているか、いずれの側が悪いこと／良いことをしたか、という価値判断を誘発しかねない。とりわけ、既にそのような言説が広く流布している日中関係だ

と、上述のような判断に結びつきやすい。これらの事実を「科学的に解明」する機会が与えられないと、子どもは自らの狭い見聞と経験、立場からのみ教科書の情報を分析し、判断することになるだろう。

教科書をもちいて日中理解を形成しようとする教師は、安易に子どもの「心の領域」に踏み込み、介入するのではなく、まずは、①なぜそういう関係が成立したのか、各国にはどのような社会的、経済的、政治的理由があったのか、②その関係は、二つの地域・国家を越えるどのような構造やネットワークに規定されていたかを、ねばり強く解明させる必要があるだろう⁴⁾。

【註】

- 1) 文部省『小学校学習指導要領』大蔵省印刷局、1989年。
- 2) 国家を単位とした地域理解の問題は、すでに別稿で論じたことがあるので、ここでは言及しない。詳しくは、拙稿「文化誌教授としての地理教育—地誌教育改革論のプロトタイプを求めて—」『兵庫教育大学教科教育学会紀要』第13号、2001年。
- 3) 具体的な手立ては、拙稿『「地域の規模に応じた調査」の比較授業開発研究—ジオグラフィー学習とメタ・ジオグラフィー学習—』鳴門教育大学大学院 平成15年度教育実践研究（社会科）地理的分野 研究成果報告書、2004年。
- 4) 具体的な手立ては、第2章第2節を参照せよ。

（草原 和博）

第2節 中学校地理的分野

1 はじめに

平成15年現在、中学校社会科地理的分野の教科書は全7社から出版されている。東京書籍（以下、東書）、日本文教出版（以下、日文）、大阪書籍（以下、大書）、清水書院（以下、清水）、帝国書院（以下、帝国）、教育出版（以下、教出）、日本書籍（以下、日書）の7社である。

このうち日文を除いて、他の6社が大きく3編で内容を構成している。その3編とは、多少の表現の違いはあるものの、第1編、世界と日本の地域構成、第2編、地域の規模に応じた調査、第3編、世界から見た日本のすがた、となっている。またこの構成は、学習指導要領に示された内容項目を忠実に反映していると見てとれる。日文は「編」がなく、いきなり「章」の構成になっているだけで、内容の配列は他社と類似している。

本研究は、この7社の教科書に、中国（中華人民共和国）がどのように扱われているかを分析するのが目的である。そこで、各教科書のどこに着目するかというと、「第2編、地域の規模に応じた調査」の中の、「世界の国々の調査」という章になる。

本稿は、以下のように構成する。次章で、7社の教科書の中国の取り上げ方を概括する。次に、各教科書の中国に関する記述内容の分析の観点を明示し、その後実際に分析をおこなう。そして最後に、分析の結果見えてきたものをまとめて提示する。

2 地理的分野教科書における中国の取り上げ方

まず、各教科書の「世界の国々の調査」の対象国名を一覧にすると、次のようになる。

各社	国名1	国名2	国名3
東書	アメリカ	マレーシア	フランス
日文	大韓民国	アメリカ	ケニア
大書	中国	アメリカ	イタリア
清水	オーストラリア	中国	オランダ
帝国	中国	アメリカ	ドイツ
教出	中国	アメリカ	オランダ
日書	中国	イギリス	アメリカ

一覧表からわかる通り、7社中5社が中国を取り上げている。従って本稿の分析対象は、この5社の教科書ということになる。

しかし、東書や日文がまったく中国を取り上げていないかということ、そうではない。例えば東書の教科書を開くと、アジアの地域区分における中国の位置概念とか、福岡県との交流の様子とか、日本の産業構造の変化を受けた中国への工場移転とか、中心となる学習内容との関わりという設定で、中国が断片的に扱われている。もちろん本来ならこうした中国の扱いをも分析対象にしなければいけないのだが、本稿では、中国を小単元構成で主として扱っている教科書のみを分析対象とすることにする。

5社の教科書が中国の学習に割いている頁数を記すと、次のようになる。

大書	8頁	清水	8頁	帝国	11頁	教出	6頁	日書	10頁
----	----	----	----	----	-----	----	----	----	-----

3 記述内容分析の観点

最少で6頁、最多で11頁を割いている中国に関する記述内容を分析する観点を、次のように設定する。

- ①自然に関する記述。
- ②人口問題に関する記述。
- ③民族問題に関する記述。
- ④生活文化に関する記述。
- ⑤政治体制や経済体制の変化に関する記述。
- ⑥変化する農業に関する記述。
- ⑦鉱工業の発展と環境問題の発生に関する記述。
- ⑧中国と日本の関係に関する記述。
- ⑨中国と朝鮮半島の関係に関する記述。
- ⑩華僑と華人に関する記述。
- ⑪香港に関する記述。
- ⑫中国文化の伝播に関する記述。

5社の教科書すべてに、①から⑫の記述内容が含まれているわけではない。5社すべてに取り上げられている内容もあれば、1社のみにとどまる記述もある。①から⑫の内容が、どのような記述で取り上げられているか、次章で詳細に明らかにする。そのことで、それぞれの教科書の（あるいは教科書執筆者の）中国観も把握できる。

4 記述内容分析の実際

これから記述内容の詳細な分析に入る。5社の教科書から、①から⑫の記述内容にあてはまると思われるものを抜き出して一覧にする。なお、内容は略記にとどめる。

各社 内容	大書	清水	帝国	教出	日書
① 自然に 関する 記述	<ul style="list-style-type: none"> ・東シナ海をはさんで広大な中国が存在する。 ・日本の25倍もの国土に、西部には山地や高原が、東部や東北部には平野が広がっている。 ・気候は地域ごとに変化に富んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黄河と長江は人々の生活を長らく支えてきた。 ・写真の風景から地形が判断できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気温と降水量の違いによって、農業の形態が異なっている。 ・北部や西部の砂漠の周囲で砂漠化が進行している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パンダやトキが生息している。 ・地図帳を見ると大河の流れの様子や気候の分布がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の国土は日本の25倍もある。
② 人口問題に 関する 記述	<ul style="list-style-type: none"> ・人口は12億をこえ、世界人口の5分の1を占めている。 ・食料生産や住宅建設が激な人口増に対応できない問題がある。 ・「ひとりっ子政策」で人口増を押さえようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口は世界全体の20%に当たり、人口増加は問題を引き起こしている。 ・「一人っ子政策」により「小皇帝」が増えている。 ・農村から都市への人口移動は民工潮（出稼ぎ）と呼ばれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口は東部に集中している。 ・「一人っ子政策」によって都市での人口増加率は下がってきている。 ・「一人っ子証」があると学費や医療費がもらえたり就職が有利になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界一人口の多い国である。 ・政府は人口の増加をおさえるために婚期を遅らせたリ、「一人っ子政策」を進めてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・12億をこえる人口がこれ以上増えないように、「ひとりっ子政策」を進めている。 ・人口の多くが東部の大都市に集中している。

③ 民族問題に関する記述	<ul style="list-style-type: none"> ・人口の90%以上を占める漢民族と、50を超える（少数）民族が住んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・約92%の漢民族は主に東部に住み、多くの少数民族は内陸部に住んでいる。 ・漢民族と少数民族の対立が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口の多い漢民族は東部に住み、北部や西部に住む少数民族は独自の伝統文化や宗教を持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口の90%以上は漢民族であるが、様々な少数民族が各地に分布して生活している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口の90%以上が漢民族であるが、独自の文化を持つ少数民族も住んでいる。 ・民族自治区で暮らす少数民族もいる。
④ 生活文化に関する記述	<ul style="list-style-type: none"> ・都市と農村との格差はあるが、生活は近代化してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境や文化の違いから地域によって特徴のある料理がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部と農村部の住宅は構造も広さも異なる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・内陸の村と大都市の家の作りは、ずいぶん異なっている。
⑤ 政治経済体制の変化に関する記述	<ul style="list-style-type: none"> ・経済特区や経済開発区がつくられ、外国企業の進出がさかんになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものが自由に売り買いできるようになり経済開放政策が進んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内陸部と沿岸部では収入に7倍以上の差があり、不法な出稼ぎが絶えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会主義の国づくりを進めてきたが、自由な経済活動を認めるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済特区をつくり開放政策をとり外国企業の誘致をおこなうようになった。
⑥ 変化する農業に関する記述	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の気候的、地形的特徴を生かした農業がおこなわれている。 ・かつての人民公社での経営が、生産責任制度に変化している。 ・耕地が減少したり黄河が涸れたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気候や地形の関係で、西部は牧畜が、東部は稲作が、東北部は畑作がさかんである。 ・主題図をつくると稲作と麦作の分布が明確になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・米の生産量は世界一である。 ・チャーハンになる米と、めんになる小麦は栽培地域が異なり、栽培が難しい地域は羊の飼育がさかんである。 		<ul style="list-style-type: none"> ・人口を支える農作物の分布は、気候によって大きく異なる。 ・かつての人民公社は廃止され、役所に納める以外の農産物の自由売買が可能になった。 ・村からの出稼ぎが多い。

<p>⑦ 鉦工業の発展と環境問題の発生に関する記述</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・火力発電や水力発電がさかんである。 ・東北部に重化学工業、大都市を中心に各種の工業、中小都市や農村には郷鎮企業が分布している。 ・計画経済から工場請負制度に転換している。 ・工業の発達により環境問題が各地で起こっている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・工業は沿岸部の都市を中心に発達している。 ・外国企業が労働力の安い中国に工場を移している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主題図をつくると、省や市ごとの工業生産額が見えてくる。 ・自由な経済活動が認められるようになって、海岸部で工業生産がさかんになった。 ・郷鎮企業が農村部にもできたが、都市部との収入の地域差は大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東北部を中心に鉦工業が盛んである。 ・人民公社の廃止後、郷(村)鎮(町)企業による生産が急激に伸びた。 ・工業の発展の反面、環境対策の遅れが目立ち、大気汚染や酸性雨、さばく化の進行などが起こっている。
<p>⑧ 中国と日本の関係に関する記述</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・かつて日本は中国を植民地のようにし侵略して苦しめた時期もあった。しかし現在は互いに友好を深めている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・横浜、神戸、長崎などに中華街があり中華料理店などでにぎわっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市を締結したり、企業進出などが見られる。 ・日中の経済的な結びつきは強くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1931年から第二次世界大戦まで中国を侵略していたが、日中平和友好条約締結後は交流が活発になっている。
<p>⑨ 中国と朝鮮半島に関する記述</p>					<ul style="list-style-type: none"> ・中国とロシアと北朝鮮で国境付近に国際貿易港をつくる計画がある。 ・山東半島には韓国の会社が多数進出している。

⑩ 華僑と 華人に 関する 記述	・中国から他 国への移住者 や、その子孫 が、その国の 国籍をとった りして活躍し ている。日本 にも数多く住 んでいる。		・東南アジア をはじめ世界 中に華人がく らしている。		・華僑や華人 が海外で活躍 し、チャイナ タウンなどが 形成され、商 業や金融業で 成功している 人も多い。
⑪ 香港に 関する 記述					・長い間イギ リスの植民地 になっていた 香港が、1997 年に返還され た。金融業や 観光業がさか んであるが、 都市問題も発 生している。
⑫ 中国文 化の伝 播に関 する記 述	・私たちは中 華料理を食べ 漢字を使う。 ・パンダやト キのことが話 題になる。				・漢字文化や 中華料理など が我が国に入 っている。

5 おわりに

「世界の国々の調査」という設定だから、各社とも、①調べ学習のテーマ設定、②主題図や統計の読み取り、③まとめのための資料のつくり方、という配列になっている。そして中国についての記述内容を整理すると、次のようになる。

- (1) 「自然」「人口問題」「民族問題」「政治経済体制の変化」については5社の教科書が取り上げ、中国理解のための重要な着眼点を提示している。
- (2) 「生活文化」「農業問題」「鉱工業の発展と環境問題」「日中関係の問題」については4社が取り上げ、(1)に劣らない着眼点を示している。
- (3) 12項目を網羅的に取り上げている教科書もあれば、6項目にしぼって記述しているものもある。網羅的に取り上げた意図は、より多面的な角度で生徒の調べ学習を誘発しようとしたものであると考えられる。

(竹澤 伸一)

第3節 中学校歴史的分野

1 はじめに

本稿は、中学校社会科歴史的分野の教科書を取り上げ、歴史学習で中国がどのように取り扱われているかを分析することを目的とする。そのため、本稿では、以下の3つの作業を行って、教科書の内容構成や叙述の特徴に関する考察を行った。

- (1) 日本書籍『中学校 歴史分野』(旧課程)¹⁾を取り上げ、「我が国の歴史を理解させる背景」と「我が国との関係・文化交流」の面から、中国史及び日本と中国の交流史に関わる部分を抽出し、その特徴を分析する。
- (2) 新旧両課程教科書各4冊を取り上げ、中国史及び日本と中国の交流史に関わる事項(概念、地名、人名)58項目についての記述の有無を調べ、新旧両課程の教科書における内容上の変化について比較する。
- (3) 東京書籍の新旧両課程の教科書を取り上げ、元寇、倭寇、南京事件の3箇所について、記述方法の変化を比較する。

2 中学社会科歴史分野における中国の取り上げ方の特徴

～日本書籍教科書の分析から～

日本書籍の旧課程教科書『中学校 歴史分野』(1日書歴史758)について、(A)「我が国の歴史を理解させる背景」と(B)「我が国との関係・文化交流」の面から関連箇所を抽出し、表1「中学社会科(歴史分野)教科書に見る『中国』記述」にまとめた。

中国に関わる記述や構成の特徴を明確にするために、最初に、世界史に関わる記述や構成の特徴を列挙する。第一に、歴史分野の内容構成はあくまでも我が国の歴史を中心としたものであるため、世界史に関する部分は通史的構成をとっていない。また、取り上げられている内容は、断片的である。第二に、世界史に関わる内容の中で、(A)については「第2章 古代文明のおこり」「第3章 古代国家の歩み」「第7章 ヨーロッパの近代化と世界」などの章で、また、(B)については、「律令国家の形成」(8世紀)、「モンゴル帝国と元寇」(13世紀)、「ヨーロッパの進出と日本の統一」(16世紀)等で取り上げている。第三に、近代以降は、日本の動向を世界や東アジアの中に位置付け、世界の動きと一体的に取り上げている。

次に、中国に関わる箇所について、世界史の場合と比較を行い、その特徴を列挙する。

- ①中国に関わる内容は、世界の他の箇所と同様に各章に断片的に置かれている。しかし、全体を通してみると、中国理解に必要な内容は網羅しており、通史的構成になっている。
- ②中国に関わる記述の中で18世紀以前については、日本との文化交流に関わる記述が中心である。とくに、7・8世紀(遣隋使・遣唐使)と13世紀(元寇)の記述が詳しい。
- ③19世紀中頃の「西洋の衝撃」に対する清の混乱についての記述(アヘン戦争、太平天国の乱)が詳しい。清の混乱を日本の明治維新と対照的にとらえる傾向が強い。
- ④19世紀末から第二次世界大戦までの記述は、日本の侵略とそれに対する中国の抵抗が中心になっている。日本に関する内容(日本の対外政策)と一体的な記述となっている。
- ⑤戦後についての記述は、日中平和条約(1978年)までしか記述されていない。
- ⑥中国の地名表記が中国語読み、人名が中国語・日本語読みの併記であるなど、歴史用語の表記

に複雑さを感じる。生徒の歴史学習にとって、このことは大きな負担と考えられる。

3 新旧課程教科書での中国に関する内容の比較

旧課程教科書（日本書籍・東京書籍・日本文教出版・清水書院）、新課程教科書（東京書籍・日本文教出版・清水書院・教育出版）各4冊を取り上げ、中国史及び日本と中国の交流史に関わる事項（概念・地名・人名）58項目について記述の有無を調べ、表2「中国及び日中交流に関する事項」にまとめた。中学校の新学習指導要領の内容が発表された時（1998年）に、歴史分野からルネサンスという項目が消えるなど世界史に関わる内容が大幅に削減され、マスコミが大騒ぎしたことは、記憶に残っている。旧課程の教科書に比べて、新課程の場合では、世界に関する記述は大幅に削減されている。しかし、中国に関わる項目については、今回調べた限りでは、顕著な減少は見られなかった。旧課程と新課程の間では、中国史及び日本と中国の交流史の取り上げ方には変更は見られず、新課程になってもこれまでの構成や内容を踏襲しているといえる。

4 新旧両課程での「元寇」「南京事件」の記述比較

～東京書籍教科書を事例として～

日中両国の歴史認識に関わる溝として、元寇と日中戦争がある。元寇と日中戦争での南京事件の記述について、新旧両課程の東京書籍の教科書（旧課程：2東書歴史752、新課程：2東書歴史702）の記述を比較した。その結果、両者には大きな変化は見られないことが分かった。

○元寇（1274、1281年）○ 旧課程「元は高麗の軍勢を合わせて、二度にわたって攻め入ってきました。1274年には…集団戦法と優れた火器により、さんざんに日本軍を悩ませましたが、結局は、ひきあげた（文永の役）。…1281年には、海岸に石累が築かれるなどの防備もあって、元の大軍は上陸できないままに、暴風雨にあって大きな損害を受け、敗退した（弘安の役）。」（89頁）

新課程「元は高麗の軍勢をも合わせて攻め入ってきました。1274（文永11）年には、…集団戦法とすぐれた火器により、日本軍を悩ませたすえ、引きあげました（文永の役）。…1281（弘安4）年には、海岸に築かれた石累などの防備もあって、元の大軍は上陸できないまま、暴風雨にあって大損害を受け、退きました（弘安の役）。」（56-57頁）

○南京事件（1937年）○ 旧課程「日本軍は女性や子どもをふくむ、おびただしい数の中国人を殺害し、ナンキン大虐殺として諸外国から非難を浴びた。しかし、日本の一般の国民は、その事実を知らされなかった。（274頁）

新課程「日本軍は、同年末に首都南京を占領しました。その課程で、女性や子どもをふくむ中国人を大量に殺害しました（南京事件）。」（170頁）

5 終わりに

旧課程の教科書分析から、中国史や日中交流史の記述は、世界の他の地域と比べて充実していることが分かった。また、新課程でも、世界史の内容が削減される中で、中国に関わる内容には、顕著な減少は見られなかった。記述の方法も、前近代は「文化交流」を、近現代は「戦争」を中心に取り上げられるなど、従来の形を踏襲していることが分かった。

【注】

1) 第2回例会（2001年6月16日、国立教育政策研究所）での報告をまとめたものである。当時、中学校ではまだ新課程に移行してなかったため、旧課程の教科書分析となった。

表1 中学社会科（歴史分野）教科書に見る「中国」記述

No.1

教科書の構成	我が国の歴史を理解させる背景	我が国との関係・文化交流
第1章 原始時代の人々 1.人類のはじまり	<ul style="list-style-type: none"> ・ペキン原人（洞窟居住・火の使用） 	
第2章 古代文明のおこり 1.地中海と西アジアの古代文明 2.南アジアと東アジアの古代文明 ■インドと中国の文明 ■中国の古代文化 ■秦・漢帝国と東アジア 4.日本の国のはじまり ■稲作の始まり ■邪馬台国と大和政権 ■大和政権と東アジア	<ul style="list-style-type: none"> ・黄河文明 （黄土地帯に…漢民族が住み、農耕や牧畜をおこなっていた。 殷（青銅器文化、甲骨文字の使用、占いによる政治（祭政一致）） 周（周が一族、家臣に土地を与えて支配した） 春秋・戦国時代 各国に分裂、鉄製農具の普及、農業生産の高まり、商工業の活発化 孔子の教え（後に儒教となり、東アジアの政治・文化に多大な影響） （・殷時代の甲骨文字 ・古代中国の音楽と社会 ・秦・漢の中国統一 秦（始皇帝、中国最初の統一帝国、万里の長城を築く） 漢（西方との交易＝シルクロード、紙の発明、儒教を政治の基本とする） 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢（近隣諸国は中国皇帝の部下として従う。中華思想） ・中国の稲作が朝鮮半島南部からの人々の移住とともに北九州に伝わった（地図）。 ・倭の奴の国王が漢に使者を派遣し、金印を授かる。 ・邪馬台国の卑弥呼が魏に使者を派遣する。 ・倭の大王「武」が中国皇帝に使者を派遣し、朝鮮半島南部の支配をみとめてもらった。 ・中国や朝鮮からの渡来人が増え、大和政権につかえた。土木、農業、工業技術や仏教文化が伝えられた。
第3章 古代国家の歩み 1.律令国家の形成 ■中国と朝鮮の発展 ■飛鳥の朝廷と文化 ■律令国家の成立 2.奈良の都と民衆 3.平安の都と武士のおこり	<ul style="list-style-type: none"> ・隋・唐の中国統一 （隋（大運河、高句麗遠征） 唐（律令、均田制、租庸調） ・唐から宋へ 唐 9世紀末の農民反乱によって衰退、遣唐使の廃止 宋 日本と国交はなかったが、産業が発達し、商人が往来した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際都市長安（日本など周辺諸国使節の来訪、国際都市、人口100万） ・長安の都（図 平城京・平安京との規模比較） ・蘇我氏と聖徳太子 小野妹子らを遣隋使として隋に派遣。 ・壬申の乱 唐・新羅軍が百済・日本軍を白村江で破る。 ・遣唐使 630～894年まで十数回派遣され、唐の律令・仏教が伝えられる。 ・天平文化 唐の文化の影響を受ける。 ・仏教 最澄、空海が唐に渡り、天台宗、真言宗を日本に伝える。 ・日宋貿易 平清盛が兵庫の港を整備し、宋と貿易を行う。
第4章 封建社会の始まり 1.武家政治のはじまり ■モンゴル帝国と元寇 2.内乱と下克上の時代 ■東アジアの変動と室町幕府 ■室町の文化	<ul style="list-style-type: none"> ・モンゴル帝国と元 チンギス・ハンの征服、ユーラシアにモンゴル帝国建設。 フビライ・ハンが中国、モンゴルに元を建国。モンゴルが高麗を征服。 ・明と朝鮮（李氏）の成立 農民反乱軍指導者の朱元璋が建国。独裁体制。朝貢貿易。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉時代の仏教 栄西、道元が宋に渡って修行し、臨済宗、曹洞宗を開く。 ・元軍の日本襲来 （文永・弘安の役（元寇）。暴風で打撃を受け撤退。三度目の遠征を計画したが、中国南部の反乱やベトナムの抵抗で挫折。 ・倭寇 北九州などの武士・商人・漁業民…武装した大船団…中国の沿岸を襲う。 ・勘合貿易 足利義満が明へ朝貢の使節を派遣し、貿易船に勘合という明発行の割符を用いた。 ・琉球 琉球は明との貿易を数多くするほか、東南アジア、日本、朝鮮との貿易で栄えた。 ・東山文化 床の間（書院造）には中国輸入の掛け軸・陶器が飾られた。

教科書の構成	我が国の歴史を理解させる背景	我が国との関係・文化交流
第5章 ヨーロッパの進出と日本の統一		
第6章 封建社会の移り変わり 1.江戸幕府の政治 ■幕府の対外政策		・長崎 オランダ、中国船の来航。長崎に住む中国人の増加。
第7章 ヨーロッパの近代化と世界 3.アジアとヨーロッパの強国 ■ムガル帝国と清 ■イギリスの侵略と中国の抵抗	<ul style="list-style-type: none"> ・清 東北地方の漢族（満洲族）が17世紀半ばに建国。中国全土、台湾、モンゴル、チベットを支配。産業が発達し、茶・生糸・陶磁器の生産が盛ん。開港地をフロンチョン（広州）に限定し、キリスト教を禁止。 ・アヘン戦争 鎖国政策を続ける清にイギリスがアヘンを密輸。中国から銀が流出し、アヘンの害が広がる。イギリスとの間にアヘン戦争が起こり、敗北。 ・南京条約（不平等条約） イギリスに賠償金をはらい、ホンコン（香港）をゆずる。関税自主権を失い、治外法権を認める。 ・太平天国の乱 農民出身の洪秀全が中国南部で蜂起。太平天国を建国し、ナンキン（南京）を都とした。男女平等、土地の分配などの政策を実行。 	
第8章 近代ヨーロッパへのあゆみ 2.明治維新 ■新政府と世界		<ul style="list-style-type: none"> ・1871年、清と対等な条約を結ぶ（日清修好条規）。 ・琉球の帰属をめぐり、清と対立し、1874年に*台湾出兵。 →*台湾に漂着した琉球人が殺害されたことを利用して台湾に出兵。
第9章 日本の大陸侵略 1.日清戦争と朝鮮 2.朝鮮問題と日清戦争 3.帝国主義と日露戦争 ■帝国主義 ■日露戦争 ■日本の産業革命 3.日本と朝鮮侵略とアジアの動き ■日本の大陸侵略のはじまり ■辛亥革命	<ul style="list-style-type: none"> ・帝国主義諸国の中国侵略 山東半島の青島（ドイツ）、遼東半島の旅順・大連（ロシア）の租借。 ・義和団事件 義和団を中心とした民衆蜂起。8カ国連合軍によって鎮圧。 ・1905年に孫文が東京で中国同盟会をつくり、三民主義を唱える。 ・1911年に革命、12年中華民国の成立（臨時大總統に孫文が選ばれる。）。 ・袁世凱が大總統に就任し、全国に軍閥が勢力を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・甲午農民戦争が起こると、朝鮮政府は清に助けを求めたため、清が出兵。 ・清出兵に際して、日本も直ちに出兵し日清戦争が勃発。 南満洲、山東半島、朝鮮が戦場となる。 ・1895年下関条約が結ばれ、清は多額の賠償金をはらい遼東半島、台湾をゆずる。 ・台湾で独立運動が起こる。三国干渉で、日本がリアトン（遼東）半島を返還。 ・清、日本と不平等な通商条約を結ぶ。 ・1905年に日本軍は旅順を占領、奉天（現在の瀋陽）郊外の会戦でロシアを破る。 ・戦場となった満洲（絵）。日露戦争（地図）。 ・紡績業は、日清戦争後、中国・朝鮮への輸出を増やす。 ・八幡製鉄所が中国のターイエ（大冶）の鉄鉱石を輸入して生産開始（1901年）。 ・ポーツマス条約（1905年）で、旅順・大連の租借と東清鉄道の一部をゆずられた。 ・南満洲鉄道株式会社をつくり、満洲へ勢力拡大。同地をめぐってアメリカと対立。 ・ロシアとは、満洲・モンゴルでの権益を相互に承認。

教科書の構成	我が国の歴史を理解させる背景	我が国との関係・文化交流
<p>第10章 第一次世界大戦と日本</p> <p>1. 第一次世界大戦</p> <p>■護憲運動と日本の参戦</p> <p>2. 大戦後の世界の動き</p> <p>■ベルサイユ条約と国際連盟</p> <p>■独立を求めるアジアの民衆</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 1919年に孫文が中国国民党を結成、21年に中国共産党も結成される。 →両党が手を結び、革命運動が発展。 • 孫文死後、国民党の将軍・蒋介石が共産党と対立し南京に国民政府を樹立。 	<ul style="list-style-type: none"> • 1915年、日本政府の21か条の要求に中国（袁世凱）政府が屈服。排日運動・反政府運動が激化。 • 中国政府の主張を退け、ベルサイユ条約で日本の中国・ドイツ権益の継承が認められた。 • ワシントン会議で、日本の山東半島権益の中国返還が決まった。 • 1919年、パリ講和会議と日本の21か条要求に反対して、五・四運動が起こる。
<p>第11章 第二次世界大戦と日本</p> <p>1. 不景気と戦争の不安</p> <p>■不景気におそわれた日本</p> <p>2. 日本の中国侵略</p> <p>■15年にわたる戦争のはじまり</p> <p>■日中全面戦争</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 蒋介石の国民党が英米の助けを受けて国内を統一。 	<ul style="list-style-type: none"> • 国民党の勢力が満洲に及び、「満洲は日本の生命線」とする日本との対立が表面化。 • 「満洲事変」（1931年） 奉天郊外・柳条湖での関東軍による満鉄線路爆破がきっかけ。 • 「満洲国」 清朝最後の皇帝溥儀を皇帝としたが、実権は関東軍が握った。 • 国際連盟の脱退（1933年） 国際連盟から満洲から撤退するよう求められたため、連盟から脱退。 • 国共内戦期に共産党が毛沢東指導のもとに長征を行い、途中で抗日戦線の結成を呼びかける。 • 日中戦争勃発 北京郊外の盧溝橋付近で日本軍の夜間演習をきっかけに中国軍と衝突。 • 日本軍の侵略に対して、国共両党が抗日統一戦線を結成。
<p>第12章 現代の日本と世界</p> <p>2. 世界の新しい動きと日本</p> <p>■対立する世界と東アジアの激動</p> <p>■日本の独立</p> <p>■アジアの中の日本</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 新中国の成立 1949年に農民・労働者の支持を得て内戦に勝利した共産党は毛沢東を主席に中華人民共和国の成立を宣言し、ソ連と同盟を結んだ。 • 朝鮮戦争（1950-53） 中国は人民義勇軍を北朝鮮に送った。 	<ul style="list-style-type: none"> • 台湾の国民政府と講和を結び、新中国を無視した。 • 1972年に中華人民共和国と国交を正常化し、台湾と断交した。 • 1978年に日中平和条約が結ばれ、81年以降中国残留孤児が肉親探しで来日。

* 使用した教科書：日本書籍『中学社会 歴史的分野』（1日書歴史759、平成9年検定済）

表2 中国及び日中交流に関する事項

時代区分	番号	内容	旧課程教科書				新課程教科書			
			日本書籍	東京書籍	日文出版	清水書院	東京書籍	日文出版	清水書院	教育出版
原始時代	1	ペキン原人	○	○	○	○				○
古代の日本	2	黄河文明	○	○	○	○	○	○	○	○
	3	殷、周	○	○	○	○	○	○	○	○
	4	春秋戦国時代	○	○	○	○		○		
	5	秦、漢	○	○	○	○	○	○	○	○
	6	隋、唐	○	○	○	○	○	○	○	○
	7	甲骨文字	○	○	○	○	○	○	○	○
	8	儒教	○	○	○	○	○	○	○	○
	9	中華思想	○							
	10	金印(漢倭奴国王)	○		○	○	○	○	○	○
	11	魏志倭人伝	○	○	○	○	○	○	○	○
	12	倭王武の手紙	○	○	○	○	○	○	○	○
	13	遣隋使	○	○	○	○	○	○	○	○
	14	遣唐使	○	○	○	○	○	○	○	○
	15	長安	○	○	○	○	○	○	○	○
	16	孔子	○	○	○	○	○	○	○	○
	17	始皇帝	○	○	○	○	○	○	○	○
	18	鑑真	○	○	○	○	○	○	○	○
	中世の日本	19	宋	○	○	○	○	○	○	○
20		モンゴル帝国、元	○	○	○	○	○	○	○	○
21		明	○	○	○	○	○	○	○	○
22		日宋貿易	○	○	○	○				○
23		禪宗	○	○	○	○	○	○	○	○
24		元寇	○	○	○	○	○	○	○	○
25		日明貿易(勘合貿易)	○	○	○	○	○	○	○	○
26		倭寇	○	○	○	○	○	○	○	○
27		琉球	○	○	○	○	○	○	○	○
28		チンギスカン	○	○	○	○	○	○	○	○
29		フビライハン	○	○	○	○	○	○	○	○
近世の日本	30	明の(朝鮮) 援軍	○	○	○	○	○	○	○	○
	31	秀吉の朝鮮侵略	○	○	○	○	○	○	○	○
	32	(長崎) 中国貿易	○	○	○	○	○	○	○	○
近代の日本	33	清	○	○	○	○	○	○	○	○
	34	アヘン戦争	○	○	○	○	○	○	○	○
	35	南京条約	○	○	○	○		○		○
	36	太平天国の乱	○	○	○	○	○			○
	37	日清修好条規	○	○	○	○	○	○	○	○
	38	台湾出兵	○	○	○	○	○	○	○	○
	39	日清戦争	○	○	○	○	○	○	○	○
	40	義和団事件	○	○	○	○	○	○	○	○
現代の日本	41	中華民国	○	○	○	○	○	○	○	○
	42	中華人民共和国	○	○	○	○	○	○	○	○
	43	辛亥革命	○	○	○	○	○	○	○	○
	44	三民主義	○	○	○	○	○	○	○	○
	45	二十一条要求	○	○	○	○	○	○	○	○
	46	五四運動	○	○	○	○	○	○	○	○
	47	満州事変、満州国	○	○	○	○	○	○	○	○
	48	柳条湖(事件)	○	○	○	○	○	○	○	○
	49	日中戦争	○	○	○	○	○	○	○	○
	50	盧溝橋(事件)	○	○	○	○	○	○		
	51	南京事件	○	○	○	○	○	○	○	○
	52	抗日民族統一戦線	○	○	○	○	○	○	○	○
	53	日中平和条約	○	○	○	○	○	○	○	○
	54	孫文	○	○	○	○	○	○	○	○
	55	袁世凱	○	○	○	○	○	○	○	○
	56	蔣介石	○	○	○	○	○	○	○	○
	57	毛沢東	○	○	○	○	○	○	○	○
	58	鄧小平								

旧課程教科書

日本書籍：「中学校 歴史分野」(1日書歴史758)、日本書籍、
 東京書籍：「新しい社会 歴史」(2東書歴史752)、東京書籍、
 日文出版：「中学校の社会科 歴史」(116日文歴史765)、日本文教出版、
 清水書院：「中学校歴史」(35清水歴史763)、清水書院。

新課程教科書

東京書籍：「新しい社会 歴史」(2東書歴史702)、東京書籍、
 日文出版：「中学校の社会科 歴史」(116日文歴史707)、日本文教出版、
 清水書院：「新中学校歴史」(35清水歴史705)、清水書院、
 教育出版：「中学校社会 歴史」(17教出歴史704)、教育出版。

(田尻 信壹)

第4節 中学校公民的分野

1 指導内容の構成と特色

現在実施されている中学校社会科公民的分野の内容構成は、学習指導要領によると次の表のとおりである。この中で、(1)のアでは、現代日本の発展の過程と国際化の進展のあらましについて理解させることなどが内容とされており、高度経済成長から今日までの日本や国際社会の変容について、身近な生活の視点から学習させることがねらいとされている。

次の(1)のイについては、家族や地域社会などの機能を扱うことによって、人間は社会的存在であることに着目させ、個人と社会とのかかわりについて考えさせることをねらいとしている。

(2)のアは、消費生活の視点から経済活動の意味を理解させるとともに、市場経済の基本的な原理や雇用、労働等について学習させる構成となっている。(2)のイについては、アの学習を受けて、福祉の向上に関わる政府の働きについて、社会保障などの視点から扱う構成となっている。

(3)については、アとイは民主政治の基本原則とともに我が国の政治の仕組みや運営について取り上げ、ウは、国際社会や国際関係に視野を広げ、平和と福祉について考えさせることをねらいにしている。

- | |
|---------------------|
| (1) 現代社会と私たちの生活 |
| ア 現代日本の歩みと私たちの生活 |
| イ 個人と社会生活 |
| (2) 国民生活と経済 |
| ア 私たちの生活と経済 |
| イ 国民生活と福祉 |
| (3) 現代の民主政治とこれからの社会 |
| ア 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則 |
| イ 民主政治と政治参加 |
| ウ 世界平和と人類の福祉の増大 |

2 公民的分野における中国理解の視点

以上、公民的分野の内容構成等を概観してきたが、それでは公民的分野の目標や内容構成から見て、中国理解に関わる視点はどのような点に求めることができるのであろうか。

その第1は、経済や政治の働きを媒介にした「関係」の視点である。経済とは市場等を通じた資源の配分の働きであり、生産者と消費者を市場を通して結びつける機能を果たしている。経済の機能によって、中国で生産された商品が日本で消費されたり、資本が国境を越えて融通されたりする。つまり、経済の機能を通じて日本と中国の関係が形成されている点に着目した視点である。

利益の調整や意思決定の働きを持つ政治についても同様である。各国の政治は、それぞれの国内における様々な利害調整や意思決定の働きをしているとともに、他国との政治関係によっても規定されている。政治の機能を通じた国と国の関係がもう一つの視点となるのである。

中学校社会科では、国際経済について扱う項目がないため、経済の視点から日中関係を正面から扱うことは行いにくい。政治については、(3)のウで扱うことが考えられるが、国と国との関係を主題として取り上げることは難しいと考えられる。

第2は、「比較」の視点である。例えば消費生活を他の国の生活と比較したり、政治機構を他の国と比較したりすることによって、理解を深める方法が考えられる。ただ、公民的分野における学習は、国際理解それ自体を目標としていないため、授業者の指導方法の一部として展開する程度にとどまると考える。

その他「歴史」的視点も考えられる。例えば第二次世界大戦後の経済や政治の変遷を取り上げる

中で、日本と中国の関連を取り上げることが考えられる。

以上、「関係」「比較」「歴史」の視点をあげたが、教科書では、日中関係を主題として取り上げるものはほとんどなく、部分的な情報の集積として中国に関する知識が示されているにとどまる。

3 教科書における記述

公的分野の教科書は平成15年度現在、7点が発行されている。全体的傾向とそれぞれの領域別傾向とに分けて検討してみたい。

(1) 全体的傾向

取り上げている領域でいえば、国際単元が最も多く、次いで現代の社会生活に関する領域にも記述が見られる。学習指導要領の項目では、「(3) 現代の民主政治とこれからの社会」の「ウ 世界平和と人類の福祉の増大」に該当する部分について記述が最も多く、次いで、「(1) 現代社会と私たちの生活」の「ア 現代日本の歩みと私たちの生活」に関連する記述が多いということが分かる。

また、記述の形態別に見ると、本文としての記述内容には共通性が高いことがうかがえる。その他、中国自体を取り上げる目的で作成されているわけではないが、地図やグラフ中から、中国の位置などが読み取れるものも見られる。

(2) 領域別傾向

ここで「領域」とは、学習指導要領の大項目に対応する教科書の部や章の意味で用いる。国際、世界に対応する領域で、最も多いのは、国際連合の安全保障理事会の常任理事国に関する記述である。7点中6点に本文として記述が見られる。このことにより中国は他の4カ国とともに拒否権を持つ国であることが理解される。

続いて、核保有国であることの情報である。7点中4点に記述や情報が見られる。国連における地位と同時に、中国が核を保有するいわば大国であることが分かる。

経済に関する領域については、企業の進出や貿易の相手国、経済特区の動き、地域的経済圏等に関する情報が提供されている。

その他エネルギー資源に関する統計や日中交流を直接に取り上げた教科書も見られた。

<公的分野の教科書に見られる中国関係の記述>

教科書会社	記述の見られる章など			形態	記述内容
A	わたしたちの生活と現代社会	第1章 わたしたちをとりまく社会	3 結びつく日本と世界	本文	今日、日本企業は、アメリカなどの先進国だけでなく、東南アジアの国々、中国、インドなど、多くの国に進出しています。反対に外国の企業も多く日本に進出しています。
	わたしたちの生活と現代社会	第1章 わたしたちをとりまく社会	3 結びつく日本と世界	新聞記事	公民へのズームイン 外国人から見ると日本人はこう見える 在日外国人が見た日本人
	現代の国際社会	第1章 国際社会と人類の課題	1 国家と国際社会 国際連合のしくみとはたらき	本文(別枠)	理事会は、アメリカ・イギリス・フランス・ロシア・中国の5常任理事国と、2年の任期で毎年半数ずつ改選される10常任理事国とで構成されます。
	現代の国際社会	第1章 国際社会と人類の課題	2 人類の課題	写真	経済的な発展をとげるシェンシェン経済特区(中国)

	現代の国際社会	第1章 国際社会と人類の課題	2 人類の課題 平和で豊かな世界を求めて	年表	核開発・核軍縮の動き
B	第1章 わたしたちの暮らしと現代社会	第1節 移り変わる社会とわたしたちの暮らし	6 わたしたちにはできることは	地図	青年海外協力隊が派遣されている国々
	第4章 地球社会とわたしたち	第1節 世界平和の実現に向けて	2 国際連合のはたらき	本文	安保理は、第二次世界大戦の主要戦勝国であるアメリカ、イギリス、ロシア連邦、フランス、中国の5か国が常任理事国の地位をしめ、いずれも拒否権をもつ。
	第4章 地球社会とわたしたち	第1節 世界平和の実現に向けて	3 冷戦後の世界	年表	核兵器と冷戦をめぐる動き 1964 中国が原爆実験を行い、核保有国は五か国となる。
C	第1編 私たちの生活と政治	第1章 人権の尊重と日本国憲法	3 人権思想の新しい展開 国際化時代の人権	写真	NGOの活動(1995年、中国) 世界女性会議の会場で、政府機関に捕らわれている女性の釈放を求め、写真をかかげるNGOの人びと
	第3編 国際社会を生きる	第1章 こんにちの国際社会	1 国際政治のしくみ 国際連合の成立としくみ	本文	安全保障理事会は、国際的な平和や安全を維持する責任をもち、アメリカ・ロシア・イギリス・フランス・中国の5常任理事国と、2年の任期で選挙される10非常任理事国で構成される。
	第3編 国際社会を生きる	第1章 こんにちの国際社会	2 人類の課題 軍縮への取り組みと世界平和	側注	② かつて核兵器は、アメリカ、旧ソ連、イギリス、フランス、中国の5か国だけで独占していたが、それをほかの国ぐにや武力集団が保有し、生産するようになる過程を核拡散という。
	第3編 国際社会を生きる	第1章 こんにちの国際社会	2 人類の課題 軍縮への取り組みと世界平和	本文	しかし、START IIはアメリカ、ロシアの2か国の条約であり、ほかの核兵器をもっている国(核保有国)であるイギリス、フランス、中国などは核軍縮交渉には加わっていない。
	第3編 国際社会を生きる	第1章 こんにちの国際社会	2 人類の課題 かけがえのない地球	グラフ	国、地域別CO2排出量の内わけ(資料/環境白書)
	資料で学ぼう		生命を支える食料	グラフ	※・小麦の輸出入(資料/FAO)
	資料で学ぼう		くらしを支えるエネルギー	グラフ	1年間の1人あたりエネルギー使用量(資料/世界銀行)
D	第1部 現代社会と私たちの生活	第1章 現代社会と私たちの生活	5 国際社会と私たちの生活	写真	3カ国語で書かれた看板(東京都) 外国人が多くすむ地域には、ごみの出し方が日本語だけでなく外国語でも書かれています。
	第3部 私たちの民主政治	第1章 日本国憲法を学ぶ	4 平和主義を貫くために(1)	グラフ	各国の軍事費の比較<世界国勢図会2001/2002>
	第4部 地球市民として生きる		折り込み1	地図	主な紛争・対立地域と核実験を行った国

	第4部 地球市民として生きる	第1章 世界平和を考える	2 世界平和をめざして	地図	①核兵器保有状況<世界軍事情勢 1999年版、ほか>
	第4部 地球市民として生きる	第1章 世界平和を考える	2 世界平和をめざして	年表	②核をめぐる世界の動き
	第4部 地球市民として生きる	第1章 世界平和を考える	5 国際社会における日本の役割	地図	①日本の NGO の活動 (1996年) <NGO データブック '98>
E	第1章 現代社会とわたしたちの生活		⑥ パンダが日本にやってきた	新聞記事	トキの誕生を伝える新聞の号外 (1999年5月)
	第1章 現代社会とわたしたちの生活		⑥ パンダが日本にやってきた	グラフ	アジア、中国に進出した日本企業の数の推移 (通産省「第29回海外事業活動動向調査」)
	第1章 現代社会とわたしたちの生活		⑥ パンダが日本にやってきた	本文	日本の外交と日中関係の変化 1956年、日本は国際連合への加盟を実現し、国際社会に復帰しましたが、中華人民共和国とは国交のないままでした。1971年、中華人民共和国政府が国際連合の代表権を得ると、両国は急速に接近し、その後、日中共同声明に調印して、国交を回復しました。パンダは、その記念として、中国側から日本に贈られたものです。1978年には、日中平和友好条約が結ばれ、両国の交流が本格化しました。現在、日本は中国にとって最大の貿易相手国であり、援助国となっています。日中間の交流は政府間だけでなく、都道府県や市町村、あるいは企業どうしても、さかんに行われるようになりました。わたしたちの身のまわりにも、「Made in China」と書かれた品物をたくさん見つけることができます。また最近では、「トキの保存」のような自然環境にかかわる問題などについても、日中間の協力が深まり、成果が上がっています。
	第5章 地球社会とわたしたち	1. 国際問題と地球市民	② 資源・エネルギー問題	地図・グラフ	世界のエネルギー事情 (「総合エネルギー統計」平成11年版)
	第5章 地球社会とわたしたち	1. 国際問題と地球市民	② 資源・エネルギー問題	グラフ	おもな国のエネルギー別発電 (「総合エネルギー統計」平成11年版)
	第5章 地球社会とわたしたち	2. 国際社会と世界平和	① 地域主義の動き	コラム (トピックス)	アジアにおける地域圏の新しい試み …しかし、今日、日本などの多国籍企業や、アジア各国に住む中国系の人々のネットワークなど、民間レベルの国境をこえた経済協力圏 (局地経済圏) がアジアに生まれています。例えば、中国の南部、香港、台湾を結ぶ華南経済圏、シンガポール、マレーシア、インドネシアを結ぶ「成長の三角地帯」、タイ、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマーのパーツ経済圏などが、活発な動きを見せています。
	第5章 地球社会とわたしたち	2. 国際社会と世界平和	④ 国際連合のしくみとはたらき	本文	安全保障理事会 (安保理) は、アメリカ、ロシア連邦、イギリス、フランス、中国の5常任理事国と、総会で選出された任期2年の10か国の非常任理事国とで構成されています。

F			地球の子どもたちの学びの場	口絵写真	公園で記念写真を撮影している中国の中学生（上海）
	第1章 現代社会に生きるわたしたち	1. 地球時代をむかえたわたしたち	世界とつながる日本の貿易	グラフ	海外へ進出している日本の企業数
	第1章 現代社会に生きるわたしたち	1. 地球時代をむかえたわたしたち	国際社会の変化	グラフ	日本にいる外国人
	第1章 現代社会に生きるわたしたち	1. 地球時代をむかえたわたしたち	国際社会の変化	グラフ	海外にいる日本人
	第4章 世界平和と人類の共生を求めて	1. 世界平和の実現	現代の国際社会	地図	最近のおもな世界の紛争
	第4章 世界平和と人類の共生を求めて	1. 世界平和の実現	日本とアメリカ・近隣諸国との関係	本文	今日本には、4万人をこす在日米軍が駐留している。そのきっかけは、1951年に、日本がソ連・中国などをのぞく交戦国とサンフランシスコ平和条約を結び、独立を回復したことである。
	第4章 世界平和と人類の共生を求めて	1. 世界平和の実現	世界平和と国際連合の働き	本文	安全保障理事会は、アメリカ・イギリス・フランス・中国およびロシアの5つの常任理事国と、その他の10の非常任理事国とからなっている。
	第4章 世界平和と人類の共生を求めて	1. 世界平和の実現	世界平和と国際連合の働き	表	おもな国の国連職員数 1998年6月現在（国連資料）。日本は200人以上の職員を求められている。
	第4章 世界平和と人類の共生を求めて	1. 世界平和の実現	軍縮・平和を求めて	グラフ	核弾頭・核爆弾の数 1999年現在
	第4章 世界平和と人類の共生を求めて	1. 世界平和の実現	軍縮・平和を求めて	側注	①核保有クラブといわれるアメリカ・フランス・イギリス・ロシア・中国について、1998年にはインド・パキスタンが核実験を実施した。
	第4章 世界平和と人類の共生を求めて	1. 世界平和の実現	軍縮・平和を求めて	地図	世界の非核地帯 1999年現在
	第4章 世界平和と人類の共生を求めて	2. 地球時代の課題	世界の中の日本	統計（表）	5歳未満幼児死亡率の推移
G	第1章 現代日本の歩みとわたしたち	2 変わりゆく国際社会と日本	日本の貿易と国際協力	グラフ	日本の貿易品と相手国の変化（「経済白書2001」などより）
	第7章 かけがえない地球と人類の共生	1 日本と国際社会	国際連合のしくみとはたらき	本文	安全保障理事会は、アメリカ・イギリス・フランス・ロシア・中国の5常任理事国と、総会で選出される10非常任理事国とで構成されている。
	第7章 かけがえない地球と人類の共生	2 わたしたちと地球社会	資源やエネルギーの問題	グラフ	エネルギー資源のおもな産出国（2001/02年「世界国勢図会」より）

	第7章 かけがえのない地球と人類の共生	2 わたしたちと地球社会	資源やエネルギーの問題	グラフ	おもな国の年間一人あたりのエネルギー消費量（2001年「世界の統計」より）
H		5 国境と周辺有事		写真	1 ロープに結んだ警告文を中国漁船に投入(対馬沖)
	第2章 現代政治の制度と目的	第4節 主権国家と国際関係	22 国際連合の仕組みと働き	本文	第二次世界大戦の連合国であったアメリカ、ロシア連邦(旧ソビエト連邦)、イギリス、フランス、中国の5常任理事国と、総会で選出される10か国の非常任理事国（任期2年）とで構成されている。
	第3章 現代経済の仕組みと働き	第6節 経済の国際化	途上国援助	本文（コラム）	先進工業国の周りには、数多くの発展途上国が存在する、アジア NIES とよばれる韓国・台湾・ホンコン・シンガポールは経済発展に成功し、中国・タイ・マレーシアにおいてもめざましい経済発展が見られ始めた。

(工藤 文三)

第3章 日中相互理解における教材開発の実際

第1節 地理的視野に立つ日中相互理解の教材開発

— 「市場経済移行国：中国・ロシア」 —

1 教材開発のねらい

本教材は、近年の中国社会の変動と日本社会のその比較を試みることで、科学的な社会認識を高めることを目的としている。

すなわち、本教材は、中国の地域事象をトータルに理解させることを目的とするものではない。あくまで、「市場経済移行国」という枠組みから、中国（とロシア）の社会構造とその変化、ならびに中国社会が直面している課題を説明できる子どもを育成するものである。さらには、習得した理論的枠組みを応用して、日中両国の類似性と差異性（日本は成熟した市場経済国なのか、それとも中国同様に計画経済から市場経済に移行しつつある社会なのか）と日本社会の将来像（日本ではこれから益々階層差が縮まってゆくか、それとも中国同様に拡大してゆくのか、それはどうしてか）を考えられるようにしたい。

地理教育の視点からみた本教材の内容編成原理と意義は、紙数の都合で、別稿において論じている¹⁾。そこで、本稿では、開発した小単元「市場経済移行国：中国・ロシア」の教授書試案と、その指導の方法を中心に言及してゆく。

2 小単元の内容構成

小単元の構成を示したのが、表1である。単元は、三つのパートから構成される。

導入部では、「計画経済から市場経済へ」と題し、ロシアや中国などの市場経済移行国では、近年、急速に貧富の格差が広がっている事実を提示する。そして、MQ「計画経済から市場経済に移行した国々では、経済活動は自由になり、努力したらそれだけ報われる社会になった。しかし、なぜそういう変化を喜ばない人がいるのは、どうしてだろう？」を投げかける。

表1 小単元「市場経済移行国：中国・ロシア」の内容構成

	小単元の学習展開	各段階のねらい	学習対象
導入	計画経済から市場経済へ		ロシア
展開	市場経済導入にともなう農村社会の変化 I. あなたの知っている中国 — 農民の格差をなくそうとした国— II. テレビの描きだした中国 — 農民の格差がひろがっている国— III. 中国の新しい仕組み — あこがれと嫉妬、そして上昇志向—	市場経済移行国の社会変動の理論 ・ 地理的条件 ・ 経済的条件を中心にして	中国
終結	市場経済導入にともなう社会全体の変化 I. ロシアの場合 II. 競争社会：日本のゆくえ	理論の修正と一般化 ・ 政治的条件を加味して	ロシア 中国 日本

(筆者作成)

展開部「市場経済導入にともなう農村社会の変化」では、中国の農村部を事例に、貧富の格差が広がってきた原因を解明させる。ここでは、農村部に競争原理が導入された結果、生産手段を持つものと持たないもの間で格差が生まれた状態を生々しく描き出したドキュメンタリー番組を視聴し、分析させ、さきのMQに迫らせたい。

終結部「市場経済導入にともなう社会全体の変化」では、中国とロシアを事例に、社会全体として階層分化がますます拡大し、固定化しつつある原因を解明させる。ここでは、権力に接近できる一部の階層に資本が蓄積され、さらに権力の保護のもとに資本が膨らみ、経済的な特権階級（企業家・資本家）が現われるプロセスをつかませることで、展開部までに学んだ理論の修正、発展をうながしたい。終結部の最後では、これまでに獲得した知識を踏まえて、日本と中国にみる社会変動の異同を分析させる。さらには、競争社会：日本のゆくえを予測させたい。

小単元の到達目標と授業展開の詳細は、資料1を参照されたい。

3 小単元の学習指導

(1) 教材の選定——ドキュメンタリー番組——

小単元の内容構成の中核に位置づくのが、展開部IIとIIIである。これら二つのパートで、「市場経済移行国」の社会変動を捉える中心的な理論を捉えさせているからである。そこで以下では、とくに展開部IIとIIIの指導に焦点化して、理論探求の手続きを確認したい。

展開部の主たる教材として取り上げるのは、2002年8月22日に放映された『麦客(まいか)ー中国・激突する鉄と鎌ー』（制作／東京ビデオセンター・NHKエンタープライズ21、企画・コーディネイト／Asia Fox）である²⁾。同番組は必ずしも学校教育用として開発されたものではない。しかし、以下の点で中・高生向けの教材として相応しく、提示されている内容も到達目標＝小単元で形成したい知識と合致するため³⁾、選定し、活用することにした。

- ・中国の農村部（河北省と寧夏回族自治区）で生活する、固有名詞をもった「人物の日々の営み」をクローズアップしている。
- ・取り上げられた人物は、地位・立場を異にする（生産手段をもたない貧しい農民と生産手段を有する豊かな農民という）「社会階層の現状と歴史」を典型的に表している。
- ・番組全体を通じて、国民の間で経済的な格差が拡大し、帰属意識の分断も目立つようになった「階層相互の社会的関係」と、その背景にある市場経済制導入後の「中国社会の構造変動」を説明しようとしている。

(2) 指導の過程——ドキュメンタリー番組が提示する理論の批判的学習——

資料3には、同番組で提示されている知識を時系列に排列した。同番組に組み込まれた知識の構造を論理的に整理すると、資料2のようになる。

一般視聴者向けのドキュメンタリー番組という性格上、映像とナレーションは淡々と流れてゆく。子どもに番組をみせても、映像やナレーションのどこに注目していいかわからず、ただ漫然と番組を眺めている可能性が高い。結果的に、資料2が想定するような「知識の構造」が子どもに形成されない、すなわち、到達目標が達成されないおそれもある。そこで、次のような指導上のくふうを凝らすことにした。

- ・あらかじめ番組の内容構成を検討し、内容のまとまり＝シーンごとに分割して視聴させる（一度に全部をみせない）。

農民が、少ない仕事を奪い合う→競争の結果、①が優位にたつ→所得の格差が拡大する、という階層分化の構図を捉えさせている。

番組内容をシーンごとに分けて分析させたあとは、それをトータルに総合して把握させようとする（【展開Ⅲ-①】）。具体的には、番組全体を通して制作者が伝えていた——「鉄麦客」と「老麦客」の対立に象徴される——中国の階層分化の趨勢を総括させる（レベル5の把握）。さらには、中国の社会変動の仕組みを図式化して説明させることで、知識の一般化を助けるようにした。なお、教材として取り上げたドキュメンタリー番組も所詮は制作物。中国の社会変動を取材し、番組に仕立てたプロデューサーの、またそれを支援した社会学者の一つの解釈を表現したものに過ぎない。そこで、展開Ⅲのまとめには、同番組が伝える見方・考え方を批判的に吟味させるため、番組に内在する地域理解の視点や制作の意図を読みとらせる学習を用意した（【展開Ⅲ-②】）。

以上のように、本小単元の展開部は、中国の農村社会の変化を描いたドキュメンタリー番組を素材にして、中国の階層分化の現状と原因・影響についての「地域解釈」を批判的に学習させる。さらに終結部では、中国に限定されることなく、かつて計画経済がひかれていたロシア・東欧・ベトナムなどの諸地域を大きく「市場経済移行国」として捉える一般理論を探求させたい。なお、最終的に習得された理論が、子どもの日本研究にどのように活かされるのか、子どもの社会認識の変革にどのような効果をもつかについては、註1を参照のこと。

【註】

- 1) 拙稿「地理教育のカリキュラム編成の理論と構想」『社会科教育実践学の構築』明治図書、2004年
- 2) 本番組は、社団法人全日本テレビ番組製作社連盟が主宰する2003年度ATP賞で「グランプリ」を受賞した。<http://www.atp.or.jp/award/20.html>
- 3) 制作会社「Asia Fox」のホームページに掲載された番組紹介文は、以下のとおり。
<http://www.asiavox.com/Tv.htm> (2003年12月現在)

5月、中国黄河流域の小麦畑がいつせいに収穫の時期を迎えます。中国には昔から、その麦を刈り取るだけの出稼ぎの農民がいます。この人たちを「麦客」と呼びます。広い中国大陸の小麦畑は、20日ほどの間に南から次々に収穫シーズンを迎えます。それを、北の奥地の農民が自分の畑の収穫に間に合うように北上しながら、出稼ぎとして刈っていくのです。

ここ数年、その昔ながらの出稼ぎが大きく変わってきています。もともとは奥地の貧しい農民が、現金収入を得るためのものでしたが、改革開放の恩恵を真っ先に受けた豊かな農民が、巨大なコンバインを手に入れ麦刈りの出稼ぎをするようになったのです。これまでの麦客と広さ当りの手間賃がほぼ同じため、脱穀までやってくれるコンバインの圧倒的な効率、雇い主の農民たちがコンバインの奪い合いをするほど。

番組では、改革を続ける中国農村の現実を、麦刈りの出稼ぎ農民を通して描きます。昔ながらの「麦客（老麦客）」と新しいコンバインの「麦客（鉄麦客）」。「貧しい農民」と「豊かな農民」。麦秋の中国河南省小麦地帯で、ふたつの夢が交差します。（括弧内は筆者が補足）

【謝辞】

資料2・3の作成にあたっては、前田聡一氏（徳島県板野町立板野中学校）の助力を得た。ここに記して深謝申し上げます。

資料1 教授書試案「市場経済移行国：中国・ロシア」

1. 小単元名

「市場経済移行国：中国・ロシア——なぜ人々は昔を懐かしむのか——」

2. 小単元の位置づけ

- ・中学校社会科地理的分野 (2) 規模に応じた地域の調査 ウ 世界の国々
- ・高校地理歴史科地理B (2) 現代世界の地誌的考察 イ 国家規模の地域

3. 小単元の到達目標

(1) 知識目標

中国とロシアを事例に、市場経済移行国の社会変動とその原因・影響を説明できる。

○**社会変動の本質**：市場経済移行国は、政治においては旧来の特権階級の影響力を残しつつ、経済においては資本主義の考え方（自由競争）を取り入れた。その結果、利益に近づきやすい人々と近づきにくい人々との階層分化が、これまで以上に大きくなっている。

○**社会変動の原因**：市場経済移行国の社会の階層分化は、以下の5つの条件に左右される。

<農村の場合>

- ・豊かな消費地（大都市）に隣接し、穀物以外に、生鮮野菜や果実・酪製品などの商品作物の生産、販売することができたかどうか。
- ・商品作物の栽培を通じて資本を蓄えることに成功し、生産性を向上させる生産手段（トラクターなど）をもつことができたかどうか。
- ・生産手段の所有を通じて、さらに多くの資本を蓄えることに成功し、農業以外の副業（工場・店舗など）にまで経営を広げることができたか。

<都市の場合>

- ・政府や党とのコネクションを利用して、国有財産の払い下げや資金提供を優先的に得ることができたかどうか。
- ・国有財産や資金を安く調達して、資本を蓄えることに成功し、銀行・マスコミをふくむ企業グループ（財閥）を形成することができたか。

○**社会変動の影響**：市場経済移行国では、階層分化が大きくなればなるほど、年金生活者や失業者など、所得水準の低い、社会の底辺に位置づく人々の不満が大きくなる。

(2) 技能目標

NHKのドキュメンタリー番組『麦客—中国・激突する鉄と鎌—』（8月22日放送分）の分析を通して、メディアの伝える地域像を批判的に読みとることができる。

4. 小単元の構成

- (1) 導入 「計画経済から市場経済へ」 (0.5時間)
- (2) 展開 「市場経済の導入にともなう農村社会の変化」
 - ・展開I あなたの知っている中国—農民の格差をなくそうとした国— (0.5時間)
 - ・展開II テレビが描きだした中国—農民の格差がひろがっている国— (2.0時間)
 - ①河南省では何が起きているか

- ② どうして鉄麦客と老麦客が対立するのか
- ③ どうして鉄麦客と老麦客では、地位・所得に格差があるのか
- ④ 鉄麦客と老麦客の願い・悩みは何か
- ⑤ 中国の農村社会の特質は何か

・展開Ⅲ 中国の新しい仕組みーあこがれと嫉妬、そして上昇志向ー (2.0時間)

- ① 中国の変化は、どういう結果をもたらしたか
- ② テレビは何を伝えようとしたのか

(3) 終 結 「市場経済の導入にともなう社会全体の変化」 (2.0時間)

- ・終結Ⅰ ロシアの場合
- ・終結Ⅱ 競争社会：日本のゆくえ

計7時間構成

5. 小単元の授業展開

教師の指示・発問	教授学習活動	教材	子どもから引き出したい知識
<p>【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1990年代以降の、ロシアや東ヨーロッパ、および中国などの国々で顕著にみられる変化を調べてみよう。 ・これらの国々では、何がどのように変わっているのだろうか。共通にみられる変化とは何か。 <p>○「計画経済」から「市場経済」に変わったとは、具体的にどういうことか。5年前の中学校の教科書記述を調べてみよう。</p> <p>○このような変化を、人々はどのように受けとめているのだろうか。</p> <p>・あなたがロシアの若者ならば、どうしますか。</p>	<p>T：説明する P：説明を聞く</p> <p>T：発問する P：答える T：説明する</p> <p>T：発問する T：資料提示 P：答える</p> <p>T：発問する P：予想する T：資料提示 P：吟味する</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：本小単元全体の学習課題を提示する P：仮説を立てる</p>	<p>①</p> <p>②</p>	<p>(予想される反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうしてこんな地域を学習するのかな。 ・ よく分からない、知らない。 ・ 経済の仕組みが、「計画経済」から「市場経済」に大きく変化した。 ・ 「企業化をめざす集団農場」によると……何をどれだけつくるかを国が決められる社会から、自分たち（農場）で決める社会に変化した。 ・ 「国営から民営へ」によると……（働いても働かなくても）一定額の給料が保証され、働く意欲に欠ける社会から、（儲けたら儲けただけ）利益が配分され、働く意欲をかき立てようとする社会に変化した。 ・ とても喜んでいるんじゃないかな。（ロシアの場合） ・ 商いに成功して、メルセデスやポルシェなど的高级外車を乗りまわし、別荘を買う「ニューリッチ」と呼ばれる人々が出現した。 →彼らは、変化を歓迎しているに違いない。 ・ ペットや衣服を売って、どうにか生活の糧を得ている年金生活者は、「昔のほうがよかった」と前を懐かしんでいる。 →彼らは、変化を嫌っているに違いない。 (予想される反応) ・ がんばって、儲けるぞ。 (予想される仮説) ・ 価格決定が自由になった結果、モノの値段が上がり、生活が苦しくなったのではないか。 ・ 変化を歓迎していないのは、収入を年金にたよっている高齢者だけではないか。チャンスのひろがった若者は歓迎しているに違いない。
<p>計画経済から市場経済に移行した国々では、経済活動は自由になり、努力したらそれだけ報われる社会になった。しかし、なぜそういう変化を喜ばない人がいるのは、どうしてだろう？</p>			

<p>・1970年代の後半から徐々に、「計画経済」から「市場経済」へ移ってきた中国を事例に、上の課題に迫っていこう。</p> <p>・ちなみに、計画経済から市場経済に制度が移行した国々（ロシアや東ヨーロッパ、および中国など）と、私たちが生活する日本では、どこか似ているところがあるだろうか。</p> <p>【展開Ⅰ】</p> <p>・あなたにとっての中国のイメージを説明しなさい。</p> <p>・「中華人民共和国」は、もともとどのような理念を掲げて建国されたか。</p> <p>○なぜ中国は、「計画経済」から「市場経済」への転換をはかったのだろうか。</p> <p>○中国の建国の理念は、50年を経て、実現されているだろうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>中国では、計画経済から市場経済に移った結果、どんな社会が生まれただろう？なんでそうなるのだろうか？</p> </div> <p>・現代の中国社会のしくみを、2002年8月22日放映NHKドキュメンタリー番組『麦客-中国・激突する鉄と鎌-』にもとづいて明らかにしよう。</p>	<p>T：説明する P：説明を聞く</p> <p>T：発問する P：意見交換する</p> <p>T：発問する P：イメージを答える</p> <p>T：発問する T：資料提示 P：答える</p> <p>T：説明する T：資料提示 P：説明を聞く</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：予想する</p> <p>T：展開部の課題を提示する P：仮説を立てる</p> <p>T：説明する P：説明を聞く</p>	<p>(予想される見解)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本は、明治時代以降、一貫して資本主義国の一員だった。とくに戦後は、政府の統制は弱まり、努力し、競争に勝てば利益がもたらされる市場経済になっている。共通点はみられない。 ・規制緩和という言葉をきいたことがある。日本はこれまで表面的には市場経済をとってきたが、一方で、国の規制が強い計画経済の側面もあった。少しは共通点がみられるかもしれない。 <p>(予想される答え)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな国。長い歴史。 ・急激に都市化や工業化がすすんでいる。 ・ユニクロの製品は中国でつくられているらしい。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貧富の格差をなくそうとした。地主の土地を取り上げ、それを貧しい農民に再分配する土地改革を実行した。 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国は、1979年以降、ロシアと同じように計画経済から市場経済へ移ってきた。とくに、農業では、段階的に個人経営が認められてきた。 ・増えつづける人口に対応するためには、農業生産を増やすしかなかった。自由な取引を認める個人経営を導入したことで、農業生産は増大した。 ・貧富の格差を縮めようとする、とくに農民の生活を向上させようとするねらいが達成されているかどうかの問題。 <p>(予想される仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロシアと同じように、市場経済化の波に上手く乗れなかった人がいるかもしれない。
<p>【展開Ⅱ-①】</p> <p>◎以下3つの視点から、番組の「シーン1」をみてゆこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「鉄麦客」とは、どういう人たちか？ ・「老麦客」とは、どういう人たちか？ ・「河南省」とは、どういうところか？ 	<p>T：番組をみる視点を提示する T：番組を流す P：メモをとりつつ番組をみる (ワークシート1)</p>	<p>シーン1</p> <p>(予想される感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「鉄麦客」と「老麦客」では、同じ農民でも、着ているものや交通手段、将来への希望・期待など、いろんな面で違いが大きいなあ。

○「鉄麦客」とは、いったいどういう人たちか？	T：発問する P：メモをみながら、答える	<ul style="list-style-type: none"> ・コンバインを所有する河北省の豊かな農民。自分の小麦畑を刈り取る前に、河南省の小麦を刈り取りに出かける（アルバイトの）人々のこと。 ・移動手段は、自前のコンバイン。 ・収入の目標は、2週間で30000元（約45万円）。
○「老麦客」とは、いったいどういう人たちか？	T：発問する P：メモをみながら、答える	<ul style="list-style-type: none"> ・山間の乾燥地にある寧夏回族自治区羊松村の貧しい農民。仕事のない時期、河南省の小麦を刈り取りに出かける（出稼ぎの）人々のこと。 ・移動手段は、値切って乗る長距離バスと無賃乗車の石炭貨車。 ・収入の目標は、1週間で1000元（約1万5000円）。
○「河南省」とは、どういうところか？	T：発問する P：メモをみながら、答える	<ul style="list-style-type: none"> ・「鉄麦客」の住む河北省に比べると貧しく、「老麦客」が暮らす回族自治区より豊かな中国有数の穀倉地帯。兼業農家が多い。 ・自分たちで小麦を刈り取るだけの時間的な余裕はないが、経済的なゆとりはあるため、お金を出して農夫を雇おうとするところが多い。
◎番組によると、河南省では、どういうことが起こっているのか。	T：発問する P：これまでの学習をまとめる（ワークシート1）	<ul style="list-style-type: none"> ・河南省では、小麦の収穫期になると、かぎりある刈り取りの仕事をめぐって、「鉄麦客」と「老麦客」の奪い合いがおこっている。
【展開II-②】 ◎以下2つの視点から、番組の「シーン2」をみてゆこう。 ・なぜ「鉄麦客」が現れたか？ ・なぜ「老麦客」が現れたのか？	T：番組をみる視点を提示する T：番組を流す P：メモをとりつつ番組をみる（ワークシート2）	シーン2 (予想される感想) ・中国の農村は、ここ数10年、大きく変わってきているんだなあ。
○なぜ「鉄麦客」が現れたか？	T：発問する P：メモをみながら、答える	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の成立当初はすべての農民を平等にあつかう集団化をすすめたが、生産意欲の減退をまねいた。 ・鄧小平の「先富起来」の掛け声のもと、改革開放路線に方針を転換すると、土地の肥沃な河北省では、生産に余剰が出るようになった。 ・とくに都市の周辺では、野菜等の作物をつくって、利益を稼ぐ農民が出てきた。アパートに住み、コンバインを買うことのできる、収入が年1万円を超える豊かな農民「万元戸」があらわれた。
○なぜ「老麦客」が現れたのか？	T：発問する P：メモをみながら、答える	<ul style="list-style-type: none"> ・内陸部の乾燥した地域は、農業生産をしようとしても、土地がそれに適さない。また副業をしても、周囲に商品作物を消費するだけの都市がないために、改革開放路線に乗り遅れた。 ・寧夏回族自治区の農民の収入は、年1000元程度。それだけでは生活ができないので、現金収入の道を求めて、麦刈り取りの出稼ぎをする農民があらわれた。

<p>◎番組によると、なぜ「鉄麦客」と「老麦客」の「激突」が起こるのか。</p>	<p>T：発問する P：これまでの学習をまとめる (ワークシート2)</p>		<ul style="list-style-type: none"> 鉄麦客は、今以上に豊かになるために仕事(副業)を求めて、麦の刈り取りの仕事を得ようとするし、一方、老麦客は、現金収入を得て生活を維持するために、麦の刈り取りの仕事につこうとしている。 どちらも、経済的な豊かさを求めて、かぎられた仕事を奪い合う結果、「激突」が起きている。
<p>【展開II-③】 ◎以下2つの視点から、番組の「シーン3」をみてゆこう。 ・「鉄麦客」はどのように交渉して仕事を得ているか、その結果はどうか？ ・「老麦客」はどのように交渉して仕事を得ているか、その結果はどうか？</p>	<p>T：番組をみる視点を提示する T：番組を流す P：メモをとりつつ番組をみる (ワークシート3)</p>	<p>シーン 3</p>	<p>(予想される感想) ・鉄麦客は、コンバインを武器に強気の交渉をしているが、老麦客はどうしても効率が悪いだけに、交渉も弱気になっているなあ。</p>
<p>○「鉄麦客」はどのように交渉して仕事を得ているか、その結果はどうか？</p>	<p>T：発問する P：メモをみながら、答える</p>		<ul style="list-style-type: none"> 刈り取りの仕事は、町の仲買人に斡旋してもらおう。コンバインは不足気味のため、鉄麦客「苗艶萍」はつねに強気の交渉ができる。 鉄麦客は、短時間で利益をあげるために、広い麦畑の仕事にありつこうとする。鉄麦客は、みずから麦畑の面積を測量し、農家と契約を結ぼうとする(1畝=40元)。麦客は少しでも広く見積もろうとするのに対して、農家は値切ろうとする。 コンバインでは、1日に100畝の麦が刈り取れる。 苗艶萍の売上げは、1日で4000元、経費を引くと1日で2500元の利益。ほぼ24時間コンバインを動かしてつづけて、2週間で2万元以上の稼ぎをあげた。彼女は、子どもをアメリカに留学させるために、努力している。
<p>○「鉄麦客」はどのように交渉して仕事を得ているか、その結果はどうか？</p>	<p>T：発問する P：メモをみながら、答える</p>		<ul style="list-style-type: none"> 老麦客には、コンバインが入ってゆけない段々畑のような条件の悪いところにしか、仕事が残っていない。多くの老麦客は、仲介業者の言い値で契約を結ばざるを得ない(1畝=30元)。コンバインの出現で、麦客の賃金は下がる一方である。 鎌では、1日に1.5畝しか刈れない(コンバインなら15分で終わる)。 馬林室の賃金は、1日で45元。日中の猛暑のなかでも日が暮れても仕事を続けて、最終的に700元程度の稼ぎをあげた。彼は、子どもを高校に通わせ、自分は牧畜(羊糞)の仕事をするために、努力している。
<p>◎番組によると、「鉄麦客」と「老麦客」は同じ農民なのに、なぜ所得や社会的地位に格差が生じているのか。</p>	<p>T：発問する P：これまでの学習をまとめる (ワークシート3)</p>		<ul style="list-style-type: none"> 鉄麦客は、生産手段(機械力=コンバイン)をもっているために、生産性が高く、短時間で大きな収入が得られる。その結果、生活水準や社会的地位も高い。 老麦客は、自分の労働力(鎌での刈り取り)しか投入できないために、生産性は低く、収入も低い。その結果、生活水準や社会的地位も低い。

<p>【展開II-④】</p> <p>◎以下2つの視点から、番組の「シーン4」をみてゆこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「老麦客」は、どういう悩みや願いをもっているか。 ・「鉄麦客」は、どういう悩みや願いをもっているか。 	<p>T：番組をみる視点を提示する T：番組を流す P：メモをとりつつ番組をみる (ワークシート4)</p>	<p>シーン 4</p>	<p>(予想される感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老麦客の先行きは、不安だなあ。しかし、鉄麦客の前途は揚々だなあ。境遇や考え方は、全く違っている。
<p>○「老麦客」は、どういう悩みや願いをもっているか。</p> <p>○「鉄麦客」は、どういう悩みや願いをもっているか。</p> <p>◎番組によると、「鉄麦客」と「老麦客」も同じ農民なのに、なぜ、それぞれの願いや悩みに違いがあるのか。</p>	<p>T：発問する P：メモをみながら、答える</p> <p>T：発問する P：メモをみながら、答える</p> <p>T：発問する P：これまでの学習をまとめる (ワークシート4)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・老麦客は、雨が振り出さないうちに麦を刈り終わらなくてはいけないので、肉体的にしごとがきつい。また、貧乏だとか、汚いとかいわれ、不愉快な思いをしている。 ・老麦客は、仕事の先々で豊かな農家の暮らしぶりに接し、自分もそういう生活を送りたいと願っている。 ・都市近郊で生活する鉄麦客は、高学歴の豊かな都市住民の暮らしぶりをみて、あこがれの思いを抱いている。 ・鉄麦客は、子どもを大学や大学院に通わせ、都市にすむエリートのような生活をさせたいと願っている。 ・鉄麦客は、より以上の生活水準を求めているのに対して、老麦客は、ぎりぎりの生活水準からの脱却をめざしている。すなわち、同じ農民でも、中国国内における所得や地位が異なるので、願いや悩みにも質的な違いがある。
<p>【展開II-⑤】</p> <p>◎以下の視点から、番組のシーン5をみてゆこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いま中国社会はどのようになりつつあるか。現代中国の農村社会の特質は何か。 	<p>T：番組をみる視点を提示する T：番組を流す P：メモをとりつつ番組をみる (ワークシート5)</p>	<p>シーン 5</p>	<p>(予想される感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市のようすの移り変わりも激しいが、農民の生活の変化はそれ以上に大きいなあ。鉄麦客と老麦客の対立は、農民間の格差が広がっていることを象徴していそうだ。
<p>◎番組によると、いま中国社会はどのようになりつつあるか。現代中国の農村社会の特質は何か。</p>	<p>T：発問する P：これまでの学習をまとめる (ワークシート5)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・中国政府は、内陸部の農村開発にも力を入れているが、依然として効果はあがっていない。 ・改革開放の波に乗ることのできた豊かな農民階級のシンボルが、「鉄麦客」である。一方、昔ながらの出稼ぎを続ける貧しい農民階級のシンボルが、「老麦客」である。 ・農村社会における富と力の格差は、ますます広がろうとしている。
<p>【展開III-①】</p> <p>◎「麦客ー中国・激突する鉄と鎌ー」に表現された現代中国の農村社会の変化をモデル化しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「鉄麦客」と「老麦客」が代表している社会階層はどこか。 ・「鉄麦客」がめざし、ライバル視している社会階層はどこか。 	<p>T：課題提示 P：これまでの学習を振り返る</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する T：資料提示 P：答える</p>	<p>⑤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄麦客は、機械(コンバイン)という生産手段を有する経済的に豊かな農民。老麦客は、鎌のみの貧しい農民。 ・鉄麦客は、ビジネスマンや公務員として、自分たち以上に優雅な生活を営んでいる都市労働者に敵対心をもっている。

<ul style="list-style-type: none"> ・「老麦客」がめざし、あこがれている社会階層はどこか。 ・図示するとどうなるか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>中国では、計画経済から市場経済に移った結果、どんな社会が生まれたのだろうか？ なんてそうなるのだろうか？</p> </div>	<p>T：発問する P：答える</p> <p>T：課題提示 P：モデルを図示する T：モデルを板書する (ワークシート6)</p> <p>T：発問する P：答える T：補足資料提示 P：モデルを検証する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・老麦客は、副収入を得て、自分たち以上に安定した生活を営んでいる兼業農家にあこがれている。 <div style="text-align: center;"> <p>都市に住む高学歴のビジネスエリート</p> <p>⇄ 羨望・疎外 ⇄</p> <p>○農村の富裕層 (穀物栽培に加えて、副業を営む大規模農家)</p> <p>○農村の中間層 (普段は工場などに働きに出ている兼業農家)</p> <p>○農村の貧困層 (賃労働で生活を維持している農業労働者)</p> <p style="text-align: right;">↑ 格差拡大 ↓</p> </div> <p>⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国は、政治については旧来の体制（共産党の指導）を引き継ぎつつ、経済については資本主義の考え方（自由競争）を取り入れた。その結果、農民の間では、格差がますます広がっている。 ・農村社会の階層分化は、以下の3つの条件に左右される。 <ol style="list-style-type: none"> ①豊かな消費地（大都市）に隣接し、穀物以外に、生鮮野菜や果実・酪製品などの商品作物の生産、販売することができたか。 <ul style="list-style-type: none"> →寧夏回族自治区の老麦客はできなかった ②商品作物の栽培を通じて資本を蓄えることに成功し、生産性を向上させる生産手段（トラクターなど）をもつことができたか。 <ul style="list-style-type: none"> →河南省の小麦農家はできていない ③生産手段の所有を通じて、さらに多くの資本を蓄えることに成功し、農業以外の副業（工場や店舗など）に経営を広げることができたか。 <ul style="list-style-type: none"> →河北省の鉄麦客はできた
<p>【展開III-②】</p> <p>◎番組のつくり手（プロデューサー）は、「麦客—中国・激突する鉄と鎌—」をどのようなねらい・意図で制作したのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ2002年8月という時期に制作され、放映されたのか。 ・放送を通じて、視聴者にどのようなメッセージを発しようとしたのか。 <p>○番組を通じて中国社会を捉えようとするとき、とくに注意すべき点は何か。</p>	<p>T：発問する P：予想する T：資料提示 P：答える</p> <p>T：発問する P：意見交換する</p> <p>T：発問する P：意見交換する</p> <p>T：発問する P：意見交換する T：説明する</p>	<p>⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よくわからない。 ・ホームページの番組紹介では、「激変する時代の中を生き抜こうとする中国の農民たちを描く」という意図が記されている。 ・正確な理由はわからないが、日中国交正常化30周年で、中国に対する関心が高まっていたからではないか。テレビ・新聞などが、しばしば特集記事を組んでいる。 ・現代中国について関心をもってほしい、とくに農民たちの暮らしは、我々の予想以上に「激変」していることを知ってほしい、というメッセージが込められているのではないか。 ・中国社会の変化の事実を、「経済格差の拡大」「農民の階層化」という視点から、どちらかと言うと「批判的な立場」にたつて切り取り、つくり手の中国解釈を描こうとしているのではないか。

<p>・なぜそのようにいえるのか。具体的な場面を思い起こしてみよう。</p> <p>○番組に描かれた中国社会について、一つの解釈として納得できる部分、合理的だと思う部分はどこか。</p> <p>・同番組をみて、他の視聴者はどのような感想をもったのだろうか、インターネットで調べてみよう。</p>	<p>T：発問する P：思い起こせるものが、カットを指摘する。</p> <p>T：発問する P：意見交換する T：説明する</p> <p>T：課題提示 P：ウェブで検索して、結果を報告する</p> <p>P：ウェブ上の感想をまとめる</p>	<p>(予想される答え)</p> <ul style="list-style-type: none"> 番組の最後に、老麦客が話をしている(麦を刈っている)背景に、鉄麦客のコンバインを写すカットがあった。 番組は、鉄麦客と老麦客をたえず対照させながら構成されていた。 番組内では、改革開放政策の意義・メリットは、あまり強調されていなかった。 <p>・具体的な人物の経験を通して、つくり手の中国解釈を伝えている点は、納得できる。</p> <p>・中国社会、とくに農民の暮らしが大きく変化しているという指摘は、間違いなさそうだ。</p> <p>⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> 「麦客」「NHK」を検索すると、Yahooで33件、Googleで34件ヒットする(2003年2月現在)。約半分は、視聴者の感想が占めている。 NHKの中央放送番組審議会では、「中国で進んでいる大胆な構造改革、それも農業の現場で起こっていることをきわめて的確に描いていた。分厚い取材力に感心した」との発言があったという。(さまざまな整理) 多くの視聴者は、中国の農村社会の実態がよく分かったと述べている。
<p>【終結Ⅰ】</p> <p>市場経済を取り入れると、社会はどのように変化するのだろうか？ それはどうしてか？</p> <p>・これまで「中国」を事例に、市場経済の導入が「農村社会」に与えた影響を学習してきた。今度は、「ロシア」の事例に、「国家社会」全体への影響を考えていこう。</p> <p>○ロシア(ソ連)で、かつて国の財産だった工場や鉱山は、現在はどうなっているのだろうか。</p> <p>・中国ではどうか。</p> <p>○企業のトップは、どのようにして工場や鉱山を手に入れたのだろうか。</p>	<p>T：終結部の課題を示す P：仮説を立てる</p> <p>T：説明する P：説明を聞く</p> <p>T：発問する T：資料提示 P：答える</p> <p>T：発問する T：資料提示 P：答える</p> <p>T：発問する T：資料提示 P：答える</p>	<p>(予想される仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会は階層分化してゆくのではないか。 階層分化が著しいのは農村にかぎったはなしだろうか。企業の多い都市の場合はどうだろうか。 <p>⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> かつての国営の工場や鉱山は、民営化が進められた。1996年段階では、60%を越えている。 近年では、銀行、企業、マスコミをグループ化した「財閥」が形成されている。なかでも「ガスプロム」は、世界最大のガス会社である。 <p>⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国でも民営化が進められている。2000年段階では、60%を越えている。 <p>⑪</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業のトップに就いたのは、かつての政治や軍の幹部が多い。「オネクシム」の代表(ポターニン)は、かつて第一副首相にあった。「ロゴバス」の代表(ベレゾフスキー)は、安全保障会議副書記をつとめていた。 企業のトップは、中央銀行から安い利子で資金を借り入れたり、国有財産を極端に安い値段で買入れたりした。

<p>・中国ではどうか。</p> <p>○どうしてそういう特別扱いを受けることができたのだろうか。その結果、どんな問題が起きているか。</p> <p>・中国ではどうか。</p> <p>◎さきに作った農村のモデル図を改良して、市場経済移行国の社会の変化をモデル化しよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>市場経済を取り入れる、社会はどのように変化するのだろうか？ それはどうしてか？</p> </div>	<p>T：発問する T：資料提示 P：答える</p> <p>T：発問する T：資料提示 P：答える</p> <p>T：発問する T：資料提示 P：答える</p> <p>T：課題提示 T：補足資料提示 P：モデルを図示する T：モデルを板書する (ワークシート7)</p> <p>T：発問する P：答える P：モデルを検証する</p>	<p>⑫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成功しそうな企業の経営者には、市が資金を貸し与え、自社の株を買わせている。会社が儲かれば儲かるほど配当金がいり、経営者は、ますます豊かになれる。仙桃デパートの社長（王世兵）には、310万元が貸し与えられた。 <p>⑬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・払い下げや融資の決定は、政府とのコネクションに左右されやすい。したがって、役人の汚職が問題となりやすい。 <p>⑭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北京社会心理研究所が行った調査によると、「現代の社会でどのような人が有利か」という問いに、77%が「権力がある」、72%が「金を持っている」、57%が「コネがある」と答えた。 <div style="text-align: center;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・市場経済移行国は、政治においては旧来の特権階級の影響を残しつつ、経済については資本主義の考え方（自由競争）を取り入れた。その結果、国内では、格差がますます広がっている。 ・社会の階層分化は、さきの①～③に加えて、以下の2つの条件にも左右される。 <ul style="list-style-type: none"> ④政府・党とのコネクションを利用して、国営財産の払い下げや資金提供を優先的に得られたか。 <ul style="list-style-type: none"> →政府・党とコネをもつ経営者ならばできた ⑤国有財産や資金を安く調達して、資本を蓄えることに成功し、銀行・マスコミをふくむ企業グループ（財閥）をつくることができたか。 <ul style="list-style-type: none"> →政府高官・党幹部など特権階級出身の経営者ならばできた
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>計画経済から市場経済に移行した国々では、経済活動は自由になり、努力したらそれだけ報われる社会になった。しかし、なぜそういう変化を喜ばない人がいるのは、どうしてだろう？</p> </div>	<p>T：本小単元全体の学習課題を再度提示する P：意見交換する T：学習をまとめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市場経済移行国は、政治においては旧来の特権階級の影響を残しつつ、経済においては資本主義の考え方（自由競争）を取り入れた。その結果、利益に近づきやすい人々と近づきにくい人々の階層分化が、これまで以上に大きくなっている。 ・市場経済移行国では、階層分化が大きくなればなるほど、年金生活者や失業者など、所得水準の低い、社会の底辺に位置づく人々の不満が大きくなる。

【終結II】

- 日本では、近年、規制緩和の結果、
- ・郵政事業庁以外の宅配便会社でも手紙を配達できる
 - ・届け出るだけで、タクシー運賃を自由に設定できる
 - ・「〇〇電力」以外の会社・個人でも、電気を売り買えるようになります。
- 一方で、
- ・業績に応じて給料を支払う（終身雇用や年功序列はやめる）、
 - ・資産は、自分の責任で管理する（国は銀行を保護しない）、動きもみられるようになりました

- 日本社会は、これからの約10年間、どのように変化してゆくだろうか。
- ・「階層分化」や「所得格差」の視点から、日本社会のゆくえを予測しなさい。
 - ・中国やロシアなど「市場経済移行国」との比較で、日本社会のゆくえを予測しなさい。

T：説明する
P：説明を聞く

T：課題提示
P：資料集やウェブで情報をあつめる
P：個人、またはグループで、予測とその根拠を発表する
(ワークシート8)

(予想される反応)

- ・日本は、これまで政府の規制が厳しかったので、必ずしも完全な「市場経済国」とはいえなかったかもしれないなあ。
- ・日本も、積極的にグローバルスタンダード（アメリカ型）の「競争主義」や「業績主義」を取り入れようとしているのかなあ。

(予想される見解A)

- 日本は、これからますます階層分化が進み、所得格差も広がってゆくだろう。
なぜならば、
- 日本は、市場経済移行国と同じように、
 - ・天下りなど、官-財の癒着が残っているから。
 - ・競争の結果、倒産や失業が増えているから。
- とりわけ日本などの先進国では、年金生活にたよる高齢者が増える傾向にあるから。

(予想される見解B)

- 日本は、これ以上、階層分化は進まないし、所得格差も広がらないだろう。
なぜならば、
- 日本は、市場経済移行国とは異なって、
 - ・汚職の摘発など、司法が機能しているから。
 - ・競争の結果、物価は下がりつつあるから。
- とりわけ日本などの先進国では、社会保障や累進課税の制度などが整備されているから。

【教材出典一覧】

- ①『新編 新しい社会 地理』東京書籍,1997年,pp.116-119。
- ②中澤孝之『資本主義ロシア—模索と混乱—』岩波書店,1994年、pp.11-15,p.19。
『図説地理資料 世界の諸地域 Now』帝国書院、1999年,p.139。
- ③国分良成「中国」『国際情勢ベーシックシリーズ 東アジア(アジア I)』自由国民社,1997年,pp.260-261。
- ④『図説地理資料 世界の諸地域 Now』帝国書院、1999年,p.80。
- ⑤巖善平『シリーズ現代中国経済2 農民国家の課題』名古屋大学出版会,2002年,p.78,p.85。
- ⑥「階層分化生む農の効率化」朝日新聞朝刊第10面、2002年10月9日。
- ⑦NHKホームページ <http://www.nhk.or.jp/koukai/kouhyou/pdf/2002summer.pdf> p.36 (2003年2月現在)
- ⑧NHKホームページ <http://www.nhk.or.jp/pr/keiei/bansin/b0209.htm> (2003年2月現在)
- ⑨小川和男『ロシア経済事情』岩波書店,1998年,p.82、pp.116-117。
- ⑩中兼和津次『シリーズ現代中国経済1 経済発展と体制移行』名古屋大学出版会,2002年,p.157。
- ⑪小川和男『ロシア経済事情』岩波書店,1998年,p.83-84、pp.118-119。
- ⑫「私営化で農村発展 中国企業改革」朝日新聞朝刊第9面、2002年9月25日。
- ⑬菱田雅晴「中国：社会意識の“転型”」『中国・スラブ領域研究合同シンポジウム(1997年7月16日)報告集』<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/sympo/533/hishi.html> (2003年2月現在)
- ⑭丸山知雄『シリーズ現代中国経済3 労働市場の地殻変動』名古屋大学出版会,2002年,p.1。
- ⑮柳原剛司・林裕明「市場移行の社会的側面」『市場経済移行論』世界思想社,2002年,p.59。
- ⑯・シーン1、NHKテレビ番組『麦客—中国・激突する鉄と鎌—』(00:00~08:53 約9分間)
・シーン2、 同 上 (08:54~13:12 約5分間)
・シーン3、 同 上 (13:13~29:02 約15分間)
・シーン4、 同 上 (29:03~41:24 約12分間)
・シーン5、 同 上 (41:25~43:00 約3分間)

資料2 『麦客—激突する麦と鎌—』に組み込まれた知識の構造

(レベル2) 番組で提示される エピソード	(レベル3) 鉄麦客と老麦客の 現状と歴史	(レベル4) 鉄麦客と老麦客の 社会的関係	(レベル5) 現代中国社会の 構造と変化
<p>1. 鉄麦客の出発 鉄麦客は、何らかの決意を秘め、出発しようとしている。</p>	<p>①鉄麦客の目標 コンバインをもつ鉄麦客は、河南省の麦を刈ることで、副収入を稼ごうとしている。</p>	<p>【シーン1】 老麦客と鉄麦客の就労目的 鉄麦客は、より多くの副収入を得るために、老麦客は、日々の生活の糧を得るために、穀倉地帯の河南省に向かっている。</p>	
<p>2. 鉄麦客とは 鉄麦客とは、コンバインで麦を刈る人々のことである。</p>			
<p>3. 鉄麦客の旅 鉄麦客は、中国最大の穀倉地帯河南省を目指し、コンバインで800キロの道のりを移動する。</p>			
<p>4. 鉄麦客のねらい 中国の改革開放政策で、いち早く生活が豊かになった鉄麦客の目標は、麦を刈って、20日間で30,000元の儲けを得ることである。</p>			
<p>5. 老麦客の出発 寧夏回族自治区羊松村の農民である老麦客は、寿司詰め状態でトラックに乗り込み、都市に向かう。</p>	<p>②老麦客の目標 鎌一本で麦を刈る老麦客は、河南省に出稼ぎして、1,000元稼ごうとしている。</p>		
<p>6. 老麦客とは 老麦客とは、古くからの麦客であり、鎌一本で麦を刈る人々のことである。鉄麦客との対比でこう呼ばれる。</p>			
<p>7. 老麦客のねらい 老麦客の目標は、1,000元を稼ぎ出すことである。</p>			
<p>8. 老麦客の旅 一年中寒風が吹き付ける山間地域で生活する老麦客は、低料金のバスと、無賃乗車の貨物列車に乗り込み、河南省へ移動する。</p>			
<p>9. 河南省の地理的特色 中国最大の穀倉地帯である河南省は、老麦客よりも豊かで、鉄麦客よりも貧しい農民が住んでいる地域である。</p>			<p>③河南省の地理的特色 穀倉地帯の河南省は、老麦客よりも豊かで、鉄麦客よりも貧しい農民が住む地域である。</p>

10. 鉄麦客登場の背景

鄧小平の改革開放政策の結果、河北省の農民は、余剰作物を売ることによって現金収入が得て、いち早く富を蓄えることができた。

11. 鉄麦客の生活水準

競うようにコンバインを買い求める鉄麦客は、畑の中のアパートに住み、日本の団地生活とほとんど変わらない生活を送っている。食事にも困っていない。

12. 老麦客登場の背景

老麦客たちは、改革開放の流れに乗ることができなかった。

13. 老麦客の生活水準

商品作物がほとんど実らない地域に暮らす老麦客は、出稼ぎを主な収入源とする。質素な住宅に住み、あまりいい食事もできていない。

14. 鉄麦客の仕事の獲得方法

鉄麦客は、村の仲買人を通じて仕事を獲得。コンバインの不足を材料に強気な交渉を展開し、広い畑と安定した仕事を用意するようにせまる。

15. 鉄麦客の仕事

鉄麦客は、1畝をおよそ10分で刈り取ることができ、効率よくやれば、1日100畝、2,500元の利益を得ることができる。

16. 老麦客の仕事の獲得方法

老麦客は、町の労働市場での農家との直接交渉で仕事を獲得。鉄麦客が刈り残した土地を奪い合う老麦客は、農家の言い値に従わなければならない。

17. 老麦客の仕事

老麦客は、子どもを高校に通わせ、自分は羊の飼育業を始めたいという夢をもつ。しかし、1人では1.5畝刈るのが精一杯で、この日は1日6畝、45元の稼ぎにしかならなかった。

④鉄麦客の経緯

鉄麦客は、改革開放政策によって利益をあげて、高い生活水準を誇っている。

⑤老麦客の経緯

老麦客は、改革開放政策乗り遅れ、出稼ぎに頼らざるを得ず、生活水準も低い。

⑥鉄麦客の仕事

コンバインの不足に乗じて強気に交渉できる鉄麦客は、1日100畝刈り、2,500元の利益を得ることができる。

⑦老麦客の仕事

鉄麦客の進出によって言い値に従わざるを得ない老麦客は、1人1.5畝刈り、45元の収入しか得られない。

【シーン2】

鉄麦客と老麦客の誕生の歴史的背景

鉄麦客は、改革開放政策にうまく適応できた人たちであり、一方、老麦客は、それに対応できなかった人たちである。

【シーン3】

老麦客と鉄麦客の賃金格差

コンバインをもつ鉄麦客は、生産性が高いために、利益も多いが、一方、手刈りの老麦客は、効率が悪く、得られる利益も少ない。

現代中国の社会変動
市場経済の考え方が導入された中国では、①鉄麦客のように生産手段をもち、富を蓄えることに成功した農民層と、②老麦客のように生産手段をもたず、厳しい条件下で賃労働に携わらずをえない農民層に分化しつつある。その格差は、拡大している。

18.鉄麦客と農家の関係

20日間で稼ぎを増やしたい鉄麦客と、実って一週間で刈り取らなければならない農家は、作業をともに急ごうとする。

19.老麦客と農家の関係

老麦客は、コンバインを万能と考える農家に機械と比較され、30元から35元の安い賃金で働かされることを余儀なくされる。

20.鉄麦客の苦勞

鉄麦客は、農家によるコンバインの奪い合いのはざまに、思うように仕事ができない。

21.老麦客の苦勞

老麦客たちは、ひたすらスピードを求める農家たちの要求にこたえるため、疲労をためている。

22.老麦客の思い

老麦客は、汗を流して金を稼ぐことを誇りとしているにもかかわらず、貧しいとか汚いなどと差別され、悲しみの感情を抱いている。

23.鉄麦客の思い

鉄麦客は、高い学歴に支えられて豊かな生活を送る都市住民の姿を目の当たりにして、自分たちの存在価値を見出せないでいる。

24.麦客の所得差

700元稼ぐ老麦客と20,000元稼ぐ鉄麦客の違いは、コンバインでやるか、手仕事でやるか、の違いに由来する。

25.中国の現状と課題

河南省の穀倉地帯では、鉄麦客が老麦客を駆逐しようとしている。両者の富と力の差は拡大を続けている。

⑧麦客と農家の関係

コンバインの能力を知る農家は、鉄麦客に対しては機械の能力一杯に作業を急がせ、老麦客には、コンバインとの比較で、安い賃金での仕事を請け負わせようとしている。

⑨麦客の苦勞

鉄麦客は、農家との契約の調整に追われて、また老麦客は、作業時間の短縮を求められて、疲労困憊している。

⑩麦客の思い

老麦客は、出稼ぎ先で差別されることに不満をもち、鉄麦客は、豊かで高学歴の都市住民に憧れを抱いている。

⑪麦客の所得差

700元稼ぐ老麦客と、20,000元稼ぐ鉄麦客の違いは、生産手段をもつか、否かである。

⑫中国の現状と課題

河南省では鉄麦客が老麦客を駆逐し、両者の富と力の差は拡大している。

【シーン4】

老麦客と鉄麦客のアイデンティティ

老麦客は、低賃金で働かされる上に、差別される悲しみを背負い、一方、鉄麦客は、楽をして豊かな生活を送る都市住民の暮らしを羨んでいる。

【シーン5】

中国の階層分化

生産手段をもつ農家ともたない農家の間で、格差が拡大している。

資料3 「麦客—中国・激突する麦と鎌—」で提示される知識

- ・ : 音声と視覚で得られる知識
- ☆ : おもに視覚のみで得られる知識
- (数字): 当該カットの開始時間



【シーン1】

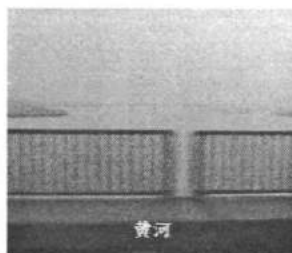
1. 鉄麦客の出発 (00:00)

- ・鉄麦客のリーダーは皆の前で、中国の道はデコボコしていて、居眠りするとコンバインから投げ出されてしまうおそれがあるため、注意するよう促している。
- ☆鉄麦客のリーダーは、同行の農民を心配しつつ、何らかの決意を秘めて声をかけている。



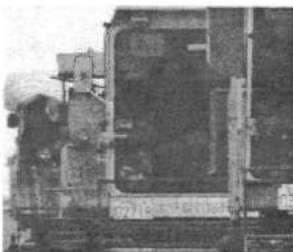
2. 鉄麦客とは (00:27)

- ・中国の河北省で、鉄麦客と呼ばれる、麦を刈る人々が集結している。
- ・鉄麦客の鉄とは、コンバインのことである。



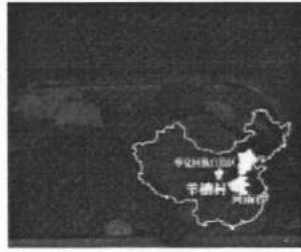
3. 鉄麦客の旅 (00:50)

- ・5月になると、約10,000台のコンバインが、南に向かい、麦を刈りまくる。
- ☆たくさんのコンバインが出発している。
- ・鉄麦客のコンバインは、時速20キロで進み、800キロの道のりを走り続ける。
- ☆普通車とともに、多くのコンバインが道路を進んでいる。
- ・三日三晩、コンバインは走り続ける。
- ・鉄麦客のコンバインが目指すのは、中国最大の穀倉地帯、河南省の広大な小麦畑である。
- ・黄河大橋は、全長5.5キロある。
- ☆黄河はとても雄大である。
- ・5月から、黄河の恵みにより、麦は南から徐々に黄金色に染まる。



4. 鉄麦客のねらい (02:08)

- ・中国では、コンバインをもてるのはまだ一部の農民だけである。
- ・鉄麦客たちは、中国の改革・開放政策により、いち早く生活が豊かになっている。
- ・鉄麦客たちは、自分達の畑を刈る前に、20日間、他の畑を刈ることで、30,000元 (1人民元=約15円) 儲けようとしている。
- ・鉄麦客が進む道には、さらなる富が待っている。
- ・老人鉄麦客は、今年は去年より稼ぐために、一生懸命頑張ると告げている。
- ☆とてもいい笑顔である。
- ・青年鉄麦客も、自分なりに頑張ることを決意している。
- ☆青年鉄麦客は、小綺麗で、さわやかな印象である。



5. 老麦客の出発 (02:46)

- ・老麦客は、黄河の西、内陸から旅立つ、寧夏回族自治区羊隴村の農民である。
- ・寧夏回族自治区羊隴村は、中国で最も貧しい地域の一つである。
- ☆老麦客の人々は、軽トラックの荷台に寿司詰状態である。
- ・老麦客もまた、河南省を目指している。
- ・目的地河南省までは、750キロの道のりである。



6. 老麦客とは (03:23)

- ・老麦客こそ、もともとの麦客であり、鉄麦客に対して老麦客と呼ばれている。
- ・老麦客の荷物は、鎌一本と着替えを詰めたズタ袋のみである。
- ☆老麦客の身なりは、少しみすぼらしい。



7. 老麦客のねらい (03:38)

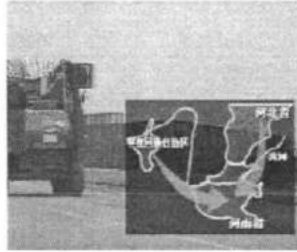
- ・老麦客は、バスと列車を乗り継いで目的地へと向かう。
- ・老麦客の目標とする稼ぎは、およそ1,000元である。



8. 老麦客の旅 (03:45)

- ・老麦客は、交通費も切り詰めなければならない。
- ・老麦客は、バスの運転手と交渉をしている。
- ☆バスの運転手、老麦客、ともに強気である。
- ・老麦客は、20人を一人13円で乗せるよう、バスの運転手に要求した。
- ・高級外国製バスの運転手は、老麦客達に対して、一人35元払うように要求している。
- ・結局このバスの運転手との交渉は決裂した。
- ・先ほどとは異なる、古ぼけたバスの運転手と交渉して、15円で乗せてもらえた。
- ☆老麦客は、とてもにぎやかである。
- ・列車の走っている西安まで、バスの旅は6時間続く。
- ☆老麦客たちは、やっと普通の椅子に座れたことに満足そうである。
- ☆車窓から、一面に広がっている段々畑が見える。
- ・老麦客の故郷は、一年中寒風が吹きつける山間の地域である。
- ・中国の内陸から、数万人の老麦客たちが、5月になると、麦を刈るための旅にでる。
- ・老麦客の旅の期間は、約1ヶ月である。
- ・ある老麦客が、たくさん稼いで家に帰りたい、と話している。
- ☆辛い旅路なのに、笑顔をたやさない。
- ☆列車が走っている横に、線路を歩く老麦客の姿がある。
- ・西安に着いた老麦客は、ひたすら線路の上を歩く。
- ・老麦客は、貨物列車への無賃乗車を狙っている。
- ・老麦客は、鉄道公安官に止まるよう命令される。
- ・老麦客は、鉄道公安官に、鉄道の敷地内に勝手に入ると叱られている。

- ・老麦客は、鉄道公安官に、ただ線路の上を歩いているだけだと反論している。
- ・無賃乗車に対する取り締まりは、年々厳しくなっている。
- ・老麦客は、とうとう追い払われてしまっている。
- ・しばらくすると、老麦客たちは、少し離れた場所から再び敷地内へと侵入している。
- ・老麦客たちは、鉄道公安官のいない場所を狙って、次々と貨物列車に乗り込んでいる。
- ・老麦客たちは、石炭を運ぶ貨物列車に乗り込んでいる。



9. 河南省の地理的特色 (07:45)

- ・老麦客は、貧しい農村から鎌一本を背負って貨物列車に乗り込む。
- ・鉄麦客は、豊かな農村からコンバインの隊列を組んで進む。
- ☆老麦客の乗る貨物列車と、鉄麦客のコンバインが交差する。
- ・老麦客と鉄麦客の二者の麦客は、いずれも中国最大の穀倉地帯、河南省に向かっている。
- ・河南省では、麦が実っている。
- ☆麦畑がどこまでも広がっている。
- ・河南省では、老麦客より豊かで、鉄麦客より貧しい農民が生活している。
- ・河南省の農家は、兼業農家が多いため、麦の収穫は人任せである。
- ・河南省の農家のかわりに、老麦客と鉄麦客が麦を刈る。

【シーン2】

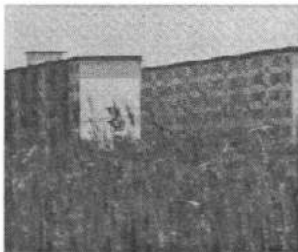
10. 鉄麦客登場の背景 (08:54)

- ☆1949年10月1日、中華人民共和国建国。
- ・毛沢東時代は、平等な農村社会の実現を目標としていた。
- ・中華人民共和国の建国後、地主は追放され、農業は集団化された。
- ・集団化には、働いても働かなくても収入が同じになってしまう欠点をもち、農民の労働意欲は低下した。
- ・1978年、鄧小平によって進められた改革・開放は、1990年代になって加速した。
- ・「先富起来」とは、先に豊かになれるものから豊かになれ、の意味である。
- ・鄧小平の政策によって、農村は大きく変化した。
- ・河北省の農民たちは、中国のこのような流れにいち早く乗って、中国の発展を支えた。
- ☆河北省藁城市には、麦畑の向こうに大きなタワーが建つ。
- ・改革開放によって、国に一定の量の作物を収めれば、あとは農民が売ってよいことになった。
- ・土地が肥沃な河北省では、現金収入が膨らんでいった。
- ・副業も自由化され、都市に近い地の利を生かし、新鮮な野菜や果物、軽工業製品を大量に出荷するようになった。



11. 鉄麦客の生活水準 (10:39)

- ・河北省藁城市には、畑の中に新しい団地が出現している。
- ☆アパートは、整然と並んでいる。
- ・アパートには、農民達が住んでいる。
- ・三つの寝室とリビングルームを備え、広さは150平方メートルある。
- ☆日本の団地とほぼ変わらない生活環境である。
- ・年に数万元稼ぐことができるようになった農民たちは、競うようにコンバインを買い求めている。
- ☆食事にも困っていない。肉と野菜をフライパンで炒めた料理を食べている。





12. 老麦客登場の背景（11：25）

- ・内陸の農村は、改革開放の流れに遅れてしまった。
- ☆山奥に入っていくと、何も無い土地が広がっている。



13. 老麦客の生活水準（11：34）

- ・老麦客の故郷の寧夏回族自治区羊標村は、気候が厳しく、土地が痩せているため、単位面積当たりの収量は、河北省の4分の1に過ぎない。
- ☆団地とは異なる、質素な住宅が広がっている。
- ・現金に換えられる作物は、ほとんど実らない。
- ・都市から離れているため、副業も牧畜ぐらいしかない。
- ・村人の年収は、およそ1000元である。
- ☆農民は、生のキャベツをやかんで洗っている。
- ・村の男達が現金収入を求めて始めたのが、麦客である。
- ☆この村の人々は、あまり裕福そうな服装はしていない。
- ・老麦客の一行は、無賃乗車で列車に乗り、一晩がかりで河南省の洛陽に到着した。
- ・老麦客の旅でかかった費用は、750キロの道のりを、一人当たり24元（360円）である。
- ・老麦客の人々の顔は、ススだらけである。
- ☆老麦客の人々の顔は、皆真っ黒である。
- ・老麦客の一人が、貨物列車のなかで、風の強さとススで目もあけられなかったと語っている。

【シーン3】

14. 鉄麦客の仕事獲得の方法（13：13）

- ・河南省の麦畑の周辺には、3日間の旅を終えた鉄麦客が到着している。
- ・仲買人は、自分の村を代表して、コンバインをもつ鉄麦客と契約を結ぼうとする。
- ☆契約をめぐって、農地は大騒ぎである。
- ・仲買人は、1台でも多くの鉄麦客と契約を結ぼうとして、必死である。
- ・仲買人にコンバインを割り当てるのは、地元の役場の人々である。
- ・仲買人は鉄麦客のコンバインを少しでも多く調達しようとするが、コンバインは不足している。
- ・有利な立場にある鉄麦客は、強気に契約を結ぼうとする。
- ・有利な立場にある鉄麦客の人々は、少しでも条件の良い麦畑を選ぼうとする。
- ・女性の鉄麦客の苗艶萍（ビョウ・エンジョウ）さんは、広い畑と安定した仕事を与えろ、と仲買人に迫っている。
- ☆苗さんは、非常に強気である。
- ・苗さんは、運転手を雇い、毎年ここにやってくる。
- ・苗さんは、自分の畑の耕作と小さな工場の経営は、夫に任せてきている。



15. 鉄麦客の仕事（15：24）

- ☆広大な畑が広がっている。
- ・広大な畑は、農家ごとに細かく区切られている。
- ・鉄麦客の作業は、農家の畑の面積を測ることから始まる。
- ☆苗さんは、メジャーで畑の面積を測っている。
- ・畑の面積は1畝2畝と数える。1畝は、約660㎡である。



- ・苗さんは、仲買人との交渉で、1畝を40円で刈ることになった。
- ・鉄麦客は、少しでも広く畑の面積を見積もれば、それだけ得ができる。
- ・苗さんと農家の間で、交渉がはじまる。
- ・農家の人々は、なるべく料金を値切ろうとする。
- ☆苗さんと農家は、お互いがまったくゆずらないが、最後は農家の側が折れる。
- ・鉄麦客の刈り取り料金は、必ず前払いである。
- ・苗さんの交渉は、徹底して強気である。
- ☆男性の農家は、苗さんの迫力に押されぎみである。
- ☆コンバインは、次々と麦を刈りまくっている。
- ・苗さんは、自分の畑と副業で20,000元以上の収入を得る。
- ・苗さんは、子どもの二人をアメリカに留学させるために、鉄麦客の仕事をしている。
- ・コンバインは、1畝刈り取るのに、約10分ですむ。
- ・鉄麦客の仕事は、効率よくやれば1日に100畝刈れる。
- ・鉄麦客の売上は、1日で4000元であり、経費を差し引いても、2500元の利益で出る。
- ・コンバインは、麦を刈り取るだけでなく、脱穀もすべて自動でできる。
- ・コンバインは、河南省の人々の生活を変えた。
- ☆コンバインから脱穀済みの麦がどんどん出てくるのを、農家の人々は嬉しそうに袋に詰めている。
- ・河南省の人々は、コンバインの登場によって、自分達の生活が大きく変化したことを喜んでいる。
- ・河南省の人々は、コンバインが登場する以前は、10日間かけて麦刈りをしていた。コンバインが登場してからは、2時間で仕事が終わるようになった。
- ・男性鉄麦客の李新建（リ・シンケン）さんは、新人の鉄麦客である。
- ・李新建さんは、やや弱気である。
- ☆李新建さんは、女性農家に押されっぱなしである。
- ・李新建さんは、女性農家との交渉に敗れ、1畝35元に値切られてしまった。
- ・鉄麦客と農家との交渉は、とても厳しい。



16. 老麦客の仕事獲得の方法（21：48）

- ・老麦客の人々は、街中でも、まだコンバインの到着していない場所で仕事を探している。
- ・町の広場に、労働市場ができています。
- ・賃金は、1畝あたりの値段交渉で決まる。
- ・老麦客と農家は、個別に交渉することで契約が成立する。
- ・ある老麦客は、30円で農家に雇われた。
- ・老麦客の賃金は、鉄麦客の進出によって、年々下がりがつつある。
- ・農家の人は、老麦客の人々を山間の村へ案内している。
- ☆老麦客の人々は、徒歩で山地にある麦畑へと向かっている。



17. 老麦客の仕事（22：55）

- ・コンバインは、段々畑には入ることができない。
- ・老麦客の人々は、自ら鎌を研いでいる。
- ・老麦客の人々は摂氏38度の過酷な暑さのなか、作業をしている。
- ・老麦客の故郷では、この時期摂氏18度ぐらいである。
- ・老麦客は、四人一組で作業をする。
- ・老麦客のリーダー格の馬林宝（マ・リンホウ）は、常に先頭で畑を刈っている。

☆地道に麦を刈っている。

・馬林宝と馬世紅（マ・セイコウ）は、老麦客で稼いだお金で、羊の飼育業を始めたいと思っている。

☆馬林宝には、大量の汗が流れる。

・馬万全（マ・マンゼン）さんは、5人の子持ちである。

・馬万全は、子どもを高校に通わせたいと思っている。

・馬万全は、必死に仕事をして、その苦勞に耐えることが重要だと語っている。

・老麦客が刈り取る麦畑は、1日に、せいぜい1.5畝である。

・コンバインは、1.5畝をだいたい15分で刈れる。

・老麦客の賃金は、作業が終わってから支払われる。

・老麦客は、旅を終えて、休む間もなく働きつづけた。

・老麦客は、農家に水を借りて旅で着いたスズと仕事の汗を洗い流している。

☆老麦客達は、とても気持ちよさそうである。

・老麦客たちは、農家でご飯をご馳走してもらう。

・農家の暮らしは、年々よくなっている。

・農家の年取は、だいたい3,000円である。周辺には、炭鉱や工場があり、農家の人々の年取は年々増えている。

・麦刈りに人を雇える農家と、雇われる側の老麦客の年取は、年々差が開いている。

・老麦客の仕事は、日が暮れてもつづく。

・この日の老麦客は、たっぷり時間をかけて、四人で6畝刈り取った。

・老麦客のこの日の稼ぎは、一人1日45円である。

・山間部の畑を刈り終えた老麦客は、また新たな仕事を求めて、山を下りる。

☆日が暮れても老麦客の仕事はつづいている。

【シーン4】

18. 鉄麦客と農家の関係（29：03）

・鉄麦客の苗艶萍さんは、夜が更けても、コンバインを走らせつづける。

☆コンバインは、夜間はヘッドライトを点けて、麦畑を走りまわっている。

・コンバインは、24時間連続で動かし続けることができる。

・麦は、実ってから穂が落ちるまでの1週間の間に刈り取らなければならない。

・鉄麦客と農家は、どちらも作業を急ぎたい。

・あるコンバインの運転手は、丸3日間寝てない。

・20日間でいかに稼ぎを増やすかが、鉄麦客の課題である。

19. 老麦客と農家の関係（30：12）

・鉄麦客が既に進出している村では、老麦客が仕事を見つけるのに苦勞する。

☆老麦客の前を、鉄麦客のコンバインが通り過ぎている。

・老麦客を雇うのは、コンバインが不足している場合か、少しでも安く上げたい場合、である。

・コンバインが現れる前の老麦客の賃金は、1畝50円から60円だった。

・現在の老麦客の賃金は、1畝30円から35円である。

☆労働市場の仲買人はとても強気で、老麦客に低賃金を押し付けている。

・仲買人は、仕事に時間のかかる老麦客よりも、仕事の速い鉄麦客の方を雇いたがる。

・老麦客たちは、機械と比較され、罵倒されている。

・河南省の農民たちは、いつの間にか、コンバインが万能であると考えようになった。





- ・河南省の農民たちは、鎌一本で仕事をする老麦客を、過去へと追いやりようとしている。
- ☆老麦客たちは、座り込んでいる。

20. 鉄麦客の苦勞 (31:51)

- ・コンバインがやってきた村では、収穫の時間を焦って、農民がトラブルを起こしている。
- ・農民の間で、コンバインの取り合いがはじまった。
- ☆ある農民は、ものすごい剣幕で、自分の畑を先に刈れと、新米鉄麦客の李新建さんに要求している。
- ・李新建さんは、言いなりになっている。
- ・この村では、老麦客には目もくれず、少ないコンバインを取り合っている。

21. 老麦客の苦勞 (33:04)

- ・老麦客は、ようやく仕事口を見つけた。
- ・老麦客には、疲れが溜まっている。
- ☆老麦客は、少し休ませてほしいと雇い主に要求し、座り込んでしまった。
- ☆雇い主は、雨が降り出す前に刈り取りを終えてほしいため、疲れている老麦客に仕事をせつづく。
- ・鉄麦客を雇うことができず、仕方なく老麦客を雇った農家は、老麦客にひたすらスピードを求める。
- ・老麦客の労働は、いっそう過酷になっている。
- ☆老麦客たちの表情から、明るさが消え、とても疲れた表情。
- ・老麦客の賃金は、1畝に30元である。

22. 老麦客の思い (34:36)

- ・老麦客は、汗を流して金を稼ぐことを誇りとしている。
- ・老麦客たちは、仕事に来ると、「貧乏」「きたない」などと、差別を受けている。
- ☆老麦客たちは、自分の力で金を稼ぐことに誇りをもっていと語ってはいるものの、その表情に明るさはない。
- ☆老麦客よりもきれいな服を着た農家は、老麦客に賃金を払っている。農家は少し偉そうに見える。
- ・老麦客たちは、羊を飼って儲けたい、子どもを高校に通わせたいという願いをもって、仕事をしている。
- ・社会はどんどん豊かになっているから、自分たちも頑張らなければならないと、考えている。

23. 鉄麦客の思い (37:11)

- ・苗艶萍さんに、疲れの色は見えない。
- ☆苗さんは、コンバインにのって、てきぱき働いている。
- ・苗さんは、いち早く富を手にした農民である。
- ・苗さんは、高い学歴をもつ、都市部にすむ人々の豊かさを目の当たりにしている。
- ☆苗さんは、携帯電話で子どもに電話をかける。
- ☆苗さんは、仕事とは違って、とても優しく子どもに話しかけている。
- ・苗さんは、子どもを大学や大学院に通わせたいという夢をもって、仕事をしている。
- ・苗さんは、人間には教養がなければ、豊かな暮らしはできないし、人間としての価値もないと考えている。
- ・苗さんは、自分自身には、あまり価値はあまりないと思っている。
- ☆苗さんは、寂しそうである。



24. 麦客の所得差 (39:20)

- ・老麦客たちは、麦の実りにあわせて、北上してゆく。
- ・老麦客は、行く先々で、自分達よりも遥かに豊かな（雇い主の）農民を目の当たりにしている。
- ・老麦客の賃金は、またもや30元になってしまった。
- ・老麦客が働く目の前では、コンバインが麦を刈っている。
- ☆手作業で麦を刈る老麦客と、コンバインで刈る鉄麦客では、仕事の速さに、違いがあらわれる。
- ・鉄麦客は、6月上旬におよそ20,000元から30,000元を稼いで、河南省をあとにした。
- ・鉄麦客に遅れること10日後、老麦客は700元を稼いで、河南省をあとにした。
- ☆老麦客は、陽気な歌を口ずさみながら仕事をしているが、その表情は暗い。

【シーン5】

25. 中国の現状と課題 (41:25)

- ・中国政府は、現在、内陸の農村開発に力を注いでいる。
- ☆仕事のさなか、汗を拭いている一人の老麦客は、気持ちよさそう。
- ・5月の河南省穀倉地帯では、鉄麦客が老麦客を駆逐しようとしている。
- ・改革開放の波に乗ることのできた鉄麦客と、昔ながらの出稼ぎを続ける老麦客では、富と力の差が拡大している。
- ☆老麦客の後ろで、コンバインが麦を刈っている。



(草原 和博)

市場経済移行国としての中国

■中国の社会変動を教材化するにあたって、とくに参考になる資料を紹介しよう。

- ・溝端佐登史・吉井昌彦編『市場経済移行論』世界思想社,2002年。
- ・『現代中国の構造変動 全8巻』東京大学出版会,2000年～。
- ・『シリーズ現代中国経済 全8巻』名古屋大学出版会,2002年～。
- ・マリー・ラヴィーニュ/栖原学訳『移行の経済学』日本評論社,2001年。

中兼は、現代中国を知る上でのポイントを、次のように述べている。

「経済発展過程の中からは産業構造のアンバランスとともに所得分配の不平等化という現象が生まれた。経済発展とともに初めは分配が不平等化するというのは有名なクズネツの仮説であるが、どうやらそれに近い状態が中国にも現れているようである。こうした所得の不平等化は体制移行の過程で、つまり国家統制が縮小し、市場化が進展してゆく中でさらに一層深刻化してゆくかもしれない」(中兼和津次「序章 中国経済の市場化と直面する課題—まえがきを兼ねて—」『現代中国の構造変動2 経済—構造変動と市場化—』東京大学出版会,2000年。)

■中国の階層分化の動きについては、次の講演記録が詳しい。資料1を实践するにあたっては、背景知として是非一読しておいてほしい。表現は口語調で理解しやすい。インターネットで公開されているので、入手も容易だろう。

- ・李強/李為訳「中国における経済格差—都市住民と農民の収入格差—」『関西学院大学 社会学部紀要』社会学部創立40周年記念記年号,2001年。

http://syass.kwansei.ac.jp/kiyou/89extra_jp.htm

(草原 和博)

第2節 歴史的視野に立つ日中相互理解の教材開発

—沈没船の謎を追う「新安沖沈船」—

1 中学校社会科歴史分野での日元関係の取り扱いの特徴と課題

(1) 学習指導要領の変遷から見た日元関係

歴代学習指導要領（但し、昭和22（1947）年版・昭和26（1951）年版は学習指導要領試案）の中学校社会科歴史分野（但し、昭和22（1947）年版には該当分野がない）を通観してみると、日本と元朝の関係（以後、「日元関係」と略記する）は「蒙古襲来」「蒙古来襲」「元寇」などの用語で取り上げられている。歴史分野では、日元関係は、8世紀の「遣唐使」と並んで、日本の前近代史を国際的な視点（東アジア世界）から理解する上でもっともポピュラーな単元のひとつとして位置づけられて来た。しかし、「蒙古襲来」「蒙古来襲」「元寇」などの用語からわかるように、日元関係の取り扱い方は「交流」「友好」というよりも「侵略」「敵対」の色彩が濃厚であると言える。

資料1 中学校学習指導要領社会「歴史分野」に見る日元関係の取り扱いの変遷

年度	大項目・中項目	日元関係に関する記述
昭和 22 (1947) 年		
昭和 26 (1951) 年	(第3単元 各地に城が建てられたころの世の中は、どのようなであったか)	8. 戦争中よく言われた「神風」とは何のことか、先生に聞いたり、本で調べて、そのころの外国の様子について発表してみよう。 9. このころの外国人になったつもりで、 <u>元寇のころの日本の様子</u> を、ヨーロッパへ送る手紙として書いてみよう。
昭和 30 (1955) 年	3. 武士が社会に現れた時代	武士の起り、鎌倉・室町幕府の政治、ヨーロッパ封建社会の特色などの学習を通して、幕府政治の成立とその動きについて、外国と比較しながら理解させる。 <u>宋・元・明（元寇・勘合貿易など）との関係、都市の変遷とその地理的考察などの学習を通して、鎌倉・室町時代の日本とアジア大陸との関係について理解させる。</u>
昭和 33 (1958) 年	(3) 武家社会の形成 武家政治の成立と展開 アジア大陸との関係 鎌倉・室町時代の文化 産業・経済の発達と地方の動き	「アジア大陸との関係」については、日宋関係、 <u>蒙古襲来</u> 、日明関係などの学習を通して、中国では宋・元・明があいついで起こったことに触れながら、そのころの中国の文化が、武家文化の形成に大きな影響を与えたことを理解させる。
昭和 45 (1970) 年	(5) 武家政治の成立 ア 鎌倉幕府の政治 イ 武士の生活 ウ 鎌倉時代の文化 エ 蒙古襲来	(エ 蒙古襲来については、)大陸における <u>蒙古民族の活動に触れながら、蒙古襲来のありさま</u> を理解させるとともに、それがその後の幕府政治に及ぼした影響を考えさせる。

昭和 53 (1978) 年	(3) 武家政治の展開と庶民生活の向上 ア 鎌倉幕府と武士の生活 イ 蒙古襲来とアジアの動き ウ 室町幕府の政治と外交 エ 都市の発達と庶民文化	(イ 蒙古襲来とアジアの動きについては、)大陸における蒙古民族の活動について簡潔に扱うとともに、 <u>蒙古襲来とそれがその後の幕府政治に及ぼした影響</u> を理解させる。
平成 元 (1989) 年	(3) 武家政治の展開とアジアの情勢 ア 鎌倉幕府と蒙古襲来 イ 室町幕府の政治と外交 ウ 都市・農村の生活と文化	(ア 鎌倉幕府と蒙古襲来については、)源平の戦い、鎌倉幕府の成立と推移を扱い、武家の政治及びこの時代の文化の特色を理解させるとともに、武士の生活や宋との文化の交流に着目させる。また、 <u>蒙古の来襲とそれが後の幕府政治に及ぼした影響</u> 及び鎌倉幕府の滅亡について理解させる。
平成 10 (1998) 年	(3) 中世の日本 ア イ	ア 武士が台頭し武家政権が成立したこととその後の武家社会の展開を鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、応仁の乱後の社会的な変動を通して理解させるとともに、 <u>元寇</u> 、日明貿易、琉球の国際的な役割など、その間の東アジア世界とのかかわりに気付かせる。

中学校社会の学習指導要領から作成。日元関係を扱った部分についてはゴチック字とし、下線を付した。

(2) 小・中学校の授業実践から見た日元関係

日元関係を扱った代表的な授業実践として、小学校では、山本典人「元の国がせめてきた」(歴史教育者協議会編『歴史地理教育』352、1983年6月号)、平野昇「絵物語を使った歴史の授業」(『社会 社会のしくみと歴史』岩波書店、1992年)、五十嵐誓「絵物語の物語性に注目した小学校歴史授業の展開—『蒙古襲来絵詞』を用いた実践をもとに—」(日本社会科教育学会編『社会科教育研究』83、2000年)などが、また中学では、山形洋「アジア的視野にたつ元寇をどう教えたか」(歴史教育者協議会編『歴史地理教育』230、1974年11月号)号／『歴史地理教育実践選集』第9巻、新興出版社、1992年)がある。

資料2 山形洋「アジア的視野にたつ元寇をどう教えたか」で示された授業展開

<授業のねらい>

- ・モンゴルの二度にわたる侵略を失敗させ、三度目の侵略を実現させなかった力は何だったでしょうか。第一に矛盾をはらんでいながら幕府に組織された武士、農民がよくたたかったこと、第二に朝鮮、中国、ベトナム人民のはげしい抵抗、第三に当時の日本の自然的条件にあると言えるでしょう。

<授業の展開>

- ①モンゴル帝国、 ②高麗人民の抵抗、 ③文永の役、 ④防塁と弘安の役、 ⑤中国・ベトナム人民のたたかい

歴史教育者協議会編『歴史地理教育実践選集』第9巻、新興出版社、112～114頁、1992年から作成。

これらの授業実践に共通する特徴として、日元関係は「元寇」に焦点化されるとともに、教材として、『蒙古襲来絵詞』を用いた授業実践が多く見られる。画像史料の活用については、近年の日本史研究、とりわけ中世史分野での画像史料研究の成果がその背景にある。とかく暗記教科として批判されてきたこれまでの歴史教育を見直し、考えさせる学習への転換を目指そうとする今日の歴史教育の潮流の影響を読みとれる。

教育内容論の面から、これらの授業実践の特徴を分析すると、小学校では、元軍の侵略を撃退した御家人の具体的活動を通して鎌倉幕府と武士の関係や武家の政治について理解させようとしている点が上げられる。中学校では、日本の鎌倉武士や高麗の三別抄、ベトナム、ジャワなど東アジアや東南アジアの各地域の抵抗が連動することで元の侵略を撃退したという国際的連帯視点が強調されている（資料2の「山形洋『アジア的視野にたつ元寇をどう教えたか』」で示された授業展開）を参照のこと。また、元の侵略に対する鎌倉武士や農民の奮闘を取り上げるなど、ナショナリズムの視点が重要な要素となっている。

(3) 新しい中学校教科書に見る日元関係の特徴

新学習指導要領（平成10（1998）年版）のもとでの新しい教科書（中学社会）では、日元関係はどのように記述されているのか。東京書籍の『新しい社会 歴史（2 東書歴史702）』を取り上げて、この点について見てみよう。

資料3 東京書籍の『新しい社会 歴史』での日元関係の内容構成と記述

1. モンゴルの襲来と日本

○本文

<モンゴル帝国の拡大> 13世紀のはじめ、モンゴル帝国で遊牧生活を営むモンゴル民族から出たチンギス・ハンは、民族を統一して国家を建設しました。その子孫は、広大なユーラシア大陸の東西にまたがる大帝国（モンゴル帝国）を築き、5代目のフビライ・ハンは、都を大都（北京）に移し、国号を元と定めて皇帝になりました。宋をほろぼして中国全土を支配した元には、ヨーロッパから宣教師や商人なども訪れました。

<2度の元寇> フビライは日本を従えようと、たびたび使者を送ってきましたが、幕府がこれを退けたため、元は高麗の軍勢をも合わせて攻め入ってきました。1274（文永11）年には、対馬・壱岐をへて、北九州の博多湾に上陸し、集団戦法とすぐれた火器により、日本軍を悩ませたすえ、引き揚げました（文永の役）。

2度目の1281（弘安4）年には、海岸に築かれた石塁などの防備もあって、元の大軍は上陸できないまま、暴風雨にあって大損害を受け、退きました（弘安の役）。

この2度の襲来（元寇）ののちも、元は日本への遠征を行おうとしましたが、計画だけで終わりました。

○絵 元と戦う武士（『蒙古襲来絵詞』）

○地図 モンゴル帝国の拡大

○コラム

〈ユーラシア世界の誕生〉 日本は平氏政権の時代から急速に大陸との交流を深めていました。宋銭が国内に出回り、陶磁器が輸入され、僧の往来もさかんになりました。このように、東アジア世界の交流が活発化していたところに、モンゴル帝国が中央アジアからやってきたのです。(略)

『新しい社会 歴史(2 東書歴史702)』東京書籍、56-57頁(平成13年3月30日検定済)から作成。

東京書籍の新教科書では、コラム「ユーラシア世界の誕生」を設けて日宋貿易や僧侶の往来など当時の日本と大陸の平和的交流を扱うなどの工夫が見られる点は、評価できる。しかし、日元関係については、「モンゴルの襲来と日本」「2度の元寇」などの見出しや、『蒙古襲来絵詞』が使われるなど、内容構成や記述は「元の侵略」に対する「日本軍の抵抗と元軍の撃退」に関するものであり、日元関係を「元寇」や「蒙古襲来」でとらえられている。東京書籍の教科書を見る限り、新教育課程になっても、従来の内容構成や記述を踏襲しており、「交流」「友好」の視点は弱いと言える。

(4) 元関係を扱う際の課題

では、これまでの議論を整理してみよう。小・中学校の歴史学習から見た場合、日元関係は「蒙古襲来」や「元寇」という面からとらえられ、元の日本への侵略と言うイメージが強い。日元関係は、「倭寇」と並んで、日中両国間に横たわる「前近代史認識の棘」としての認識される。このような歴史認識を克服するためには、「元寇」に焦点化されたこれまでの内容構成を再検討し、日元関係を「文化交流」や「交易」の視点からとらえなおすことが必要であると考えられる。

2 「新安沖沈船」の教材化

「文化交流」や「交易」の視点を取り入れて日元関係を教材化する際、どのような工夫が必要であろうか。この点について、教育内容と教育方法の二つの面から検討してみよう。

(1) 「新安沖沈船」の教材化の意義 ——教育内容面からの検討——

新学習指導要領の中学社会では、目標(3)で「歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに興味をもたせ、国際協調の精神を養う。」ことを掲げている。日元関係については、「交流」や「交易」の視点からとらえなおすと、「元寇」とは異なる東アジア世界が見えてくるに違いない。

このことを裏付けるように、13・14世紀の日中間には禅僧の頻繁な往来があったことが指摘されている(村井章介「終末期の鎌倉幕府」『朝日百科 日本の歴史4』朝日新聞社、1989年)。有名な例としては、北条時宗の招きで無学祖元むがくそげんが来日して(1279(弘安2)年)円覚寺をひらいたことや、清拙正澄せいせつしょうちよう(1326(嘉暦元)年)、明極楚俊・竺仙梵僊みんきょそしゆんじくせんぼんせん(1329(元徳元)年)などの高僧が相次いで日本に渡ってきた。また、日本からも多くの禅僧が中国に赴いている。元末の70年間に元に赴いた渡海僧は、文献に現れただけでも222名に達すると言う。日中禅僧のさかんな交流は、東シナ海を頻繁に往来した海商たちの活動とその貿易船に支えられていたとのことである。14世紀前半には、日本の幕府や朝廷は元に寺社造営料唐船じしゃぞうえいりょうとうせん(寺社修造の費用捻出を目的とする貿易船)を送り出してい

る。宋銭の多くが日宋貿易ではなく日元貿易でもたらされたとの説があるなど、日元貿易は日宋貿易を凌駕し、日明貿易に匹敵する規模をもっていたと言われる。

資料4 14世紀前半の寺社造営料唐船

造営対象寺社	発遣者	出発	帰国	典拠
称名寺	金沢貞顕	?	1306	金沢文庫古文書
東福寺	?	?	1323	新安船（新安沖沈船）木簡
建長寺勝長寿院	幕府	1325	1326	広瀬文書・比志島文書
関東大仏	幕府	1330	?	金沢文庫古文書
住吉社	幕府?	?	1333	住吉大社文書
天竜寺	足利直義	1342	?	天竜寺造営記録

出典：『週間朝日百科 日本の歴史（中世1）』朝日新聞社、4-289、1989年。

日元貿易の具体的姿を私たちに知らせてくれる貴重な史料として、1975年に韓国全羅南道の新安^{シナン}沖合で発見された沈没船とその積荷がある（今日、「新安沖沈船」と呼ばれている）。この沈没船からは、1800点に及ぶ青磁・白磁・青白磁など大量の中国製陶磁器をはじめとして、28トンの銅銭、高麗青磁や日本の古瀬戸・漆器など、大量の品物が引き揚げられた。積荷と一緒に引き揚げられた荷札（364点）の中に至治3（1323）年と記されたものや「東福寺」の名前があることから、今日では、この沈没船は14世紀前半に中国の港を出帆し、その目的地が日本であった船と考えられている。

「新安沖沈船」の引き揚げ物は1983年に東京国立博物館など3カ所で展示され、詳しいカタログが作成されている（『新安海底引き揚げ文物』東京国立博物館・中日新聞社、1983年）。教育内容面から考えてみるならば、「新安沖沈船」の教材化は日元関係を「元寇」のみに焦点化するようなこれまでの内容構成を見直し、「交流」や「交易」の視点から相互依存的な日元関係をとらえることを可能にするものである。

(2) 仮説実験授業の考え方を取り入れた授業 —— 教育方法面からの改善 ——

授業にあたっては、教育内容の検討とともに教育方法の改善も必要であるとする。今回の授業では、仮説実験授業の方法を参考にした。仮説実験授業とは、板倉聖宣によって1963年以来提唱されてきた科学教育の理論である。仮説実験授業は、最初理科教育の面で唱えられ、歴史を始めいろいろな教科・科目で実践されている。

板倉自身、この方法を「科学上のもっとも基本的な概念や原理・原則を教えるということを意図した授業である」と定義している（板倉聖宣『仮説実験授業のABC』仮説社、19頁、1977年）。従来の教授法がどちらかというと、学問成果をいかに能率的にかつ合理的に生徒に教えこむかに重点がおかれていたのに対し、板倉はできるようになっても楽しくないのではと言う疑問を呈している。また、生徒に「自分で考えなさい」、「自分でやってみなさい」と言っても途方にくれてしまうのが現実であるとも言っている。この問題を解決するために、板倉らが生みだした独特の授業運営法が、仮説実験授業である。

次に、実際の授業運営法について、板倉の考えを以下に整理する（板倉、前掲書、7～18頁）。仮

説実験授業で使うプリントの内容は「問題」が中心になっている。「問題」というのは、問題文と予想の選択肢からなっている。ときにはヒントを入れる場合もある。これを最初に生徒に配布する。生徒は「問題」を読み、その予想となぜその考えに至ったのかの理由を答える。そして、予想を挙手させて、その結果を黒板に集計する。予想は数の少ない順に、数名選んで発表させる。その方が小数派の意見が発表しやすいとのことだ。これが討論に至れば大成功と言える。発表や討論を経ることによって自己の意見を変更したいものもあらわれるので、再び挙手させて、その数を黒板に集計する。最後に「話」の印刷されているプリントを配布して、生徒と読みながら確認するというものである。

「新安沖沈船」から引き揚げられた多数の遺物の存在とそれらに対する多くの報告書・研究所の存在は適切な「問題」を設定し、「話」で問題の謎解きを可能にする材料を提供してくれる。そのため、「新安沖沈船」の教材化にあたって、仮説実験授業の方法を活用することは生徒の歴史的考察力や認識力を育成していく上で有効であろう。

(3) 単元「沈没船の謎を追う『新安沖沈船』」の目標と内容構成

ア) 単元の目標

①考古学や歴史学の成果を活用して、「新安沖沈船」やその引き揚げ物を論理的に分析し、「沈没船がどんな船であったか」「沈没船の出港地や目的地はどこであったのか」などについて、発表や討論を行うことができる。

②日元関係を多角的・多面的に考察を通して、日元間の文化交流の実態や相互依存的な経済関係を理解し、国際協調の観点から「元寇」に見られる「侵略的な元朝」という認識を相対化することができる。

イ) 単元の位置づけ

- ・中学校社会科歴史分野「中世の日本」

ウ) 単元の構成

授業書「沈没船の謎を追う『新安沖沈船』」を主な教材として、3時間から授業計画を作成した。各時の授業テーマは以下の通りである。

第1時 「新安沖沈船」の謎を追う(1)

第2時 「新安沖沈船」の謎を追う(2)

第3時 13・14世紀の日本と中国の関係はどうだったのか。

エ) 単元の指導過程

第1時 「新安沖沈船」の謎を追う(1)

教師の発問・指示・説明	教授・学習活動	教材	生徒の発見・習得すべき内容
<p>発問：「新安沖沈船」発見までの経緯や引き揚げられた積荷について確認し、「新安沖沈船」がどんな仕事を行った船であったのかを選択肢の中から選びなさい。また、なぜそう思ったのか、引き揚げ物の内容を分析して、説明しなさい。</p> <p>指示：沈没船がどんな船であったか、みんなで意見を出し合ってみて下さい。</p>	<p>T（教師）：問題1を読む。</p> <p>S（生徒）：授業書中の【表1】を完成させ、自分の考え（答え）を発表する。</p> <p>S：討論する。</p>	授業書	<p>②貿易船説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積荷として大量の陶磁器や銅銭が積まれていたから。 ・写真の積荷は、きちんと箱に詰められており、商品と考えられるから。 ・積荷の陶磁器や胡椒は中国や東南アジアの輸出商品として有名なものだから。 <p>②以外の説</p> <p>①軍艦説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高価な陶磁器が海賊に奪われないように運んだため。 <p>③客船説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外から帰国する人々が買い求めたお土産を積んでいたため。 <p>○「新安沖沈船」は②貿易船であった。沈没と同時に厚い泥層に埋まったため、沈没船とその積荷が朽ちることなく残ることになった。</p>
<p>指示：「問題1の謎解き」を読みなさい。</p>	<p>S：「問題1の謎解き」を読む。</p>	授業書	
<p>発問：「新安沖沈船」の引き上げ物の研究からわかったことを表に整理し、「新安沖沈船」の沈没時期、出港地、積荷の依頼主と目的地について、推理しなさい。</p> <p>指示：「新安沖沈船」の沈没時期、出港地、積荷の依頼主と目的地について、みんなで意見を出し合ってみて下さい。</p>	<p>T：問題2を読む。</p> <p>S：授業書中の【表】を完成させ、自分の考え（答）を発表する。</p> <p>S：討論する。</p>	授業書	<p>①沈没時期 ー14世紀前半説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・染め付き磁器が発見されないことから、14世紀半ば以前に限定できる。 ・「至大通宝」がつくられた1311年から至正通宝がつくられる1350年の間に限定できる。 ・木簡に記された至治3（1323）年の可能性が高い。 <p>②出港地 ー中国の港説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陶磁器のほとんどが中国の竜泉窯であることから、竜泉窯近くの港と考えられる。 ・銅銭のほとんどが中国銭であることから、中国の港と考えられる。 ・「慶元路」と刻印されたおもりから、寧波の可能性が高い。 <p>ー高麗の港説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当時、中国にあった元は日本と戦争中（元寇）であるので、日本と直接貿易はできないと思われる。高麗が中国から輸入して、日本へ再輸出したのではないか。 <p>③積荷の依頼主と目的地</p> <p>ー日本人、日本の港説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木簡に書かれた東福寺やいや次郎が積荷の依頼人であったことが予想される。 ・中世の日本は、大量の中国銭を輸入して使用していたから、日本の可能性が高い。 ・沈没地点が中国から日本へのルート上にあるから、日本の可能性が高い。

<p>指示：「問題2の謎解き」を読みなさい。</p> <p>指示：「新安沖沈船」の時代には、ユーラシア大陸にはモンゴル帝国が君臨していました。次回までに、教科書や地図帳を活用して、白地図にモンゴル帝国及び元の領域を示し、以下の地名・国名を記入しなさい。</p> <p>○地名：大都(北京)、カラコルム、広州、鎌倉、博多、バグダッド、デリー、コンスタンティノープル(イスタンブル)、</p> <p>○国名：南宋、高麗、大越(ベトナム)、ビザンツ帝国、神聖ローマ帝国</p>	<p>S：「問題2の謎解き」を読む。</p> <p>T：白地図を配布し、家庭学習の課題を説明する。</p>	<p>授業書</p> <p>白地図 教科書 地図帳</p>	<p>－高麗人、高麗の港説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高麗の領海内で沈没していたから。 ・当時、中国にあった元は日本と戦争状態(元寇)にあるので、日本と直接貿易はできないと思われる。積荷は高麗へ輸出されたものである。 <p>○「新安沖沈船」は、日本の東福寺のために仕立てられた貿易船で、1323年に中国南部の寧波(慶元路)を出航したと考えられる。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第2時 「新安沖沈船」の謎を追う(2)

教師の発問・指示・説明	教授・学習活動	教材	生徒の発見・習得すべき内容
<p>説明：前時の復習として、「新安沖沈船」が日本の東福寺のために仕立てられた貿易船で、1323年に中国南部の寧波（慶元路）を出航したとことを確認する。</p> <p>発問：白地図を見て、13・14世紀のユーラシア大陸の情勢について、気がついたことを述べなさい。</p> <p>指示：では、問題3の作業(1)の年表を完成させて、鎌倉時代の日本と中国・モンゴル・朝鮮の動きについて整理しなさい。そして、年表の作成から導き出された「鎌倉時代の日本と東アジアの関係」を(2)の欄に記入しなさい。</p> <p>指示：「鎌倉時代の日本と東アジアの関係」はどうであったのか、発表しなさい。</p> <p>発問：元の歴史書『元史』には、元寇の時期に日本の貿易船が中国に行き交易をもとめたので、元が許したという記述があります。戦争中であるのに日元間で交易をしていた事実を君はどう考えますか。</p> <p>指示：「問題3の謎解き」を読み、日元貿易の交易品の欄を完成させなさい。</p>	<p>T：前時の内容を説明する。</p> <p>S：発表する。</p> <p>T：指示する。</p> <p>S：年表を作成し、年表の作成から導き出された「鎌倉時代の日本と東アジアの関係」をまとめる。</p> <p>T：指示する。</p> <p>S：「鎌倉時代の日本と東アジアの関係」を発表する。</p> <p>T：発問する。</p> <p>S：意見を発表する。</p> <p>T：指示する。</p> <p>S：「問題3の謎解き」を読み、日元貿易の交易品の欄を完成させる。</p>	<p>白地図</p> <p>授業書 教科書 授業書</p> <p>授業書</p> <p>授業書 教科書</p>	<p>・モンゴル人がユーラシアの東西にまたがる大帝国を築き、帝国の東半では、元が建国された。</p> <p>・インドやヨーロッパ、中国、イスラムなどユーラシアの主要地域がモンゴル帝国に併合されるか、接することになった。</p> <p>・元が南宋を滅ぼした。</p> <p>・モンゴルが高麗を服属させていた。</p> <p>・元が日本を2度にわたって侵略したが、武士によって撃退された（元寇）。</p> <p>・戦争は国家や支配層の間の出来事であり、民間人には関係がなかったから。</p> <p>・日本人商人が高麗から来たのと、元の役人をあざむいたから。</p> <p>・日本と中国では、元が成立する以前から交易や文化交流が行われ、信頼関係が生まれていたから。</p> <p>・日元関係には、一時的に戦争状態（元寇）が存在したが、全体を通して見ると、「新安沖沈船」や『元史』の記述に見られるように、経済交流や文化交流が頻繁に行われていた。</p> <p>・当時の日本は、商工業が発達して貨幣の需要が高まったため、中国銭を必要とした。また、中国も日本からの銀・銅などを必要とし、相互依存関係が存在していた。</p> <p>・「新安沖沈船」の引き揚げ物からは、日本人・中国人・高麗人が一緒に乗り込んでいたことが想像させる。国家間で戦争のあった時代でも、日本人・中国人・高麗人は協力して交易を行っており、平和的交流が行われていたと考えられる。</p>

第3時 13・14世紀の日本と中国の関係はどうだったのか。

教師の発問・指示・説明	教授・学習活動	教材	生徒の発見・習得すべき内容
<p>指示：「新安沖沈船」とその引き上げ物を手がかりにして、13・14世紀の日本を含む東アジア世界の状況について、お互いに意見を交換しましょう。</p>	<p>T：指示する。 S：意見を発表する。</p>		<p>・「元寇」から見ると侵略と戦争の時代だと思っただが、日中間には同時に交易などの平和的交流が行われていたことに驚いた。</p> <p>・「元寇」によって元朝や鎌倉幕は滅亡に向かうが、日中間の交易はその後にも発展に向かった。隣国同士の関係を考える上で参考になった。</p>

オ)「新安沖沈船」の教材化が目指すもの

「新安沖沈船」の授業実践を通じて、生徒が以下の3点を達成することを目指したい。

- ①「新安沖沈船」に関する多様な資料や研究成果を活用することを通して、日元関係についての関心と問題意識を高め、多角的・多面的に考察することができるようになる。
- ②仮説実験授業の方法を取り入れることで、授業に意欲的・積極的に参加するとともに考察した内容や意見を適切に発表・表現することができるようになる。
- ③交易や文化交流の観点から日元関係を学習することを通じて、「元寇」に焦点化されるような「侵略的な元朝」と言う認識を相対化し、国際協調の視点から日元関係を評価することができるようになる。

沈没船の謎を追う

シナンおきちんせん
「新安沖沈船」



1975年7月末のことです。韓国南部の港、
モクホ シナントドクト
木浦に近い新安道徳島沖の深さ20_フのところで、
地元の漁師、チェヒュンクン崔享根さんの網に6個の
せいじ つぼ青磁の壺がかかりました。シナンおきちんせん「新安沖沈船」のお
話はここから始まります…。

問題1 謎の沈没船の正体は？

1975年7月末のことです。韓国南部の港、木浦モクホに近い新安道徳島沖シナントドクトの深さ20㍍のところで、地元の漁師、崔享根チュエヒョンクンさんの網に6個の青磁せいじ(緑色または青色をおびた磁器。高級品として扱われるものが多い。)の壺つぼがかかりました。崔さんは一番立派そうな花瓶かびんを残して、残りを知り合いにあげてしまいました。その年の暮れ、弟で国民学校の先生、崔平鎬チュエヒョンボさんがこの花瓶を見て普通のものでないと感じ、役所に届け出ました。専門家の鑑定でこの花瓶は10万ドル(約1200万円)の値打ちがあると認定され、崔享根チュエヒョンクンさんにほうびのお金が与えられました。

この付近の海域は、以前から陶磁器や銅銭が網にかかることで有名でしたので、政府は早速、新安沖を史跡に指定し、翌1976年から84年まで10回にわたる調査を行いました。調査の結果、全長28メートル、幅9.3メートル、60人ほどの人たちが乗り込める大きな木造船が発見されました。この沈没船は「新安沖シナンおき沈船ちんせん」と命名されました。船の内部は7個の隔壁かくへき〔船体の強度を保ち、座礁などの際の浸水を最小限にくい止めるために設けた船内を仕切る壁〕で8つの船倉に分けられていました。この沈没船からは、多くのものが引き揚げられました(資料1)。

↓沈没船の位置



↓沈没船から引き揚げられた陶磁器



【資料1】「新安沖沈船」の主な引き揚げ物

- | | |
|------------------------------------------------------------------|------------------|
| (1) 陶磁器など | 20,672個 |
| (2) 金属原料 <small>すず</small> (大部分は錫のインゴット〔塊〕 <small>かたまり</small>) | 300個 |
| (3) 銅銭 | 28,018kg (800万枚) |
| (4) 紫檀材 <small>したん</small> | 2㍍程に切られている木材939本 |
| (5) 胡椒などの香辛料 <small>こしょう</small> | |

(1)~(5)のほとんどが、運搬用の木箱に納められていました。

- | | |
|-------------------|------|
| (6) 木簡〔文字が書かれた木片〕 | 364枚 |
|-------------------|------|

10×2.5㍍程の大きさで、人名や寺院名、役所名のほか、日付、数量が書かれていました。

問題1の謎解き

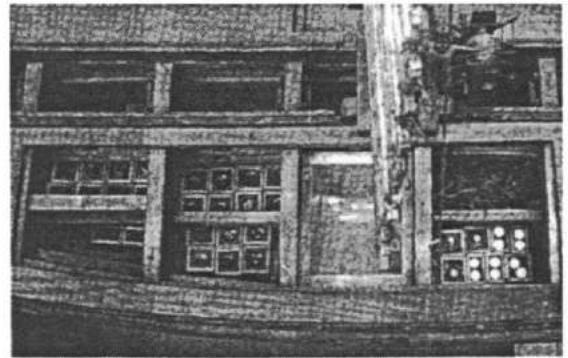
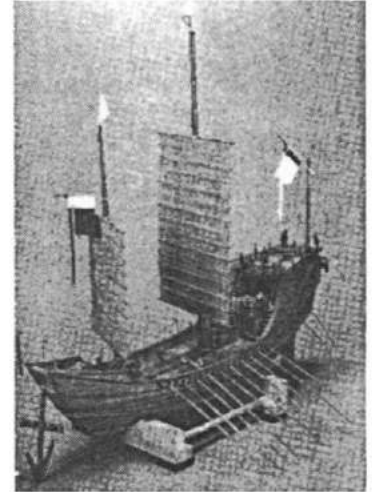
「新安沖沈船」は商品を満載した貿易船

では、【資料1】を分析して、「新安沖沈船」の正体について謎解きをしてみましょう。

「新安沖沈船」の引き揚げ品の中に武器類が含まれていないことから、この沈船は軍艦（軍船）ではないと思われます。また、隔壁によって仕切られた船倉には、2万個以上の陶磁器、28トンの銅銭、高級品であった紫檀材千本などが積み込まれていたことや、引き揚げられた陶磁器の多くがきちんと箱詰めにされていたことから、これらの積荷は船員や乗客の「日用品」ではなく「商品」であったと考えられます。これらのことから、「新安沖沈船」は客船や漁船ではなく、貿易船であったと推理できます。

沈没船が引き揚げられた新安沖はつねに潮流が速く、航海の難所でした。海底に厚い泥層^{でいそう}がたい積していたことが、「新安沖沈船」の積荷をまもることになりました。木製の沈船やその積荷はフナクイムシやキクイムシなどの海の小生物によって荒らされ、朽ちてしまうのが普通です。しかし、「新安沖沈船」の場合は、大量の銅銭や陶磁器、紫檀材という重い積荷のおかげで早く泥に埋まりました。その結果、引き揚げられた船は、その上部は貝殻^{かいがら}などがびっしりとつき無惨な姿でしたが、下部の船倉部分は幸運にも泥層に埋まっていたため、今日まで、ほぼ元の姿を留めることができました。

↓沈没船の復元模型（上）
と内部の構造（下）



↓「新安沖沈船」から引き揚げられた木簡



問題2 「新安沖沈船」はどこから（出港地）

どこへ（目的地）商品を運ぼうとしたのでしょうか？

「新安沖沈船」については、その引き揚げ物の研究から、①いつ沈没したか？ ②出航地はどこか？ ③積荷の依頼主は誰で、目的地はどこか？ など、多くのことが判明しました。では、歴史学者になったつもりで「新安沖沈船」の引き揚げ物の研究から分かったことを根拠にして、この謎解きにチャレンジしてみましょう。

「新安沖沈船」の引き揚げ物の研究から分かったこと。

〔Ⅰ〕陶磁器

- (1) 陶磁器20,672個の生産国の内訳は、中国製陶磁器が20,661個を占め、高麗製（当時、朝鮮半島にあった国）は7個、日本製は4個でした。
- (2) 中国製陶磁器の内、およそ60%が当時の陶磁器の代表的産地であった竜泉窯製です。高級品は少なく、普及品がほとんどを占めていました。
- (3) 引き揚げられた中国製陶磁器からは、14世紀後半から生産が始まる「染め付け」磁器は発見されませんでした。

〔Ⅱ〕銅銭

- (1) 銅銭28,018kg（個数にして、800万枚）。ほとんどが中国の貨幣で、その種類は62種に及んでいます。
- (2) 引き揚げられた銅銭の中で最も新しいものは、「至大通寶（宝）」で、至大3、4年（1311、12年）のわずか2年間しかつくられませんでした。
- (3) 「至大通寶（宝）」の後、「至正通寶（宝）」が至正10年（1350年）にあらわれるまで、中国では新しい銅銭はつくられませんでした。「新安沖沈船」からは、「至正通寶（宝）」は発見されていません。

〔Ⅲ〕木簡

- (1) 多数の木簡（前頁の写真を見てください）が陶磁器や銅銭などの積荷と一緒に引き揚げられました。木簡には「東福寺」（京都にある臨済宗寺院）と書かれたものが一番多く（41枚）、僧侶の名や「いや次郎」など日本人と思われる名も記されていました。
- (2) 「至治3年」という日付の書かれたものが8枚発見されました。「至治」は元の年号で、「至治3年」は1323年にあたります。

〔Ⅳ〕その他

- (1) 「慶元路」と刻印された秤の「おもり」が発見されました。「慶元路」は中国南部の港湾都市、寧波のことです。「路」とは、元の時代に行政上の単位として用いられました。

作業 下の表は、「新安沖沈船」の引き揚げ物の研究から分かったことの内容を整理するためにつくった表です。「①いつ沈没したか?」「②出航地はどこか?」「③積荷の依頼主は誰で、目的地はどこか?」を考える上で役に立つ情報を書き込んでみてください。

表 「新安沖沈船」の引き揚げ物の研究から分かったことの整理

	①沈没した時期	②出港地	③依頼主・目的地
(I)陶磁器			
(II)銅銭			
(III)木簡			
(IV)その他			

では、君は表の分析から①②③についてどのように推理するか、答えてください。

- ①いつ沈没したか?
- ②出航地はどこか?
- ③積荷の依頼主は誰で、目的地はどこか?

問題2の謎解き 「新安沖沈船」は東福寺のために仕立てられた日本向け貿易船

①いつ沈没しましたか？

- A. 引き揚げ物の陶磁器の中に「染め付け」磁器が含まれていないことから、引き揚げられた陶磁器の製造時期は14世紀中頃以前であると推理できます。
- B. 引き揚げられた銅銭の種類や製造年代から、「至大通寶（宝）」がつくられた1311年から「至正通寶（宝）」がつくられる1350年までの間に沈没した可能性が高いことが推理できます。
- C. 木簡を陶磁器などの商品に付けた荷札であると考えれば、「至治3年」（1323年）に出航したと推理できます。至治3年（1323年）という年は、引き揚げられた陶磁器や銅銭の製造時期から推理した沈没年代と比較しても矛盾しません。「新安沖沈船」には積荷が満載されていたことから、出航してまもなく難破し新安沖に沈没したと思われます。

「新安沖沈船」は至治3年（1323年）に沈没したと推理できます。

②出航地はどこでしたか？

- A. 2万個に及ぶ陶磁器の内、日本・高麗製の11個を除いたすべてが中国製であること、また、その中でも竜泉窯製の普及品が多数を占めたことから、「新安沖沈船」は竜泉窯に近い中国の港から出港したと考えられます。
- B. 銅銭28トン（800万枚）のほとんどが中国の貨幣であること、また、その中には当時中国を統治していた元の銅銭も含まれていたことなどから考えますと、これほど大量の銅銭を集めることが可能な地域は製造地の中国以外に考えられません。「新安沖沈船」は中国の港から出港したと推理できます。
- C. 「慶元路」と刻印された秤はかりのおもりから、出港地として中国南部の港湾都市、寧波ニンポーの可能性が高いと考えられます。おもりに「…路」という元の行政単位が使われていたことは、①の沈没年の時期とも矛盾しません。右の地図「新安沖沈船関係図」から分かるように、竜泉窯陶磁器の積出港として、寧波（慶元路）は最適の港と考えられます。

「新安沖沈船」は中国南部の寧波（慶元路）から出航したと推理できます。

↓地図 「新安沖沈船関係図」



↓「新安沖沈船」から引き揚げられた「慶元路」と刻印されたおもり（左）と木簡



③積荷の依頼主や目的地はどこでしたか？

- A. 「新安沖沈船」の積荷の中では、2万個に及ぶ陶磁器と28トン（800万枚）の中国製銅銭が目立ちます。当時、これらの商品を必要としていた国は日本でした。このことから、「新安沖沈船」の目的地として、日本の港（おそらく博多）であった可能性が高いと考えられます。
- B. 木簡を荷札と考えるならば、「東福寺」や「いや次郎」は積荷の依頼主であったと推理できます。とりわけ、「東福寺」の名が頻繁に登場することから、「新安沖沈船」は「東福寺」のために仕立てられた貿易船であったと推理できます。

「新安沖沈船」は「東福寺」のために仕立てられた日本向け貿易船であったと推理できます。

↓「新安沖沈船」からの主な引き揚げ物



問題3 なぜ、日本の貿易船が元に渡ったのですか？

作業 (1)「新安沖沈船」は日本の東福寺のために仕立てられた貿易船であり、1323年に中国南部の寧波（慶元路）を出航して朝鮮半島の新安沖で遭難して沈没したと思われます。では、この時代（鎌倉時代）の日本と中国・モンゴル・朝鮮の動きについて、下の年表にまとめてみてください。

↓年表 鎌倉時代の日本と東アジアの動き

日本の動き	東アジア（中国・モンゴル・朝鮮）の動き
1192 源頼朝、征夷大將軍 <small>せいゐたいしやうぐん</small> となる。	1206 チンギス・ハーンがモンゴルを統一
1333 鎌倉幕府の滅亡	

(2)鎌倉時代の日本と元、高麗との関係はどうだったのでしょうか。年表「鎌倉時代の日本と東アジアの動き」から分かったことを書いてください。

(3)元の歴史を記録した『元史げんし』に、当時の日本と中国（元）の関係を示す興味深い記述があります。それは「1277年に日本から商人が黄金をもって中国にやって来て銅銭との交換を行おうとしたので、元がこれを許可した。」という記事です。元の日本への第1次遠征ぶんえい えき（文永の役、1274年）と第2次遠征こうあん えき（弘安の役、1281年）の間の時期に、日本の貿易船が元に渡ったという奇妙な状況を君はどう考えますか。このことを合理的に説明してみてください。

問題3の謎解き 国際色豊かな「新安沖沈船」の乗組員

鎌倉時代（12世紀末から14世紀前半）の東アジア（元、高麗及び日本）については、元の宋（南宋）征服や日本への侵略（元寇）など、戦争と混乱のイメージがあります。しかし、『元史』の記事や「新安沖沈船」の発見などから明らかなように、日本と元の経済交流や文化交流は宋や明に比べてみても、ひけをとらなかつたといわれています。

日元貿易によって、銅銭と陶磁器のほか書画や書籍・仏教の経典が日本に輸入されました。当時の日本では、貨幣をつくっておらず、輸入された中国銭がそのまま流通していました。鎌倉時代以降は商工業が発展し、貨幣の需要が急速に高まったため、大量の銅銭が中国から輸入されることになりました。また、中国製陶磁器なども高値で取引されました。中国からの輸入品が大きな利益をもたらすことが分かると、鎌倉の幕府や京都の朝廷が中心となって、寺や神社を修理したりつくったりするための費用を得るために、貿易船を仕立てて中国に派遣することがたびたび行われました。「新安沖沈船」の場合は、東福寺再建費用をつくるための貿易船だったと考えられています。

では、日元貿易で扱われた日本からの輸出品について自分で調べて、下の表を完成させてください。


輸入品	輸出品
<ul style="list-style-type: none"> ・陶磁器 ・銅銭 ・書画 ・書籍 ・仏教の経典 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・ ・

「新安沖沈船」からの引き揚げ物には、陶磁器や銅銭などのほかに、いろいろな生活用具が含まれていました。これらのものから、当時の東アジアの人々の交流の様子が分かりました。


引き揚げられた生活用具

- ・フライパン状の中国式鉄鍋（写真①）
- ・日本製の漆椀（写真②）、将棋の駒、下駄、刀の「つば」など。
- ・高麗製の匙

↓写真①



↓写真②



引き揚げられた生活用具から、「新安沖沈船」の乗組員の出身国が推理できます。例えば、今日の中華鍋^{なべ}を思わせるフライパン状の鉄鍋^{てつなべ}が、「新安沖沈船」から十余個引き揚げられています。このことから、中国人がこの沈没船に乗船していたことが想像させます。

また、漆碗^{うるしわん}や将棋^{しょうぎ}の駒^{こま}、下駄^{げた}、刀のつばなどは、日本人の持ち物であったに違いありません。高麗式の匙^{さし}も見つかっていることから、高麗人も乗り込んでいたと思われます。乗組員は、中国人・日本人・高麗人の3民族混成であったと考えられます。

当時の東アジアは元寇に見られたような戦争と混乱の中がありました。このような状況下でも、貿易が盛んに行われ、それを支えていた人々がいました。「新安沖沈船」からの引き揚げ物は、国同士が戦争し対立していた時代でも、日本、中国、高麗の人々は東シナ海を舞台にして、お互いに協力しながら貿易を行い、平和的交流を進めていたことを証明してくれています。

福岡市立博物館（福岡県福岡市）に「新安沖沈船」についての展示があります。アクセスして、調べてみましょう。

<http://www.city.fukuoka.jp/shisetsu/museum/index.htm>

参考文献

- ・『新安海底引き揚げ文物』中日新聞社、1983年。
- ・亀井明德『日本貿易陶磁史の研究』同朋舎、1985年。
- ・森克己『新訂 日宋貿易の研究』国書刊行会、1986年。
- ・『週刊朝日百科日本の歴史4 中世1』朝日新聞社、1989年。
- ・杉山正明・北川誠一『世界の歴史9 大モンゴルの時代』中央公論社、1997年。
- ・歴史学研究会編『シリーズ歴史学の現在1 越境する貨幣』青木書店、1999年。
- ・森本朝子「海底考古学—新安の沈没船を中心に」濱下武志ほか3名編『海のアジア5 越境するネットワーク』岩波書店、2001年。

（田尻 信壹）

第3節 経済的視野に立つ日中相互理解の教材開発 「わたしたちの暮らしと経済」——変化し続ける日中の経済交流——

1 はじめに

「沸騰する経済」「改革・開放」「世界の工場」「WTO加盟に伴う大競争時代への参入」「最後の巨大市場」等々、これらが1990年代以降に冠せられた中国（中華人民共和国）への、的を射た称号である。いまや隣国である我が国も、様々な経済の局面で彼の国に圧倒されつつあるのが実情である。

そこで、中学校社会科公民的分野においても、学習内容の主要な柱である現代の経済問題を現実
に即したものにするために、「日中の経済交流」の視点を加味する必要性が生じてくる。消費者の視
点から迫るミクロ経済の学習、市場経済や金融のしくみを探るマクロ経済の学習、さらに財政の役
割の追究から現代経済の課題の学習まで、経済学習のすべての視点において、「日中の経済交流」の
要素が欠かせないものになっている。

以上の認識のもとに、本稿を以下のように構成する。まず最初に、中学校学習指導要領の社会科
公民的分野の1989年版と1998年版の関連記述箇所を指摘し検討する。次に、中学校社会科公民的分
野の教科書分析をおこなう。さらに、中学校社会科における「日中の経済交流」を明らかにしよう
とした授業実践を分析する。そして最後に、「変化し続ける日中の経済交流」の視点を加味した、公
民的分野経済学習大単元の教材開発および授業構想を提案する。

2 「日中の経済交流」の実践の根拠および実践分析

(1) 学習指導要領の関連記述

中学校社会科公民的分野の、「日中の経済交流」と関わる記述は以下のようにになっている¹⁾。

1989年版	1998年版
	<p>2 内容 (1)現代社会と私たちの生活 ア 現代日本のあゆみと私たちの生活</p> <p>現代日本の発展の過程と国際化の進展のあらましについて理解させるとともに現代社会の特色に気付かせる。<u>その際、高度経済成長から今日までの我が国や国際社会の変容について、国民生活と関連させて理解させるとともに、国際社会における我が国の役割について考えさせる。</u></p>

2 内容 (2)国民生活の向上と経済
ア 生活と経済

身近な消費生活を中心に経済活動の意義とあらましを理解させる。その際価格の動きや物価の動き、貯蓄、保険、租税などを取り上げるとともに、現代の生産の仕組みと関連させて、社会における企業の役割について理解させる
(以下、略)。

ウ 経済生活と国際協力

貿易などを通じて経済生活が国際的な関わりの中で営まれていることについて考えさせるとともに、貿易の意義と役割を理解させる。また、国際的な協力が我が国及び世界の経済の発展にとって大切であることを理解させるとともに、世界には資本主義経済のほか社会主義経済を建前とする諸国があることについても理解させる。

2 内容 (2)国民生活と経済
ア 私たちの生活と経済

身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の動きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。また、現代の生産のしくみのあらましや金融の動きについて理解させるとともに、社会における企業の役割と社会的責任について考えさせる
(以下、略)。

※傍線、筆者

新旧の比較から明らかなことは、経済の国際的な関わりの学習が「新」では(1)に繰り上がったことである。昭和史、特に戦後史の文脈の中で、我が国の経済の国際化について考えさせる構成になっている。

また身近な消費生活、つまりミクロ経済の理解から入り、市場経済つまりマクロ経済の理解に至る構成は不変である。さらに生産のしくみの理解から企業の役割の理解に至る構成も不変である。

以上の3点から、消費者の視点を中心に、経済の国際化、企業の役割等を中学生に理解させることが求められていることがわかる。この求めに対する現実に即した対応の1つとして、「日中の経済交流」の教材・単元開発が有効である。「メイド・イン・チャイナ」の商品を抜きにして、生産も消費も語ることはできないからである。

(2) 公民教科書の関連記述

『新しい社会 公民』（東京書籍版）の第1章「現代社会とわたしたちの生活」の⑥に「パンダが日本にやってきた」というタイトルの1単位時間の授業設定がある²⁾。その本文を記してみる。

日本の外交と日中関係の変化

1956年、日本は国際連合への加盟を実現し、国際社会に復帰しましたが、中華人民共和国とは国交のないままでした。1971年、中華人民共和国政府が国際連合の代表権を得ると、両国は急速に接近し、その後、日中共同声明に調印して、国交を回復しました。パンダは、その記念として、中国側から日本に贈られたもの

です。1978年には、日中平和友好条約が結ばれ、両国の交流が本格化しました。

現在、日本は中国にとって最大の貿易相手国であり、援助国となっています。日中間の交流は、政府間だけでなく、都道府県や市町村、あるいは企業どうしでも、さかんに行われるようになりました。わたしたちの身のまわりにも、「Maid in China」と書かれた品物をたくさん見つけることができます。また最近では、「トキの保存」のような自然環境にかかわる問題などについても、日中間の協力が深まり、成果が上がっています。(傍線、筆者)

本文中の傍線の部分が、学習指導要領における「戦後史の文脈の中の、我が国の経済の国際化」について考えさせるもとになる記述である。特に中国を取り上げるのは、戦前まで「不幸な関係」にあった日本と中国が国交を回復し、国、地方公共団体、企業等の様々なレベルで「経済交流」が進展してきたことを際立たせたいからである。

学習内容を整理すると、「Maid in China」の品物はミクロ経済の学習であり、また市場価格という点でマクロ経済の学習にもなる。また貿易を中心とした様々なレベルの経済交流もマクロ経済の学習になる。さらに経済援助について触れれば、財政の役割の学習にもなる。

ところがこの1単位時間の設定以外には、公民の教科書には「日中の経済交流」の記述はまったく見られない。第4章「わたしたちの暮らしと経済」に、「わたしたちの生活と経済」「市場経済と金融」「国民生活と福祉」という3つの小单元があるが、「日中の経済交流」に触れた記述は1行もない³⁾。価格の動きや生産のしくみを考えさせる時、学習内容を現実³⁾に即したものにするためには「日中の経済交流」の視点が不可欠であると前述した。しかるに現行の公民教科書においては、戦後史の文脈の中に封印されている。

(3) 中学校社会科における「日中の経済交流」の授業実践

中学校社会科公民的分野の授業実践報告の中で、「日中の経済交流」を具体的に明らかにした事例を見いだすことはできなかった。その原因は、前記の教科書の記述と無関係ではないと判断する。教科書レベルでは、経済単元で「日中の経済交流」の視点が無いのである。

わずかに地理的分野の実践報告に、近似的な事例を見いだすことができた。石井郁男・安井俊夫・川島孝郎編『ストップ方式による教材研究の1単元の授業21 中学社会地理』の中に、「“巨竜”中国は今」と題された単元開発が紹介されている。「教材の研究」と「授業の流れ」に構成が分かれているので、その順で概略を紹介する⁴⁾。

教材の研究

1、身近な中国

生徒の身の回りの品から「メイド・イン・チャイナ」を探し出す。

2、現地を訪ねる

特に上海の急速な都市化の様子を体験から伝える。

3、中国の“社会主義市場経済”とは

『新民晩報』の記事から大都市の変化を読み取り、社会主義市場経済の意味を探らせる。

4、中国の経済急成長

華僑資本と安価で質の高い労働者の結びつきを、中国国内企業を例に紹介する。また民工潮の動きを紹介する。

5、アメリカの中国認識

米中貿易の変化から、アメリカの第一の関心が中国にあることを読みとらせる。

6、中国のWTO加盟

江沢民のアメリカ・ボーイング社での演説から、アメリカ航空機業界の後押しによる中国のWTO加盟の実態を探らせる。

7、“巨竜”中国は今

開発に伴う環境破壊、欧米資本導入の停滞、共産党幹部の腐敗、一人っ子政策の失敗、台湾問題等、中国の抱えている問題を紹介する。

授業の流れ

第1時 中国とはどんな国か？

「日中の面積比較」「中国国民の多民族性」「少数民族の生活様式」「メイド・イン・チャイナの製品」「米中・日中貿易の拡大」など5点の認識。

第2時 中国の経済はなぜ急成長しているのか？

「中国の自動車（自動車）生産」「自動車運転手の生活」「上海浦東地区の開発」「華僑と世界中のチャイナタウン」など4点の認識。

第3時 中国が今かかえている問題と、その解決策は何か？

「アメリカ・ボーイング社の中国への航空機売り込み」「米中関係の拡大」「中国のWTO加盟」「中国の抱える課題—環境破壊、人口問題・国営企業の赤字・役人の腐敗・中台関係・盲流（民工潮）—」など4点の認識。

「教材の研究」「授業の流れ」から以下の特徴を読み取ることができる。

第一に、地理分野の授業と言いながら、その殆どが経済地理の内容になっていることである。中国経済のグローバル化をいくつかの視点から解き明かそうとしている。第二に、表象的な経済現象の断片的な解説に終始している。例えば生徒の身の回りに「メイド・イン・チャイナの製品が溢れている」という指摘だけにとどまり、なぜそうなのか深めようとはしていない。第三に、米中関係ばかりを意識的に扱い、日中の経済交流を脇役にしている。

地理的分野の単元だから、日本にも溢れる「メイド・イン・チャイナ」製品の分析、とりわけ価格分析に深入りしなかったのかも知れない。「日中」ではなく「米中の経済交流」に焦点化したのは、環太平洋の認識を導き出したかったからかも知れない。

だからこそ公民的分野の授業づくりでは、「日中の経済交流」の視点を具体化させたい。

3 「日中の経済交流」の教材化および授業構想

(1) 「日中の経済交流」の教材化構想

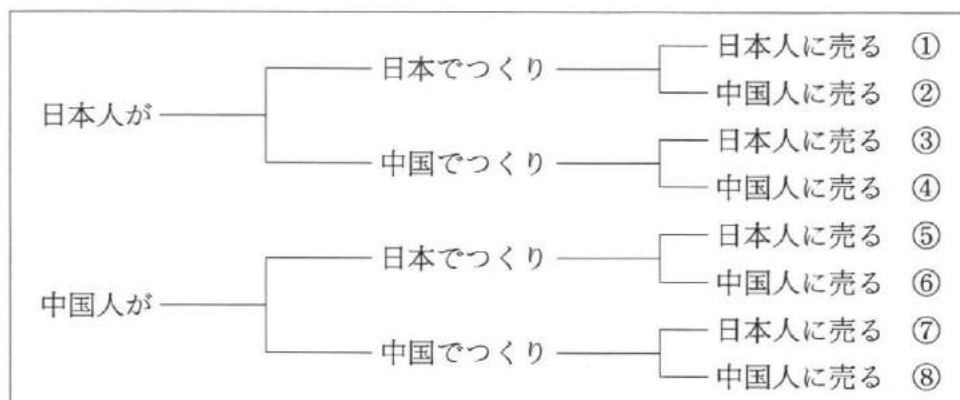
先にも触れた通り、中学校社会科公民的分野には、「わたしたちの暮らしと経済」という大単元がある⁵⁾。この大単元の学習内容は、次の3点に集約できる。

①消費者の視点（ミクロ経済的）から流通や生産のしくみを探る。

②マクロ経済的に市場経済や金融のしくみを探る。

③財政のはたらきから福祉や環境の問題に迫り、日本経済の課題を探る。

この①から③の学習内容のすべてに、「日中の経済交流」の視点を加味させる。そのためには経済活動の根本である「ものをつくって売る」という行為を、日中間で整理する必要がある。以下にモデルで示してみる。



この8通りのパターンの中のすべてに、「日中の経済交流」の具体例がある。①や⑧のパターンは一見、日中の相互交流が無いものに見える。しかし例えば、日本人が日本でつくっていても中国人の技術供与がある場合があるし、中国人が中国でつくったとしても、同様に日本人の技術供与が及んでいる場合もあるのである。

そこで具体的な教材化構想を示す。単元の導入で考えさせたい消費者の視点、つまりミクロ経済的な視点から教材を1例記し、あとはすべて次項の授業構想の中に譲る。

現在、日本の町中には「メイド・イン・チャイナ」の製品があふれている。代表例としては、烏龍茶、漢方薬、衣料品、100円ショップ商品、家電などがあげられる。ところでよくよくそれらの商品を見つめてみると、大きく2つに分類できることに気がつく。1つは「中国人が独自につくっているもの」、もう1つは「日本人が頼んで中国人がつくっているもの」である。

烏龍茶を例にとる。中国物産を専門的に扱う店で売られている高級品は前者であり、日本の商社や輸入代理店を通して輸入されている。けれどもコンビニなどの小売店でふつうに売られている、缶入りやペットボトル入りの烏龍茶は後者である。日本の飲料メーカーが中国に生産委託しているものである。単元の導入で「メイド・イン・チャイナ」の製品を分類してみるだけで、こうした興味深い事実気づかせることができる。そして、近年後者の事例が圧倒的に増えている事実気づかせることもできる。

この「後者」は、前記のモデルの③ないし⑦に該当する。「中国でつくり」「日本人に売る」主語が、日本人か中国人かの違いである。否、というより、日本人と中国人が中国で関わり合って、日本向けの製品をつくっていると言うべきだろう。こうした製品は、想像以上に我々の日常生活の中に溢れている。

教材化構想の導入の1例を示した。次に授業構想を示す。繰り返しになるが、授業構想の中に教材を具体的に折り込んでいくことにする。

(2) 「日中の経済交流」の授業構想 (特設単元、全11時間)

- ①単元名 わたしたちの暮らしと経済
—変化し続ける日中の経済交流—

②単元の目標

- ア、身の回りにある「メイド・イン・チャイナ」の商品から、日中の生産・流通・消費の関係を理解させる。
- イ、「中国でつくり、日本人に売る」実例から、そのメリットを理解させ、併せて商品の価格決定のしくみを考察させる。
- ウ、価格だけではない付加価値が、中国での生産管理にあることを考察させる。
- エ、ODA などによる中国への財政支出の中に環境技術供与などがあり、それに触発されて、民間企業ベースでも環境対策への貢献が見られることを理解させる。
- オ、「日本人に売る」のではなく「中国人に売る」ことで、日本企業の活性化（生き残り）が図られている新たな展開を理解させる。

③単元の指導計画

時	テーマ	指導内容
1	自分の身の回りにある「メイド・イン・チャイナ」の商品	商品を「中国人が独自につくっているもの」「日本人が頼んで中国人がつくっているもの」に分類させる。
2	日本と中国の生産・流通・販売の関係	商品の生産・流通・販売の8つのパターンを理解させる。
3	「中国でつくり・日本人に売る」その1 「ユニクロ」①	「ユニクロ」の中国での生産管理の特徴を理解し、そのメリットを考えさせる。
4	「中国でつくり・日本人に売る」その1 「ユニクロ」②	「ユニクロ」が展開している「匠プロジェクト」の意味を理解させる。
5	「中国でつくり・日本人に売る」その1 「ユニクロ」③	「ユニクロ」の流通革命によって生じた国内産業の変化を、多角的に理解させる。
6	市場経済のしくみ 「ユニクロ」と畳表の価格設定	価格競争に勝てず畳表等も中国産の買い付けに走っている現状について考察させる。
7	「中国でつくり・日本人に売る」その2 ーセーフガードと生協の豆腐ー	価格競争の面だけではなく、日本の生協が主導で中国の無農薬有機栽培の大豆生産がおこなわれている事実を確認させる。
8	中国の環境対策 ODAー日本による対中借款ー	日本政府のODAによる中国の環境改善対策が実施されている実情を理解させる。
9	「日本でつくり・中国人に売る」ー中国企業への環境技術協力ー	対中ODAに関係している日本の企業が中心になって、中国企業に環境技術協力を推進している実態を理解させる。
10	「中国でつくり・中国人に売る」ートヨタの対中国戦略ー	特に自動車産業の分野での中国市場進出の実情を理解させる。
11	まとめ ー日中の経済交流の課題ー	高級品と量販品と、棲み分けを前提とした「日中の経済交流」の課題を考えさせる。

④各授業の展開

以下に全11時間の授業構想を示す。

第1時 自分の身の回りにある「メイド・イン・チャイナ」の商品

学習内容・学習活動（主な発問）	教材	学習者に身につけさせたい認識
<ul style="list-style-type: none"> ・次の商品やカタログをよく見て、 ①全部に共通する点を見つけなさい。 ②大きく2つに分類するための観点をを見つけ出しなさい。 	烏龍茶 漢方薬 衣料品 100円ショップ商品 家電製品カタログ	<ul style="list-style-type: none"> ○全部に共通しているのは、「中国でつくられている」という点だ。 ○「飲む（服用する）もの」と「利用するもの」とに分類できそう。 ○「中国人が独自につくっているもの」と「日本人が頼んで中国人がつくっているもの」とに分類できそう。 ○高級品と安売り商品とに分類できるが、よく目にするのは後のほうだ。

第2時 日本と中国の生産・流通・販売の関係

学習内容・学習活動（主な発問）	教材	学習者に身につけさせたい認識
<ul style="list-style-type: none"> ・前時の、「中国人が独自につくっているもの」と「日本人が頼んで中国人がつくっているもの」は、どのような生産・流通・販売のしくみを持っているだろうか。 <p>教材化構想の構造図の①から⑧を説明し、烏龍茶と衣料品を例に流通経路を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①は当たり前のルート。 ②は従来の中国向け工業製品。 ③が「made in China」の衣料品。 ④は家電や自動車を中心。 ⑤は近年実例が出てきている。 ⑥は現実の問題とはならない。 ⑦が例えば烏龍茶。しかし工業製品でも加速しそうである。 ⑧「世界の工場」として勢いを増している。 	日中生産・流通・販売構造図（前掲） 商品別流通経路	<ul style="list-style-type: none"> ○中国人がつくったものを日本の輸入業者が入れているものと、中国での生産から日本人が関わっているものがあるね。 ○③が日本の消費者に与えている影響はすごい。 ○③や⑦が「価格破壊」や「デフレ」を加速させているに違いない。 ○日本企業の中国進出について具体的な企業の業務内容を通して知りたい。 ○中国人労働者がどのような暮らしをしているのか、そのことと製品の価格の安さがどのように関係するのか具体的に知りたい。 ○第1時の商品を分類し直してみたい。

第3時 「中国でつくり・日本人に売る」その1 「ユニクロ」①

学習内容・学習活動（主な発問）	教材	学習者に身につけさせたい認識
<p>・「衣料品」の中に「ユニクロ」製品があった。「ユニクロ製品」の生産・流通・販売について調べてみよう。</p> <p>①生産は中国にある契約工場で。 ②「生産管理」というシステムで生産・流通・販売をセットにし一社で独占的に扱う。</p> <p>・「ユニクロ」の東京本部の取材記録から、中国の契約工場や現地事務所について、さらに調べてみよう。</p> <p>①現地事務所が生産管理の拠点。 ②職場環境の整った工場で、若い女性職工が生き生きと働いている。</p>	<p>(株)ファースト・リテイリング東京本部の取材による資料1から4（資料3のベースマップは、「新編 中学校社会科地図」帝国書院、p.16から）</p>	<p>○「ユニクロ」は誰でも一着は持っている。そのすべてを中国でつくっているなんて驚きだ。</p> <p>○「生産管理」という一貫した生産・流通のシステムを採用しているから、品質と低価格を実現できるんだな。</p> <p>○上海と広州に事務所があってそこで契約工場との交渉をしているんだ。この地域は経済特区だね。</p> <p>○写真で見る限り、契約工場の職工さんたちは生き生きと働いている。賃金は現地では良いほうらしい。それでも日本と比べると人件費は1割程度だね。</p>

資料1



山口本社



東京本部 (渋谷マークシティ)



上海事務所 (中環大廈)



中国工場



店舗

私たちは、ぜんぶやる。

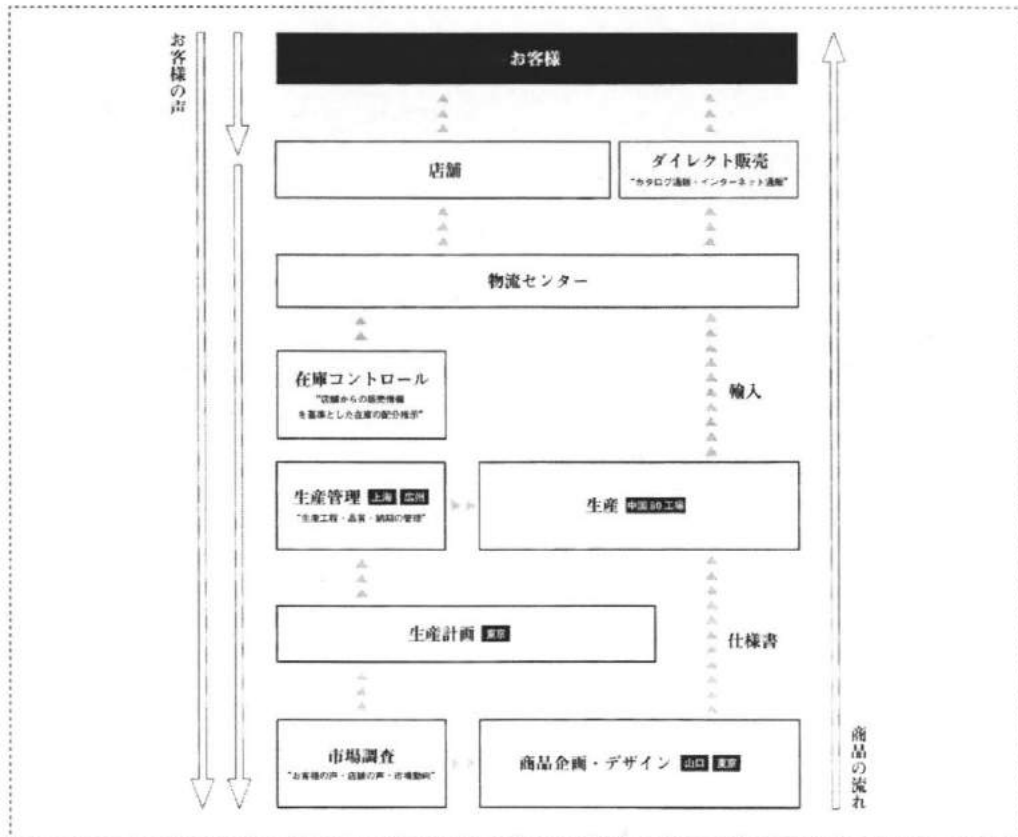
事業内容：企画・生産・物流・販売までの
自社一貫コントロールにより、
高品質・低価格のカジュアルブランド
「ユニクロ」を提供する製造小売業 (SPA)

〔カジュアル・ダイレクト〕

私たちは、3つのターニングポイントを経験しています。
第一が84年に広島に第一号店をオープンした時。
これを「カジュアルショップ」の時代と認識しています。
第二は91年にチェーン展開を始めた時です。
これは「カジュアルチェーン」の時代と認識しています。
そして第三が、98年の専門店オープンおよび
フリースキャンペーンが成功した時です。
これを、私たちは「カジュアル・ダイレクト」
の時代のはじまりと認識しています。
文字どおり、カジュアルショップは
カジュアルの単独専門店ということですし、
カジュアルチェーンはそのチェーンということです。
では、「カジュアル・ダイレクト」とはなにか。
顧客の要望をダイレクトに聞き、
企画・生産・物流・販売までのすべてのビジネス活動を見直し、
最適のビジネスモデルにすべてを組み立て直すことです。
それは、小売とかチェーンの枠を飛び越え、
生産と販売を直結して、川上から川下までもっとも無駄がなく
効率のよいビジネスモデルに組み替えて、
顧客のための新しいカジュアルを担う産業を私たちの手で創造することです。

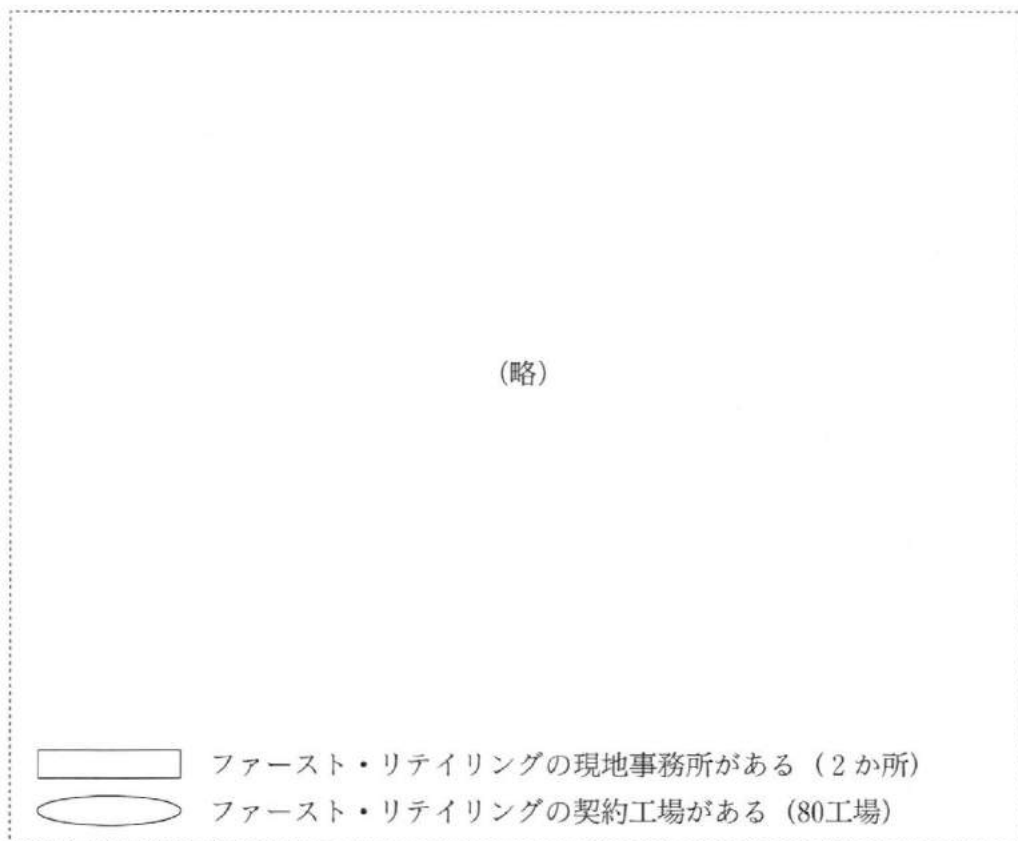
※この資料から、「私たちは、ぜんぶやる。」の「ぜんぶ」の意味を理解させるようにしたい。
そのためには、「生産管理」という言葉を正確に理解させる必要がある。

資料2



※資料1をフローチャートにしたものである。構造的な理解のために提示したい。

資料3



※ファースト・リテイリングの現地事務所と契約工場の位置を示した。人口密度との関係で、現地労働者の雇用が確保しやすい点や、製品の搬出がしやすい点に着目させたい。

資料 4



※この写真から、工場の規模がとてつもなく大きいことや、たくさんの若い女性職工が生き生きと働く姿を感じ取らせたい。また平均月収で彼女らは相対的に恵まれていることを説明したい。

第4時 「中国でつくり・日本人に売る」その1 「ユニクロ」②

学習内容・学習活動（主な発問）	教材	学習者に身につけさせたい認識
<p>・「ユニクロ」の戦略を特集したテレビ局のVTRを見て、何がわかりましたか。</p> <p>①いまやロンドンへも店舗進出 ②約20年前の開店時は「安かろう・悪かろう」のイメージ ③原宿店の成功 流通革命 ④中国の契約工場 約3億着生産 ⑤「匠プロジェクト」でスカウトされた日本人技術者、契約工場 で技術指導 ⑥工場の福利厚生の実情 ⑦契約工場に働く10万人職工 ⑧中国人職員の日本での研修 ⑨「ユニクロ」で再生された匠 ⑩技術に国境なし</p>	<p>VTR「捨てられたタグ ユニクロ・世界への戦略」</p> <p>（株）ファーストリテイリング東京本部の取材による資料5</p>	<p>○テレビで特集されるほど「ユニクロ」の流通革命は注目されている。</p> <p>○「ユニクロ」も開店時は苦労したんだ。</p> <p>○3億着ってすごい数だ。ほとんどの家庭に普及しているに違いない。</p> <p>○「匠プロジェクト」ってすごいアイデアだ。日本の縫製の技術ってすばらしいんだ。</p> <p>○「匠」の人は、技術指導の時とても生き生きしている。指導を受けている中国の人も楽しそうだ。</p> <p>○社員食堂はとってもきれいで、メニューも充実している。</p>

匠プロジェクトが、すべての服づくりを向上させる。

世界最高レベルのカジュアル企業の実現は、世界最高レベルの生産管理技術をもってはじめて可能になります。

私たちは、中国にある工場の生産管理を他の誰かに任せることなく、自分たち自身の手で行っています。

品質は何よりもユニクロの生命線。素材の厳選からはじまり紡績、染色、編み立て、縫製までのすべての工程で品質向上を図っています。

その中心メンバーが、日本人のベテラン技術者集団「匠チーム」です。日本の繊維技術の各専門分野において30～45年の豊かな経験をもつ技術者たちが、中国の工場で具体的な技術指導を徹底的に行っています。

服をつくることの本質とは、何か。それを知る技術者たちの情熱ある指導は、日本と中国の志のある若い技術者へと伝承されています。



※この資料は、VTRを視聴した後の補足説明に使いたい。VTRに登場した「匠」の一人を含め、この写真の面々は、中国人職工がつくる製品の品質向上に貢献していることを説明したい。またこの資料は、次時の授業の話し合いでも使用できることを念頭におきたい。

第5時 「中国でつくり・日本人に売る」その1 「ユニクロ」③

学習内容・学習活動（主な発問）	教材	学習者に身につけさせたい認識
<p>・前々時、前時の「ユニクロ」に関する学習を受けて、次の2点について話し合ってみよう。</p> <p>①「匠プロジェクト」にスカウトされた日本人技術者たちは、本当に充実感を感じているのだろうか。</p> <p>②「ユニクロ」の価格破壊によって日本企業に生じた反応や変化について考えてみよう。</p>	<p>「ユニクロ」関係の…</p> <p>①ホームページ ②取材記録 ③VTR</p> <p>無印良品等のホームページ 新聞記事</p>	<p>○「匠」の人たちは16、7人いるみただけで、スカウトされたのには事情がありそうだ。中には国内の価格競争に敗れて、自分の縫製工場を手放した人もいる。</p> <p>○高い技術が生かせる場があるのなら充実しているというべきではないのか。</p> <p>○100円ショップでも同様だが、「ユニクロ」でも類似の商品や販売形態が出てきている。</p> <p>○日本国内の繊維メーカーやアパレル産業は、「ユニクロ」を快く思っていない。それに対し、「ユニクロ」の社長は強気の発言を繰り返している。</p>

第6時 市場経済のしくみ 「ユニクロ」と畳表の価格設定

学習内容・学習活動（主な発問）	教材	学習者に身につけさせたい認識
<ul style="list-style-type: none"> 秋田県の畳製造業者が平成13年に、ジェットロ（日本貿易振興会）の中国大連事務所を通して、寧波産の畳表を買い付けた。どうしてこのような行動に出たのだろうか。 	秋田県中小企業団体中央会ホームページ	<ul style="list-style-type: none"> ○ジェットロを通して現地視察をした結果契約しているため、品質や量に不安がなかった。 ○日本国内の畳表に比べて、3%の特別関税がかかっても価格の面で魅力があった。 ○「ユニクロ」と同じで、価格の面で魅力があれば畳表だって中国産を頼る。
<ul style="list-style-type: none"> 新聞によれば平成13年4月23日から暫定的に、中国産のねぎ、生シイタケ、畳表にセーフガードが発動される。畳表に限って、どうしてこのような事態になったのか考えてみよう。 	熊本日日新聞平成13年4月10日付記事	<ul style="list-style-type: none"> ○中国産の安い畳表が大量に輸入されるので、熊本県八代市に代表される畳表農家が困って政府に訴えたのだろう。 ○高い関税をかけたなら中国側が怒って、日本からの輸入品に報復措置をとってくるのが予想できる。 ○いくら安い畳が良いといっても、日本の農家を守るためには考えなければならないことがある。
<ul style="list-style-type: none"> 結局同年12月に、セーフガードの本発動は見送られた。これに対して熊本県の農家は不安視している。どうしてだろうか。 	熊本県農業者政治連盟機関紙「みどりの風」2002年1月号	<ul style="list-style-type: none"> ○政府が輸入制限に踏み切らないと、市場経済に任されることになり、やはり畳表製造業者や消費者は、安価な中国製に傾いていくのではないか。

第7時 「中国でつくり・日本人に売る」その2 -セーフガードと生協の豆腐-

学習内容・学習活動（主な発問）	教材	学習者に身につけさせたい認識
<ul style="list-style-type: none"> 2001年12月、日本政府は、ねぎ、生しいたけ、畳表のセーフガードの本発動を見送った。畳表は前回学習したので、ねぎや生しいたけなどについて考えてみよう。 	経済産業省ホームページ・対外経済政策総合サイト 新聞記事	<ul style="list-style-type: none"> ○畳表と同じで、ねぎ、生しいたけなどは、中国産のものが半値くらいで買えるので、消費者が中国産に走るのには仕方がないのではないか。 ○中国産の野菜については残留農薬の問題が話題になっている。安いだけで選択してはいけないような気がする。

・確かに中国産の農産物に対しては色々考えなければならないことがある。しかし「生協エル」が輸入している中国黒龍江産の大豆にはとてもすごいことがある。それは何だろう。

豆腐 100 t

綏化（ソイホウ）の生産基地

寄せ豆腐 100 t

綏化（ソイホウ）の生産基地

小粒納豆 1200 t

852農場

丸大豆醤油 200 t

複数の農場

味噌 110 t

龍奇有機食品854生産基地

※2002年現在

以上5種類の加工食品も日本の複数の商事会社を経て生協エルが輸入

生活協同組合エル（千葉県船橋市）の契約関係資料

↑

「エコ・ECO・大洲中・探検隊」の入手資料6・7・8

- 日本の生協が主導で、中国の農家や工場に無農薬有機栽培の大豆や、その関連製品をつくらせている。
- まるで「ユニクロ」のように生協が「生産管理」をしていると言える。
- 一方で中国産農産物の農薬が問題になり、他方で無農薬有機栽培が展開されている。日中の物的交流はおもしろい。
- 生協の取り組みにはセーフガードは及ばない。
- 食品の安全審査を徹底している生協が輸入している食品なので、「無農薬有機栽培」というのは確かなのだろう。

資料6



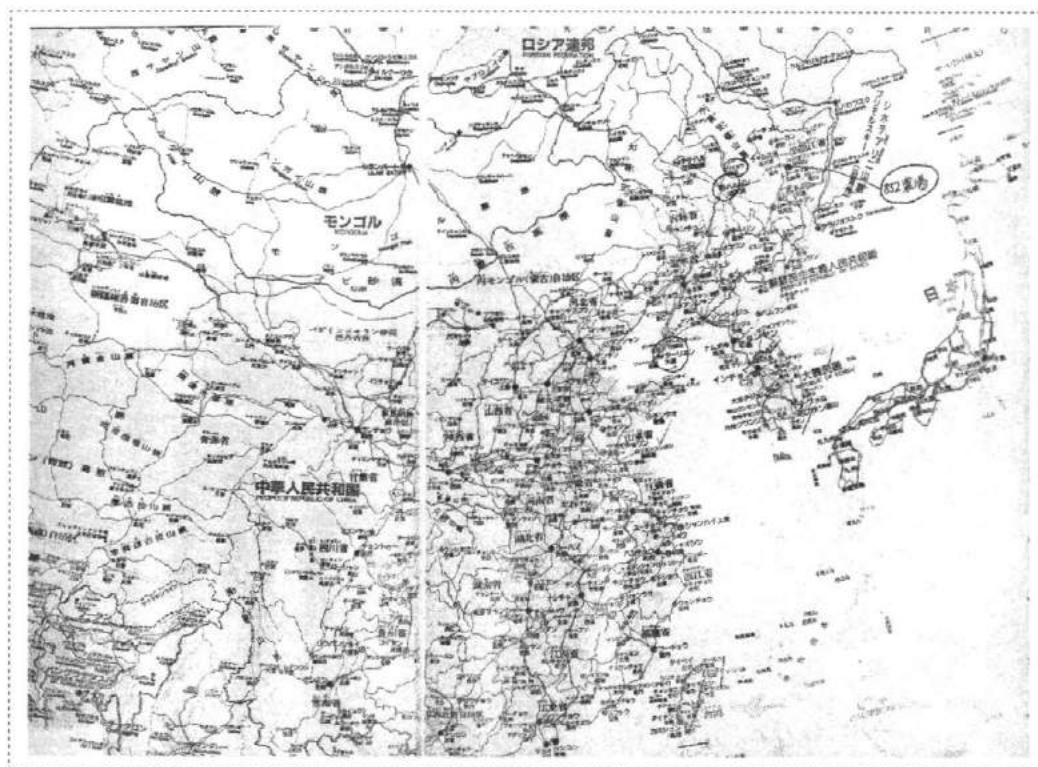
※2002年に撮影された黒龍江省、綏化（ソイホウ）の生産基地内の大豆畑の写真である。その広大さを感じさせたい。

資料7



※「生協エル」が有機無農薬大豆の契約栽培を依頼している黒龍江省852農場の、大豆栽培の1年をまとめた環境推進グループ作成の資料である。作業はほとんど人手に頼っていることが伺い知れる。綏化（ソイホウ）の生産基地との共通点にも気づかせたい。

資料8



※資料7に関連した地図である。生産基地や農場から大豆や大豆加工食品が哈爾濱（ハルビン）に集められ、貨車で大連（ターリエン）に搬送され、船便で日本に送られてくる。「ユニクロ」の生産管理が、中国の中南部だったのに対し、「生協エル」は東北部に進出していることを比較させたい。

第8時 中国の環境対策 OAD—日本による対中借款—

学習内容・学習活動（主な発問）	教材	学習者に身につけさせたい認識
<p>・前時でも学習した通り、中国でも環境に配慮した農業がおこなわれている。では、中国の環境保護対策は全体としてどのようにおこなわれているのだろうか。</p> <p>国家環境保護総局の仕事 （国务院直属） 環境保護に関する政策立案 経済開発に対する環境影響評価 公害防止に関する法規の制定 環境汚染地域の調査・処理 環境汚染に関する紛争の調停 省ごとの環境政策を指導 環境 NGO の参画の促進 環境問題関連の国際事業に参加 原子力安全対策の実施</p>	<p>日中友好環境保全センターホームページ</p>	<p>○中国にも日本の環境省に似た国家機関がある。</p> <p>○設立されたのは日本より後になる。</p> <p>○環境影響評価がすでに始まっているみたいだが、実際に機能しているのだろうか。</p> <p>○環境汚染に関する紛争を調停する機能を持っているということは、環境省よりも権限が強そうだ。</p> <p>○日本の生協が関係した無農薬有機栽培については、環境保護総局は把握しているのだろうか。</p> <p>○原発の安全対策はどのように進められているのだろうか。</p>
<p>・中国でも環境対策が進んでいることがわかったが、日本政府のODAによる円借款によって、日中共同による中国の環境モデル事業として何がおこなわれているのだろうか。</p> <p>2000年度の対中国円借款は約2000億円 持続可能な成長を促すプロジェクト 環境と開発の両立をめざす 大気汚染・水質汚濁対策事業 環境モデル都市設定 貴陽・大連・重慶</p>	<p>日本政府のODA 関係資料</p>	<p>○中国では急激な経済成長が続いているので、それに伴う環境問題が起こっている。</p> <p>○円借款の対象事業を見ると、「環境モデル都市」「環境汚染対策」「汚水対策」「上下水道の整備」が目白押しだ。これなら、技術的なノウハウを持つ日本が協力できる。</p> <p>○中国でも「持続可能な成長」という考え方が出てきているので、日中両国で環境対策を実施するのは、日本にとってもプラスになる。</p>

第9時 「日本でつくり・中国人に売る」 - 中国企業への環境技術協力 -

学習内容・学習活動（主な発問）	教材	学習者に身につけさせたい認識
<p>・2001年6月に、中国、北京で「第7回中国国際環境保護展覧会」が開催された。前時で学習した国家環境保護総局が主催している。日本を含め12か国が出展した。これは何を意味しているだろうか。</p> <p>出展品目 環境汚染防止技術・設備 環境測定計器 省エネルギー関連製品 無公害食品など</p> <p>・中国には環境保護事業を手がける企業や団体が1万以上あり、全国環境保護産業第10次5か年計画が進行中で増加が予想される。日本の環境関連産業は、今後どのような動きを見せるだろう。</p>	<p>(社) 日本産業機械工業会環境装置部会ホームページ</p>	<p>○中国政府や企業が、環境汚染防止にとっても関心が高く、海外の先進的な環境技術を積極的に取り入れようと開催している。</p> <p>○日本からは26社が出展している。きっとODAに関係している企業に違いない。</p> <p>○日本産業機械工業会という社団法人が、出展の仲介をしている。</p> <p>○無公害食品とは自然食品のことを指すのだろう。</p> <p>○中国の「環境保護展覧会」に出展した日本の企業数は少ないが、今後ますます増えていくに違いない。</p> <p>○「ユニクロ」や「生協」とは違う業務提携が進むだろう。日本の環境産業は公害を克服した技術を持っているので、技術供与や人的交流の面で、中国のニーズは高いと思われる。</p>

第10時 「中国でつくり・中国人に売る」ートヨタの対中国戦略ー

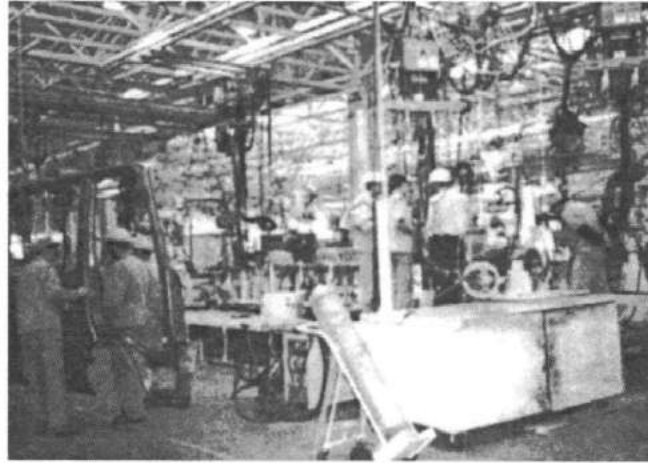
学習内容・学習活動（主な発問）	教材	学習者に身につけさせたい認識
<p>・日本国内の自動車メーカーや諸外国の自動車メーカーに比して、トヨタは中国への進出が遅れているが、1990年代以降なぜ巻き返しに出たのだろうか。</p> <p>瀋陽プロジェクト 1984 瀋陽自動車への車輜輸出 1988 金杯自動車との提携 1990 技能工養成センター開校</p> <p>四川プロジェクト 1998 四川トヨタ自動車有限会社設立 2000 コースター（中型バス）ラインオフ開始</p> <p>天津プロジェクト 1995 中国国産化技術支援センター設立 2000 天津トヨタ自動車有限会社設立</p> <p>夏利（シャレード）生産 VIOS 生産</p> <p>長春 第一自動車との包括提携進行</p>	<p>トヨタ自動車広報部／中国部作成資料 「中国におけるトヨタの活動」2002年4月版</p> <p style="text-align: center;">↑</p> <p>同広報部への取材により入手、資料9・10・11・12は同版からの抜粋</p>	<p>○トヨタはまず中国での「人づくり」から始めている。中国での若手技能工の養成は、将来の本格的な進出を想定してのものだろう。</p> <p>○四川では、中国におけるトヨタの国産車第1号のバスが生産されている。瀋陽で育てられた技術者たちも活躍しているのだろうか。</p> <p>○中国での乗用車生産はトヨタの宿願であったらしい。天津トヨタでの生産が軌道に乗ってきたことで、その宿願が成就しようとしている。</p> <p>○中国のWTO加盟によって、自動車の生産・販売市場の競争は激化するに違いない。</p> <p>○トヨタには独自の厳しい生産管理の手法がある。「中国で作り、中国人に売る」市場でも十分に機能するようだ。</p>

資料9



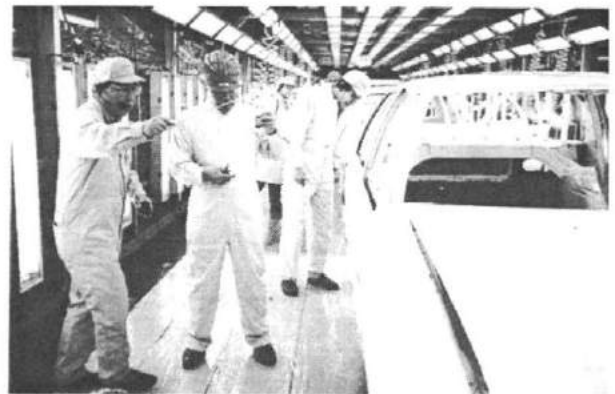
※日本人指導員による指導風景である。2001年6月までに、この技能工養成センターを卒業した若手技術者は1600名を超える。こうした「人づくり」があるからこそ、トヨタが各地で歓迎される素地があるのかも知れないことを考えさせたい。

資料10



※トヨタが導入した四川トヨタの先進的なラインである。このラインを動かすのはだれかという点を見逃さずにとらえさせたい。

資料11



※天津トヨタの現場指導風景である。日本の熟年技術者が中国の若手技能工に直接指導している場面である。企業には「オンザジョブトレーニング」つまり現場で学ぶという大切な過程があることを理解させたい。



※天津トヨタが中国で初めて生産・販売する新型セダン車「威馳 (VIOS)」の発表会の光景である。夏利 (シャレード) に比べると高級感があり、購買層も異なってくるだろうということを理解させたい。

第11時 まとめ 一日中の経済交流の課題一

学習内容・学習活動 (主な発問)	教材	学習者に身につけさせたい認識
<ul style="list-style-type: none"> ・「Q. 中国経済、伸び続けるの？」 「A. 高級品生産は発展途上、全土で消費増す余地も」 という記事からわかることをまとめてみよう。 ・私たちの消費生活は中国製品なしには成り立たない。 ・中国製品の中身とは？ 日本を含む外国企業が中国でつくらせた工業製品 日本企業が中国の農家に生産を委託した野菜 ・中国での生産の理由 低賃金と単純労働 専門技術者も低賃金で ・中国の製造業は発展途上 家電、自動車の基幹部品は日本企業製 衣料品の高級生地も日本製 ・農村部と都市部の経済格差 生産と消費は伸びる可能性 	<p>朝日新聞 NIE 関連記事 「みんなのニュースランド」2003.3.22</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「ユニクロ」の衣料品は高級品なのだろうか、普及品と呼ぶべきなのだろうか。 ○普及品を高級品に格上げさせているのが「匠」の技術なのかも知れない。 ○「生協エル」の無農薬有機大豆関連商品は、高級品になるのだろうか。 ○中国への環境技術協力も、中国の経済発展を加速させている要因なのだろう。 ○「トヨタ自動車」の中国での人づくりも、高級品化へのステップととらえられるかも知れない。 ○夏利 (シャレード) から VIOS への生産へシフトしているのは、中国でも高級品を購入できる購買層が増えてきているという証拠だろう。

4 おわりに——「日中の経済交流」の教材化・授業がめざすもの——

「変化し続ける日中の経済交流」の教材化、授業づくりを通じて、中学生および中学校社会科教師が、以下の4点を成就することをめざしたい。

- (1) 身近にある商品の生産・流通・販売そして消費に至るまで、「日中の経済交流」の視点から中学生が理解できるようになる。
- (2) 日中相互理解という観点から、日本人が中国人のために、中国人が日本人のために、相互にどのような経済的恩恵をもたらしているのか、中学生が理解できるようになる。
- (3) 現実に根ざした（日本）経済学習をするために、「日中の経済交流」の学習を中核にした単元開発を、中学校社会科教師ができるようになる。
- (4) 生きた経済学習ができるように、「足を使った取材による教材開発」を、中学校社会科教師ができるようになる。

【註および参考文献】

- 1) <http://www.mext.go.jp>
- 2) 文部科学省検定教科書『新しい社会 公民』東京書籍、2002年、pp.18-19
- 3) 上掲2) pp.94-123
- 4) 石井郁男「巨竜 中国は今」、石井郁男 安井俊夫 川島孝郎 編『1単元の授業21 中学社会 地理』日本書籍、2001年、pp.167-182
- 5) 上掲3)

他に、(株)ファースト・リテイリング(ユニクロ)東京本社、生活協同組合エル(本部、千葉県船橋市)、(株)トヨタ自動車東京本社の取材資料
(竹澤伸一)

コラム2

生協 (co-op) はどこにでもある

生協(生活協同組合 co-op)は日本全国にもれなく展開している。言うまでもなく加入組合員の出資金で運営されている組織である。宅配専門に徹しているところもあるし、一部店舗展開をしているところもある。生鮮食料品を中心に、一度は利用された諸兄も多いのではあるまいか。

生協の商品の品質管理は徹底している。組合員にソッポを向かれるような商品は決して販売しない。例をあげれば、人工の食品添加物を使用した商品は徹底して排除している。食品の安全について思いっきりこだわっている。自然素材の調味料に至っても、出目が明かでないものは扱わない。

このように商品に自信を持っているだけに、取材に対する敷居は低い。特に環境問題に関連した取材は歓迎してくれる。何年続けて取材に行っても、その都度新しい発見がある。全国どこにでもある組織なので取材源は無限にある。

ところで、中国産の野菜等の残留農薬が近年話題になった。安価なのだが消費者に不安視されている。しかし意外なことに、生協と中国の農家とのつながりは深いことが取材によってわかった。生協による生産管理によって中国の農家が無農薬の野菜をつくっているのである。

例えば大豆。国内でほとんど生産されなくなって久しい。中国の東北部のある農家で大規模に生産されている丸大豆は、無農薬有機栽培ですくすくと育っている。それを日本の食品会社が加工し、醤油、味噌を生協が販売している。取材してみるべし。
(竹澤 伸一)

コラム3

中国野菜と残留農薬

インターネットの項目検索で、「中国野菜と残留農薬」と入力すると、なんと3000件を超えるサイトが登場する。2002年の上半期に集中して露見した問題で、マスコミがここぞとばかり騒いだ。その中で比較的冷静に、かつ長期的に問題を追及していたのが毎日新聞である (<http://www.mainichi.co.jp>)。

「中国産野菜から残留農薬が相次いで検出されている問題で、厚生労働省と農林水産省が先月、合同で現地調査団を派遣したところ、中国側の検疫担当者が『残留農薬の検査はしているが、データはない。』と話し、逆に検査方法の伝授を日本側に求めていたことがわかった。中国側の食品安全管理のずさんさが改めて浮き彫りになった。」

まったく呆れた実態である。しかし中国産野菜の残留農薬の問題は、ここ数年で発生した問題ではあるまい。恐ろしくかなりの年月続いてきた問題に違いない。厚生省も農水省もやっと重い腰をあげて現地調査に踏み切ったのである。日本の食品行政は、年々歳々この種の愚行を繰り返してきている。

HP（ホームページ）を検索していく時、漫然と項目をクリックしても始まらない。視点を中国に向けるか、日本の行政に向けるか、あるいは日本の農家に向けるか、それとも日本の消費者に向けるかをはっきりさせたい。消費者に視点を向けた場合、安価な中国産野菜について手を出してしまう日本の消費者の学習能力の低さを、中学生とともに考えたい。しかし世の中は不景気、デフレ横行の時代である。中国産野菜に対する消費行動を文章化して、適切な論題を立てディベートをおこなうと、愚行とも思える消費行動を擁護する生徒も出てくると思われる。 (竹澤 伸一)

コラム4

本社広報部はととも親切

「そんなことは広報（部）を通して聞いてよ。」「コメントは広報を通して出します。」取材者に追いつめられた芸能人やプロスポーツ選手が、決まり文句のように叫ぶ一言である。広報部とは、その組織に所属する人間のほとんどすべてのことがらを代表する。

ファースト・リテイリング（ユニクロ）、トヨタ自動車、東京ガス、東京電力、JR 東日本、オリエンタルランド（東京ディズニーランド）、読売新聞、日本テレビ、京葉ガス、北越製紙、荏原製作所、市川環境エンジニアリング等々、ここ3年間で本社広報部に取材を申し込み足を運んだ企業群である。別にそれらに所属する社員を追いつめたわけではなく、社会科の授業づくりや総合的な学習の時間の企画のために本社広報部の助力を得に伺ったのである。環境に対する取り組み、中国との関わりなどを聞いた。

取材（質問）の趣旨をFAXやメールで予め送付して訪ねる。取材時間は長くて1時間半である。形式的な挨拶などそこそこにさっそく質疑応答である。多くはお茶さえ出ないが、話が途切れず中身が充実するのでかえってありがたい。学校の職員会議のような無駄がない。一流企業ほどそうだ。

広報部の人間は舌を巻くほど業務全域に精通している。一言一句が会社を代表しているから言い回しが慎重だが、会社のことで知らないことはない。有能だしとても親切である。「今の話、正確に伝わってないな。」と察すると、即座に別の言葉で説明しなおしてくれる人が多い。

意を尽くして取材を申し込んだのに、少数の例外だが断られたことがある。後年、その会社は倒産した。自信のある企業の広報部の門戸は広い。 (竹澤 伸一)

コラム5

100円ショップの動態地図をつくろう

100円ショップの存在を知らない人はいないだろう。「ダイソー」と「キャンドゥ」が二大大手だが、他に「生活良品館」「シルク」「99オンリー」などのチェーン店がある。100円という気安さのため、ついつい用のないものまで購入してしまう。

なぜ100円で売れそうもないものが100円で売れるのであろう。その秘密というかカラクリはとても興味深い。「メイド・イン・チャイナ」製品が多く、中国人現地労働者を搾取して生産しているから、そんな価格が実現するのだという論者もいる。本当だろうか。いつか徹底して取材してみたいものである。

注目したいのは、100円ショップの店舗の立地である。すべて訪れたわけではないので確たることは言えないが、圧倒的に駅に近いところに多い。駅前のテナントビルの一角を占めているケースが多いように思う。「あれ、ここ、この前までご婦人向けの趣味の店だったのに、いつの間にか百均に変わってる。」「大型スーパーが、生活雑貨のコーナーの半分を百均に譲ってしまった。」まるで近所の酒屋や雑貨屋が、ある日ある時コンビニに変身してしまったようなものである。

学校から半径何キロ以内に100円ショップがいくつあるか、動態地図をつくってみよう。その気になって探せば、店舗

のほんの一角が百均になっているところを含めると、驚くほどの数になる。大都市圏だけには限らない。

動態地図ができれば、いったいなぜ自分の街や近隣の街が百均に占領(?)されてしまったのか、思いを馳せてみよう。安いのは消費者にとって福音だが、巡り巡って自分たちの首を絞めていることに気づくかも知れない。

コラム5

新聞のページの半分は広告

28面から32面、これが全国紙のページ数である。地方紙も20ページ程度ある。スポーツ紙も然りである。面割り(何面にどんな記事)もだいたい決まっている。しかし「新聞なんてみんな同じさ」なんてことはない。A紙とS紙なんて180度異なる解説を書く。だからNIE(新聞教育)では複数紙を並行して読むことを勧めている。

ところで朝刊でも夕刊でも、新聞広告に注目したことはあるだろうか。日によって多少分量の差はあるのだが、全ページの半分は広告で占められていると言っても過言ではない。1ページぶち抜き広告。複数の商品が所狭しと踊っている広告のページ。下段4分の1が広告で占められている社会面。時には、中ほどのページが行けども行けども広告という日もある。

何しろ新聞社の経営の根幹にかかわるのが広告収入である。なかなか収支比率は明かしてくれないが、購読料と広告収入がトントンのところもあるに違いない。だから広告は無視できない。無視どころか時には刮目すべき広告も目に飛び込んでくる。

日本経済新聞を中心に掲載された広告に、「ファン・パオ。環境保護のことを中国ではこう呼びます。」というタイトルの全面広告があった。「杭州松下家電器有限公司」のISO14001(環境ISO)認証取得および認証継続に関する広告である。董事長と思われる人が社屋の前で、誇らしげに認証の証明書を持って立っている写真がドーンと掲載されている。松下の中国での関連事業所では、34か所すべてで認証取得済みなのである。いまや中国においても、環境保護を旗印にしないと企業は国際競争ができない時代になっている。新聞広告は時に記事よりも雄弁になる。(竹澤 伸一)

第4節 政治的視野に立つ日中相互理解の教材開発 — 憲法の相互比較から見た中国の政治の理解 —

1 国の政治の理解とは

(1) 国の政治の理解とは

一般に一定の国の政治理解は、次のような要素によって成り立っていると考えられる。

ア. 政治文化、政治風土の理解

イ. 政治機構や政治原理の理解

ア. については、例えば「独裁的」「民主的」などのような政治システムに関わる用語による理解もあれば、「自由」「平等」などのような政治的価値に関わる用語でイメージする場合がある。人々は、マスコミの伝える情報や家族などの社会集団における人間関係を通じて、国の政治に対するイメージを形成するものと思われる。様々な事件報道、人々の体験を通じたイメージの伝承などにより、日常生活を通じて国の政治に対するイメージが形成される。

イ. については、政治機構や政治原理をまとめた形で学習することはなく、ア. で作られたイメージを、政治機構や政治原理の理解にあてはめて理解していることが多いと考えられる。

このように、国の政治に対する理解はイメージと知識によって構成されていると考えられ、時にイメージが知識をゆがめ正確でない理解がもたらされる危険がないとはいえない。

(2) 政治機構や政治原理の理解の現状

政治機構や政治原理の理解は、一般に自国の政治機構について、憲法を教材にして行われることが多い。我が国の場合、基本的人権の尊重、国民主権、議会制民主主義、平和主義などの原理が小学校から扱われている。中学校においては、「国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらまし」として扱われ、ほとんどの教科書で国民主権や代議制民主主義、議院内閣制に関する知識が提供されている。

一方、諸外国の政治機構や政治原理の理解は、歴史学習において一定の国の政治史の中で部分的に学習されたり、あるいは、経済体制の学習に付随して扱われたりすることが多いといえる。政治体制においては、「資本主義と社会主義」「市場経済」のように体制や仕組みを類別する指標があいまいであり、そのことが政治体制を指導内容として位置づけることを困難にしていると考えられる。ただ、(1)で述べたように国の政治についてのイメージが政治文化や政治動向の中で形成され、それが政治機構のイメージの基盤になることを考えると、政治機構をそれ自体として取り出し、学習することはより客観的な政治理解を進める上でも有効であると考えられる。

2 中国の政治に関する学習

(1) 学習指導要領における位置づけ

中国の政治機構や政治の動きに関連する学習指導要領における扱いは、高等学校公民科「現代社会」及び「政治・経済」において、次のような形で示されている。

「現代社会」

(2) 現代の社会と人間としての在り方生き方

エ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割

世界の主な国の政治や経済の動向に触れながら、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義、人種・民族問題、核兵器と軍縮問題、我が国の安全保障と防衛、資本主義経済と社会主義経済の変容、貿易の拡大と経済摩擦、南北問題について理解させ、国際平和や国際協力の必要性及び国際組織の役割について認識させるとともに、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考えさせる。

「政治・経済」

(1) 現代の政治

イ 現代の国際政治

国際政治の動向、人権、国家主権、領土などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の防衛を含む安全保障の問題について理解させ、国際政治の特質や国際紛争の諸要因について探究させるとともに、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について考察させる。

(3) 現代社会の諸課題

イ 国際社会の政治や経済の諸課題

地球環境問題、核兵器と軍縮、国際経済格差の是正と国際協力、経済摩擦と外交、人種・民族問題、国際社会における日本の立場と役割などについて、政治と経済とを関連させて考察させる。

「現代社会」では、「世界の主な国の政治や経済の動向」を取り上げることになっているが、「政治・経済」においては、特定の国について取り上げるのではなく、「国際政治の動向」として取り上げることを特色としている。

一方、中学校社会科公民的分野においては、「世界平和と人類の福祉の増大」に関する内容は設定されているものの、各国の政治の仕組みや動向について取り扱う旨の記述は見あたらない。

(2) 教科書における記述

中学校社会科公民的分野の教科書分析については、別の章に記されている。この内容を見ても分かるように、経済や政治の機能を通じた国と国の関係の動き及び国際機関や国際関係における中国の記述が中心となっている。経済の視点では、日本と中国が相互依存関係を強めている近年の動きや中国経済のめざましい発展、地域的経済統合における中国の役割などの記述が中心である。また、「現代社会」「政治・経済」ともに、資本主義経済と社会主義経済の特質と変容を取り上げ、その中で社会主義の政治体制を取り上げている例が見られる。政治については、主に国際連合や第二次世界大戦後の国際政治における中国の役割等に関する内容が中心となっている。

3 中華人民共和国憲法の教材化の意義

以上の考察に基づき、本研究では政治体制の原理となっている憲法に焦点を当て、日本と中国の憲法を教材に、比較の視点によりながら中国の政治の特色を理解させることをねらいとした。

(1) 中華人民共和国憲法を教材化することの意義

第1は、日本国憲法との比較を通して、国の憲法にはそれぞれ特色があることに気付かせることができることである。例えば、憲法に規定されている内容の範囲や規定の順序において、国によって特色があることなどに気付かせることができる。日本国憲法を中心に学習している生徒に対して、

憲法が国によってそれぞれ特色があることを理解させることは、政治制度と政治文化への視野を持たせることにもつながると考える。

第2は、現代中国の政治の動きを憲法と関連させ捉えさせることが可能になることである。例えば、第15条における社会主義市場経済や第18条における外国の経済組織の活動に関する規定等は、1980年代以降の中国経済の動きを理解するのに有益である。

第3は、中華人民共和国憲法の学習を通して、日本国憲法をより広い視野から捉える視点が獲得される可能性があることである。特に日本国憲法に定めがあって、中華人民共和国憲法に規定がないものや、逆の場合などに気付くことによって日本国憲法をより広い視野から捉えることができるようになるものと思われる。

(2) 中華人民共和国憲法の特色

中華人民共和国憲法は1954年、1975年、1978年と制定され、その後1982年に鄧小平の指導体制の下で制定された。表に示したように序言と総説、公民の基本的な権利と義務、国家機構、国旗・国章・首都の四つの章によって構成されている。「序言」において社会主義国家の建設の経緯と取り組み、多民族国家としての中華人民共和国、台湾を領土の一部とすることの確認などが明記されている。

また、日本国憲法の場合、統治機構は国会、内閣、司法とに分かれて章が設けられているが、中華人民共和国憲法の場合、国家機構として一つの章にまとめられていることも特色といえる。さらに国旗や首都の規定を憲法に定めていることも、国の成り立ちや歴史を反映していると考えられる。なお、現代の中国経済が社会主義市場経済を採用していることや特別行政区に関する規定など最近の動きの根拠となる規定も見られる。

中華人民共和国憲法	日本国憲法
序言	前文
第1章 総説 (第1条～第32条)	第1章 天皇 (第1条～第8条)
第2章 公民の基本的な権利と義務 (第33条～第56条)	第2章 戦争の放棄 (第9条)
第3章 国家機構 (第57条～第135条)	第3章 国民の権利及び義務 (第10条～第40条)
第4章 国旗・国章・首都 (第136条～第138条)	第4章 国会 (第41条～第64条)
	第5章 内閣 (第65条～第75条)
	第6章 司法 (第76条～第82条)
	第7章 財政 (第83条～第91条)
	第8章 地方自治 (第92条～第95条)
	第9章 改正 (第96条)
	第10章 最高法規 (第97条～第99条)
	第11章 補則 (第100条～第103条)

(3) 中華人民共和国憲法の取扱いの視点

中華人民共和国憲法と日本国憲法とを比較させることを通して、両憲法における共通性や異なる点、それぞれの特色に気付かせる。憲法制定の政治的事情や歴史的経緯、下位の法律との関係など関連する事項が多岐にわたるため、学習によっては単純化の危険がある。しかし、ここではこの単純化の危険も考慮しながら、両憲法の特色に気付かせることをねらいとする。

- ア. 中華人民共和国憲法の構成上の特色
- イ. 日本国憲法には見られない条項
- ウ. 日本国憲法の場合と共通するのではないかとと思われる条項
- エ. 前文と序言の比較
- オ. 総則で書かれていることの特徴は何か
- カ. 基本的人権に関する規定の比較とそれぞれの特徴
- キ. 国家機構の特徴

全国人民代表大会、中華人民共和国主席、國務院、人民法院・人民檢察院の権能、選出、任期など

4 指導計画

(1) ねらい

- ア. 中華人民共和国憲法と日本国憲法との比較を通して、国の憲法には共通性ととも特徴があることを理解させる。
- イ. 憲法を比較する視点をあげることができるようにするとともに、それぞれの共通性や特色をまとめて整理することができるようにする。
- ウ. 中華人民共和国憲法と中国の政治との関係等について関心を深めさせる。

(2) 単元の構成

- ①中華人民共和国憲法の構成はどのようになっているのだろうか
- ②日本国憲法と比較する視点を探してみよう
- ③項目を立てて比較し、整理してみよう
- ④調べたことを発表してみよう

(3) 概要

教師の発問や指示	生徒の学習活動	期待したい知識等
1.日本国憲法の章の構成（それぞれの意味や配列）について整理し、その特色をあげてみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ○日本国憲法のそれぞれの章に示されていることを見ながら、章ごとの内容を概括する。 ○配列について、気付いたことをメモしてみる。 ○生徒同士で気付いた点を話し合いながら、特色を整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ア. 4章、5章、6章は国の政治の仕組みを示した内容となっている。 イ. 第2章は9条だけで構成されている。 ウ. 基本的人権の規定が「天皇」「戦争の放棄」に続いて位置づけられているのは、人権の規定が重視されているからである。

<p>2. 中国憲法の章の構成や条文の数などについて、気付いたことをあげて、整理してみよう。</p>	<p>○章と節、条項の数をあげる。 ○章と節の構成と配列の特色をあげる。</p>	<p>ア. 4つの章で構成されており、条項は138条までである。 イ. 総説、公民の権利、義務、国家機構、国旗などの章となっている。 ウ. 日本国憲法と比較して条項の数が多く、しかも総説からはじまっている。</p>
<p>3. 日本国憲法と比較するための視点をさがしてみよう。</p>	<p>○両憲法を比較しながら、比較可能な視点を探す。 ○日本国憲法の章立てに沿って対応関係を考えてみる。</p>	<p>ア. 天皇に当たる規定、基本的人権に関する規定、戦争に関する規定、国会、内閣、裁判所などの国家機構に関する規定は、それぞれどのようになっているのか。 イ. 人権や国家機構に関する事項は両憲法に共通している。</p>
<p>4. 第1章総説にはどのようなことが書かれているのだろうか。 5. 日本国憲法と比較した場合の特色はどこにあるのだろうか。</p>	<p>○各条文ごとに概ねどのような内容かを書き出し、まとめる。</p>	<p>ア. 国家の政治や経済、文化、福祉などの全体的な成り立ちが決められていること。 イ. 経済や科学・技術、計画出産、環境管理、外国人の権益などについては、日本国憲法にはみられない特色である。</p>
<p>6. 第2章の人権に関する規定について、日本国憲法と比較しながら調べてみよう。</p>	<p>○選挙権、両性の平等、労働の権利、信仰の自由、通信の自由などの項目について、両憲法の規定を比較しながら特色を見付ける。</p>	<p>ア. 定年制、老人に対する配慮、華僑、兵役の義務などは日本国憲法にはみられない規定である。</p>
<p>7. 国会、内閣、司法等の国会機構に関する規定について、日本国憲法と比較しながら調べてみよう。</p>	<p>○それぞれの国家機関に当たるものを探し、比較をしてみる。</p>	<p>ア. 立法——全国人民代表大会、行政——中華人民共和国主席、國務院、司法——人民法院と政治の機能を分担している。</p>

<p>8. 中華人民共和国憲法の特色についてまとめてみよう。</p>	<p>○これまでの学習を振り返って、要点をまとめる。</p>	<p>ア. 構成上の特色、各章の内容等を通じて、憲法には人権に関する規定とともに、国の政治機構の原理が示されている。また、国によって憲法の記述内容に共通性と特色がみられる。中華人民共和国憲法には、中国の実状を反映した特色がある。</p>
------------------------------------	--------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(工藤 文三)

第5節 社会的視野に立つ日中相互理解の教材開発

1 はじめに

社会的視野から中国を理解しようとするれば、何よりも現在の中国社会のありのままの姿を捉えることが必要だろう。因みに、元日本経済新聞記者の岡田臣弘は現代（改革開放後）中国社会の特質を、①「全民皆商」と言われるほどの商売熱（「経商潮」）、②多様化するエリート群による小貴族集団の形成、③「西風」（先進資本主義の文化・生活様式）による伝統社会の揺らぎ、の3点にまとめている（岡田臣弘『21世紀の中国像 [新版]』有斐閣選書、2001年）。

かつて、毛沢東政権下の共産中国、とりわけ文革期の中国社会の姿を新聞・雑誌やテレビ等で聞きし、学校の授業でも学んできた世代の一人として、まさに隔世の感がする。だが、現在の小・中学生や高校生にとってはどうだろうか。昔の中国を知らない彼（女）らにとって、「どうだ、こんなにも中国は変わったんだぞ！」と力説されても、実感が湧かないのではなかろうか。なぜなら、人がお金のために働き、多少貧富の差はあっても、皆が同じようなものを食べ流行のファッションを楽しむのは、現在の世界ではごく当たり前の光景だからである。つまり、それを知ったからといって格段中国理解が進むわけでもないのである。

そこで考えたのが、人々の心理と行動への着眼である。どんなに生活様式が似通ってきても、人々の行動形態や価値観は容易には変わらない。身振り・姿勢から、挨拶の仕方や食事のマナーに至るまで、そこには長期にわたり繰り返されてきた生活文化が息づいており、逆にそれが誤解やパーセプション・ギャップを生む原因ともなっているからである。社会的視野を大上段からマクロに捉えるのではなく、もっと自然に、普通の人々の暮らしを捉える視野と考えれば、心理と行動は恰好の教材対象となろう。中国人と日本人、それぞれの心理と行動を素材にして、両者の共通性と異質性を発見させ、その背景を探求させることができれば、相互理解のための第一歩となるだろう。

2 中国人と日本人、その心理と行動へのアプローチ

日本人ほど、自国や自文化への他者の評価を気にする国民はないと言われる。実際、欧米の文献にも“Nihonjin-ron”（日本人論）なる語が登場するそうである。私がかつて読んだ本の中から、思いつくままに挙げて、じきに両手では足りなくなる。それらのうち主なものを、著者の問題意識や研究方法の違いを無視して刊行順に示せば次のようになる。

- 南 博『日本人の心理』（岩波新書、1953年）
- ルース・ベネディクト『菊と刀—日本文化の型』（教養文庫、1967年）
- 中根千枝『タテ社会の人間関係—単一社会の理論』（講談社現代新書、1967年）
- 土居健郎『「甘え」の構造』（弘文堂、1971年）
- イザヤ・ベンダサン（山本七平）『日本人とユダヤ人』（山本新書、1971年）
- 深作光貞『日本文化および日本人論』（三一書房、1971年）
- 多田道太郎『しぐさの日本文化』（筑摩書房、1972年）
- 宮城音弥『日本人とは何か』（朝日新聞社、1972年）
- 村上泰亮・公文俊平・佐藤誠三郎『文明としてのイエ社会』（中央公論社、1979年）
- 濱口恵俊『間人主義の社会—日本』（東洋経済新報社、1982年）

○陳舜臣『日本人と中国人』（集英社文庫、1984年）

だが、自意識や自国意識（nationalism）の強さの点では、韓国人や米国人の方が日本人をはるかに凌ぐように見えるし、欧米でも国民性論がないわけではない。因みに昨年の夏、米日財団支援による国際理解教育研究プロジェクトの一環として渡米した兵庫県の先生方に、スタンフォード大学のA・インケルス教授は「アメリカ人の国民性」について講義している。もちろんそれは日本側からの要請に応えたものに他ならないし、講義内容も多く意識調査のデータを踏まえてなされていた。しかし、結局のところ「アメリカ人は一般に～の性向が強い」という主旨の話であったことに変わりはない。

このエピソードは何を示唆していようか。おそらく、研究者やジャーナリストが自国民の意識や行動を調査したり、他国民と比較したりするという点では、どこも同じであろう。ただ、日本の場合、それが文庫本として刊行されてベストセラーになったり、一定の社会現象を引き起こしたりする点に特徴があるのではないか。つまり、研究に直接関係ない多くの国民までもが「日本人論」を好むという点である。もとよりそれを完全に実証することはできないが、そうして傾向性を指摘することは可能であろう。

では、こうした日本人の傾向性を踏まえると、どのような点への留意が必要だろうか。ここでは二点指摘しておきたい。第一に、日本人論に限らず、国民性論・文化論を過度に一般化しないことである。確かなデータに基づくことはもとより、あくまでそのデータに則する限りでの言明と受け止めねばならない。第二に、国民性論・文化論には常に何らかのイデオロギーがつきまとうことの自覚と認識が必要である。ハルミ・ベフ（別府春海）によれば、イデオロギーとは、「『こうあってほしい』という願望を含んだ理想像、または世界観」を指している（ハルミ・ベフ『増補新版 イデオロギーとしての日本文化論』思想の科学社、1997年、258頁）。一例として、彼は「日本は単一民族国家、アメリカは多民族国家」という紋切り型の言説を検証する。若干長くなるが、引用しよう。

大多数の日本人はイデオロギーとして日本国家は単一民族国家であることを望み、その願望が事実であるかのごとく信じている。そのイデオロギーが「ガイジンは日本人になれない」、「ガイジンは一生ガイジン」という日本人論を作り上げていることは言うまでもない。

それに反して、アメリカの世界観は世界中からの移民によって構成された多民族国家の大前提を打ち出している。このようにしてみた場合、「日本は単一民族国家、アメリカは多民族国家」という図式は日本人の世界観、つまり「日本とアメリカの違いはこうあってほしい」という願望を表しているのにすぎなく、事実関係はおおよそ無視されていることが認識される。

（ハルミ・ベフ、前掲書、259頁）

これらの点を考慮して、本節では社会的視野としての「中国人と日本人の心理と行動」にアプローチする教材を2例提示したい。

一つは、中国人の心理と行動を存在（＝事実）としてではなく言説として捉え、言説分析により両国民の心理と行動に関するメタ認識を育成する教材である。事例は以下の文献から選択した。

○尚会鵬、徐晨陽『中国人は恐ろしいか!?!』三和書房、2002年（以下、文献A）

ややタイトルがおどろおどろしげであるが、それはおそらく出版社の売らんがための戦略によるものであり、内容はしっかりしている。著者の尚氏はアジア社会文化比較を専門とする北京大学教授であり、徐氏は日本在住のライターである。内容的には、まず中国人と日本人の行動様式の違いについて両国の人々に聞き取りをし、代表的な事例を記述した後に、その違いを生む文化的背景を分析的に説明している。

もう一つは、中国人と日本人の行動様式の違いに着目して、その違いを生み出す要因を推理させ、それぞれの行動様式を規定する文法（ルール）を発見させようとする教材である。両国民の行動を説明する理論的枠組みや事例は、主に以下の文献に依拠した。

○園田茂人『中国人の心理と行動』日本放送出版協会、2001年（以下、文献B）

著者の園田氏は、比較社会学を専門とする気鋭の現代中国研究者であり、本書も平易な言葉で書かれてはいるが、学問的研究に裏付けられた説得力を持っている。

なお、どちらの教材モデルも、2～3時間の授業時間を想定して開発した。生徒の反応や議論の度合いに応じて、時間は適宜工夫したい。なお、カリキュラムでの位置づけは、投げ入れ教材としてならば、中学校社会科、高校の地理歴史科・公民科のいずれでも可能である。特に中学校の地理的分野であれば、内容「(3) 世界と比べて見た日本」のAの「(イ) 生活・文化から見た日本の地域的特色」の発展的学習に位置づく。また、公民的分野であれば、内容「(1) 現代社会と私たちの生活」の「イ 個人と社会生活」が適当だろう。選択社会、総合的な学習の時間の教材なら、言うことはない。高校公民科の科目「現代社会」や「倫理」であれば、なおさらこの教材が生きる単元は多いはずである。

3 教材モデルの開発・I

(1) 単元名

「中国人と日本人—その心理と行動をどう読み解くか」

(2) 目標

中国人と日本人の心理と行動の違いに気づくとともに、その原因に関する説明（言説）を批判的に考察する。

(3) 単元の展開

本単元の展開は以下の授業書の通りである。なお、資料の出典は〈 〉に示す。

【はじめに】

本授業書では、中国人と日本人の心理と行動を学習します。ただし、中国人も日本人も多様な人々の集まりです。安易に一般化することはできません。また、それぞれの心理や行動形態に優劣があるわけでもありません。

ここでは、中国人と日本人が共生する中で感じる様々な戸惑いや違和感の事例を通して、誰が、なぜそうした感じを抱くのかを、一緒に考えたいと思います。どこかに正解のある問題ではありません。でも、それぞれの事例はいずれも現実にあった出来事ばかりです。生活・文化を異にする人々が相互に理解し合うためには、そうした現実から目を背けずに、正面から向き合うことが大切だと

思います。それは何も日本人と中国人の関係だけに限りません。日本人と日本人、中国人と中国人の間でさえ、大切なことです。そう考えて、次の問題に取り組んでみましょう。

なお、中国人とは何か、日本人とは何かについては、明らかなようで意外とはっきりしないのが実情です。ここでは、それぞれの社会で生まれるか、育った人で、伝統的な生活様式を無意識のうちに受け継いだ人と定義しておきます。詳しくは、またの機会に学習したいと思います。さあ、始めましょう。

【問題 1】

次の二つの資料を読んで、後の問いに答えなさい。

〔資料 1〕 Mさん（日本人、女性）の話 <文献 A：97頁>

仕事の関係で中国駐在の主人と一緒に上海で暮らしてもう 2 年になります。

中国では、バス乗り場、郵便局、スーパーのレジなんかで、順番を守って並べない人が多いですね。上海の南京東路で揚げマンを買おうとして、一番前にいたのに一個も買えなかったこともあるんですよ。みんな、割り込んでくるから。

〔資料 2〕 Sさん（中国人、男性）の話 <文献 A：102頁>

中国から東京にやってきてまず目につくのが、駅のホームで整列して電車を待っている乗客の姿だ。たとえ二人しかいなくても、じっと並んで電車を待っている。並ぶ人が多いと、きちんと三列になって並んでいく。秩序は乱されない。中国のようにいっせいに電車に乗りこむ場面は、東京ではなかなか見られない。たとえ、列の前方に知り合いがいたとしても、割り込みはせず、ちゃんと列の最後尾に並ぶ。順番を守って並ぶことは、社会的な行為であり、国民の素質の高さのあらわれでもあるのだ。

問 1 この二つの資料を読んで感じたことを次の中から選び、その理由について学級で話し合いなさい。

- ア 日本人も中国人も順番をちゃんと守れる。
- イ 日本人は順番を守れるが、中国人は順番を守れない。
- ウ 中国人は順番を守れるが、日本人は順番を守れない。
- エ 日本人も中国人もなかなか順番を守れない。
- オ この資料からだけでは、日本人や中国人の行動を断定できない。
- カ その他（ ）

問 2 あなたは自分が割り込みをしたり、あるいは他の日本人が割り込みするのを見たことがありますか。

- ア 自分もしたことがある。
- イ 自分はしたことはないが、他の日本人がするのを見たことはある。
- ウ どちらも無い。

問 3 問 2 でアと答えた人に聞きます。それはどんな時（理由）ですか。

- ア 急いでいた。
- イ 知人や友人に出会った（知人や友人と一緒にいたかった）。
- ウ 他人に負けたくなかった。
- エ なんとなく。
- オ その他（)

【問題 2】

問 4 資料 1 で、M さんは中国人が順番を守らず、割り込んでくると言っていますが、問題はどこにあるのでしょうか。次の中から、あなたの考えに近いものを選びなさい。

- ア 割り込みをする中国人に問題がある。
- イ 割り込みをさせてしまう M さんに問題がある。
- ウ どちらが悪い、悪くないという問題ではない。
- エ その他（)

問 5 M さん自身はどう考えているか。M さんの先の話の続きを読んで、答えなさい。

【資料 3】 M さん（日本人、女性）の話の続き <文献 A：97-98 頁>

最初は本当に腹が立って、「要排隊！（順番を守って）」といちいち怒っていましたが、ある日、私の並び方にも問題があるんじゃないかって気がきました。中国では、並んでいるときは前の人にぴったりくっついている感じですよ。そうしないと、割り込まれてしまうんです。でも、日本人はあまり前の人にぴったりくっつくのは失礼だと思っているから、間をあけて並ぶクセがついていますよね。私は日本流で並んでいたのに、隙間に割り込まれてしまったみたいなんです。

でもそれでいて、知り合いに会えば、中国人は菜館や電車の中でも席の譲り合いをしますよね。あんなに割り込みをする人たちがって、ちょっと不思議な気がします。

<回 答> 生徒数名に自由に答えさせる。

<口頭説明> M さんは、中国人と日本人では並び方が違うということ、つまりは双方の文化の違いが問題の原因だと考えていることがわかります。

問 6 平気で割り込みをする中国人が、なぜ知り合いには席を譲るのだろうか。そこには、どんな中国人の文化を読み取れるか。自由に予想して答えなさい。

<回 答> 生徒数名に自由に答えさせる。

話（問 6 の答）

【資料 4】 S さん（中国人、男性）の話の続き <文献 A：102 頁>

文化的な面から考察を加えると、並ぶことができないのは、中国人が権威と秩序をあまり尊重せず、既存のルールを打破する国民性に関連づけられる。

一方、並ぼうとしないのは、中国人同士の互助関係の存在から証明できるだろう。割り込む人はほとんどが知人を見つけて割り込むのであり、そこには「おいしいことはわけ合う」という相互扶助の暗黙の了解がある。確かに一生懸命に占領した席を、自分がかげずに知人・友人に譲り合う光景を中国でよく見かける。中国人は他者から資源とチャンスを奪い、それを優先的に自分の知人（ファミリー）に与えるのである。

<口頭説明> Sさんの説明では、中国人の文化的特質として二つが挙げられています。

①既成の権威と秩序を守ることより、それを打破しようとする。

②知人（ファミリー）間での相互扶助の意識が強い。

【問題3】

問7 中国人と日本人の文化に違いがあるとしたら、我々はどうしたらよいのだろうか。次の中からあなたの考えに近いものを選び、それについて学級で話し合いなさい。

ア 日本人が、歴史の古い中国人の文化を見習うべきである。

イ 中国人の方が、いち早く近代化に成功した日本人の文化を見習うべきである。

ウ まずは自国の文化を大切にすべきであり、他国の文化はそれほど重要ではない。

エ お互いの文化の違いを理解した上で、対等に付き合うべきである。

オ その他（

）

問8 中国人が行列に割り込むのも、知り合いに席を譲るのも、すべて文化や国民性の問題と言うことになるのだろうか。もしそうなら、先に問2で見たように、日本人の中にも割り込みする人がいるのをどう説明すればよいのか。自由に答えなさい。

<回 答> 生徒数名に自由に答えさせる。

話（問8の答）

【資料5】 Sさん（中国人、男性）の話の続き <文献A：103頁>

最後に一つつけ加えるならば、人口が多い割にチャンスが少ないといった、客観的な事情も中国には存在する。

長い間、中国は、「乗車難」「看病（病気をみてもらう）難」「入学難」など、争わなければ、いつまで経っても汽車に乗れず、チケットを買えず、病気をみてもらえず、いい学校にも入れない社会であった。東京の人が駅できちんと並んでいるのは、電車が多く、長い時間待たなくてすむという事情だってあるはずだ。もし、1時間に1本しか電車が来ないならば、我先にと電車に乗り込むシーンが日本でも見られるかもしれない。

昨今では、北京のバス停は以前よりも整然としている。バスの本数が増え、たとえこのバスに乗れなくても、次のバスがすぐに来るからと、人々が割り込んでまで乗車する必要がなくなったからだ。

<口頭説明> 人々の行動を規定するものには文化的要因もあるが、それだけではなく、歴史的・社会的要因もあるようだ。つまり、社会の近代化の度合いや生存条件の違い

によって、同じ国や文化の中でも人間の行動は変化することがある。それ故、「中国人だから」「日本人だから」というように、人々の行動を安易に国民性や文化の相違として一般化しないようにしたい。

【問題4】 こうした事例は他にもあるだろうか。次の二つの資料を読んで、後の問いに答えなさい。
＜*時間の都合により、問題3で終わることも可能。＞

【資料6】 Lさん（在日中国人、女性）の話 ＜文献A：41-42頁＞

日本人って、中国人よりも人間関係が淡泊な感じですよ。職場の同僚とでも、たとえ家族との間でも越えない一線があるというのか。

たとえば、日本人の友達から、「休みの日にでも、遊びにおいでよ」といわれたとしますよね。中国人のほうはすっかり本気にして、次の休日に最寄りの駅から「これから、遊びに行くよ」と電話したとしましょう。ところが、当の日本人はまだ寝ていて大慌て。電話の声にも、なんとなく迷惑そうな響きがこもっている。そして結局、「家の中も片付いていないし、外でお茶でもしようよ」ということになってしまう。

実は、これは私の教え子が実際に体験したことなんです。彼は、その一件ですっかり日本人はウソつきだと思い込んでしまったみたいで…。

【資料7】 Iさん（日本人、女性）の話 ＜文献A：73-74頁＞

中国の人って、友達であれば結構気軽に頼み事をしがちですね。頼まれたほうも、それほど大変には思わないみたいだし。

私は仕事柄もあって、中国に行く機会もそれなりにあります。そこで知り合った中国人と軽い気持ちでアドレスを交換して、大変な目があったことがあるんですよ、しかも何度も。

自宅に、見も知らない中国人が突然やってきていうんです。

「〇〇さんから、あなたのことを聞きました。私は、中国からやってきたばかりで、仕事も家もありません。探してくれませんか」もう非常識でしょ。こんなことをいわれたこともあります。

「この近くにはマンションがいっぱいありますよね。見たところ、部屋もたくさん空いているようです。私をぜひそこに住まわせてください」

日本人からしたら、無茶な相談ですよ。しかも初対面の相手にする話ではありません。

問9 資料6から、Lさんの考えている中国人と日本人の文化の違いを指摘しなさい。

＜回 答＞ 生徒数名に自由に答えさせる。

＜口頭説明＞ Lさんの説明によると、日本人の人間関係は淡泊だが、中国人の人間関係は濃密である。日本人は親しい間柄でも社交辞令的表現（本音に対する建前）を使うから、中国人に誤解されやすいという。

問10 資料7から、Iさんの考えている中国人と日本人の文化の違いを指摘しなさい。

<回 答> 生徒数名に自由に答えさせる。

<口頭説明> Iさんの説明によると、中国人は親しくなると何でも頼み事をするという。例えば、直接関係ない相手でも、友達の友達ということで、厚かましく頼み事をするなど、日本人からすれば非常識な程、人間関係が濃密である。

問11 割り込みに関する先の事例を踏まえれば、このLさんとIさんの事例をどう考えることができるだろう。

<回 答> 生徒数名に自由に答えさせる。

<口頭説明> たまたまLさんとIさんがそういう体験したからといって、一概に中国人と日本人の行動パターン(=文化)を断定することはできないのではないか。また、Lさんの指摘するように日本人の人間関係が一般に淡泊だったとしても、都市化や核家族化の進行で中国人の人間関係もその方向に変化することも考えられる。

問12 あなたやあなたの家族や友人など、まわりの人たち(日本人)の人間関係はどんな様子ですか。次の中から、当てはまるものを選びなさい。

- ア 学級内や町内などで顔見知りの人とは、いつでも困った時には相談にのったり、親身になって助け合うなど、深い付き合いをしている。
- イ 家族や親友など、ごく身近な者同士では親密に付き合いが、それ以外にあまり深い付き合いはしていない。
- ウ 誰に対しても、日常の挨拶をしたり世間話をしたりはするが、心を割った付き合いはしていない。
- エ 誰とも必要最低限の付き合いしかしない。
- オ その他 ()

問13 中国人、日本人というように一般化することはさておき、Iさんの話に出てくるような濃密な人間関係をどう思うか、学級で話し合いなさい。

問14 これまで学習してきたことを踏まえ、次の資料8を読んだ感想を書きなさい。

[資料8]

中国にしばらくいて、多くの人びとと一緒にいるうちに、あることに気がついた。彼ら彼女たちにとっては、人間関係が総てのものにもまして優先するのだ、と。

つまり、例えば日本社会では、生産性や効率性、平等や公平性の「大儀」の下であれば、家族や友人など具体的な人間関係は、多少犠牲になっても致し方ないと考える。

しかし、中国では、具体的な人間関係を優先してこそ、初めてそうした大儀は立ち上がり実現するのだ。人間関係の<親疎>があらゆる行動の根底に横たわっており、この<親>と<疎>を状況に応じてガチャガチャと組み合わせることで、人が動き、社会が躍動する。公平や平等

といったことは、人間関係の具体的状況に応じて、その内容がクルクル変わる。都市、農村ともに、こうした事情に大差ない。

当然、中国民衆の人間関係はきわめて濃密なものにならざるをえない。喜怒哀楽を分かち合おうとするがゆえに、そしてそれゆえ生じる矛盾のために、「多情多喜」で「多情多恨」な世界である。人間関係にまわりつくしがらみは相当なものだ。生活上のさまざまなリスクは、具体的な人間関係のなかで対処しなければならない。そこでは、面倒を引き受け、請負い、保証する肝っ玉のある人物がどうしても必要になる。

日本の近代化が「顔見知りのいない社会」「顔の見えない社会」を一所懸命つくったきたとするなら、中国の現代化は「顔役の社会」を解体することなく、今日の経済パフォーマンスを現出してきた。相手の顔が見えなければ、何も動かないのである。村の弁公室や北京の天安門など、公的な場所のあちこちには指導者の肖像画が掲げられている。それは、国威や社会主義の発揚が目論みなのではなく、とにかく「顔」をみて落ち着くといった中国人の習い性を表出しているように思えてならない。「顔をみて法を語る」というように、顔がなければ語られる法も存在しないといった感じだ。

とにかくこうした事態にたいして、民主化が成熟していないだの、腐敗が構造化しているだのと、大上段に構えて叫ぶ必要もないだろう。ろくでもないといえば、我が国もろくでもないことがたくさんあるのだ。「顔の見えない社会」をつくらうとしているのに、利権などで「癒着」「談合」として「顔が見えてしまう」から、一体どうなっているのだと義憤を感じることは日常茶飯事だ。しかし一方では、地域社会の崩壊、家族の危機など、身近な人間関係は確実に顔が見えなくなっている。

これだけ不可思議な社会をつくり上げてきた日本である。隣人をみて「近い将来、崩壊する」など「中国崩壊説」を声高に叫ぶことも五十歩百歩だろう。そうではなくて、顔役社会といった「顔の見える社会」が、私たちに何を思い出させてくれる存在なのかを考えたほうが、よっぽど得策だと思うのである。そして、こうした社会を異質なものとして簡単に片づけるのではなく、むしろもうひとつの文明として位置づけることで、昨今の殺伐とした国際情勢を打開する、ひとつの鍵を探るのもいいかもしれない。同じアジア人として、「顔の見える社会」の長所は、きっと腑に落ちるところが多いはずである。

(首藤明和『中国の人治社会—もうひとつの文明として—』日本経済評論社より)

4. 教材モデルの開発・II

(1) 単元名

「中国人と日本人の行動様式と行動文法」

(2) 目 標

中国人と日本人の行動様式の違いを生み出す行動文法（ルール）を解明する。

(3) 単元構成

- ① 中国人と日本人の面子観
- ② 中国人と日本人の公共観
- ③ 中国人と日本人の人情観

(4) 単元展開

① 中国人と日本人の面子観

<発問1>

次の資料1に見られるエピソードを読んで、下記の問いに答えなさい。

[資料1]

<出典：文献B>

- A 経済的な力や個人的な能力が欠如していることを人前で言及された場合、中国人は「面子をつぶされた」と感じる人が多いのに対し、日本人は必ずしもそう思わない。
- B 日本人が苦心して就職先を紹介したのに、紹介を受けた中国人がその職を無断で簡単に辞めてしまった場合、日本人は中国人に「面子をつぶされた」と感じるのに対し、中国人はそう考えない傾向がある。
- C 自らの面子がつぶれそうになった場合、中国人は自分の権利や利害を主張して、謝ったりお礼を言ったりはしないのに対し、日本人はその逆に謝ったり、お礼を言ったり、自分の権利や利害を主張しないことによって面子を保とうとする。

- (1) 面子とは何のことか。(日本語では体面、面目。中国語では「顔」を意味する。)
- (2) これらのエピソードから、中国人と日本人とで、「面子が立つ、立たない」という場合の基準にどのような違いを指摘できるだろうか。議論してみよう。
(中国では自己を基準に面子を考えるのに対し、日本では他者＝世間を基準にしているのではないか。)

<発問2>

実際のところはどうか。資料2は、日本と中国の有職青年と大学生を対象としたアンケート調査の結果です。これから何がわかるだろう。

[資料2] 日本人と中国人に見られる自己評価の違い(%)

<文献B：41頁>

- (1) 「あなたは同級生からどのように評価されていると思いますか。一つだけ選んでください。」
(大学生の場合)

	日本	中国
1 一生懸命勉強し、非常に有能な人材だと評価するだろう	0	3.5
2 よく勉強し、よい人材だと評価するだろう	8.1	27.1
3 人並みだと評価するだろう	65.5	58.8
4 なまけものだと評価するだろう	26.4	7.1
5 無回答	0	3.5

- (2) 「あなたは同じ職場の人は、あなたをどう評価していると思いますか。一つだけ選んでください。」(青年労働者の場合)

	日本	中国
1 一生懸命働き、非常に有能な人材だと評価するだろう	2.6	14.9
2 よく働き、よい人材だと評価するだろう	21.7	48.9

3 人並みだと評価するだろう	71.1	35.3
4 なまけものだと評価するだろう	4.5	0.9

<発問3>

本当にそう言えるだろうか。別の資料3で検証してみよう。

(資料3は割愛、出典は<文献B:42-43頁>)

② 中国人と日本人の公共観

<発問4>

資料4を読んで、あなたはどのように思いますか。下記の語群から該当するものを選びなさい。

[資料4]

<文献B:119頁>

王さんは昼休み時間、職場の電話を借りて、しばらく会っていない白さんと話をしました。白さんに頼まれたことがあったので、翌日もう一度職場から白さんに電話をかけたところ、(日本人の)上司に呼びつけられて、職場の電話を勝手に使用するなど叱られました。王さんは、なんてケチな会社だろうと思いました。

- ア 王さんの行動はまちがっていないし、私も同じようにすると思う。
- イ 王さんは上司の見ていないところで、こっそりと電話をかけるべきだ。
- ウ 使用する時間が短ければ、上司は王さんを大目に見てもよいのではないか。
- エ 王さんは公私混同をしており、上司のとった行動が正しいと思う。
- オ その他 ()

<発問5>

(各自に挙手をさせた後に)なぜ、そう思うのか。みんなで話し合ってみよう。

<発問6>

王さんはなぜこの会社がケチだと思ったのだろうか。次の中から適切な回答を選びなさい。

- ア 電話をちょっと私用に使ったくらいで叱って、考え方がセコイから。
- イ 会社の電話はそこに勤めるみんなのもののはずなのに、それを使わせないから。
- ウ 上司は自分の所有物でもない電話の使用を制限するから。
- エ 上司は部下の社員に対してやさしくないから。
- オ その他 ()

<発問7>

この資料5は、中国の天津で1980年代に運送関係の合併事業を始めた日本人ビジネスマンの経験を述べたものです。資料4とよく似た内容となっていますが、なぜ中国人にはこのような公私混同とも思える行動が見られるのだろうか。こうした中国人の行動を支えるルールについて、何かよい説明はできないだろうか。(意見を出させる。)

[資料5]

<文献B:121頁>

わが社の運転手は、給料が高かったせいか、会社まで自家用車で通勤するようなケースも少

なくありませんでした。ところが営業を始めた頃の頃、ガソリンの消費量が大変多いのでびっくりして調査してみたところ、運転手が会社のガソリンを自家用車に流用していることがわかりました。また、トイレを水洗にしていたのですが、水洗用以外の紙を使ってほしくなかったものでトイレットペーパーを備え付けておいたところ、ものの数時間のうちになくなることがありました。

<発問8>

ちなみに日本人の場合、こうした時にはどんな規制（ルール）に従うだろうか。

<回 答>

みんなの物を自分勝手に利用してはいけない。

<説 明>

どうやら中国人と日本人とでは、公共物や公共性に関する意識が違うようです。その違いについて、研究者の説明（資料6）を参照してみよう。

[資料6]

<文献B：121-122頁>

日本の農村や漁村には入会地の伝統がある。山林や漁場など、村落や集落のメンバーであれば誰でも利用することができる空間を入会地というが、これは「場」を共有する者による共同管理の一形態である。共同浴場やキノコ狩りの森林など、入会地の制度を継承している空間が今でも存在している。

もっとも、誰でも利用できるからといって、利用者が勝手に振る舞ってよいわけではない。それどころか、利用可能な時期やマナーなど、利用する際に遵守すべきさまざまな暗黙のルールが存在しているのだ。そして、こうしたルールを支えていたのが、「みんなの物を自分勝手に利用してはいけない」とする規範である。…（中略）…

ところが中国には、この入会地の伝統がない。そのため中国人にとって、「みんなの物だから自分勝手に利用できない」という論理は理解しにくい。そればかりか、「みんなの物なら、なぜ自分が利用してはいけないのか」と訝しがるに違いない。場合によっては、自分勝手に利用しない日本人の姿を愚かしく感じるかもしれない。

日本における「公共（おおやけ）」とは「私」以外の領域をさしており、公と私的空間的に区別される。これを「領域の公」といい、公の領域では私の権利は主張できず、交際も「よそ行き」の顔ですることになる。これに対し、中国の「公共（おおやけ）」は「つながりの公」とでもいうべきもので、公は私の集合体であり、私による公への関与が認められている。つまり、つながりの公は、

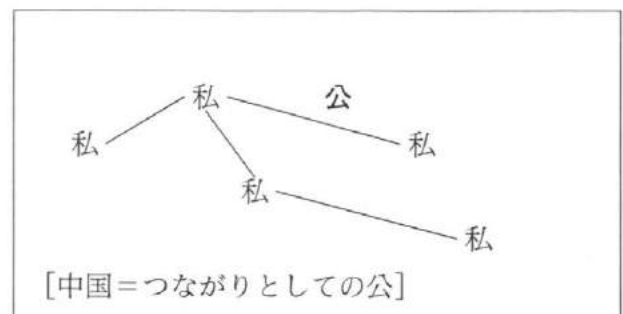
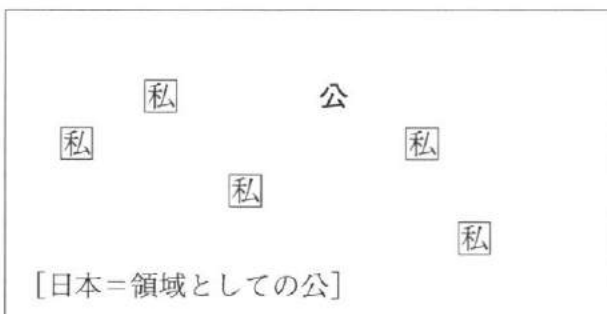


図1 日本の公私概念と中国の公私概念の比較（筆者作成）

私と私をつなげるという形で私を含むから、私はつながりの中で私的関与分を主張できることになる。公としての会社は複数の社員のつながりによって構成されるのだから、その電話を社員は利用する権利があると考えるのである。だが、反面、中国では公（つながり）から切り離された自己独自の領域（自私）というものをもつことができないという。

③ 中国人と日本人の人情観

<発問9>

日本では近年、夫婦別姓が議論されるようになり、それを認める風潮も広まりつつあるが、全体的に見ると、結婚したら改姓する女性（男性）が多い。さて、君たちはどちらを選びますか。その理由とともに答えなさい。（自由に回答させる。）

<発問10>

中国では日本と異なり、結婚しても改姓しません。なぜだろうか。次の中から、適切な回答を選びなさい。

- ア 中国は社会主義の国であり、男女平等意識が強いから。
- イ 中国では、伝統的に女性の地位が高いから。
- ウ 結婚しても夫婦は別の血縁集団（姓）に属していると考えから。
- エ 離婚・再婚率の高い中国では、結婚するたびに姓を代えるのは大変だから。
- オ その他（ ）

<説明>

日本の家族は、伝統的にイエの存続を第一としてきました。つまり、同姓を名乗ることで同じイエの一員であることを自他ともに確認し合うことになったのです。これに対し、中国では血縁関係こそがイエの最重要な要件になっており、結婚してもそれは変わらないというわけです。日本では初対面の人に「あなたのお名前は？」と聞くが、中国では「あなたの姓は？」と聞くというのも、こうした血統主義の強さを表しています。

<発問11>

親しい友人との出会いの場に関する次の資料7（18～24歳の日本と中国の青年を対象に行った1988年の調査、複数回答）を見て、日中間の違いを指摘しなさい。

[資料7] <文献B：161頁参照、筆者作成>	日 本	中 国
学校で知り合った	91.8%	59.9%
学校以外のクラブ・サークルで知り合った	17.7%	4.7%
近所で知り合った	11.8%	47.0%
同郷ということを知り合った	4.9%	23.9%
親類ということを知り合った	1.4%	16.6%

<回答>

日本人に比べて中国人は、血縁や地縁を媒介に人と知り合いになるケースが多い。

<発問12>

なぜ、中国人はこのように血縁・地縁を重視するのだろうか。どんな意味があるのだろうか。自由に議論してみよう。(意見を出させ、議論させる。)

<説明>

中国人をつなぐ地縁・血縁の意味を、次の資料8で確認してみよう。

[資料8]

<出典：斯波義信『華僑』岩波書店、1995年、65-66頁>

人口の過剰で資源がかぎられてくるとき、自分の村や郷里で互いに競い合えば自滅する。学業から農工商まで、各人の性能や資質に応じた外地への出稼ぎが村々で検討され、出稼ぎ人を送り出す。その際、一家・一族そして郷里の成員証明がなければ外地で信用されない。自分の族や婚姻でつながる族、つまり婚姻でつながるネットワークはもともと固いが、逆に広がりをもたない。これを補強するのが郷党(同県、同府州、同省、近隣2～3省)のコネである。

同郷すなわち近隣の縁は、もし商業関係が乏しければうまく働かない。村から町、小都会、大都会へとつながるネットワークがあれば、出稼ぎ人にとって「外界」はひらけたシステムの網の目として映る。郷党の絆とは、実は人・物・情報・サービスの流れの網の目をつなぐ結節のつながりにほかならない。

<発問13>

中国人の人間関係はどう説明したらよいだろう。次の資料9で確認してみよう。

[資料9]

<文献Bより、一部改め>

中国語で身内を「自己人」という。「私たちは自己人だ」という表現は、私とあなたとの間には分け隔てるものがないくらい親しいという意味をもつ。身内はまた中国語で「一家人」とも呼ばれる。「自己=一家」というわけだ。自己人の間では自他の区別がはっきりしておらず、集合的な面子を共有している。言い換えれば、個々人が自らの面子を意識することは稀で、感情的に融合しており、背後に物質的な基盤が存在しているケースが圧倒的である。

これに対し、身内以外は「外人」と呼ばれる。外人同士は、互いの面子を支えようとしないうるシビアな関係である。人々は打算的で、互いに協調しあおうとしない。協調したとしても手段的・道具的で、感情的な一体感はない。

また、自己人ほどに親しくないが、外人ほどに無関係ではない知り合いがいる。中国語で、こうした人を「熟人」と呼ぶ。

<回答>

中国人の人間関係は、身内(自己人)、知り合い(熟人)、他人(外人)からなる。

<発問14・説明>

中国人の行動原理には、こうした人間関係がどのように反映しているのだろうか。実は、この行動原理を説明するキーワードが「人情」である。「人情」といえば、日本語ではどんな意味か。(自由

に答えさせる…人間的感情、他人への思いやりなど)

中国では、ちょっと意味が異なる。すなわち、「自己からの距離(親疎の度合い)によって他者を位置づけ、その距離に応じて自らの行為を決定しようとする心理的メカニズム」をさす。つまり、親疎の程度によって相手に対して抱く感情が異なり、そこで見られる人間関係の性質にも大きな違いが見られるのである。

<発問15>

では、この「人情」の原理が、身内(自己人)、知り合い(熟人)、他人(外人)の中でどのように作用するのか、次の資料10で確認してみよう。

[資料10] 黄光國という学者によれば、自己人の間では「欲求原則(能力に応じて働き、必要に応じて取る)」が、外人の間では「公平原則」(どちらかの得がどちらかの損になるゼロサム状況での競争)が支配するという。これに対し、熟人同士は意図的に両者の関係を深めようとしなければ、限りなく外人に近づく。しかし、相手が自分と交換しうる何かをもっている場合、あるいは将来相手が自分の望む資源を提供してくれると予想される場合、さらにまた相手が自分にとって重要な第三者と深い関係をもっている場合などは、相手に近づいて自己人関係をつくろうとする。だが、その確信がもてない場合は、判断をめぐってジレンマに陥る。そこに、相手との距離を測り行動しようとする「人情原則」が働くという。〈文献Bより、一部改め〉

<説明>

〈文献B：188、190頁〉

黄光國氏のモデルを図(省略、文献B：189頁を参照)を使って説明しよう。これは、特定の資源を必要としている者と、これを所有している者という二人の行為者を想定し、そこで見られる交換関係を分析したものである。

まず資源を必要とする者は、自らの面子の及ぶ範囲内で、これを所有する者を見つけ出そうとする。これがフェイス・ワークと呼ばれる行動である。そして、資源を所有する者とわたりをつけたり、結びつきを強化しようとする。

しかし、資源を所有する者は、これを必要とする者との関係を判断しなければならない。自らの面子が守られるかどうか、相手との関係に大きく依存しているからである。もし相手が家人(自己人)であれば—つまり相手との関係が情緒的であれば—、その要請に対して無条件に対応する。またもし相手が外人ならば—つまり相手との関係が道具的であれば—、その要請に対しては公平原則をもって対応する。

ところが相手が熟人で、相手との関係が中間的であれば、「人情のジレンマ」に悩むことになるが、これは最終的に人情原則で判断されることになる。つまり、相手に支払うコストと、相手から期待される報酬の「収支決算」を考え、前者が大きいと判断される場合には相手からの要請を断り、逆に後者が大きいと判断される場合には相手からの要請を受ける行動をとるのである。そして、どちらとも判断しかねるような場合、判断を一時中断し、相手との関係をゆっくり考えようとする。

自らの要請が拒否された場合、資源を必要とした者は面子を失った形になり、フェイス・ワークを通じて関係をもつ別の人間を探し出そうとする。そして、新しい人間とわたりをつけたり、結びつきを強化しようとする。逆に要請が受け入れられれば、要請を受けてくれた人に面子を立ててもらったことになり、その関係を従来以上に強めようとする。

<補 足>

以上の説明は、園田茂人著『中国人の心理と行動』（日本放送出版協会、2001年）に依っています。このテーマについて、もっと深く学習したいと思う人は、この文献を参考して下さい。

(原田 智仁)

第6節 文化的視野に立つ日中相互理解の教材開発(1)

— 「漢字文化圏」の近代化・日中関係を中心に —

1 はじめに

日中相互理解の重要性は今更論ずるまでもない。しかし、あらためて考えると、日中が相互理解するとはどういうことだろうか。一体、相互理解とはどういう状態になることを意味するのだろうか。広辞苑を開いても「相互理解」の語は無い。

しかし、広辞苑には「相互」についての「どちらの側からも同じような働きかけがあること。あいたがい。おたがい」という説明と、「理解」についての「(ア)物事の道理をさと知り知ること。意味をのみこむこと。物事がわかること。了解、(イ)人の気持や立場がよくわかること」という説明はある。また、「日中が相互理解する」という場合、「相互」と「理解」の関係は、文法上、(i)「相互に理解する(“相互”が修飾語となる)」、(ii)「相互を理解する(“相互”が目的語となる、この場合“相互”とは両者の間の働きかけの在り方、つまり両者の関係のあり方といった意味となろう)」の2つの場合が考えられる。これらのことから、「相互理解」の意味は、表1に示すAからDまでの4つの意味に整理できよう。

【表1：「相互理解」の意味】

理解 相互	(ア) 物事の道理をさと知り知ること、 意味をのみこむこと、物事がわかる こと。	(イ) 気持や立場がよくわかること。
(i) 相互に	A 両者が、互いに、相手の道理や意 味や物事がわかること。	B 両者が、互いに、相手の気持ちや 立場がよくわかること。
(ii) 相互を	C 両者の間にある働きかけ(関係) の道理や意味や物事がわかること。	D 両者の間にある働きかけ(関係) に対する気持ちや立場がよくわかる こと。

本稿では「相互理解」の意味をC・Dとしてとらえつつ、両国の文化の基層にある「漢字」を題材にして、日本(人)と中国(人)相互の間にどのような関係があるかを構造的にとらえ(C)、それに対して、日本人と中国人がそれぞれ現在どのような気持ちや立場にあるか(D)を考える授業の開発を試みる。その際、日本人として中国(人)をどう理解するかという視点と、中国人として日本(人)をどう理解するかという視点の両方を重視し、日本の生徒だけでなく、中国の生徒も対象にできるような授業モデルとして構想した。今後、日本人と中国人が互いに良きパートナーであるためには、両国民の間で互いにどのような働きかけがなされ、どのような絆で結びつけられているかを双方に再認識させることが肝要と思われるからである。

2 教材解釈

授業モデルでは、両国民を相互に結びつける太い絆の一つとして「漢字」に着目する。「漢字」は両国民の社会・文化の礎であり、生徒にとっても身近、というよりは生活していく上で不可欠のものだからである。

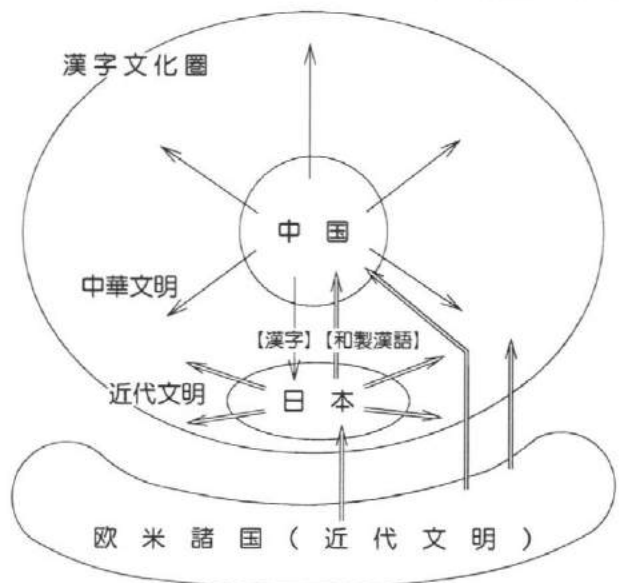
ここ数十年来の日本の歴史学の中で、日本、朝鮮、中国などの国々の歴史を一つ一つばらばらにとらえる「一国史」的な見方を超えて、相互の関連を重視しようとする方向は、大きな力を持ってきた¹⁾。いわゆる「東アジア地域論」である。この「東アジア地域論」の一つの視点が漢字文化圏である。漢字はいうまでもなく、中国で発明されて、それがその周辺に伝播したものである。そして、この漢字が伝えられることによって、周辺地域の民族に中国の思想・制度が伝えられることが可能になると同時に、言語を異にする中国と周辺諸国家、あるいは周辺諸国家相互間の意思伝達が可能となった²⁾のであった。つまり、中華文明は漢字を通して日本・朝鮮・ベトナムへと伝播し、それらの地域の現在にまで至る社会の基層文化として定着していった訳である。こうして成立したのが漢字文化圏である。

こうした体制は、19世紀後半に大きく変化する。明治維新以後、日本は欧米の近代文明を積極的に取り入れ近代化を果たした。その際、欧米から取り入れた様々なものを漢字を使って日本語に訳そうとした。その為、欧米由来の政治・文化・風俗等の名称や用語が「和製漢語」として数多く誕生した³⁾。和製漢語の成立には福沢諭吉や西周などの業績がよく知られているが、「科学」「個人」「自由」といったような日本で新しく漢字を組み合わせで作られたものと、「革命」「経済」「文化」などといった中国にもそれまであった漢語に日本人が新しく意味を付与したものと2種類があることが知られている。

中国清朝は日清戦争敗北以後、積極的に大量の留学生を日本に派遣し、日本を通じて西欧文明を導入しようとした。日本は天皇制の下で近代化を進めていたため、清朝は国体を維持しながら近代化をはかる一つのモデルを日本に見いだしていたからといわれる⁴⁾が、その背景には、日本も漢字を使う国であったことも影響していたものと思われる。これらの留学生や、そのほか孫文などの清朝からの政治的亡命者は、その後帰国して、和製漢語で多くの西欧文明を中国に伝えることになる。これらの和製漢語は、欧米の近代文明の諸概念を表している故に、とりわけ現代中国語の外来語の中で極めて大きな部分を占めている⁵⁾。近代文明は和製漢語によって、中国、そして東アジア地域に定着し、漢字文化圏は近代化していくことになる。この、中国からの漢字による中華文明の伝播（漢字文化圏の成立）と、日本からの和製漢語による近代文明の伝播（漢字文化圏の近代化）の関係が図1である。

このように、日本も中国も互いに漢字文化圏の中で歴史的に固有の役割を果たしてきた。互いの働きがなければ現在のような漢字文化圏は成り立ちえない。日本と中国の間には漢字を通じた交流が脈々と続いており、それが互いの現在の社会・文化の形成に欠くことのできないものであったこと、そしてそれによって日本人と中国人は互いの社会・文化を豊かにしてきたことを理解させたい。

しかし日本と中国の生徒にとって、日本と中国の相互関係を説明できるようになることと、それを感情の上で納得して受け入れられるかどうかは別な問題であろう。理論的には相互関係を理解で



【図1：漢字文化圏の近代化】 筆者作成
(—→ 中華文明 —→ 近代文明)

きても、それを日本人として、または中国人として受け入れられるかは別の問題だからである。もし、関係についての説明を感情的に受け入れられないならば、それはなぜか、説明(理論)に問題があるからなのか、説明(理論)は自らの思いとどう食い違うのかなどについて考えることも相互理解にとって大切なこととなる。本稿で設計した授業モデルでは、単元の最終段階(次項の授業モデルで第Ⅱ部として示す部分)で、なぜ感情的に受け入れられないかについて考え、課題意識を持たせるようにしている。

3 授業モデル

(1) 小単元 「漢字文化圏」の近代化

(2) 小単元の目的

「漢字文化圏」において、中国が前近代に果たした役割と、日本が近代に果たした役割について探求させ、両国の交流によって互いの社会・文化の重要な基盤が形成されていることを具体的に説明できるようにさせる。そしてその認識を背景に、日中関係に対する互いの感情や立場について話し合う。

(3) 小単元の構成(5時間)と到達目標

	構 成	到 達 目 標
第Ⅰ部 4時間	「漢字文化圏」の中で、日本と中国は互いにどのような役割を果たしてきたか。	○日本と中国は、互いに交流することによって互いの社会・文化の基盤を形成してきた。(「漢字文化圏」の中で、日本は古代から中華文明を漢字を通して学び、中国は19世紀後半より日本が欧米諸国から学んだ近代文明を漢字を通して学んだ。) 【Cの意味での相互理解】
パートα 2時間	中国で生まれた「漢字」が日本語で使用されているのはなぜか。	○古代より、日本は中華文明を渡来人、留学生、または輸入漢籍等を通して学んだ。その為、現在の日本の社会や文化の基層には中華文明の多くの要素が位置付いている。日本人が使う「漢字」も元々は中国で生まれたものである。
パートβ 2時間	多くの「和製漢語」が中国語の中に取り入れられているのはなぜか。	○19世紀後半より、中国は日本が欧米諸国から学んだ近代文明の多くの要素を留学生等を通して日本から学んだ。その時、「和製漢語」が中国語としてとり入れられた。その為、現在の中国では近代的諸要素を示す言葉には「和製漢語」が多く使われている。
第Ⅱ部 1時間	第Ⅰ部で考えた「漢字文化圏」の歴史的構造についての説明は理解できても、自分の気持ちとしては納得できない点があるのはなぜか。	○日本と中国の関係に対する、互いの気持ちや立場を考えようとするができる。 【Dの意味での相互理解】

(の部分の授業展開を次項から示す。C、Dについては表1参照)

(4) 授業展開

第Ⅰ部のパートαについては、中国の生徒も日本の生徒も現在の『教学大綱』や『学習指導要領』による歴史学習⁶⁾を復習・整理することによって到達目標は実現できよう。そこで、本稿では、特に第Ⅰ部のパートβと第Ⅱ部の授業案を具体的に提示する。

ア) 第Ⅰ部パートβ

“多くの「和製漢語」が中国語の中に取り入れられているのはなぜか”の授業

①目標

「漢字文化圏」において、日本が近代に果たした役割について探求する。

②構成(問いの構造)

○多くの「和製漢語」が中国語の中に取り入れられているのはなぜか。

- a 「和製漢語」とは何か。
- b どのような内容の「和製漢語」が中国語に定着しているのか。
- c 「和製漢語」の多くは、いつ頃中国語に入ったのか。
- d 「和製漢語」は、日本でどのようにして作られたのか。
- e 「和製漢語」は、どのようにして中国語に取り入れられたのか。

③到達目標(知識の構造)

○19世紀後半より、中国は日本が欧米諸国から学んだ近代文明の多くの要素を留学生等を通して日本から学んだ。その時、「和製漢語」が中国語としてとり入れられた。その為、現在の中国では近代的諸要素を示す言葉には「和製漢語」が多く使われている。

- a 日本で 新しく漢字を組み合わせて作られたり、新しく意味を付与されたりした漢語を、一般に「和製漢語」と呼ぶ。
- b 中国語として定着している「和製漢語」には、欧米諸国の近代文明(明治維新以降、日本が取り入れた欧米由来の政治・文化・風俗等の名称や用語)に由来する語が多い。
- c 「和製漢語」の多くは、19世紀の後半から20世紀の前半に中国に入った。
- d 日本では、明治維新以後、欧米の様々なものを取り入れるべくつとめ、それらを漢語を使って日本語に訳そうとした。その為、欧米由来の政治・文化・風俗等の名称や用語が「和製漢語」として誕生した。
- e 近代化を図る清朝政府によって日本に派遣された留学生等が、近代文明を中国に伝えた際、多くの「和製漢語」が中国で使われるようになった。

④授業

	教師の発問・指示	教授・学習活動	資料等	生徒の予想される回答・期待される知識
導入	<p>・中国から日本に留学していた張さんは、日本人の友人に「私はアンザン(暗算)が得意だ」と聞いて驚いた。なぜだろう。</p> <p>a なぜ、中国と日本では意味が異なっているのだろう。</p>	<p>T:発問する P:予想する T:資料①提示</p> <p>T:発問する T:資料②提示し、説明する</p>	<p>①留学生の誤解(新潟日報、1999.8.25より)</p> <p>②和製漢語とは</p>	<p>(わからない、意味を取り違えたのではないか、など)</p> <p>・張さんは日本語の「暗算(あんざん)」が中国語で「だまし討ち」を意味しているので驚いた。他にも「手紙」というのは、中国語では「ちり紙」を意味している。</p> <p>a 日本と中国はともに「漢字使い」の国ではあるが、</p> <p>①日本で新しく漢字を組み合わせて作らせたり、</p> <p>②新しく意味を付与させたりした漢語がある。これらは、一般に「和製漢語」と呼ばれる。</p>

<p>・さて、現在の中国語には和製漢語がどのくらい取り入れられているのだろうか。</p>	<p>T: 発問する P: 予想する T: 資料③提示し、説明する</p>	<p>③中華人民共和国憲法序文より</p>	<p>(わからない、少ないのでは、多いのでは、など) ・人民、共和、憲法、帝国主義、資本主義、民主主義、闘争、無差階級、機関、科学、文化など、相当数の言葉が和製漢語として取り入れられている。</p>
<p>○なぜこのような多くの和製漢語が、現在の中国語の中に取り入れられているのだろうか。 b 一体どのような内容の「和製漢語」が中国語に入り込み、定着しているのだろうか。</p>	<p>T: 発問する T: 発問する P: 予想する T: 資料④⑤提示 P: 答える</p>	<p>④『漢語百科大辞典』にある「和製漢語」一覧 ⑤中国語に取り入れられた「和製漢語」の特色</p>	<p>b 「和製漢語」には、欧米諸国の近代文明（明治維新以降、日本が取り入れた欧米由来の政治・文化・風俗等の名称や用語）に由来する語が多い。</p>
<p>c これらの「和製漢語」は、いつ頃中国に入っていたのだろうか。</p>	<p>T: 発問する P: 予想する T: 資料⑥提示 P: 答える</p>	<p>⑥現代語の語彙数の変遷</p>	<p>(わからない、明治維新以降であることは確かだろう、など) c グラフからは、19世紀の後半から20世紀の前半ではないかと推測される。</p>
<p>d これらの「和製漢語」は、日本でどのようにして作られたのだろうか。 ・例えば「科学」という語はどのようにして作られたのだろうか。</p>	<p>T: 発問する P: 予想する T: 発問する T: 資料⑦提示し、説明する</p>	<p>⑦「科学」の誕生</p>	<p>(わからない、明治維新と関係があるのではないかと推測される。 ・明治初期に、日本が西欧の近代諸科学を導入する際、福沢諭吉や西周はそれまでの漢字の概念では説明できなかった学問の在り方・体系を「科学」という新しい語を作ることによって表わそうとした。</p>
<p>【作業】 ・次の「和製漢語」の中から興味のある語を選び、どのようにして日本で作られていったかを調べ、まとめて下さい。</p>	<p>T: 発問・指示する P: 調べてまとめる</p>	<p>●図書室、インターネット等で調べる</p>	<p>d 明治維新以降、日本は欧米の様々なものを取り入れるべくつとめ、それらを漢字を使って日本語に訳そうとした。その為、欧米由来の政治・文化・風俗等の名称や用語が「和製漢語」として誕生した。</p>
<p>和漢漢語の例 司法・行政・立法、自由、革命、社会主義、階級 その他資料④等も参考にして選ぶ</p>			
<p>e これらの「和製漢語」は、どのようにして中国で取り入れられたのだろうか。</p>	<p>T: 発問する P: 予想する</p>		<p>(わからない、日本人が商取引等を通じて伝えた、など) (わからない、明治維新と関係があるのではないかと推測される、など)</p>
<p>・例えば「科学」という語はどのようにして中国で取り入れられたのだろうか。 ・19世紀後半から、日本に留学する中国人が急増したのはなぜだろうか。</p>	<p>T: 発問する T: 資料⑧提示し、説明する T: 資料⑨提示し、発問する P: 予想する</p>	<p>⑧「科学」の普及 ⑨中国人留学生と日本</p>	<p>・日本で学んだ中国人留学生が帰国し、日本で学んだ欧米文化を紹介した際、「科学」という言葉が中国で一般化した。 (わからない)</p>
<p>・清朝政府が欧米よりも、日本を中心にして近代文明の導入を図ろうとしたのはなぜだろうか。</p>	<p>T: 発問する P: 予想する T: 資料⑩⑪提示し、説明する</p>	<p>⑩日清年表 ⑪留学の思惑</p>	<p>・日清戦争後、日本に留学する中国人が急増しているのは、清朝政府は日清戦争後、列強の中国分割が激化する中で、日本を介して欧米諸国の近代文明の導入を図ったからである。 (わからない、資料⑩⑪から気付く生徒もいるかもしれない)</p>
<p>・清朝政府にとって、市民意識の強い欧米よりも、同じ文化圏（儒教的価値観）にあり、天皇を戴く日本を通じて学んだ方が国体保持に都合が良いという判断もあった。また、留学生にとっても、日本は同じ文化圏にある近代化のモデルであり、欧米の近代文明を中国に導入する仲介として都合が良かった。</p>	<p>T: 発問する P: 予想する T: 資料⑩⑪提示 P: 答える</p>	<p>⑩⑪</p>	<p>・清朝政府にとって、市民意識の強い欧米よりも、同じ文化圏（儒教的価値観）にあり、天皇を戴く日本を通じて学んだ方が国体保持に都合が良いという判断もあった。また、留学生にとっても、日本は同じ文化圏にある近代化のモデルであり、欧米の近代文明を中国に導入する仲介として都合が良かった。</p>

	<p>【作業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 19世紀後半から20世紀前半にかけて、日本に滞在（留学・亡命等）した中国人にはどのような人がいるか調べ、日本での活動と中国に帰ってからの活動についてまとめ、発表して下さい。（代表的人物を挙げさせ、グループごとに分担して調べさせ、発表させる）。 	<p>T：見聞録する P：調べて発表する</p>	<p>●図書室、インターネット等で調べる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本に滞在した留学生や亡命者の中には、中国の近代化のために活躍した者も多い。
	<p>代表的人物例 康有為（1858-1927）、梁啓超（1873-1929）、孫文（1866-1925）、魯迅（1881-1936）等々が挙げられる。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> 中国人の留学や亡命者の保護に尽力した日本人にはどのような人がいたか調べ、発表して下さい。 	<p>T：見聞録する P：調べて発表する</p>	<p>●図書室、インターネット等で調べる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中国からの留学生や亡命者の受け入れと支援に尽力した日本人も多い。
	<p>代表的人物例 嘉納治五郎（1860-1938）、宮崎寅藏（1871-1922）、藤野巖九郎（1874-1945）、等々が挙げられる。</p>			
	<p>f どのようにして「和製漢語」が中国で使われるようになったのだろう。</p>	<p>T：発問する P：答える</p>		<p>f 近代化を図る清朝政府によって日本に派遣された留学生等が、近代文明を中国に伝えた際、多くの「和製漢語」が中国で使われるようになった。</p>
<p>終結</p>	<p>○なぜこのように多くの「和製漢語」が、現在の中国語の中に取り入れられているかについて、考えたことをまとめてみよう。</p>	<p>T：発問する P：答える</p>		<p>○19世紀後半より、中国は日本が欧米諸国から学んだ近代文明の多くの要素を留学生等を通して日本から学んだ。その時、「和製漢語」が中国語としてとり入れられた。その為、現在の中国の社会や文化の基本的な概念の中には「和製漢語」が多く含まれるようになった。</p>
<p>第1部まとめ</p>	<p>◎「漢字文化圏」の中で、日本と中国は互いにどのような役割を果たしてきたか。</p>	<p>T：発問する P：答える</p>	<p>パートαも振り返りながら考える</p>	<p>◎日本と中国は、互いに交流することによって互いの社会・文化の基盤を形成してきた。</p>

⑤ 授業で使用する資料

資料①：留学生の誤解（新潟日報、1999.8.25、日報抄より）

昨年開設された新潟空港の上海・西安線とハルビン線が、ぐっと近くなった中国を訪れる人でにぎわっている。中国では漢字で筆談できるのがうれしい▼亜細亜大学短大部の張美玉教授が留学生時代の口癖「漢字を書いてください」だった。とはいえ日本には、和製英語同様、和製漢語も多い。張さんは日本の友人に「私はアンゼンが得意だ」と自慢され、早速漢字で書いてもらって目をうたぐった▼「中国語では『暗算』はだまし討ちを意味する。そんな特技を自慢するなんて…」。(中略)

日本滞在が長くなった張さんはある日、台湾の友人から「あなたの便りにある『請給我手紙』(手紙を下さい)の意味が理解できない」という手紙を受け取った▼それもそのはず、中国語の「手紙」はちり紙を意味するのである。いつの間にか張さんは、和製漢語と中国語を混同していた。(後略)

資料②：和製漢語とは（陳力衛『和製漢語の形成とその展開』2001年、汲古書院から作成）

「和製漢語」の範囲は伸縮自在で、狭義では訓読みから音読みへの移行語（おほね→大根、ではる→出張）と近代訳語・新造語だけをさすが、広義では「変容漢語」を包括することもあり得る。(中略)「変容漢語」は、日本語の中で改造され、形も意味も著しく変化した点で和製漢語に傾いてくる。

資料③：中華人民共和國憲法・序言に見る「和製漢語」

(なお、①日本で新しく漢字を組み合わせて作られたものは□、②新しく日本で意味を付与されたものは○で示した。また、繰り返し用いられる語については、一箇所のみ□もしくは○で示した。)

中華人民共和國憲法

序言

中国是世界上歷史最悠久的国家之一。中国各族人民共同創造了光輝燦爛的文化、具有光榮的革命、傳統。

一八四零年以后、封建的中国逐漸變成半殖民地、半封建的国家。中国人民為国家獨立、民族解放和民主自由進行了前僕後繼的英勇奮鬥。

二十世紀、中国發生了翻天覆地的偉大歷史變革。

一九一一年孫中山先生領導的辛亥革命、廢除了封建帝制、創立了中華民國。但是、中国人民反對帝國主義和封建主義的歷史任務還沒有完成。

一九四九年、以毛澤東主席為領袖的中国共產黨領導中国各族人民、在經歷了長期的艱難曲折的武裝鬥爭和其他形式的鬥爭以後、終於推翻了帝國主義、封建主義和官僚資本主義的統治、取得了新民主主義革命的偉大勝利、建立了中華人民共和國。從此、中国人民掌握了国家的權力、成為国家的主人。

中華人民共和國成立以後、我国社会逐步實現了由新民主主義到社會主義的過渡。生產資料 私有制的社會主義改造已經完成、人剝削人的制度已經消滅、社會主義制度已經確立。工人階級領導的、以工農聯盟為基礎的人民民主專政、實質上即無產階級專政、得到鞏固和發展。中国人民和中國人民解放軍戰勝了帝國主義、霸權主義的侵略、破壞和武裝挑釁、維護了国家的獨立和安全、增強了國防。經濟建設取得了重大的成就、獨立的、比較完整的社會主義工業體系已經基本形成、農業生產顯著提高。教育、科學、文化等事業有了很大的發展、社會主義思想教育取得了明顯的成功。廣大人民的生活有了較大的改善。

中国新民主主義革命的勝利和社會主義事業的成就、是中國共產黨領導中国各族人民、在馬克思列寧主義、毛澤東思想的指引下、堅持真理、修正錯誤、戰勝許多艱難險阻而取得的。我国將長期處於社會主義初級階段。国家的根本任務是、沿着建設有中國特色社會主義的道路、集中力量進行社會主義現代化建設。中国各族人民將繼續在中國共產黨領導下、在馬克思列寧主義、毛澤東思想、鄧小平理論指引下、堅持人民民主專政、堅持社會主義道路、堅持改革開放、不斷完善社會主義的各項制度、發展社會主義市場經濟、發展社會主義民主、健全社會主義法制、自力更生、艱苦奮鬥、逐步實現工業、農業、國防和科學技術的現代化、把我国建設成為富強、民主、文明的社會主義国家。

在我国、剝削階級作為階級已經消滅、但是階級鬥爭還將在一定範圍內長期存在。中国人民對敵視和破壞我国社會主義制度的國內外的敵對勢力和敵對分子、必須進行鬥爭。

台灣是中華人民共和國的神聖領土的一部分。完成統一祖国的大業是包括台灣同胞在內的全中国人民的神聖職責。

社會主義的建設事業必須依靠工人、農民和知識分子、團結一切可以團結的力量。在長期的革命和建設過程中、已經結成由中國共產黨領導的、有各民主黨派和各人民團體參加的、包括全体社會主義勞動者、擁護社會主義的愛國者和擁護祖国統一的愛國者的廣泛的愛國統一戰線。這箇統一戰線將繼續鞏固和發展。中国人民政治協商會議是有廣泛代表性的統一戰線組織、過去發揮了重要的歷史作用、今後在国家政治生活、社会生活和对外友好活動中、在進行社會主義現代化建設、維護国家的統一和團結的鬥爭中、將進一步發揮它的重要作用。中國共產黨領導的多黨合作和政治協商制度將長期存在和發展。

中華人民共和國是全国各族人民共同締造的統一的多民族国家。平等、團結、互助的社會主義民族關係已經確立、併將繼續加強。在維護民族團結的鬥爭中、要反對大民族主義、主要是大漢族主義、也要反對地方民族主義。国家尽一切努力、促進全国各民族的共同繁榮。

中国革命和建設的成就是同世界人民的支持分不開的。中国的前途是同世界的前途緊密地連係在一起的。中国堅持獨立自主的對外政策、堅持互相尊重主權和領土完整、互不侵犯、互不干涉內政、平等互利、和平共處的五項原則、發展同各国的外交關係和經濟、文化的交流；堅持反對帝國主義、霸權主義、殖民主義、加強同世界各国人民的團結、支持被壓迫民族和發展中国爭取和維護民族獨立、發展民族經濟的正義鬥爭、為維護世界和平和促進人類進步事業而努力。

本憲法以法律的形式確認了中国各族人民奮鬥的成果、規定了国家的根本制度和根本任務、是国家的根本法、具有最高的法律効力。全国各族人民、一切国家機關和武裝力量、各政党和各社会团体、各企業事業組織、都必須以憲法為根本的活動準則、並且負有維護憲法尊嚴、保證憲法實施的職責。

(資料作成にあたっては、目白大学短期大学の陳力衛氏に「和製漢語」の抽出をお願いした。
また、中華人民共和国憲法の表記については、研究協力者の鎧屋真理子、劉焜の両氏をお願いした。)

陳力衛 (ちん りきえい)

1959年中国西安生まれ。1982年黒龍江大学卒業。1984年北京大學大学院修士課程修了。同大学助手を経て、1986年来日。1990年東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専攻博士課程単位取得中退。その後、米国スタンフォード大学、国立国語研究所客員研究員を経て、現在目白大学短期大学部助教授。

資料④：『漢語百科大辞典』にある「和製漢語」(近代)(陳力衛、前掲書)

和製漢語一覧 近代(飛田良文)(519語)

悪徳新聞	アクトクシンブン	悪徳記者	アクトクキシャ	暗示	アンジ	安全週間	アンゼンシュウカン
安全第一	アンゼンダイイチ	安全地帯	アンゼンチタイ	完全弁	カンゼンベン	暗輸	アンユ
安楽椅子	アンラクイス	異国情調	イコクジョウチョウ	一人称	イチニンショウ	一六銀行	イチロクギンコウ
一等国	イツウコク	意識	イヤク	因果律	インガリツ	印象批判	インショウヒハン
運勢	ウンセイ	運転手	ウンテンシュ	運動会	ウンドウカイ	運動学	ウンドウガク
運動場	ウンドウジョウ	運動費	ウンドウヒ	運命論者	ウンメイロンジャ	衛生学	エイセイガク
衛生工学	エイセイコウガク	衛生隊	エイセитай	映像	エイゾウ	栄養不良	エイヨウフリュウ
駅伝競争	エキデンキョウソウ	演繹法	エンエキホウ	演技	エンギ	遠近法	エンキンホウ
演芸	エンゲイ	厭世観	エンセイカン	演舌会	センゼツカイ	演題	エンダイ
円太郎馬車	エンタロウバシャ	園遊会	エンユウカイ	黄金時代	オウゴンジダイ	横文	オウブン
温情主義	オンジョウシユギ	改悪	カイアク	外延	ガイエン	開化饅頭	カイカマンジュウ
懷疑論	カイギロン	戒厳令	カイゲンレイ	解禁	カイキン	外資	ガイシ
回数券	カイスウケン	蓋然	ガイゼン	蓋然性	ガイゼンセイ	改訂	カイテイ
概念	ガイネン	快樂主義	カイラクシユギ	街路樹	ガイロジュ	科学	カガク
過激派	カゲキハ	楽隊	ガクタイ	学年	ガクネン	確保	カクホ
加速度	カソクド	課題	カダイ	画壇	ガダン	活写	カッシャ
活動写真	カツドウシャシン	活弁	カツベン	過渡期	カトキ	可能	カノウ
可能性	カノウセイ	画報	ガホウ	官権	カンケン	感受性	カンジュセイ
感情移入	カンジョウイニウ	感傷的	カンショウテキ	間接	カンセツ	感染	カンセン
観兵的	カンバイテキ	官僚政治	カンリョウセイジ	議員	ギイン	記憶術	キョクジュツ
機械的	キカイテキ	機関誌	キカシ	企業	キギョウ	喜劇	キゲキ
危険人物	キケンジンブツ	機構	キコウ	技師	ギシ	擬人法	ギジンホウ
期成	キセイ	喫茶店	キッサテン	機動演習	キドウエンシユウ	記念写真	キネンシャシン
機能	キノウ	帰納法	キノウホウ	脚本	キヤクホン	共產主義	キョウサンシユギ
共進会	キョウシンカイ	競進会	キョウシンカイ	教導団	キョウドウダン	共鳴	キョウメイ
共同便所	キョウドウベンジョ	脅迫概念	キョウハクガイネン	曲線美	キョクセンビ	虛無主義	キョムシユギ
金融	キンユウ	具体的	グタイテキ	軍国主義	グンコクシユギ	群集心理	グンシユウシンリ
君主専制	クンシュセンセイ	君主独裁	クンシュドクサイ	計算機	ケイサンキ	刑務所	ケイムシヨ
劇壇	ゲキダン	血税	ケツゼイ	欠点	ケツテン	幻覚	ゲンカク
現実的	ゲンジツテキ	原則	ゲンソク	言文一致	ゲンブンイチ	健忘症	ケンボウシヨ
語彙	ゴイ	公安	コウアン	号外	ゴウガイ	広告	コウコク
公式	コウシキ	構想	コウソウ	肯定	コウテイ	講読	コウドク
功利主義	コウリシユギ	功利説	コウリセツ	合理的	ゴウリテキ	国際的	コクサイテキ
国事犯	コクジハン	国粹	コクスイ	告別式	コクベツシキ	国民性	コクミンセイ
個人	コジン	個人主義	コジンシユギ	個性	コセイ	権妻	ゴンサイ
財界	ザイカイ	債券	サイケン	再現	サイゲン	財政	ザイセイ
財政学	ザイセイガク	財閥	ザイバツ	査証	サショウ	鎖攘	ジョウイ
撮影	サツエイ	刷新	サッシン	三角関係	サンカクカンケイ	惨劇	サンゲキ
産児制限	サンジセイゲン	参照	サンショウ	三段論法	サンダンロンポウ	三人称	サンニンショウ
三面記事	サンメンキジ	示威運動	ジイウンドウ	自意識	ジイシキ	自衛権	ジエイケン
市営住宅	シエイジュウタク	視界	シカイ	紫外線	シガイセン	四月馬鹿	シガツバカ
志向	シコウ	紙腔琴	シコウキン	自叙伝	ジジョデン	自然科学	シゼンカガク
自然現象	シゼンゲンショウ	自然主義	シゼンシユギ	自然淘汰	シゼントウタ	時代錯誤	ジダイサクゴ
実感	ジツカン	実業家	ジツギョウカ	質量	シツリョウ	自動車・自動車	ジドウシャ
自動的	ジドウテキ	自動鉄道・自動鉄道	ジドウテツドウ	自動電話・自動電話	ジドウデンワ	自動販売機	ジドウハンバイキ
資本主義	シホンシユギ	社会学	シャカイガク	社会教育	シャカイキョウイク	社会主義	シャカイシユギ
社会党	シャカイトウ	社会問題	シャカイモンダイ	社交	シャコウ	社交性	シャコウセイ
社交的	シャコウテキ	写実主義	シャジツシユギ	車掌	シャショウ	写真帳	シャシンチョウ
写生文	シャセイブン	社説	シャセツ	自由意志	ジユウイシ	自由行動	ジユウコウドウ
修辭学	シュウジガク	自由主義	ジユウシユギ	周波	シュウハ	自由廃業	ジユウハイギョウ

周波数 シュウハスウ	週報 シュウホウ	自由貿易 ジュウボウエキ	収容 シュウヨウ
主我 シュガ	主観 シュカン	受験生 ジュケンセイ	述語 ジュツゴ
主筆 シュヒツ	殉情主義 ジュンジョウシュギ	純文学 ジュンブンガク	止揚 ショウ
消音器 ショウオンキ	消極的 ショウキョクテキ	憧憬 ショウケイ	情景 ジョウケイ
昇降機・昇降器 ショウコウキ	常識 ジョウシキ	自用车 ジョウシャ	衝動 ショウドウ
情熱 ジョウネツ	消費組合 ショウヒクミアイ	商標 ショウヒョウ	上部構造 ジョウブコゾウ
情報 ジョウホウ	女学生 ジョウガクセイ	女学校 ジョウガッコウ	女給 ジョウキウ
職業病 ショクギョウビョウ	叙事詩 ジョジシ	叙情詩・抒情詩 ジョジョウシ	処方 ショホウ
司令官 シレイカン	司令部 シレイブ	進化 シンカ	人格 ジンカク
進化論 シンカロン	人權 ジンケン	新婚旅行 シンコンリョコウ	紳士淑女 シンシシュクジョ
人事不省 ジンジフセイ	紳商 シンショウ	人身攻撃 ジンシンコウゲキ	人生観 ジンセイカン
人道主義 ジンドウシュギ	人文科学 ジンブンカガク	審美 シンビ	心理学 シンリガク
人力車 ジンリキシャ	図案 ズアン	水彩画 スイサイガ	推進器 スイシンキ
推進機 スイシンキ	垂直 スイチョク	生活機能 セイカツキノウ	生活難 セイカツナン
生活費 セイカツヒ	生活力 セイカツリョク	世紀 セイキ	整合 セイゴウ
精神科学 セイシンカガク	精神病 セイシンビョウ	正則 セイソク	生存競争 セイゾンキョウソウ
声帯模写 セイタイモシャ	政党 セイトウ	青鞥 セイトウ	制動機 セイドウキ
正当防衛 セイトウボウエイ	正当防禦 セイトウボウギョ	性欲・性慾 セイヨク	世界観 セカイカン
赤外線 セキガイセン	積極的 セッキョクテキ	設計 セッケイ	絶対 ゼツタイ
絶対的 ゼツタイテキ	潜在意識 センザイイシキ	前提 ゼンテイ	先天的 センテンテキ
専売 センバイ	旋盤 センパン	扇風機 センブウキ	扇風器 センブウキ
専門家センモンカ	占有 センユウ	旋律 センリツ	相関的 ソウカンテキ
造形芸術 ゾウケイゲイジュツ	造形美術 ゾウケイビジュツ	壮士新聞 ソウシシンブン	相対的 ソウタイテキ
操短 ソウタン	総長 ソウチョウ	属性 ゾクセイ	組織学 ソウシキガク
粗製濫造 ソセイランゾウ	速記 ソッキ	速記者 ソッキシャ	速記術 ソッキジュツ
即興詩 ソッキョウシ	速記録 ソッキロク	尊皇 ソンノウ	体育 タイイク
第一印象 ダイイチインショウ	対応 タイオウ	退化 タイカ	代議士 ダイギシ
体系 タイケイ	体験 タイケン	第三者 ダイサンシャ	対質 タイシツ
対称 タイショウ	対象 タイショウ	泰斗 タイト	体慾・体欲 タイヨク
第六感 ダイロクカン	託児院 タクジン	惰性 ダセイ	脱線 ダッセン
妥当性 ダトウセイ	断言 ダンゲン	単行本 タンコウボン	団体 ダンタイ
探偵小説 タンテイショウセツ	短編小説・短編小説 タンベンショウセツ	探訪タンボウ	探訪者 タンボウシャ
地下運動 チカウンドウ	地下室 チカシツ	蓄音器・蓄音機 チクオンキ	逐語訳 チクゴヤク
地方色 チホウショク	地方分権 チホウブンケン	着想 チャクソウ	注意人物 チュウイジンブツ
中央集権 チュウオウシュウケン	抽象 チュウショウ	中篇小说 チュウヘンショウセツ	鳥瞰図 チョウカンズ
超自然 チョウシゼン	超人 チョウジン	聴診器 チョウシンキ	聴診法 チョウシンホウ
調整 チョウセイ	挑発的 チョウハツテキ	長篇小説 チョウヘンショウセツ	著作權 チョウサクケン
直角 チョウカク	直覚力 チョウカククリョク	直観 チョウカン	通信員 ツウシンイン
通信社 ツウシンシャ	通信販売 ツウシンハンバイ	通有性 ツウユウセイ	庭球 テイキウ
提供 テイキョウ	定言的 テイゲンテキ	帝国主義 テイコクシュギ	停車券 テイシャケン
定食 テイショク	適応性 テキオウセイ	適者生存 テキシヤセイゾン	敵弾 テキダン
哲学 テツガク	哲学者 テツガクシャ	哲学的 テツガクテキ	鉄道馬車 テツドウバシャ
電子 デンシ	電信 デンシン	電話 デンワ	動員 ドウイン
統計学 トウケイガク	投手 トウシュ	同人雑誌 ドウジンザッシ	同盟罷工 ドウメイヒコウ
投票 トウヒョウ	独創 ドクソウ	鈍行 ドンコウ	内地雑居 ナイチザッキョ
内務省 ナイムショウ	軟派 ナンパ	肉感的 ニクカンテキ	肉体的 ニクタイテキ
肉弾 ニクダン	二次会 ニジカイ	二重人格 ニジュウジンカク	日章旗 ニッショウキ
二律背反 ニリツハイハン	人間性 ニンゲンセイ	人間味 ニンゲンミ	熱狂 ネッキョウ
能率 ノウリツ	俳画 ハイガ	拝金宗 ハイキンシュウ	背景 ハイケイ
背進 ハイシン	博愛主義 ハクアイシュギ	白熱 ハクネツ	暴露戦術 バクロセンジュツ
反映 ハンエイ	反感ハンカン	範疇 ハンチュウ	反応 ハンノウ
万有引力 バンユウインリョク	美意識 ビイシキ	比較的 ヒカクテキ	美学ビガク
美感 ビカン	悲劇 ヒゲキ	尾行 ビコウ	飛行機 ヒコウキ
非公式 ヒコウシキ	比重 ヒジュウ	美術 ビジュツ	非常線 ヒジョウセン
非戦 ヒセン	非戦論 ヒセンロン	必然性 ヒツゼンセイ	否定 ヒテイ
避病院 ヒビョウイン	秘密結社 ヒミツケツシャ	表現 ヒョウゲン	標語 ヒョウゴ
美容術 ビョウジュツ	表情 ヒョウジョウ	病的 ビョウテキ	評論家 ヒョウロンカ
便乗 ビンジョウ	貧民窟 ヒンミンクツ	瘋癲病院 フウテンビョウイン	不可抗力 フカコウリョク
不可知 フカチ	副業 フクギョウ	副作用 フクサヨウ	複写 フクシャ
伏魔殿 フクマデン	婦人会 フジンカイ	婦人記者 フジンキシャ	婦人問題 フジンモンダイ

福沢諭吉が『学問のすすめ』において述べた「一科一学」という言葉が、日本語の「科学」という語の出発になるものと見られる。明治五年二月、福沢諭吉は『学問のすすめ』の初編を公刊した。その初編は福沢の有名なことば、「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと言えり」で始まるもので、当時の人々に非常によく読まれた書物であったが、その中において新しい方向の学問の性格を、次のように説いた。

地理学とは、日本国中は勿論世界万国の風土道案内なり。究理学とは、天地万物の性質を見てその働きを知る学問なり。歴史とは、年代記のくわしきものにて万国古今の有様を詮索する書物なり。これらの学問をするに、いずれも西洋の翻訳書を取調べ、大抵の事は日本の仮名にて用を便じ、或いは年少にして文才ある者へは横文字をも読ませ、一科一学の実事を押え、その事に就きその物に従い、近く物事の道理を求めて今日の用を達すべきなり。

この文中の「一科一学」という言葉が、やがて日本社会で「科学」という言葉に展開していったのであろう。

しかしながら、『学問のすすめ』よりも前、明治三年から四年にかけて論述された西周の「百学連環」においてすでに、西洋の語学は、それぞれに「学域」というものを持っているのだということが説かれている。そこにはまだ「科学」という語は用いられていないが、学問には「学域」というものがあるとするのは、実質的には今日の「科学」の解説をしたことになる。西は「百学連環」において、次のように説いている。

凡て学問には、学域といふありて、地理学は、地理学の域あり、政事学は政事学の域ありて、敢て其域を越へて種々混雑することなく、各の学に於て其経界を觀察して、正しく区別するを要せざるべからず、故に譬へば今政事学を以て専務となす所の人に就て、器械学の箇条を以て尋問せんに、縦令其の器器械学を知るといへども、之を他の器械学者に譲りて、敢て教へざるを通常とす。

また、「百学連環」の原本には、朱書にてこの部分について次のような記載もある。

各学域あるが故に、俗に洋学者たるものは総て西洋のことを知るものとなすは誤りなり。漢学に經学家・歴史家及び文章等の区別ありと雖ども、更に学域たるものあらず。漢に於ても其学域と云ふ更に区別あることなし、最迂濶の事ならんか。

中国の伝統的な学問には、いわゆる「学域」というものがなかったということを指摘した西の注意は、まさにその通りで、漢学の影響が強かった時代の日本の学問も、またおのずからそうであった。それ故学問にはそれぞれに「学域」というものがあるのだという「百学連環」の提唱は、日本の旧来の学問意識に対して、大きな転換、ひとつの革命をせまるものであった。（中略）

「科学」という日本語がはじめて成語として用いられたのは、明治七年の西の論文であったとされている。西は「明六社雑誌」に「知説」と題する論文を連載するのであるが、その中において、次のように述べた。

如此クシテ事実ヲ一貫ノ真理ニ帰納シ、又此真理ヲ序二前後本末ヲ掲ゲ著ハシテ一ノ模範トナシタル者ヲ学（サイエンス）ト云フ。（中略）然ルニ如此ク学ト術トハ其旨趣ヲ異ニスト雖ドモ、然ドモ所謂科学ニ至テハ両相混ジテ判然区別ス可ラザル者アリ。

右の文中、西は「学」に「サイエンス」(science) というルビをあて、それを「所謂科学」と置きかえているので、明治七年頃の時点において、「科学」という日本語が、すでに識者の間にかなり普及していたらしいことを知ることができる。「科学」という語の誕生は「百学連環」講述のあと、明治四年の終りごろ生まれたものであろう。

光緒二十八年から二十九年にかけて、日本の年号でいえば明治三十五年から三十六年にかけて、それまでに日本に留学して諸科学を勉強してきた人々が帰国した時期に、急激に日本書の諸科学解説書が中国語に翻訳され、中国全土に普及するという現象が示された。そのことを梁啓超は『清代學術概論』の中で、次のように述べている。

壬寅（光緒二十八年）・英卯（二十九年）の間、訳述の業特に盛んにして、定期出版の雑誌は数十種を下らず、日本にて一新書出づる毎に、訳者数家に動とし、新思想の輸入は、火の如く茶の如し。（壬寅・英卯間、訳述之業特盛、定期出版之雑誌、不下数十種、日本 毎新書出、訳者動数家、新思想之輸入、如火如荼矣。）

この光緒二十八・九年に、どういったぐいの日本の諸科学解説書が翻訳されたかについては、実藤恵秀に「邦書華訳の概観」という論文があり、「東亜解放」昭和十五年二月号に掲載されている。それを見ると、まことにおびただしい数の日本出版の諸科学の啓蒙書が、中国において翻訳されたことに、改めて驚かされるのであるが、こうした事実を通して、「科学」という日本語や、そしてまた諸「科学」の内容が、中国の知識人の社会に伝えられたのであった。そしてそれから以降は、中国でも「科学」ということばがふつうに使用されることばになっていったよう

に思われる。(中略)「科学」という日本語が、中国において普及し、定着するのは、清朝の末期であったということがいえそうである。

資料⑨：中国人留学生と日本（藤井昇三、<http://www.courses.fas.harvard.edu/jap209b/Readings/Chugokujinryuugakusei.html>）

最初の年の1896年に13名であった中国人留学生の数は、1898年に18名、1899年に100余名、1901年に280余名、1902年には約500名、1903年には約1000名、1904年には約1300名、1905年には8000余名、1906年も同じ、1907年は約7000名、1908年は約4000名、1909年も同じ、1912年は約1200名と大きく変化している。東京でこれらの留学生を受け入れる学校は、次々と増えていった。最初の13名を受け入れた嘉納の私塾は、1899年亦楽書院と名づけられた。1898年からは、陸軍士官学校の予備校として成城学校にも留学生教育のためのコースが設けられ、また高楠順次郎が日華学堂を創設して留学生を迎え入れた。このほか、1899から1906年ごろにかけて、留学生教育のための多くの学校が設けられた。東京同文書院(近衛篤麿の東亜同文会の経営)、弘文学院(嘉納治五郎が創立者。亦楽書院の発展したもの。のちに宏文学院とも書くようになる)、振武学校(陸軍将校の養成)、東斌学堂(私費留学生のための陸軍教育)、法政速成部(法政大学に付設)、経緯学堂(明治大学の経営)、早稲田大学清国留学生部などがあり、女子留学生の教育を行った学校として、実践女学校、成女学校があった。

資料⑩：19世紀後半から20世紀前半の東アジア周辺に関する略年表（清水書院『高等学校世界史A』の年表より作成）

	39	林則徐(欽差大臣)を広州に派遣、アヘン取締り
	40	アヘン戦争(～42、南京条約)
	43	清、英と虎門寨追加条約
	44	清、米と望厦条約、仏と黄埔条約
1850		
	51	太平天国(～64)
	54	日米和親条約
	56	アロー戦争
	58	アイグン条約、天津条約、日米修好通商条約
	60	北京条約、洋務運動おこる
	62	清、同治の中興
	68	明治維新
	75	江華島事件・日朝修好条規(76)、朝鮮開国
	81	イリ条約
	89	大日本帝国憲法
	90	第1回帝国議会
	94	甲午農民戦争、日清戦争(～65)
	95	三国干渉
	97	(朝)国号を大韓と改称
	98	戊戌の政変
	99	義和団迅(～1901)
1900		
	01	北京議定書(辛丑条約)
	04	日露戦争(～05、ポーツマス条約)
	05	孫文、中国同盟会結成、清朝、科挙廃止
	10	日本、韓国を併合
	11	辛亥革命
	12	中華民国成立、清朝滅亡、袁世凱が臨時大總統になる
	14	日本、対独戦線・青島攻略
	15	対華二十一条の要求
	18	シベリア出兵(～22)
	19	三・一運動、五・四運動、中国国民党成立
	21	中国共産党成立
	24	第1次国共合作、日本、治安維持法・普通選挙法成立

- 26 国民党の北伐開始
- 31 満洲事変(～32、満洲国)、中華ソヴィエト共和国
- 34 中国共産党の長征
- 37 盧溝橋事件・日中戦争、第2次国共合作
- 40 日独伊三国同盟
- 41 日ソ中立条約、真珠湾攻撃、太平洋戦争勃発
- 45 広島・長崎に原爆投下、日本軍の無条件降伏
- 48 大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国成立
- 49 中華人民共和国成立

資料⑩：留学の思惑（厳安生『日本留学精神史』1991年、岩波書店より作成）

【清朝官僚（楊枢）のコメント】

一九〇三年に、新任駐日公使の楊枢は、任地から朝廷に送る報告の中で、「中国と日本はその地同じ洲に属し、政体と民情もつとも相似たり」といって、忠君愛国、孔孟尊崇の日本を同洲また同宗の手本と推した。楊枢は、清朝支配者にとって何が最大の利益かをよく知っていた。新政挙行は大勢の赴くところ、ただし「仏、米諸国はみな共和民主を以て政体となすから断じてそれに倣うべからず」。日本は立憲君主政体で、しかも「英、独諸国に法を取っていながら中国先聖の道をきちんと守っており、是れ以て国体揺るがず、利あって弊なし」である。

このように、国体の同質性と政体の無害性が立証されたうえは、何のことはないフランス、アメリカやイギリス、ドイツなど西洋のものでも日本的に（即ち中国先聖の道を生かして）こなしたのなら、安心して日本に学ぼうではないか、ということになる。（中略）これは清朝支配者にとって都合がよく安心できるものであった。

【中国人留学生（蔡鐸）のコメント】

海に浮かび東瀛（日本）に渡ってより、三神山に登り、長橋の水を飲み、三条・大隈の政策を訪ね、福沢・井上の学風を考え、薩長肥の遺蹟に弔ひ、甲午・庚子に我が国に戦勝した諸記念をあまねく観る。道路が整い、市井は雅やかにして清潔、行旅に不自由なく、法制が改良される。電信や鉄道が国中に通じ、警察が厳密で盗賊その踪を絶つ。学校や会社、公德市況、農工実業、軍備枢要、日進月歩してとどまるを知らぬ。国を挙げて進取刷新にはげみ、深慮遠謀至らぬところがなくて、その意気は全東洋を凌がんと欲する。（中略）もっぱら西洋の方法を採用しながら自国の国情に合わせるのにつとめ、判断決定をした上は全力を挙げて実行にはげむ。（中略）遂に東洋史上に唯一無二の、善く学び善く変わる、進取してやまない母国になった。（中略）

欧米を農工とし、日本を商販として、吾輩主人はそれを取って用い当面の必要に間に合わせれば良い。後日、文治が榮え、学界が超秩すれば、ふたたび自ら創って人に智をめぐみ、東西洋をして我に求めせしめるまでである。

イ) 第Ⅱ部

“第Ⅰ部で考えた「漢字文化圏」の歴史的構造についての説明は理解できても、自分の気持ちとしては納得できない点があるのはなぜか。”の授業

①目標

日本と中国の関係に対する、互いの気持ちや立場を考えようとする。

②構成（問いの構造）

○第Ⅰ部で考えた「漢字文化圏」の歴史的構造についての説明は理解できても、自分の気持ちとしては納得できない点があるのはなぜか。

└ f（日本人の生徒へ）

自分たちの社会や文化、そして今の生活が中国に負うところが大きいことについてど

う思うか。気持ちとして納得できないところはあるか。

g (中国人の生徒へ)

自分たちの社会や文化、そして今の生活が日本に負うところが大きいことについてどう思うか。気持ちとして納得できないところはあるか。

③ 予想される反応の構造例

○日本と中国の関係については、日本人も中国人も互いに独特の気持ちや立場を持っているからである。

(予想される気持ちや立場の例)

- ・日本人も中国人もそれぞれ自らがアジアの中心だと思っているからではないか。
- ・日本と中国の間にはライバル意識があるからではないか。 など

f (予想される納得できない日本人生徒の気持ちや立場の例)

- ・確かに中国の影響は認めるけれど、日本はそれを消化し吸収して独自の文化を発展させ続けてきた。
- ・1000年以上の昔はそうかもしれないけれど、今の日本は中国の影響よりも、欧米の影響の方がずっと強い。 など

g (予想される納得できない中国人の気持ちや立場の例)

- ・「和製漢語」といっても、医学などの自然科学や政治学などの社会科学といった特定のジャンルのものが多い。中国の社会や文化を変えてしまうほど日本をから学んだ物が多いとは思えない。それに比べて、中華文明は日本の社会を根底から変える力を持っていた。
- ・中国も欧米から直接に欧米文化を受け入れることができた。中国は日本からのみ欧米文化を学んだのではないし、日本人が訳さなければ中国人はもっと上手に翻訳していたはずだ。
- ・漢字を発明し、中華文明を作り上げたのは中国人である。日本人は欧米文化を学んで、中国に仲介したにすぎない。 など

④ 授業

	教師の発問・指示	教授・学習活動	指導上の留意点	生徒の予想される反応
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・「和製漢語」を通して、中国の社会・文化はどのように変化したか。 ・「漢字」を通して、日本の社会・文化はどのように変化したか。 	T：発問する P：答える T：発問する P：答える	前時までの学習をふりかえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・近代文明を取り入れ、社会・文化を変革した。 ・中華文明を取り入れ、社会・文化を変革した。

展開	f (日本人の生徒へ) さて、日本の社会や文化、そして今の生活が中国に負うところが大きいことについてどう思うか。気持ちとして納得できないところはあるか。 g (中国人の生徒へ) さて、中国の社会や文化、そして今の生活が日本に負うところが大きいことについてどう思うか。気持ちとして納得できないところはあるか。	T: 発問する P: 考えをまとめ、発表する	日本人と中国人の生徒が一緒にいる場合は、それぞれに考えさせる。この場合、討論形式にしてもよい。一般的には日本人しかいない教室、中国人しかいない教室の場合が普通であるが、その場合、日本人の教室では「中国の社会や文化、そして今の生活が中国に負うところが大きいことについてどう中国人は思うだろうか」、中国人の教室では「日本の社会や文化、そして今の生活が中国に負うところが大きいことについてどう日本人は思うだろうか」などと質問し、想像させてみる。または、いくつかの資料(例: 資料⑭)を提示したりして様々に考えさせる。
	○なぜ「漢字文化圏」の歴史的構造についての説明は理解できても、自分の気持ちとしては納得できないものがあるのか。	T: 「納得できない」という意見の根拠を整理する	(納得できない日本人生徒の予想される根拠の例) ・確かに中国の影響は認めるけれど、日本はそれを消化し吸収して独自の文化を発展させてきた。 ・1000年以上の昔はそうかもしれないけれど、今の日本は中国の影響よりも、欧米の影響の方がずっと強い。など (納得できない中国人生徒の予想される根拠の例) ・「和製漢語」といっても、医学などの自然科学や、政治学などの社会科学といった特定のジャンルのものが多い。中国の社会や文化を変えてしまうほど日本をから学んだ物が多いとは思えない。それに比べて、中華文明は日本を社会を根底から変える力を持っていた。 ・中国も欧米から直接に欧米文化を受け入れることができた。中国は日本からのみ欧米文化を学んだのではないし、日本人が訳さなければ中国人はもっと上手に翻訳したはずだ。 ・漢字を発明し、中華文明を作り上げたのは中国人である。日本人は欧米文化を学んで、中国に仲介したにすぎない。など
終結	・これから日本人と中国人が尊重しあい、理解し合うためには、互いに何が必要だと思うか。	T: 発問する P: 話し合い、意見をまとめて発表する	なるべく、生徒および専門家の色々な意見を集める。(例: 資料⑮) (予想される意見の例) ・日本人も中国人もそれぞれ自らがアジアの中心だと思っているからではないか。 ・日中間にはライバル意識があるからではないか。 など T: 発問する P: 考える オープンエンド (わからないが、これから様々に考えていきたい。)

⑤ 授業で使用する資料

資料⑭: 外国人に対する日本人と中国人の違い (邱永漢、『中国人と日本人』、中央公論社、1993年より)

日本人は自分らが師と仰ぐに足る実力を備えた国もしくは人に対しては、「三尺離れて師の影を踏まず」といった敬虔な態度をとる。反対に自分よりランクが下とわかったら、掌をかえしたように横柄な態度に出る。(略)その代わり自分よりすぐれていることがわかったら、どこの国の人だろうと、人種をこえて、尊敬の念を表わす。王貞治さんは名前からして中国人だが、あれだけ打者として実力があり、ブラウン管を通じて多くの人々を娯楽させてくれば、日本政府も国民栄誉賞をくれるにやぶさかではない。(略)しかし、王貞治さんのような少数の例外を除けば、多くの中国人は(韓国や北朝鮮の人たちも含めて)必ずしも面白い目にばかりあっているわけではない。日本人の閉鎖性、排他性は、日本人から最も尊敬されているアメリカ人でさえそれを感じているくらいだから、日本人から見下されてきた朝鮮半島や台湾や東南アジアの発展途上国の人々で、不愉快な体験をしたことのない人はまずいない。ちょうど会社の中で、上役にべこべこする部長や課長ほど下役にあたり散らすのが、あれに似ていると思えば当たらずといえども遠からずだろう。そういう態度が、外国人に接する場合や外国の文物を取り入れる時について頭をもたげてくるのである。

中国人にほそういうところがない。それは中国人が頭が低いからではない。むしろ自分らこそ世界の文明文化の中心に位置しているという中華思想が頭にこびりついていて、人に学ぶという謙虚さに欠けているからである。この尊大さは何千年の歴史の間に自然にはぐくまれてきたものだけに、清朝が減んで中国が植民地争奪戦の対象にされるようになってからでも少しも変わりはない。たとえば、西太后が諸列強の連合軍に敗れて以来、中国人はさんざんな目にあわされたが、大砲や軍艦を持って攻め込んでくる外国人を昔ながらの東夷西戎の野蛮人としてしか認

めようとしなかった。塞外から攻め込んでくる蛮族にくりかえし統治を受けながらも、それをことごとく同化して行った歴史があるだけに、いかに武力的に強力であっても自分らよりすぐれた文化の持ち主であるとは認めようとしなかったのである。

私がこのことに気づいたのは、1948年、台湾から香港に亡命して、しばらく香港に住んでいた時のことだった。香港はイギリスの統治下にあり、そこに住む中国人は、イギリス人のおかげで中国の内戦から守られ、物質的にも豊かな生活を享受している。もちろん、統治者であるイギリス人のほうが立派な洋館に住み、水洗便所のおかげで臭い思いもしないですんでいる。中国人で金持ちになった人々も、イギリス人のそうした生活がすぐれていることを認め、自分らもそうした洋館に住んで西洋文明を享受している。にもかかわらず中国人は（香港の場合はほとんどが広東人であるが）西洋人を鬼（クワイ）と呼び、女は鬼婆（クワイボウ）と呼んでいる。イギリス人は英国鬼（エンコククワイ）、アメリカ人は美国鬼（メーコククワイ）そして、フランス人は法国鬼（フアコククワイ）と呼んではばからない。自分らよりきれいな家に住み、高価で性能のよい自動車を運転し、中国人である自分らに子供のお守りをさせたり、部屋の掃除や洗濯をさせたりして月給を払ってくれるご主人夫婦に対しても、中国人の阿媽（アマ）たちは陰にまわって鬼郎（クワイロウ）・鬼婆（クワイボウ）と呼んだのである。

こうなると、鬼と鬼ババアというよりは、「外人さん」の呼称と考えたほうがいい。それを「鬼」という言葉で表現するのだから、西洋人崇拝熱の高い日本や日本の影響を強烈に受けている台湾からやってきた私には、意外でもあり驚きでもあった。うちの家内の実家などは、かなり洋化され、子供たちも英語の教育を受けているし、日曜日には蓄音機を車に積んで郊外にピクニックに出かけ、親たちが見ている前で子供たちがボーイフレンドやガールフレンドとダンスをやっているような、ずいぶんひらけた家である。それでも白人のことを平気で鬼郎・鬼婆と呼ぶ。それでいて、アメリカ留学から帰ってきたイトコやハトコがアメリカ人の女を連れて帰ってきても、結婚式には親戚一同が集まって祝福をするし、そうすることに対して違和感はない。一見、日本人のほうが西洋文明を積極的に受け入れているように見えるが、日本人は西洋人を敬して遠ざけ、決して気を許そうとしない。そういうのに比べると、中国人は鬼郎・鬼婆でも平気で家族の一員として受け入れる。はたしてどちらの胃袋が大きいかということになると、そう簡単に結論は下せない。

資料⑬：日本人と中国人のアイデンティティ

（猪口孝「アイデンティティと東アジアの地域協力」2003年10月、御殿場での講演要旨資料、
<http://www.glocom.org/opinions/essays/20031027inoguchidoes/index.html> より）

ここで、アイデンティティとは、それによって心が安らかになり、そのために犠牲を惜しまないと感じるようなものである。（中略）

私は2000年に、アジア9カ国と欧州9カ国で国際的なアンケート調査を行い、(1)自分が特定の国、例えばフランス、アメリカ、日本といった国に属していると感じているかどうか、また(2)自分たちが他の国の人たちも含んだより大きなグループ、例えばヨーロッパ、アジア、中国、イスラムといったグループに属していると感じているかどうかを質問した。

その結果、上記の(1)の点に関して、日本人の答えは、3分の2しか日本への帰属意識がなく、3分の1は「どうでもいい」、あるいは「考えたこともない」というものである。さらにそのような人たちの10%は自分の家族や会社やシニアクラブに属しているといった種類のアイデンティティを持っている。また、上記の(2)の点に関しては、日本人の26%がアジア人を選んでいるが、残りの人は分からないと答えている。明らかに日本人の国家的アイデンティティはあまり強くなく、より広い地域的アイデンティティに至っては非常に弱い。（中略）他方、中国人は約80%が中国を選ぶ国家主義者であり、(2)の質問に対しては、30%が中国を選び、30%がアジアを選んでいる。中国人の認識によれば、中国対アジアという対立軸になり、アジアはあまり評価されない。

このような結果に対する背景としては、日本は伝統的にアジアのアイデンティティが弱いという事実がある。それはちょうどイギリスのヨーロッパ大陸に対する関係に似ている。日本にとってもイギリスにとっても近隣の大陸は、トラブルを起こす可能性があるため、距離を置いている。しかしその一方で、問題が起これないようある程度関係を持たざるをえない。多くの日本人は日本の文明が中国文明とはかなり違ったものであると感じている。ただし、日本は大陸の動きに影響されざるをえないことも確かである。（中略）

中国人は文化的なナショナリストの面が強く、アジアにおける自分の位置づけといった意識はあまりない。中国の対ASEAN自由貿易協定の動きも、単に東南アジアの経済を華僑のビジネス文化が支配していることに基づく中国文化交流モデルを正当化しているだけにすぎない。日本で勉強している中国人学生の間で、日本のことを「東

の海に浮かぶ泡」といった古い中国の表現で呼ぶことがあるが、これも中国のアジア観を示しているのかもしれない。

4 おわりに

本稿では、「相互理解」の意味を「両者の間にある働きかけ（関係）の道理や意味や物事がわかること(C)」と「両者の間にある働きかけ（関係）に対する気持ちや立場がよくわかること(D)」の2つの面からとらえつつ、両国の文化の基層にある「漢字」を題材にして授業モデルを開発し、提案した。対象も日本人と中国人の両方の生徒を想定した。今後、この授業モデルを両国の生徒に対して実施する機会を得ることができれば幸甚である。

なお、授業モデルの第Ⅱ部の部分は、第Ⅰ部で扱った理論の是非を話し合うことで、相互理解の難しさや大切さを感じることができるよう組み立てたかったが、価値的な内容を含むものであり、まだまだ検討が必要と考えている。そのことも含めて、授業モデルに対するご批判ご指導を仰ぎたい。

【注】

- 1) 岸本美緒「東アジア地域論」(『歴史と地理』No564、山川出版社、2003年5月、p.40)。
- 2) 西嶋定生「東アジア世界の形成と展開」(『西嶋定生東アジア史論集第三巻』岩波書店、2002年、p.67)をもとにした。
- 3) 高島俊男『漢字と日本人』(文春新書、2001年、p.129)をもとにした。
- 4) 巖安生『日本留学精神史』(岩波書店、1991年)。
- 5) 沈国威『近代日中語彙交流史』(風間書房、1994年)。
- 6) 中国の「教育大綱」にもとづいた歴史教育については、段瑞聡「中国における歴史教育と日中関係—中学校・高校の歴史教育を手がかりに—」(杏林大学社会科学部・総合政策学部『杏林社会科学研究』第15巻4号、2000年3月)において『九年義務教育三年制中学教科書中国歴史(第2冊)』を分析し、以下のようにまとめている。

中国古代史の中の日本は基本的に友好国として取り扱われている。(中略)そこでは、遣隋使と遣唐使、学問僧、留学生阿倍仲麻呂と唐僧鑑真、両国の貿易交流などが取り上げられ、両国の密接な関係が紹介されており、とりわけ唐の文化が日本の建築、医学、芸術、生活習慣などに与えた影響が強調されている。

また、現行の中学校学習指導要領第2章第2節社会の歴史的分野「2内容」の「(2)古代までの日本」には、

ア 人類が出現し、やがて①世界の古代文明が生まれたこと、また、日本列島で狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化していったことを理解させる。

イ 国家が形成されていく過程のあらましを、②東アジアとのかかわり、古墳の広まり、大和朝廷による統一を通して理解させる。その際、当時の人々の信仰、③大陸から移住してきた人々の我が国の社会に果たした役割に気付かせる。

ウ ④大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことを、聖徳太子の政治と大化の改新、律令国家の確立、摂関政治を通して理解させる。

(ただし、下線及び①から④の番号は二井による。)

とあり、これに基づいて、日本の生徒は、①中国で漢字が生まれ使用されたこと、②邪馬台国や大和朝廷が中華文明の影響下にあったこと、③大陸からの渡来人によって様々な中華文明、特に漢字や儒教が日本に伝えられたこと、④日本も遣隋使・遣唐使を中国に派遣するなど積極的に中華文明を吸収し、国家・社会を形成していったことを学習する。

(二井 正浩)

第7節 文化的視野に立つ日中相互理解の教材開発(2)

— 「中国における日本のポピュラー文化」 —

1 はじめに

日中相互理解に最も深く関わっているのは学校教育であり、その中でも社会科は中心的な地位を占めている。日本の小・中学校の教科書を見ると、古くから日中間の相互交流があったことが述べられているし、現在の経済的なつながりが非常に深いことも記されている。同様に、中国の社会系教科の教科書においても、日本に関する記述は少なくない。

「第二部 日中相互理解に関するアンケート調査」でも明らかにされているが、日本と中国の生徒間で、相手国理解の質が異なっているというデータが示された。日本の生徒の中国理解は、日中間の歴史的及び現在の経済的な結びつき、一人っ子政策、市場経済の導入など、その大部分が教科書及び学校の授業に依存していることがうかがえた。同様に、中国の生徒に関しても、日中戦争時における日本の侵略、日本の経済成長など、学校教育に依存している部分も見られた。

しかし、アンケート調査によると、知っている日本人として中国の子どもが上げた人物名を見ると、アニメ、漫画、ゲームを通して知ったキャラクター名、TV番組を通して知った芸能人が多数挙げられていた。古くは西城秀樹、山口百恵、最近では酒井法子が中国では有名であったことは知られていた。アジア諸国、特に台湾では「哈日（ハーリー）族」という日本のポピュラー文化に夢中になっている若者がいることは有名であるが、中国にも日本のポピュラー文化がそこまで入り込んでいるとは思わなかった。インターネットで「雅虎中国（YAHOO!）」で「区域>国家与地区>日本>」と検索を進めていくと、日本のアニメや漫画、芸能情報に関する中国人によるホームページを見ることができる。特に興味深かったのは、大久保利通はアニメ・漫画の登場人物（おそらく和月伸宏『るろうに剣心』）として、織田信長はゲームソフトのキャラクター（おそらく『信長の野望』KOEI）として上げられていたことである。中には宮本茂氏や光田康典氏など、ゲーム業界では有名人ではあるが、一般の日本人にはあまり知られていない人物名を答えた子どもがいることには驚かされた。（ちなみに、宮本茂氏はスーパーマリオやドンキーコングなど、任天堂の人気ゲームソフトの生みの親と言われている人物であり、息子がゲームにはまっていたポール・マッカートニーが来日した時、コンサートに招待した宮本氏にサインをねだったという話は有名である。）

そこで、本節では、既存の社会科の教科内容として取り上げられることが少ない「中国における日本のポピュラー文化」を事例として、中学校段階における文化的視野に立つ日中相互理解の教材開発を試みたい。

2 「中国における日本のポピュラー文化」の教材化構想

小学校教科書では、中国と日本の結びつきを、中国から伝わってきたものを中心に記述されている。例えば、お茶、漢方薬、中華料理、毛筆習字と漢字などがそれである。現在では、食料品、衣料品や家電製品など、いわゆるメイド・イン・チャイナの工業製品が巷にはあふれている。しかし、その一方で、和製漢字など、日本から中国へと伝えられたものもある。現在では、日本のポピュラー文化が中国へと渡っている。

しかし、日本から中国へとどのようなポピュラー文化が渡っていったのかを把握するだけの授業では、日中相互理解としては物足りない。そこで、以下のような問題意識のもとで教材研究を行っ

た。

第1に、いつごろから、日本のポピュラー文化が中国にわたり始めたのか、送り手である日本側の意志で始まったのか、それとも受け手の中国側の意志で始まったのかという問題意識である。文化大革命、天安門事件、日本の歴史教科書をめぐるとの問題など、両国間の関係によって、日中間の文化交流が左右される場合もあった。よって、日中国交正常化からの50年の流れをふまえながら、日本のポピュラー文化がどのような形で中国に受け入れられていったのかを考える必要がある。

第2に、なぜ、日本のポピュラー文化が中国の若者に受け入れられていったのかという問題意識である。単に、両国間の文化交流が制度として整ったからとって、中国の若者の間で日本のポピュラー文化が受け入れられることにはならない。日本のポピュラー文化そのものに、中国の若者に受け入れられる性格があるのではなかろうか。この問題意識を解明することが、日中相互理解にとって重要と考えた。

第3に、なぜ、日本のポピュラー文化が中国の若者に受け入れられているのに対して、中国のポピュラー文化が日本の若者の間にそれほど広がっていないのかという問題意識である。先にも述べたが、日本の生徒の中国理解は、日中間の歴史的及び現在の経済的な結びつき、一人っ子政策、市場経済の導入など、その大部分が教科書及び学校の授業に依存していることがうかがえた。知っている人物名として、学校教育以外の場がきっかけとなった者として、ジャッキー・チェン、ブルース・リーなど、ほんの少数の香港映画俳優くらいであった。このようなポピュラー文化の一方向性の現状を説明することが日中相互理解を行う上で必要と考えた。

以上の3点の問題意識を持ちつつ、以下の文献を手がかりとして教材研究を行った。

①劉志明著『中国のマスメディアと日本イメージ』エピック、1998年。

②五十嵐暁郎編『変貌するアジアと日本—アジア社会に浸透する日本のポピュラーカルチャー—』世織書房1998年

③石井健一編『東アジアの日本大衆文化』蒼蒼社、2001年

①は中国人民大学世論研究所研究員である劉志明が、中国人の日本イメージの形成と変化の要因を解明することを通して、中日相互イメージを改善する方法を探ろうと試みた研究である。その中で、中国人に対する日本イメージの調査、マスメディアの果たした役割などが詳細に記されている。特に、中国のマスメディアを巡る政治状況が詳しくかかれている。

②は五十嵐氏を代表とする科学研究費等の共同研究の研究成果とした刊行されたものである。ここでは、1980年代後半以来、日本経済の東アジアへの大規模な経済進出と並行し、その影響力の後押しされて、日本のポピュラーカルチャーがこの地域に浸透し、一定の影響力を及ぼしている、「ジャパナイゼーション」という現象の説明が行われている。本書では、タイ、韓国、台湾、シンガポール、そして中国と東アジア諸国を対象としており、特に、「文化的無臭性」、「グローカリゼーション」などの概念が参考となった。

③は東アジア諸国で、最近になって日本のポピュラー文化の人気の高まったことを解明するため、台湾、韓国、香港、中国の各地域における日本のポピュラー文化について、現地で実施したフィールド調査をもとに、歴史、政治、経済、社会など多方面からの分析が行われている。特に、アジア諸国における多チャンネル化にともなうメディアの商品化、文化・情報の流れの非対称性を説明する「コンテンツによる文化的類似性の重要度」モデルは、開発した授業の中核をなすものである。

上記のような教材研究を行うとともに、日本のポピュラー文化を生み出してきた日本国内の状況にも焦点を当てた教材研究も行った。日本のポピュラー文化の代表であるアニメ産業は、現状に危機感を抱いている。日本アニメは、スポーツ選手、TVゲームと並ぶ輸出コンテンツとして取り上げられることが多い。また、宮崎駿監督の『千と千尋の神隠し』は海外の映画界で注目を浴びるなど、輝かしい側面が強調されがちである。しかし、経済産業省が立ち上げたアニメーション産業研究会によると、日本のアニメ産業はその制作をアジア諸国へと下請けに出し空洞化が起こっている。事実、現在日本で放映されているアニメ番組のエンディング・タイトルをみると、原画制作者名に中国人や韓国人の名前、中国の企業名を見ることができる。また、『冬のソナタ』に代表される韓国ドラマが日本でも人気を博し、東アジアでも日本ドラマを追い抜きつつある。このような現状をふまえると、東アジアにおける日本のポピュラー文化の地位も、現在のままとはいくまい。今後の東アジアにおける日本のポピュラー文化を展望させることも日中相互理解を行う上で重要と考えた。

3 教材開発の実際

①小単元名 「中国における日本のポピュラー文化」

②小単元の構成と到達目標

パート1 「なぜ、中国の若者が日本のポピュラー文化について知っているのか」

- ・中国の若者が日本の若者とと同じくらい日本のポピュラー文化について知っているのは、日本の漫画が中国語版で出版されたり、アニメ・テレビドラマが放送されたり VCD や DVD で販売されたりしているからである。

パート2 「なぜ、日本のテレビ番組が中国で放送されるようになったのか」

- ・日本のテレビ番組が中国で放送されるようになったのは、多チャンネル化によって、放送番組不足や視聴者のニーズに合わせた番組が求められるようになったためである。

パート3 「なぜ、日本のポピュラー文化が中国に受け入れられたのか」

- ・日本のテレビドラマ等が中国で放送されるようになったのは、単に多チャンネル化によるテレビ番組不足のためだけではなく、日本と中国の文化的な類似性（主にテレビドラマ）、無国籍性と市場規模（主にアニメと漫画）ゆえである。

パート4 「東アジアにおける日本のポピュラー文化はどのようなになるのだろう」

- ・中国政府の文化開放政策、中国の WTO への加盟、韓国のポピュラー文化、日本のアニメ産業の空洞化などの状況を考慮し、今後を展望することができる。

③単元展開

パート1 「なぜ、中国の若者が日本のポピュラー文化について知っているのか」

教師の教授行為（指示・発問・説明等）	教材	子どもに習得させたい知識
・あなたが知っている中国人の名前を教えてください。また、その人物についてどのような媒体を通して、あるいはどのようなきっかけで知りましたか。	・孫文、毛沢東、周恩来 ・劉備 ・ジャッキー・チェン ・チューヤン、	学校の授業で 小説で、テレビゲームで 映画で テレビで など。

	<ul style="list-style-type: none"> 中国の若者が知っていると思う日本人を予想してみよう。また、なぜ、中国の若者がその人物を知っていると予想したのですか。 実際に中国の大連市、北京市、上海市の中・高校生に聞いてみました。その結果の上位は教材1の通りです。これらの人物がどのような人物か知っていますか。知っていることを教材1に書き込んでみよう。 教材2は、中国の若者がアニメや漫画、ゲームを通して知った日本人としてあげた名前です。これらのキャラクターが登場するアニメ、漫画、ゲームのタイトルを教材2に書き込んでみよう。 教材3は中国の若者が知っている日本人としてあげた日本の漫画家です。それぞれの漫画家が書いた代表作品名を教材3に書き込んでみよう。 教材4は、中国の若者が知っている日本人としてあげた日本の芸能人です。それぞれの芸能人の代表的な活動（楽曲、出演ドラマ・映画など）を資料4に書き込んでみよう。 みなさんが中国の若者が知っている日本人として予想したものと実際に中国の若者が知っている日本人を比べて、共通点と相違点をまとめてみよう。 なぜ、中国の若者がこれらの日本のアニメや漫画のキャラクターを知っているのだろうか。 なぜ、中国の若者がこれらの日本の漫画家を知っているのだろうか。 なぜ、中国の若者がこれらの日本の芸能人を知っているのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 小泉純一郎 総理大臣だから 中田英寿 サッカーで世界的に有名だから 浜崎あゆみ 中国でもコンサートを開いたから <p>など。</p> <p>教材1 (教材1参照)</p> <p>教材2 (教材2参照)</p> <p>教材3 (教材3参照)</p> <p>教材4 (教材4参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> 内閣総理大臣の小泉純一郎は中国でも有名だった。 中田英寿は世界的に有名なサッカー選手だった。 日本の漫画家や芸能人についてこれほど詳しく知っているとは思わなかった。 日本のアニメ、漫画、ゲームについて詳しいのには驚いた。 <p>など。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の漫画が中国でも出版されているのではないか。 日本のアニメやドラマが中国でも放送されているのではないか。 日本のアーティストのCDが中国でも売られていたり、コンサートを開いているのではないか。 日本の芸能人が中国のテレビに出演しているのではないか。
<p>展 開 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> この本の表紙を見てください。 (日本と中国で出版されている漫画の表紙の絵の部分だけを見せる) これらの本はどこが違うのだろうか。 (漫画の表紙の全体を見せる) これらの漫画は中国で購入してきました。これらの漫画の中身を見比べてみよう。 次の写真は、中国の本屋の写真です。この写真に何が写っていますか。 	<p>教材5</p> <ul style="list-style-type: none"> 両方とも「名探偵コナン」の漫画だ。 両方とも「ドラえもん」の漫画だ。 <p>教材6</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵は全く同じで吹き出しが中国語になっている。 <p>教材7</p> <ul style="list-style-type: none"> ポケモンの本を売っている。 クレヨンしんちゃんの本を売っている。 「らんま1/2」、「ヒカルの碁」、「ハンター×ハンター」など、日本の漫画が売られている。 <p>など。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> なぜ、中国の若者が日本の漫画について知っているのだろうか。 		<ul style="list-style-type: none"> 日本の漫画が中国語に翻訳され中国で出版されているので、中国の若者は日本の漫画を読んでいる。だから、中国の若者は日本の漫画について知っている。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> インターネットで中国における日本のアニメ番組について調べてみると、中国のテレビ局のサイトで日本のアニメ番組について紹介していました。そこには日本のアニメ画が掲載されています。これらのアニメタイトルは何だろうか。 	教材8	<ul style="list-style-type: none"> 「風の谷のナウシカ」 「鉄腕アトム」 「ドラえもん」 「海が聞こえる」 「ちびまる子ちゃん」
	<ul style="list-style-type: none"> 教材9はあるテレビ局の番組表です。この番組表から日本のアニメ番組を探してみよう。 	教材9	<ul style="list-style-type: none"> 櫻桃小丸子 「ちびまる子ちゃん」 多啦A夢 「ドラえもん」 忍者亂太郎 「忍者乱太郎」 小魔女 DOREMI 「おジャ魔女ドレミ」 哈姆太郎 「とっとこハム太郎」 名偵探柯南 「名探偵コナン」
	<ul style="list-style-type: none"> 次の写真は、中国の本屋で撮影しました。この写真に何が写っていますか。 	教材10	<ul style="list-style-type: none"> 名探偵コナンの VCD (Video-CD) がある。
	<ul style="list-style-type: none"> 教材12は実際に中国で販売されている VCD です。これらの日本タイトルは何でしょうか。 	教材11	<ul style="list-style-type: none"> 櫻桃正丸子 ちびまる子ちゃん 小町当 ドラえもん
	<ul style="list-style-type: none"> 中国で販売されている日本アニメの DVD や VCD をネットで販売しているサイトがあります。ここでは、以下の日本アニメが販売されています。それぞれの表紙のアニメ画を手がかりに日本タイトルを当ててみよう。 	教材12	<ul style="list-style-type: none"> 網玉小子 テニスの王子様 頭文字D/イニシャルD 頭文字D 灌籃高手 スラムダンク 海盜王/ONE PIECE 海盜王 碁棋魂 ヒカルの碁 浪客劍心 るろうに剣心 小運的故事 アルプスの少女ハイジ
<ul style="list-style-type: none"> なぜ中国の若者が日本のアニメについて知っているのだろうか。 			<ul style="list-style-type: none"> 日本のアニメが中国のテレビ番組として放送されていたり、DVD や VCD として販売されたりしているので、中国の若者は日本のアニメを見ている。だから、中国の若者は日本のアニメについて知っている。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> つぎに、中国における日本のテレビドラマについて調べてみよう。インターネットで中国における日本のテレビドラマ事情について調べてみると、中国のテレビ局のサイトで日本のテレビドラマについて紹介していました。これらのタイトルを当ててみよう。 	教材13	<ul style="list-style-type: none"> 東京愛情故事 「東京ラブストーリー」 美丽人生 「新婚行進曲」 魔女的条件 「魔女の条件」 星之金币 「星の金貨」 大和抚子 「やまとなでしこ」
	<ul style="list-style-type: none"> 教材14を見てください。これはある雑誌の表紙です。気がついたことを挙げてください 	教材14	<ul style="list-style-type: none"> 浜崎あゆみが表紙を飾っている。 須藤温子（第7回全日本国民的美少女コンテストグランプリ受賞者）の名前がある。 上海の出版社の雑誌だから、これは中国の雑誌のようだ。
	<ul style="list-style-type: none"> この雑誌は『HOW (好)』という中国の雑誌の2002年11月号です。この雑誌の表紙を飾ったタレントの一覧があります。これを見て気づいたことはありますか。 	教材15	<ul style="list-style-type: none"> 酒井法子、常盤貴子、ともさかりえ、柏原崇、中山美穂、安室奈美恵など、日本の芸能人がたくさんいる。
	<ul style="list-style-type: none"> この雑誌で、日本のビジュアル系ロックバンドの特集があります。どのようなバンドが取り上げられていますか。 	教材16	<ul style="list-style-type: none"> L'Arc~en~Ciel、Gackt、MALICE MIZER、hide、GLAY など、日本でも有名なバンド・ミュージシャンが取り上げられている。

	<ul style="list-style-type: none"> なぜ、中国の若者が日本の芸能人について知っているのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本のドラマが中国のテレビ番組として放送されているとともに、日本の芸能人の情報が雑誌に掲載されたりしている。だから、中国の若者は日本の芸能人について知っている。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 今日の授業でわかったことをまとめてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の漫画が中国語版で出版されたり、アニメ・テレビドラマが放送されたり VCD や DVD で販売されたりしているので、中国の若者は日本のアニメ、漫画、芸能人について知っている。

パート2 「なぜ、日本のテレビ番組が中国で放送されるようになったのか」

	教師の教授行為（指示・発問・説明等）	教材	子どもに習得させたい知識
導入	<ul style="list-style-type: none"> 教材17は、かつて、中国の人に日本のどんなテレビドラマを見たことがあるかを調査した結果です。あなたはこれらのテレビドラマを知っていますか。 日本のテレビドラマなのに、どうして知らないものもあるのだろうか。 それぞれのテレビドラマが日本で初めて放送された時期は、以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> 赤い疑惑 1975年 おしん 1983年 サインはV 1969年 姿三四郎 1970年 東京ラブストーリー 1991年 中国のテレビ局はいごろから、どのような日本のアニメやドラマを放映しはじめたのだろうか。 	教材17	<ul style="list-style-type: none"> 実際に見たことのないドラマがほとんどである。 おそらく、昔のテレビドラマだからだと思う。 自分たちが生まれる以前のテレビドラマが多い。
展開	<ul style="list-style-type: none"> 中国のテレビ放送はいつ頃始まったのだろうか。 その後の中国のテレビ放送はどのように発展したのだろうか。 初めて放送された日本のテレビドラマは何だったのだろうか。 なぜ、このころ日本のテレビドラマが中国で初めて放送されたのだろうか。そのころの中国はどのような状況だったろう。 	教材18	<ul style="list-style-type: none"> 中国での初めてのテレビ放送は1958年5月1日であった。日本での初めての放送は1953年であり、日本に5年遅れてテレビ放送が始まった。 1960年頃から中ソ関係が悪化し、また、自然災害の影響で中国経済が大きなダメージをうけ、テレビの発展が大きく遅れた。1976年の統計によると、全中国のテレビ台数は46万3千台であり、平均すると1,600人に一人が所有、世帯普及率は0.2%であった。1978年には全国にテレビ局が38局あったが、各放送局の平均放送時間は3時間しかなかった。 1981年に上海、1982年に北京で放送された「姿三四郎」が初めて放送された日本ドラマであった。 1976年に毛沢東の死去により文化大革命が終わり、中国は改革・開放を行うようになった。その中で、外国の映画や音楽などが中国共産党主導の下でテレビ放送されるようになった。「姿三四郎」この時期に放送されたのは、はこのような状況の中でであった。

1	<ul style="list-style-type: none"> その後、どのような日本のテレビドラマが放送されたか。その中で、特に人気があったのはどのテレビドラマだろう。 なぜ、「赤いシリーズ」と「おしん」は中国で大きな反響があったのか。 	<p>教材18</p> <ul style="list-style-type: none"> 1982年から1990年までの間に38本の連続ドラマが放送された。中国でテレビが急激に普及するその中で、日本ドラマブームが起こった。その中で大きな反響を得たのが山口百恵が主演した「赤い疑惑」を代表作とする「赤いシリーズ」と「おしん」であった。 「赤いシリーズ」は共産党によって長い間抑圧されてきた伝統的な人間観と人間的愛情に中国の人々がふれる機会を提供した。また、日本のトップスターにまで登り詰めながら、三浦友和と結婚し引退し主婦となった山口百恵の決断が、女性に役割に関して中国人の間で大きな議論を引き起こしたことも、山口百恵に対する関心を高めた。 「おしん」は主人公であるおしんの勤勉、質素、正直、仁愛、忍耐強さ、楽観、進取の「おしん精神」が中国で高く評価され、中国人民に「おしん精神」を見習うようにと宣伝されるとともに、戦後日本の高度経済成長と結びつけられて理解された。
展	<ul style="list-style-type: none"> その後、中国のテレビ事情はどのようなになったか。 中国のテレビ放送が多チャンネル化に突入することによって、中国のテレビ事情にどのような変化が現れたのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 1995年の統計では、テレビ台数は2億8000万台、テレビの世帯普及率は85%にまであがった。テレビ局の放送時間も、平均法総時間が16時間以上に増加した。全国のテレビ局数は3125局にもなり、中国は多チャンネル化に突入した。 もともと、中国では1行政区につき1つのテレビ局しかなかった。例えば、上海には上海電子台という一つのテレビ局しかなく、人々は1チャンネルしか見ることができなかった。それが、1987年に上海電子台は上海第1テレビ、上海第2テレビに分割し、2チャンネルが視聴可能となった。そののち、1993年に東方電子台が開局し、1行政区に2つ目のテレビ局が初めて開局した。現在、上海では5つのテレビ局が合計11のチャンネルで放送している。さらに中央電視台を加えると上海の人々は14チャンネルの視聴が可能である。このように複数テレビ局間の競争と多チャンネル化が進んできた。特に、中国の多チャンネル化はケーブルテレビが中心となって進められていった。
開	<ul style="list-style-type: none"> 複数テレビ局間の競争は、中国のテレビ事情にどのような影響を与えたか。 	<p>教材19</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでのテレビ局は共産党の支配下に置かれ、党の方針を人民に伝達する機能を果たしてきた。放送される番組はニュース番組が中心であった。しかし、テレビ局間の競争が生まれ、また、テレビ局の運営は広告収入に依存するようになり、視聴者に受け入れられる番組作りがテレビ局に求められるようになった。中国におけるテレビ広告は1979年に始まったが、その年の広告収入は325万元であった。それが1995年には64億元と二千倍になった。テレビ番組は広告収入を得るための商品と考えられるようになったり。その結果、以前のニュース中心の番組構成から視聴者に受け入れられる娯楽番組、ドラマなどが多数放送されるようになった。
2	<ul style="list-style-type: none"> 中国のテレビ局は、多チャンネル化に突入することにより新たに問題を抱えることとなった。その問題とは何か。 	<p>教材20</p> <ul style="list-style-type: none"> 多チャンネル化により、中国の毎週放送平均時間は増大していった。しかし、その増大した時間に放送する番組を中国国内で制作することができなかった。

展 開	<ul style="list-style-type: none"> • 中国のテレビ局は、不足するテレビ番組をどのようにして調達したのか。 • なぜ、日本がテレビ番組の買い入れ先の一つとして選ばれたのだろうか。 • 実は、中国のテレビ局が日本のテレビ番組を放映する以前から、中国の人々は日本のテレビ番組を見ていました。どうやってみていたのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> • アメリカ、日本など海外からテレビ番組を買い入れて放送するようになった。 • 近くの国だからだと思う。 • 同じアジアの国だからだと思う。 • そのきっかけとなったのは、1987年にNHKが始めた衛星放送だった。衛星放送は衛星から電波を送るため、放送エリアを国内だけに限定することが困難だった。放送内容がスクランブル（暗号化）されていなければ、過程でパラボラアンテナを設置すれば簡単に番組が受信できた。このような減少をスピルオーバーと呼ぶ。中国をはじめ、韓国や台湾の東アジアの人々はNHKの意図せざるスピルオーバーのおかげで、日本のテレビ番組を見ることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> • NHKの衛星放送で流した日本の番組は日本語のはずである。中国の人々は日本語の番組が理解できたのだろうか。 • 中国の人々が日本のテレビ番組を理解するためには、どのような条件が必要か。 	<ul style="list-style-type: none"> • 大多数の人は日本語の番組が理解できないと思う。 • だれかが日本のテレビ番組を中国語に翻訳する必要がある。
	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> • だれがそのような番組を制作したのか。 	<p>教材21 教材22</p> <ul style="list-style-type: none"> • 香港のスターテレビの衛星放送がそれであった。スターテレビは1991年にアジアの38カ国を対象に放送を開始した。スターテレビは中国、東南アジア、南西アジアの各地域の言語に吹き替え、または字幕を付けて番組を放送した。スターテレビの人気チャンネルの一つ、中国語で放送していた衛視中文台（スターチャイニーズ・チャンネル）は日本のトレンドドラマやアニメを数多く放送した。
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> • 具体的に、どのような日本のテレビ番組が放送されたのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 例えば、ドラマとしては「101回目のプロポーズ」、「東京ラブストーリー」、アニメとして「らんま1/2」、「ちびまる子ちゃん」などを放送した。
	<ul style="list-style-type: none"> • 今日の授業でわかったことをまとめてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> • 中国では1990年代に入って複数テレビ局間の競争と多チャンネル化が進んできた。その結果、テレビ番組は商品化され、視聴者のニーズに合わせた番組が放送されるようになった。しかし中国のテレビ局は多チャンネル化に対応できるだけの番組量を自給できず、アメリカや日本からテレビ番組を買い入れた。その結果、中国の人々が日本のテレビドラマやアニメを見る機会が増え、日本で人気のある芸能人やアニメなどについて知ることとなった。

パート3 「なぜ、日本のポピュラー文化が中国に受け入れられたのか」

	教師の教授行為 (指示・発問・説明等)	教材	子どもに習得させたい知識
導入	<ul style="list-style-type: none"> なぜ、日本のテレビドラマやアニメ・漫画が中国の若者を中心に受け入れられていったのだろうか。 		
展開 1	<ul style="list-style-type: none"> まず最初に日本のテレビドラマから考えてみよう。中国で大反響を呼んだ「おしん」は世界中で放送されました。しかし、中国と同じように大反響を呼んだところとそうでないところがあった。それはどこだろうか。 なぜ、「おしん」はアジアでは大人気だったのに、アメリカやヨーロッパではあまり人気が出なかったのだろうか。 	教材23	<ul style="list-style-type: none"> 「おしん」はアジアの国々では大人気となったが、アメリカやヨーロッパではあまり人気にならなかった。 テレビドラマは日常的に視聴するものであり、その中には登場人物の日常生活場面が多く描かれている。そのため、テレビドラマがその国に受け入れられるかどうかは、その番組を制作した国と放送された国の間に文化的な類似性が重要な要件と考えられている。日本のテレビドラマが中国の人々に受け入れられたのは、アジアの日本がアジアの中国にドラマを輸出したからと考えられる。
	<ul style="list-style-type: none"> 日本の漫画・アニメが中国の人々に受け入れられていったのはなぜだろうか。 	教材23	<ul style="list-style-type: none"> 日本のアニメの中には、現在の特定の場所を舞台にしているとは思えないものが数多くある。それらは近未来や架空の国を舞台にしたものであり、登場人物の外見も日本人とは思えない。その代表例が、「ポケットモンスター」である。このような日本アニメはアジアのみならず世界中で人気を博している。 また、その一方で「ちびまる子ちゃん」のような日本と中国の子どもの文化的類似性ゆえに受け入れられていると思われるアニメも数多く存在する。
展開 2			
展開 3	<ul style="list-style-type: none"> 文化的類似性というのであれば、中国のテレビドラマが日本で放送されてもおかしくないはずである。また、アニメの無国籍性が重要であるならば、中国のアニメが日本で数多く放送されてもおかしくないはずである。しかし、実際にはテレビ番組や漫画が日本から中国へという一方通行となっているのはなぜか。 	教材24	<ul style="list-style-type: none"> その原因は、日本のアニメ・漫画産業の市場規模の大きさにあるといわれている。日本のアニメ・漫画人口は世界一といわれている。例えば、『少年ジャンプ』や『少年マガジン』は週刊誌でありながら400万部を超えている。ということはアニメ・漫画制作に高いコストをかけることが可能となり、漫画家に巨額の報酬を与えることができ、多くのすぐれた漫画家を育てることとなる。例えば、手塚治虫の下から数多くの漫画家が育っていった。近年では、スタジオジブリが若手のアニメ制作者を育てている。その結果、日本のアニメ・漫画は質の高いものが作られ、世界でも高い評価を得ている。
	<ul style="list-style-type: none"> 日本のテレビドラマやアニメ・漫画が中国で人気を博している理由についてまとめてみよう。 		<ul style="list-style-type: none"> 日本のテレビドラマ等が中国で放送されるようになったのは、単に多チャンネル化によるテレビ番組不足のためだけではない。それには3つの理由が考えられる。第一に、主にドラマに関してであるが、日本と中国の文化的な類似性である。ドラマでは登場人物の日常生活場面が多く描かれるため、送り手となる日本と受け手となる中国の間に文化的類似性があるゆえ、日本のドラマが中国に受け入れられていったと考えられる。第二に、主にアニメに関してであるが、その無国籍性と市場規模にある。その無国籍性ゆえに日本のアニメが中国を始め世界中に受け入れられていったと考えられる。また、日本のアニメ市場は世界一であるため、優秀な漫画家が数多く育っており、すぐれた作品が数多く制作されている。
まとめ			

パート4 「東アジアにおける日本のポピュラー文化はどのようになるのだろう」

	教師の教授行為 (指示・発問・説明等)	教 材	子 ども に 習 得 さ せ たい 知 識
導 入	<ul style="list-style-type: none"> 今後も日本のテレビドラマやアニメ・漫画が中国で放送・出版され続けるだろうか。 		<ul style="list-style-type: none"> これだけ人気があるのだから放送・出版され続けるだろう。中国が日本を含め外国のテレビ番組に対してどのような対策を取ってきたのかを知らないと言えないがわからない。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> それでは中国に大きな影響を与えたスターテレビに対して、中国政府がどのような対応を取ったかを調べてみよう。スターテレビはNHKの衛星放送と違い、現地語で放送されていたため、アジア諸国に対する影響は大きかった。このスターテレビに対して、中国政府はどのように対応したか。 		<ul style="list-style-type: none"> アジア諸国の中には、マレーシアのように全面的に禁止する国があれば、台湾のように非合法のまま、なし崩し的に開放されていった国もある。中国はこの両者の中間的な対応をとった。スターテレビが開局した頃、中国は政治的に海外からの情報を禁止する政策をとっていた。しかし、その禁止には実効性が無く、1993年には三千万人も中国人がスターテレビを見ていたといわれている。しかし、1994年には中国政府は規制を強化し、ホテルなど一部の機関を除いて、衛星放送の受信を厳格に禁止した。
1	<ul style="list-style-type: none"> なぜ、中国政府は衛星放送の受信を厳格に禁止したのだろうか。 		<ul style="list-style-type: none"> 中国の多チャンネル化は開放政策、市場原理の導入の一環として進められた。しかし、そこで放送される内容を規制したいと考えた政府は、外国からスビルオーバーしてくる衛星放送の受信を禁止し、規制が比較的可能なケーブルテレビでの多チャンネル化を進め、情報の管理を強化しようとした。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 2002年4月に教材25のようなニュースが発表された。この教材25には何が書かれているのだろうか。 	教材25	<ul style="list-style-type: none"> 1960年代末に誕生した日本アニメ「ドラえもん」の名称が「機器猫(ロボット猫)」から「哆啦A夢(ドラえもん)」として生まれ変わり、中国で本格的に放送されることになった。同アニメのエージェントで、アジアのアニメ放送を一手に担う香港国際影業会社が先日、上海で明らかにしたもので、「今月から全国60のTV局で放送する」という。
2	<ul style="list-style-type: none"> この報道では、「ドラえもん」が再放送される背景として何があるかといっているか。 	教材25	<ul style="list-style-type: none"> 業界筋では、同アニメが国内の放送局およそ60局で再放送されるのは、中国が世界貿易機関(WTO)に加盟し、世界的なアニメ業界が中国市場に参入してきている証だとしている。
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> 今後も日本のテレビドラマやアニメが中国で放送され続けるだろうか。 	教材26 教材27	<ul style="list-style-type: none"> これまでの経緯から予想すると、日本のテレビ番組が中国で放送されるかどうかは、中国政府の文化開放政策次第ともいえる。中国のWTOへの加盟によって日本のポピュラー文化がより開放されるのではないか。 文化開放政策は日本のみならず世界各国に開放されるはずである。 現在、中国では日本ドラマ以上に韓国ドラマが人気がある。また、「冬のソナタ」や「イブのすべて」のような韓国のドラマが日本でも放送されている。もしかしたら、日本ドラマは韓国ドラマに負けてしまうかも知れない。 韓国人漫画家の作品が日本の雑誌で連載されるようになってきた。また、日本のアニメのタイトルバックを見ると、その制作が中国に下請けに出されているものもある。もしかしたら、日本の漫画・アニメが韓国や中国に追い抜かれるようになるかも知れない。

教材1 中国の若者が知っている日本人

人物名	件数	% (人数)	% (件数)	説明
小泉純一郎	209	44.4	36.8	現内閣総理大臣
中田英寿	89	18.9	15.7	サッカー選手
酒井法子	50	10.6	8.8	芸能人
佐藤栄作	38	8.1	6.7	元内閣総理大臣
田中角栄	36	7.6	6.3	元内閣総理大臣
桜木花道	36	7.6	6.3	「スラムダンク」登場人物
浜崎歩	35	7.4	6.2	歌手
稲本潤一	33	7.0	5.8	サッカー選手
藤野先生	29	6.2	5.1	魯迅の先生
柯南・工藤新一	27	5.7	4.8	「名探偵コナン」登場人物
山本五十六	24	5.1	4.2	連合艦隊司令長官
流川楓	22	4.7	3.9	「スラムダンク」登場人物
櫻桃小丸子	22	4.7	3.9	「ちびまる子ちゃん」登場人物
一休	22	4.7	3.9	「一休さん」登場人物
宇多田光	20	4.2	3.5	歌手
東条英機	19	4.0	3.3	元内閣総理大臣
村山富市	18	3.8	3.2	元内閣総理大臣
小野伸二	18	3.8	3.2	サッカー選手
青山剛昌	17	3.6	3.0	漫画家、「名探偵コナン」原作者
木村拓哉	16	3.4	2.8	芸能人
竹野内豊	13	2.8	2.3	芸能人
深田恭子	12	2.5	2.1	芸能人
藤原紀香	10	2.1	1.8	芸能人

人数 N=471 件数 N=568

教材2 中国の若者がアニメや漫画、ゲームを通して知った日本人

キャラクター名	登場作品名
金田一一	「金田一少年の事件簿」
上杉達也	「タッチ」
大神一郎	「サクラ大戦」
月野うさぎ	「美少女戦士セーラームーン」
小新	「クレヨンしんちゃん」野原しんのすけ
花沢類	「花より男子」
黒羽快斗	「名探偵コナン」怪盗キッド
大空翼	「キャプテン翼」
若林源三	「キャプテン翼」
ワタル	「魔神英雄伝ワタル」
哆啦A夢	「ドラえもん」
孫悟空	「ドラゴンボール」
齋藤一	「るろうに剣心」
夕城未朱	「ふしぎ遊技」

(実際に使用する場合には、登場作品名欄は空欄にしておく。)

教材3 中国の若者が知っている日本の漫画家

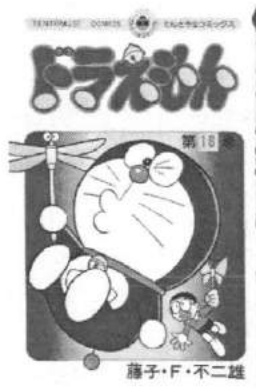
氏名	代表作品名
藤島康介	「サクラ大戦」
武内昌美	「魔法の Summer Star」
篠原千絵	「天は赤い河のほとり」
尾田栄一郎	「ワンピース」
井上雄彦	「スラムダンク」
北条司	「キャツ・アイ」「シティーハンター」
藤子不二雄	「ドラえもん」
神尾叶子	「花より男子」
冨樫義博	「幽遊白書」「ハンター×ハンター」
鳥山明	「ドラゴンボール」「Dr. スランプアラレちゃん」
CLUMP	「東京バビロン」
渡瀬悠宇	「ふしぎ遊技」
吉歩渉	「ママレードボーイ」
武内直子	「美少女戦士セーラームーン」
高橋留美子	「らんま1/2」「うる星やつら」
宮崎駿	「となりのトトロ」「千と千尋の神隠し」
大川七瀬	「カードキャプチャーさくら」「魔法騎士レイアース」
和月伸宏	「るろうに剣心」

(実際に使用する場合には、代表作品名欄は空欄にしておく。)

教材4 中国の若者が知っている日本の芸能人

氏名	主な活動
安室奈美恵	
宇多田光	
柏原 崇	
倉木麻衣	
小松未歩	
反町隆史	
滝澤秀明	
堂本光一	
常盤貴子	
友坂里恵	
中島美雪	
中山美穂	
濱崎 歩	
広末涼子	
深田恭子	
藤原紀香	
福山雅治	
松島菜々子	

教材5 日本と中国で出版されている日本の漫画（表紙）



日本のドラえもん



中国のドラえもん



日本の名探偵コナン



中国の名探偵コナン

教材6 日本と中国で出版されている日本の漫画（中身）



日本のドラえもん



中国のドラえもん



日本の名探偵コナン



中国の名探偵コナン

教材7 中国で販売されている日本の漫画



撮影：筆者



撮影：二井正浩



撮影：二井正浩

教材 8 日本のアニメを紹介する中国のテレビ局のサイト

(省略)

<http://www.tvb.com.cn/tv/topic/2001-10-09,2,281,99354000,shtml>

教材 9 中国のテレビ番組表

○翡翠台-11.17 (星期一)

6:00	龍堂 (重播) (S)
6:25	太子珠寶鐘錶特約：瞬間看地球 (現場直播)
6:30	香港早晨
8:55	太子珠寶鐘錶特約：瞬間看地球 (現場直播)
9:55	幪面貓俠 (重播)
10:10	櫻桃小丸子 (重播) (PG18L)
10:40	新紮師兄 (重播) (PG26L)
11:40	金曲挑戰站
11:50	櫻雪潤膚浴露午間劇場：聊齋(貳) (重播) (S)
12:45	宣傳易
12:50	普通話財經消息
1:00	午間新聞
1:15	太子珠寶鐘錶特約：瞬間看地球 (現場直播)
1:20	電視城分類快訊
1:25	都市閒情
2:25	迪迪仔周記II (重播)
2:30	宣傳易
2:35	娛樂反斗星 (重播) (S)
3:35	外星BB撞地球 (重播)
4:05	至 NET 小人類
5:05	多啦A夢
5:35	金曲挑戰站 (重播)
5:40	五稜鏡 (港台製作)
5:50	財經新聞
5:55	好易通全彩視像學習機特約：
6:30	六點半新聞報道 及 天氣報告
7:00	翡翠明珠直銷站 及 新聞透視 (S)
7:30	龍發製藥排毒健康知多D (S) 及 娛樂大搜查
8:00	廣州鳳凰城酒店特約：西關大少 (S)
9:00	澳寶一分鐘 油特約：皆大歡喜 (S)
9:35	松日 i-mat POCKET PC 劇場：衝上雲霄 (S)
10:30	國泰航空衝上雲霄大抽獎 (S)
10:35	廣州鳳凰城特約：
11:05	天純鮮奶飲得有“營”
11:10	宜家傢 特約：宜室宜居有辦法
11:15	康泰旅行社飛嘗體驗昆士蘭 (S)
11:45	晚間新聞
12:05	太子珠寶鐘錶特約：瞬間看地球 (現場直播)
12:10	今日財經
12:20	宣傳易
12:30	妙手仁心II (重播) (S) (PG19L)
1:30	五稜鏡 (港台製作)
1:40	翡翠音樂幹線2003
2:35	語長片：危城金粉 麥炳榮、林鳳主演
4:30	國語長片：「西貢、台北、高雄」

○翡翠台-12.06 (星期五)

6:00	同居三人組 (重播)
6:30	香港早晨
8:55	至 NET 小人類 (重播)
9:55	忍者亂太郎
10:10	海盜媽寶 (重播)
10:40	大宅門(麗音雙語 [/國] 廣播) (重播) (S)
11:35	金曲挑戰站
11:45	櫻雪潤膚浴露午間劇場：少年包青天II
12:45	宣傳易
12:50	普通話財經消息
1:00	午間新聞
1:20	電視城分類快訊 及 都市閒情 (S)
2:05	卡拉屋企 (重播)
2:35	宣傳易
2:40	勇往直前 (重播) (S) (PG02L)
3:40	小魔女DOREMI (重播)
4:10	至 NET 小人類
5:10	哈姆太郎
5:40	五稜鏡 (港台製作)
5:50	SMS 話點就點 (現場直播)
6:15	財經新聞
6:30	六點半新聞報道 及 天氣報告
7:00	翡翠明珠直銷站 及 頭條新聞(港台製作)
7:30	娛樂大搜查
8:00	松日 MP3 劇場：齊天大聖孫悟空
9:00	皆大歡喜 (S)
9:35	凱茵新城特約：談判專家 (S)
10:35	碧桂園特約：笑談普通話 及 香港做得好
11:05	週五放輕鬆之全心實踐職安健 (S)
11:35	上海世茂濱江花園特約：魅力上海
11:45	晚間新聞
12:10	今日財經
12:20	羽絨城特約：絨有無限暖
12:25	宣傳易
12:35	鑑證實錄II (重播) (S) (PG19L)
1:35	五稜鏡 (港台製作)
1:40	翡翠音樂幹線2002
2:40	名偵探柯南 (重播) (PG26L)
3:35	語長片：「玉女飛龍」
5:10	娛樂北斗星 (重播) (M10H)

<http://www.tvb.com.cn/tv/>

教材10 中国の書店で販売されている日本の漫画、アニメ VCD



撮影：二井正浩

教材11 中国で販売されている日本アニメの VCD

ちびまる子ちゃんの VCD ジャケット

日本卡通系列片
ちびまる子ちゃん
櫻桃小丸子
第99集 七巧节的电影会



第97集 小丸子学芭蕾舞
小丸子扭耳朵
第98集 小丸子参加婚礼
第99集 七巧节的电影会
正在热播，请以优惠小丸子父亲参加的活动，小丸子和小丸子的父亲不可再错过这黄金地，父亲正在忙於筹备七巧节的两个小朋友活动，糖果店老板亦制作了两个绝佳的电影糖果

衣服着，现场的遇见小丸子的父亲，27万元奖金的用途
第100集 小丸子有新衣服
小丸子的刨冰机

ISBN 7-88354-293-1
9 787883 542933

广州市机场路118-122号广东音像出版社2楼27号 电话：(020) 86373820



ドラえもん の VCD ジャケット

藤子・F・不二雄 [電影全集]
新発見 異域

司馬利等来到神秘的「山王」(高台)阿福(阿福) 拉吉想上寻找，四五百年前的谜团竟全的再再 牙船「一」号，却遇到海人..... 此时，大西洋的海底火山爆发爆发，火山爆发就 会引发海啸，七千年的(海底火山)爆发，把可 怕的「怪兽」系列世界各地..... 小叮当他们是否从「海人」了小海船， 开地球(魔力)呢?

佛山市天艺音像制品有限公司经销
广东音像城三楼7879号



教材12 中国版の日本アニメのDVDやVCDをネットで販売しているサイト
 (省略) <http://www.tokkai.com/annie/item/ja.html>

教材13 日本のテレビドラマを紹介する中国テレビ局のサイト
 (省略) http://www.tvb.com.cn/tv/oversea/oversea_1.shtml

教材14 『HOW (好)』2002年11月号の表紙



教材15 『HOW (好)』の表紙を飾ったタレント



教材16 「HOW (好)」2002年11月号で取り上げられた日本人アーティスト



教材17 中国人が見たことがあるテレビ番組

1 赤い疑惑	75.0%
2 おしん	72.6%
3 サインはV	57.2%
4 姿三四郎	40.3%
5 東京ラブストーリー	33.2%

石井健一『東アジアの日本大衆文化』蒼蒼社、2001年、p.198

教材18 中国人と日本ドラマの「縁」

これまで、日本のテレビ界では、中国を舞台にしたドラマは少なかった。人気があったのは、「大地の子」くらい。また、「映画ならともかく、日本で中国製のドラマを見たことは、記憶にない」と20代の日本人友人が話す。中国ドラマは日本人には馴染みは薄いのだ。

その一方、中国人は、日本のドラマには深い縁を持っていた。

1972年に日中国交回復がされたが、80年代以前は、中国での日本についての情報は政治面に限られており、人々の生活の現状などについての情報はほとんど伝わっていなかった。

80年代初期、中国ではテレビが本格的に普及し始めた。当時、番組はまだ少なかったため、外国から大量のテレビドラマを輸入した。中国は日本のテレビドラマの第一次ブームを迎える。

日本ドラマの中国での初登場は、1981年に放送された「姿三四郎」である。その影響で、学校では、「嘉納先生」と自称する男子生徒たちが、「中国流」柔道に熱中するほどだった。とにかく、この作品は日本男児のイメージを中国人の脳裏に焼き付けた。

1983年には、日本女子バレーを描いたスポーツ根性系ドラマ『排球女将』（『燃えろアタック』）が放送された。今、このドラマを知っている日本人はあまりいないだろうが、中国では、空前のバレーボールフィーバーが巻き起こった。中国女子バレーが80年代初頭から台頭し、世界戦4連勝を達成したのも、このドラマが描いた「東洋の魔女」の姿から刺激を受けたからだと言える。

1984年には、『血疑』（『赤い疑惑』）を始めとし、山口百恵主演の「赤い…」シリーズが中国で上映された。当時、私の家は白黒テレビを買ったばかりだった。毎日夕飯を終えた後、家族全員揃って、「幸子」の運命に引き込まれ、テレビ

に釘付けになったことが懐かしく思い起こされる。最終回で姉が号泣したことを今でも覚えている。20年経った今でも、中国で一番よく知られている日本人は、小泉総理大臣ではなく、山口百恵である。

一方、同じく1984年に放送された『阿信』（『おしん』）は、中国人にとって、戦争中の普通の日本人の生活を知り、日本人を見つめ直すきっかけになった。主人公のおしんが苦難に耐えながら生き抜く姿は、「日本人も大変だったな。よく頑張ったな」と、多くの中国人に感動を与えた。このドラマは、これまで、中国のテレビ局で何回も再放送されるほど、大人気を博した。

90年代後半に入ってから、1995年に放送された『東京愛情故事』（『東京ラブストーリー』）で、日本ドラマは中国で再び大ブレイクする。第一次ブームとは違い、今回は若い世代向けの「偶像劇」、すなわち「アイドルドラマ」が中心になっている。

近年中国で日本製ドラマの人気の高まった要因の一つは、ドラマVCDが手頃な値段で手に入るようになったことが考えられる。VCDとは、CDメディアで映像を含んでおり、DVDの簡易版だと思っておけばよい。日本では認知度は低いですが、中国大陸、香港、台湾などではビデオより普及している。

CDショップでは、1セット50-100元（750-1450円）ほどでドラマVCDを買うことができる。外国語を勉強するためか、また「元の味」を求めためか、吹き替え版より、中国語の字幕付きの方が売れるという。

（インターネット新聞『JANJAN』2003（平成15年）12月5日金曜日
<https://www.janjan.jp/world/0307/0307295256/1.php>

資料19 改革開放前後の放送政策の変化

	改革開放前	改革開放後
経営制度	1. 単一制度 2. 事業単位事業型管理	1. 多種制度の併存 2. 事業単位経営型管理
経営管理	1. 国家統一の経費支給 2. 党サービスを目標とする開局 3. 人事は中央が管理 4. 指導的な管理 5. 経営利益の無視	1. 経費源の多様化 2. 利益重視の開局 3. 人事雇用における募集制度 4. 目標管理思想の確立 5. 広告重視の経営
経営理念	1. 指導が主 2. 送り手中心	1. 指導とサービス 2. 送り手と受け手を中心
経営戦略	1. 大釜飯モデル 2. 単一経営 3. 閉鎖的	1. 競争モデル 2. 多元化経営 3. 開放型
テレビ番組 (ニュース)	1. 政治宣伝が目的 2. 少量、古い 3. 固定した番組は少なく、深みはない 4. 経済ニュースは重視されていない 5. 批判の理念はない	1. ニュースの目的多様化 2. 大量、早いニュース 3. 固定化、雑誌化 4. 経済ニュースの強化 5. テレビ批評、評論の開始
テレビ番組 (非ニュース)	1. 自局制作と番組交換が主 2. 投資利益は考えない 3. テレビドラマは少ない 4. 番組と民衆の生活とは無関係	1. 番組の制作元の多様化 2. 市場原理の導入 3. テレビドラマ市場の発展 4. 番組内容が民衆の生活と身近になる

石井健一『東アジアの日本大衆文化』蒼蒼社、2001年、p.196

教材20 中国における放送時間と国内製作番組

	毎週平均放送時間 (A)	毎週平均国内製作 番組の放送時間 (B)	不足分 (C = A - B)
1991年	23815	9593	14222
1992年	26432	11913	14519
1993年	34407	17902	16505
1994年	39874	24187	15687
1995年	46916	31057	15859
1996年	55518	36699	18819
1997年	59892	42056	17836

石井健一『東アジアの日本大衆文化』蒼蒼社、2001年、p.197

教材21 スターテレビが放送している主要チャンネル

チャンネル	放送内容
Star Chinese (衛視中文台)	中国語を主とする娯楽チャンネル
Star Movies	映画(地域によって放送する番組が異なる)
Star PLUS (Star World)	映画などの番組を放送
Star Sports	スポーツ番組
Channel V	若者向け音楽チャンネル
BBC World	イギリスのBBC提供のチャンネル
Phoenix Chinese (鳳凰電視台)	中国のケーブルテレビに音楽を配信

石井健一『東アジアの日本大衆文化』蒼蒼社、2001年、p.38

教材22 Star Chinese Channel (衛視中文台) の番組類型

	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年
香港のドラマ	47.8	22.3	22.6	13.3	16.4
日本のドラマ	1.7	18.6	13.8	17.5	22.6
バラエティ・歌謡曲	11.2	15.7	7.2	9.3	10.4
映画	5.1	7.8	8.0	8.1	3.8
アニメ	6.2	8.0	17.3	14.7	15.7
その他	28.0	27.6	31.1	37.1	31.1

石井健一『東アジアの日本大衆文化』蒼蒼社、2001年、p.39

教材23 コンテンツによる文化的類似性の重要度

文化的な類似性がコンテンツの需要に影響を与えた例として、日本の「おしん」があげられる。「おしん」は、アジアの多くの国で大人気となったのに、アメリカやヨーロッパではあまり人気にならなかった。「おしん」の強調する価値観がアジア的であったからであると考えられる。逆に、アメリカのテレビドラマ「ダラス」は、ヨーロッパやイスラエルでは大人気となったが、日本では不人気で放送中止となった。リーベスとカツの研究によると、文化的背景が違うため、日本人は「ダラス」を理解できなかったことが指摘されている。…（中略）…映画は毎日見るものではなく、非現実的なテーマであることが多いため、内容の文化的類似性の重要度はそれほど高い必要はない。しかし、テレビドラマやバラエティ番組は、日常的に視聴するものであり、番組でも日常的な場面が多く出てくるので、内容の持つ文化的類似性の重要度が高くなる。…（中略）…

ただし、文化差があまり影響しないコンテンツもある。その例はアニメである。例えば、ポケットモンスターは、アメリカ、カナダ、ヨーロッパ各国、オーストラリアなどで放送されて大人気となった。サンリオのキャラクターであるハローキティは、アジアだけでなくアメリカでも人気がある。川竹（1991）らが実施した調査による1980年1年間に日本から輸出したテレビ番組のうち55%がアニメであり、ほとんど世界中に輸出されているという。

世界中で人気のあるアニメやキャラクターに共通しているのは、その「無国籍性」である。川竹（1991年）によると、世界共通に見られるアニメとは「主人公が無国籍（どちらかという白人系）で舞台がヨーロッパか架空の場所、宇宙である」というものだという。以前、ドイツの有名なメディア研究者がドイツで放送されていたアルプスの少女ハイジが日本製だと言われても信じようとしなかった、という逸話を聞いたことがある。つまり、日本のアニメからは、メディア研究者が見ても日本製ということが分からないほど「日本」の文化性が消されているのである。

ただし、アニメと違ってマンガについては、文化的な類似性がある程度は重要であるようである。日本のマンガは、1990年代前半までは日本人の度重なる努力にもかかわらず、アメリカではほとんど売れなかった。その理由は、日本のマンガが右から左に流れるのにアメリカでは逆であること、アメリカのコミックスがカラーであるなど、日本のマンガと異なっていたことが指摘されている。同じマンガでも形式に文化差があり、そのためアメリカの読者が受け入れてくれなかったのである。

つまり、同じコンテンツでも背景となる文化的な類似性が重要なものとそうでないものがある。テレビドラマやバラエティ番組は、コンテンツの文化的背景が類似していることがきわめて重要である。これに対して、キャラクターやアニメは無国籍的なコンテンツが作れるため、文化的類似性の重要度は低くなる。映画やマンガは両者の中間に位置づけられるであろう。



石井健一『東アジアの日本大衆文化』蒼蒼社、2001年、pp.217-219

教材24 文化・情報の流れの非対称性

文化・情報の流れを決める最も基本的な要因は、国内の市場規模である。

市場規模の指標としては、たとえばGDPや人口がある。国の市場規模が大きいと、一つのソフト（テレビ番組や映画など）から多くの収入を得ることができる。収入が多いということは、他の国で製作する場合よりも高いコストをソフトにかけることができるということであり、つまり高い製作水準の作品をつくるのが可能だということである。ハリウッドの映画が優れているのは、アメリカの市場規模が巨大であり巨額のコストを製作にかけられるからなのである。

単純化して言うと、一億人の人口の日本と二億人のアメリカを比較するとアメリカの方が二倍のコストをかけた映画をつくることができるといえる。映画の収入は、個人の経済水準が等しければ映画視聴の人口規模にほぼ比例するからである。経済水準の高い大きな市場を持つ国のメディア産業が国際的に有利なのは、こうした要因によるものである。

しかも、制作コストを国内で回収できれば、海外では国内より廉価で販売できることになる。たとえば、テレビ番組は、国内放送でほぼコストを回収できるので、海外で放映権を販売するときには、国内よりも廉価で提供されることが多い。そうすると、安く魅力的な番組が国際的に強くなるのは、ある意味で当然なのである。…（中略）…

同じように日本のマンガ産業の強さを証明することができる。日本はマンガ人口が多いので、漫画史上の規模はアメリカを超えて世界一である。『少年マガジン』や『少年ジャンプ』の売上は、400万部を超えている。マンガ制作に高いコストをかけられると言うことは、マンガ家に巨額な報酬を与えることができ、多くの優秀な漫画家を育てられるとい

うことになる。

石井健一『東アジアの日本大衆文化』蒼蒼社、2001年、pp.213-214

教材25 日本アニメ「ドラえもん」 中国で再放送開始

1960年代末に誕生した日本アニメ「ドラえもん」の名称が「机器猫（ロボット猫）」から「哆啦A夢（ドラえもん）」として生まれ変わり、中国で本格的に放送されることになった。同アニメのエージェントで、アジアのアニメ放送を一手に担う香港国際影業会社が先日、上海で明らかにしたもので、「今月から全国60のTV局で放送する」という。

業界筋では、同アニメが国内の放送局およそ60局で再放送されるのは、中国が世界貿易機関（WTO）に加盟し、世界的なアニメ業界が中国市場に参入してきている証だとしている。

「人民網日本語版」2002年4月12日

http://j.people.ne.jp/2002/04/12/jp20020412_16185.html（日本語）

<http://www.tvb.com.cn/fashion/news/2002-04-15、5、862、53435718.shtml>（中国語）

教材26 「韓流」がアジアを席卷

“韓流”とは、90年代末に中華圏や東南アジアで始まった、韓国のドラマ、映画、歌謡などの大衆文化ブームのことだ。“韓流”という言葉は、中国のマスコミが使い出し、その後アジア各国に広がった。

中国では、90年代初め頃から韓国ドラマが放送され始めた。その後広まったkポップ（韓国ポップ）も含め、ここ数年で韓国ファンが一気に増殖した。

中国本土で2002年に放送された韓国ドラマは67本に上る。日本のドラマは同年で23本だった。人気があるのは『星に願いを』、『秋の童話』、『冬のソナタ』など、若手スターが出るラブストーリーだ。…（中略）…

こうした韓国ブームはなぜ起きたのか。台湾で発行部数トップを誇る総合情報誌『臺週刊』で日本・韓国の芸能情報を担当している貴社、郭人栄さん（24）は、「韓国のドラマは身近な題材を描くので感情移入しやすいし、スターも頻繁に宣伝に来るので親近感がわきやすいんです。」と解説する。

ひところ台湾では日本が大好きな若者たちを総称して哈日族（ハーリーズ）と言っていた。今、ドラマがきっかけで韓国フリークになった人たちが「哈韓族」（ハーハンズ）が出現した。落ち着きを見せ始めた日本文化ブームに取って代わった格好だ。…（中略）…

韓国ドラマや音楽にハマった人々は、韓国語を学び、韓国に行き、韓国そのものを好きになっていく。かつてアジア各国で日本のドラマが人気を集めたころ、ドラマを見た人たちが日本のファッションや生活スタイルに憧れた。その座が今、韓国に移ったわけだ。

こうしてアジア各国を席卷している韓流が、遅ればせながら日本に上陸したのが03年だった。4月からNHKで放送された『冬のソナタ』が起爆剤となり、ハングルを学ぶ女性が増え、ロケ地を訪ねるツアーが大盛況になった。…（中略）…

それにしても、なぜこうもアジア各国で同じように韓流が広まるのだろうか。韓国事情に詳しい東海大学外国語教育センター助教授の小倉紀蔵さんはこう分析する。「韓国ドラマは、家や国家という共同体の中で主体性を持って生きる世界が描かれている。恋愛をするにも、家や血筋という枷の中にある。昔の日本もそうだった。それが80年代ぐらいから急速に力を失い、個人主義みたいになってきた。そうした空気に嫌気がさしたり、個だけでは生きていけないと気づいた時、かつて日本にあった世界を韓国に見つけてハマっていくんでしょう。」

経済成長と効率主義の過程で日本が失ってしまった「アジア的なもの」。それをアジアの人々は今の韓国に見だし、今の日本人も潜在的に懐かしんでいる。そういうことなのかもしれない。

【アエラ】2003年12月22日号、pp.56-59

教材27 日本のアニメーション製作が直面する課題

日本から海外へ輸出できる数少ないコンテンツとして期待のかかるアニメーションであるが、業界全体の将来像としては必ずしも楽観視できるものではない。特に、アニメーション製作プロダクションの中でのクリエイティブな人材の不足は大きな問題である。動画を中心とした製作過程を韓国、東南アジア等の海外に発注する大手製作プロダクションが増加しつつあり、国内に動画を描く者が減り、それが原画製作者にも影響し、従来のアニメーションクリエイター育成の過程が空洞化しつつある。アニメーションを自社で企画開発しようとしても、若いクリエイターは相対的に減少しつつあり、ゲーム業界と比較して開発力は弱くなってきている。

アニメーション産業研究会『アニメーション産業研究会報告書～製作プロダクションによる自立したビジネスの確立に向けて～』平成14年6月、p. 4
(戸田 善治)

コラム6

日本マンガ専門のまんが喫茶

日本のマンガ愛読者は子どもから大人まで幅広い年齢層に及んでいる。コンビニでまんが雑誌を立ち読みしているのは中・高校生のみならず、大人の姿を見ることが多々ある。マンガをゆっくり読みたいのであれば、まんが喫茶を利用するのが当たり前になってきた。都心のまんが喫茶に立ち寄ると、スーツ姿のビジネスマンも珍しくない。

まんが喫茶は日本のみが存在すると思っていたが、香港にもまんが喫茶が存在する。その中には日本のマンガを専門とするまんが喫茶があるから驚きである。

「漫書茶房」は2003年で開店3年目を迎える日本マンガ専門のまんが喫茶である。開店時間は11:30-24:00前後であり、休日前は2:00まで営業している。詳細については、ホームページを参照されたい。

漫書茶房 <http://www.comicscafe.com.hk/>

(戸田 善治)

コラム7

日本駐華大使館新聞文化中心（センター）

日本のテレビドラマやまんが、ゲームを無料で見たり遊んだりできるユニークなスペースが北京にある。日本駐華大使館新聞文化中心（センター）である。その名前の通り、中国の日本大使館が、ポップカルチャーを通して若者たちに日本への関心を持ってもらうために運営しているセンターである。設立は1999年5月10日であり、2003年2月28日に1万人目の会員登録を記録した。このセンターについて、朝日新聞（2002年7月14日）が特集を組んでいる。以下、その記事の概要を紹介する。

センターには日本の情報や文化を紹介する雑誌、書籍を所蔵した閲覧室とともに、インターネットに接続したコンピュータ、ビデオデッキ、ゲーム機などが設置されたAVルームがある。またAVルームに所蔵されているビデオやDVDの多くは、日本のバラエティー番組、ドラマ、マンガの単行本である。利用するには会員登録が必要である。閲覧室のみの時代は二千人程度だった会員が、AVルーム開設後は六千人にまで増えた。会員の8割は中国人であり、中国人会員の8割が10代から20代の若者である。

日本の大使館が日本文化を海外に紹介する活動を行っていることは広く知られているが、ゲーム、アニメなどの日本のポピュラー文化もその中に含まれていることは興味深い。

日本駐華大使館ホームページ <http://www.japan.org.cn/>

(戸田 善治)

第Ⅱ部 日中相互理解に関するアンケート

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、日中両国の教師及び生徒に、自国および相手国等の認識に関するアンケート調査を行ない、日中相互理解のための具体的な教材開発に資する基礎データを得ることを主要目的とする。

2 調査の実施と回答の回収状況

(1) 調査対象地域・学校について

本調査の主要目的は、全国規模の調査に基づいて日中両国の教師及び生徒の一般的傾向性を統計処理に基づいて明らかにすることではなく、日中相互理解のための具体的な教材開発に資する質的な基礎データを得ることである。そこで、全国から無作為に抽出した学校、教師を対象とした調査ではなく、以下のような方法で調査対象を選定した。

まず最初に、日本での調査対象の選定方法を述べる。日本生徒の調査に関しては、本研究グループの構成員の勤務校等に2あるいは3年生への調査を依頼した。2あるいは3年生への調査を依頼した理由は、中国の地理と歴史に関する内容が履修済みであれば、どちらの学年でも問題ないと考えたからである。また、教師調査に関しては、本研究グループの構成員と関係のある全国の中学校教師に調査協力を依頼し、所属する勤務校、研究会を中心に、知り合いの中学校社会科教師に調査をお願いした。

中国での調査対象の選定方法は以下の通りである。本研究グループの構成員が懇意にしている中国の研究者の中から、大連、北京、上海の研究者に絞り込み、調査協力を依頼し、本調査の趣旨を理解し協力していただける中学校社会科教師を選定していただき調査を行った。

日本及び中国での調査対象校、調査実施時期、および回答回収状況は以下の通りである。

表1 日本生徒調査の対象校及び回収状況

地域	学 校 名 (調査実施時期)	学年	性 別			小計	合計
			男子	女子	無回答		
千葉	千葉大学附属中学校 (2003.1~3)	3	22	17		39	126
	千葉市立葛城中学校 (2003.1~3)	3	24	13		37	
	市川市立大洲中学校 (2003.1~3)	3	25	25		50	
東京	足立区立洲江中学校 (2003.1~3)	2	18	14		32	110
	筑波大学附属中学校 (2003.1~3)	2	37	41		78	
	山梨大学附属中学校 (2003.6~7)	3	71	71		142	142
徳島	板野町立板野中学校 (2003.1~3)	3	13	21		48	48
		2	6	8			
香川	高松市立桜町中学校 (2003.1~3)	3	17	19		36	36
大分	大分大学附属中学校 (2003.6~7)	3	68	81	1	150	150
沖縄	嘉手納町立嘉手納中学校 (2003.1~3)	3	15	17		32	32
合 計			316	327	1	644	

※調査実施時期にズレがあるのは、当初の予定より回収率が悪く、再依頼をしたためである。

表2 日本教師調査（地域別）

地域	人数 (%)
千葉	39 (17.6)
佐賀	24 (10.8)
青森	21 (9.5)
北海道	18 (8.1)
その他	120 (54.0)
合計	222 (100.0)

※日本教師調査は、2003.1～3にかけて行った。

表3 日本教師調査（性別）

性別	人数 (%)
男性	196 (88.3)
女性	26 (11.7)
合計	222 (100.0)

表4 日本教師調査（教職経験年数別）

教職経験年数	人数 (%)
1～5年	23 (10.4)
6～10年	34 (15.3)
11～15年	61 (27.4)
16～20年	54 (24.3)
21～25年	39 (17.6)
26年以上	11 (5.0)
無回答	0 (0.0)
合計	222 (100.0)

表5 日本教師調査（専門別）

専門	人数 (%)
地理	47 (21.2)
歴史	85 (38.3)
公民	72 (32.4)
無回答	18 (8.1)
合計	222 (100.0)

表6 中国生徒調査の対象校及び回収状況

	学 校 名	学 年	小計	合計
大連	普蘭点市第三十二中学校 (2003.1～3)	3	64	221
	大連市第四十二中学校 (2003.1～3)	3	101	
	盤山県太平中学校 (2003.1～3)	3	56	
北京	101中学校 (2003.1～3)	3	57	120
	八一中学校 (2003.1～3)	2	63	
上海	上海同済第二初級中 (2003.1～3)	2及び3	39	130
	上海市教科院中分校 (2003.1～3)	2及び3	45	
	上海市惠民中学 (2003.1～3)	2及び3	46	
合 計			471	

表7 中国教師調査（地域別）

地域	人数 (%)
大連	145 (55.2)
北京	79 (30.0)
上海	39 (14.8)
合計	263 (100.0)

表8 中国教師調査（性別）

性別	人数 (%)
男性	78 (29.7)
女性	182 (69.2)
無回答	3 (1.1)
合計	263 (100.0)

表9 日本教師調査（教職経験年数別）

教職経験年数	人数 (%)
1～5年	47 (17.9)
6～10年	79 (30.0)
11～15年	86 (32.8)
16～20年	24 (9.1)
21～25年	6 (2.3)
26年以上	13 (4.9)
無回答	8 (3.0)
合計	263 (100.0)

表10 日本教師調査（専門別）

専門	人数 (%)
地理	70 (26.6)
歴史	77 (29.3)
思想経済	100 (38.0)
無回答	16 (6.1)
合計	263 (100.0)

※中国教師調査は、大連では2002.8に、北京と上海では2003.1～3に行った。

3 調査票の構成

本調査では、日本の生徒と教師、中国の生徒と教師を対象とした。生徒調査では、日本生徒と中国生徒に対して、相手国の首都の位置、首都名、国家主席・内閣総理大臣を問う調査項目を除き、全く同じ調査項目を用いた。同様に、教師調査でも、日本教師と中国教師に対して、全く同じ調査項目を用いた。さらに、生徒調査と教師調査で共通の調査項目も用意した。このような調査票の構成を取ったのは、そうすることによって、四者の意識を比較検討し、共通点、相違点を明らかにでき、日中相互理解のための教材開発に資する基礎データが得られると考えたからである。各調査票の構成は以下の通りである。

なお、表中の※印は、同一の選択肢を用いたものである。

表11 生徒調査及び教師調査の構成

生徒用 調査票番号	調査内容	教師用 調査票番号
【1】	1. 相手国への親しみの程度について	【1】
【2】	2. 相手国との現在の関係について	【2】
【3】	3. 相手国に対する興味事項 ※	【3】
【4】	4. 知っている相手国の人物名について	【4】
【5】	5. 相手国の首都の位置と首都名について	
【6】	6. 相手国の国家主席・総理大臣について	
【7】	7. 相手国に対するイメージ	【5】
【8】	8. 日中国交正常化時の首相、総理大臣について	
【9】	9. 相手国の生徒に知ってもらいたい事項 ※	【6】
	10. 相手国理解の授業において重視したい事項 ※	【7】
	11. 相手国を教材化するときの困難点、課題	【8】
	12. 相手国理解のための具体的な教具・教材	【9】
【10】	13. 両国がより仲よくなるために	【10】

II 調査結果の概要(1) — 一次集計

1 相手国への親しみの程度について

相手国への親しみの程度については、生徒調査及び教師調査の両方で調査した（生徒用【1】、教師用【1】）。ここでは、相互理解の相手国について、どの程度の親しみをもっているかを明らかにすることをねらった。そこで、相手国（日本生徒及び教師の場合は中国、中国生徒及び教師の場合は日本）、米国、韓国、ロシア、北朝鮮の五カ国のそれぞれについて、「とても親しみをもっている」、「わりと親しみをもっている」、「あまり親しみをもっていない」、「親しみをもっていない」という4つの選択肢の中から一つを選ばせることとした。調査結果は表12～15の通りである。

この調査結果の中で特に注目すべき点として2点ほど上げることができる。第1として、日中生徒の相手国への親しみについてである。「とても親しみをもっている」、「わりと親しみをもっている」の合計に注目した場合、日本生徒が最も親しみを感じているのは米国であり、中国は韓国に次いで第三位となっている。これに対して中国生徒が最も親しみを感じているのは韓国であり、日本は下位から二番目となっている。このことから、両国の生徒は相手国に対する親しみの程度は、相対的に見てそれほど高くないことがうかがえる。

第2として、日本教師と中国教師の相手国への親しみの程度が全く逆の傾向を示していることである。日本教師は、親しみをもっている国（米国、韓国、中国）とそうでない国（ロシア、北朝鮮）の差がはっきりしており、中国は親しみを持っている国となっている。これに対して、中国教師にとって、日本は対象国の中で最も親しみを持っていない国となっている。このような違いの背景として、日中戦争から今日までの両国間の関係、学校教育での日本における中国の扱いと中国における日本の扱いの違いがあることがうかがえる。この点に関しては、他の調査項目とも関係しているため、後に詳しく述べる。

表12 相手国への親しみの程度について（日本生徒）

親しみの程度 \ 国	中国	米国	韓国	ロシア	北朝鮮	
とても親しみを持っている	9.5	34.8	18.5	2.6	2.6	N = 644
わりと親しみを持っている	38.6	41.1	41.7	15.2	4.7	
あまり親しみを持っていない	36.5	16.5	25.0	55.8	23.0	
親しみを持っていない	14.8	7.3	13.4	25.5	69.1	
無回答	0.6	0.3	1.4	0.9	0.6	

表13 相手国への親しみの程度について（中国生徒）

親しみの程度 \ 国	日本	米国	韓国	ロシア	北朝鮮	
とても親しみを持っている	18.0	20.6	24.8	17.8	12.3	N = 471
わりと親しみを持っている	33.4	36.5	52.4	38.7	29.5	
あまり親しみを持っていない	23.8	29.9	17.0	31.2	30.4	
親しみを持っていない	24.6	11.3	5.1	10.8	27.6	
無回答	0.2	1.7	0.6	1.5	0.2	

表14 相手国への親しみの程度について（日本教師）

親しみの程度 \ 国	中国	米国	韓国	ロシア	北朝鮮	
とても親しみを持っている	19.4	20.3	21.6	0.9	0.9	N = 222
わりと親しみを持っている	58.5	60.8	57.6	18.5	4.5	
あまり親しみを持っていない	19.4	15.3	17.6	62.6	41.4	
親しみを持っていない	2.7	2.7	2.3	16.2	51.8	
無回答	0.0	0.9	0.9	1.8	1.4	

表15 相手国への親しみの程度について（中国教師）

親しみの程度 \ 国	日本	米国	韓国	ロシア	北朝鮮	
とても親しみを持っている	3.4	15.6	6.8	11.0	6.5	N = 263
わりと親しみを持っている	16.3	38.4	46.1	41.8	26.6	
あまり親しみを持っていない	32.3	29.7	35.7	35.4	35.0	
親しみを持っていない	45.7	12.5	7.2	9.1	28.9	
無回答	2.3	3.8	4.2	2.7	3.0	

2 相手国との現在の関係について

自国と相手国の現在の関係についてどのように考えているかを調査する項目を、生徒調査及び教師調査の両方で行った（生徒用【2】、教師用【2】）。ここでは、選択肢として、「とてもよい」、「わ

りとよい」、「あまりよくない」、「よくない」、「わからない」の五つを設定し、自分の考えに近いものを一つ選ばせることとした。この調査結果は表16の通りである。

調査結果を見ると、日本生徒、中国生徒、日本教師は、両国の関係はわりとよいと思っている。その一方で、中国教師は、両国の関係はあまりよくないと思っている。今回の調査が行われたのは2002～2003年にかけてである。その直前には、小泉首相の靖国神社参拝、中国産野菜の輸入制限とそれに対抗した中国政府の関税措置などがおこなわれていたことも、このような結果の背景として考えられる。しかし、他の調査項目とも関連しているのだが、それ以上に、中国教師が日中戦争と戦後処理問題について重視していることが、その背景として考えられる。

また、日本生徒で「わからない」を選択したものが目立つ。日中両国間の関係について、日本生徒の関心が低いことがうかがえる。

表16 相手国との現在の関係について

調査対象 両国の関係	日本生徒	中国生徒	日本教師	中国教師	
とてもよい	4.0	11.5	1.4	0.8	
わりとよい	45.6	46.2	58.9	38.0	
あまりよくない	24.2	18.7	33.3	40.3	日本生徒 N=644
よくない	3.3	8.1	2.3	15.2	中国生徒 N=471
よくわからない	21.3	4.9	4.1	2.3	日本教師 N=222
無回答	1.6	10.6	0.0	3.4	中国教師 N=263

3 相手国に対する興味について

生徒調査と教師調査の両方で、相手国のどのような点に興味をもっているかを調査した（生徒用【3】、教師用【3】）。ここでは、「政治」、「経済」、「衣食住などの人びとの日常生活」、「歴史」、「伝統文化」、「現代文化（流行、タレント、ファッション）」、「教育」、「スポーツ」、「自然・観光」、「工業・科学技術・IT」、「道徳心」、「その他」という十二項目を設定し、各々について、「とても興味をもっている」、「わりと興味をもっている」、「あまり興味をもっていない」、「興味をもっていない」という4つの選択肢の中から一つを選ばせることとした。なお、「その他」を選択した場合、それがどのようなものを具体的に記述する欄をもうけた。その結果は表17～20の通りである。

この調査結果を見ると、日本教師は中国に対して興味があることとないことがはっきりと分かれている。特に興味があるのが「歴史」、「経済」、「自然・観光」である。これに対して、中国教師は日本に対して全般的にそれほど興味をもっていない。その中で特に興味をもっているのは「教育」と「経済」である。

この点については、各々の国の教育内容との関連が指摘できる。日本教師の「歴史」、「経済」、「自然・観光」に興味があり、反対に「現代文化」に興味がないという回答傾向は、日本の教育内容と関連していよう。また、中国教師が「教育」と「経済」に興味があるのは、「教育」は日中戦争及び日本の中国侵略をどう教えているかとういこと、「経済」は日本の経済発展に関することではなかろうか。その中で、中国生徒は日本に対して全般的に興味をもっており、特に、日本の「現代文化」に対して興味を示していることは注目できる。

また、両国生徒の回答にも違いが見える。日本生徒は中国に対して全般的にそれほど興味はもっていない。これに対して中国生徒は「政治」においてやや低いものの、日本に対して全般的に興味をもっている。特に、「現代文化」、「教育」、「自然・観光」に関して興味がある。「教育」に対する両国生徒の興味の程度が逆の傾向を示していることは注目されよう。

表17 相手国に対する興味事項（日本生徒）

興味事項 \ 興味の程度	とてももっている	わりともっている	あまりもっていない	もっていない	無回答
政治	3.4	16.0	42.7	37.1	0.8
経済	5.3	14.1	42.9	37.1	0.6
衣食住など	16.6	37.6	26.1	18.9	0.8
歴史	23.0	36.2	26.6	13.4	0.8
伝統文化	14.9	32.6	32.3	19.3	0.9
現代文化	13.8	24.1	33.7	27.5	0.9
教育	5.6	16.6	44.1	32.8	0.9
スポーツ	17.9	28.3	33.3	20.2	0.3
自然・観光	18.3	31.5	28.3	21.1	0.8
工業・科学技術・IT	7.8	16.3	37.7	37.3	0.9
道徳心	6.8	12.6	39.0	40.2	1.4
その他	3.4	1.9	0	0.5	94.2

N = 644

表18 相手国に対する興味事項（中国生徒）

興味事項 \ 興味の程度	とてももっている	わりともっている	あまりもっていない	もっていない	無回答
政治	18.3	29.7	28.9	21.4	1.7
経済	34.3	31.4	20.8	11.0	2.5
衣食住など	35.5	34.8	18.0	10.6	1.1
歴史	33.0	24.8	21.9	19.5	0.8
伝統文化	31.7	31.4	20.4	14.6	1.9
現代文化	43.9	32.1	12.3	10.6	1.1
教育	43.1	28.9	17.2	9.3	1.5
スポーツ	32.3	30.6	21.4	14.4	1.3
自然・観光	46.3	32.9	11.9	7.4	1.5
工業・科学技術・IT	35.7	31.0	17.8	13.4	2.1
道徳心	36.3	31.6	15.9	15.1	1.1
その他	17.2	2.5	0.8	1.7	77.8

N = 471

表19 相手国に対する興味事項（日本教師）

興味事項	興味の程度 とてももっている	わりともっている	あまりもっていない	もっていない	無回答
政治	21.6	56.7	21.2	0.5	0.0
経済	50.9	38.7	10.4	0.0	0.0
衣食住など	33.3	51.8	14.4	0.0	0.5
歴史	51.8	39.6	8.1	0.5	0.0
伝統文化	32.0	45.0	22.1	0.9	0.0
現代文化	6.8	31.1	48.6	13.5	0.0
教育	16.2	46.4	34.2	3.2	0.0
スポーツ	14.0	36.0	44.5	5.0	0.5
自然・観光	37.8	50.0	10.8	1.4	0.0
工業・科学技術・IT	20.3	42.3	35.1	2.3	0.0
道徳心	13.1	44.1	36.0	6.3	0.5
その他	1.8	1.4	0.0	0.0	96.8

N = 222

表20 相手国に対する興味事項（中国教師）

興味事項	興味の程度 とてももっている	わりともっている	あまりもっていない	もっていない	無回答
政治	12.9	35.0	25.1	21.3	5.7
経済	33.1	46.7	9.9	6.1	4.2
衣食住など	23.2	37.7	23.2	10.6	5.3
歴史	14.1	42.9	23.6	15.6	3.8
伝統文化	19.0	38.4	25.5	11.8	5.3
現代文化	21.7	33.5	25.1	14.8	4.9
教育	40.3	39.6	8.7	6.8	4.6
スポーツ	9.1	23.6	37.3	24.3	5.7
自然・観光	33.1	31.6	21.3	10.6	3.4
工業・科学技術・IT	27.8	39.9	16.3	9.9	6.1
道徳心	26.2	37.3	18.3	12.9	5.3
その他	0.8	0.0	0.0	0.0	99.2

N = 263

4 知っている相手国の人物名について

知っている相手国の人物の名前を問う調査を、生徒調査及び教師調査で行った（生徒用【4】、教師用【4】）。ここでは三人まで上げてもらうこととし、人物の名前とともに、その人物を知ったきっかけとして、「学校の授業」、「新聞、ニュースなどの報道」、「漫画、雑誌」、「アニメなどの娯楽番組や映画」、「小説」、「テレビゲーム」、「その他」という七つの選択肢をもうけ、その中から一つを選んでもらうこととした。なお、「その他」を選択した場合、それがどのようなものかを具体的に

記述する欄をもうけた。

日本及び中国の生徒の10人以上が知っているとしてあげた人物名は、表21・22の通りである。また、知ったきっかけについては、表23・24のような結果が得られた。

表21 知っている相手国の人物名について（日本生徒）

人 物 名	件数	% (人数)	% (件数)
毛沢東	199	30.9	17.2
孫文	161	25.0	13.9
ジャッキー・チェン	88	13.7	7.6
ブルース・リー	53	8.2	4.6
江沢民	40	6.2	3.5
蔣介石	37	5.7	3.2
始皇帝	34	5.3	2.9
関羽	23	3.6	2.0
鑑真	20	3.1	1.7
チューヤン	16	2.5	1.4
ジェット・リー	15	2.3	1.3
周恩来	12	1.9	1.0
孔明	12	1.9	1.0
サモ・ハン・キンポ	11	1.7	1.0
金大中	11	1.7	1.0

人数 N = 644

件数 N = 1156

表22 知っている相手国の人物名について (中国生徒)

人物名	件数	%(人数)	%(件数)
小泉純一郎	209	44.4	36.8
中田英寿	89	18.9	15.7
酒井法子	50	10.6	8.8
佐藤栄作	38	8.1	6.7
田中角栄	36	7.6	6.3
桜木花道	36	7.6	6.3
浜崎あゆみ	35	7.4	6.2
稲本潤一	33	7.0	5.8
藤野先生	29	6.2	5.1
コナン・工藤新一	27	5.7	4.8
山本五十六	24	5.1	4.2
流川楓	22	4.7	3.9
ちびまる子ちゃん	22	4.7	3.9
一休	22	4.7	3.9
宇多田ヒカル	20	4.2	3.5
東条英機	19	4.0	3.3
村山富市	18	3.8	3.2
小野伸二	18	3.8	3.2
青山剛昌	17	3.6	3.0
木村拓哉	16	3.4	2.8
竹野内豊	13	2.8	2.3
深田恭子	12	2.5	2.1
藤原紀香	10	2.1	1.8

人数 N = 471
件数 N = 568

表23 相手国の人物名を知ったきっかけ (日本・中国生徒)

知ったきっかけ	調査対象	
	日本生徒	中国生徒
新聞、ニュース番組などの報道	9.9	40.9
漫画、雑誌	5.5	14.3
アニメなどの娯楽番組や映画	17.2	28.2
小説	3.3	3.2
テレビゲーム	4.4	2.3
学校の授業	52.1	5.7
その他	7.6	5.4

日本生徒・件数 N = 1156
中国生徒・件数 N = 1172

表24 知っている相手国の人物名について (日本教師)

人 物 名	件数	% (人数)	% (件数)
毛沢東	169	76.1	64.3
孫文	76	34.2	28.9
周恩来	53	23.9	20.2
江沢民	40	18.0	15.2
始皇帝	33	14.9	12.5
蔣介石	30	13.5	11.4
鄧小平	20	9.0	7.6
孔明	15	6.8	5.7

人数 N = 222

件数 N = 623

表25 知っている相手国の人物名について (中国生徒)

人 物 名	件数	% (人数)	% (件数)
小泉純一郎	107	40.7	18.8
山口百恵	63	24.0	11.1
東条英機	54	20.5	9.5
山本五十六	45	17.1	7.9
橋本龍太郎	27	10.3	4.8
田中角栄	25	9.5	4.4
中田英寿	18	6.8	3.2
高倉健	15	5.7	2.6
伊藤博文	14	5.3	2.5
木村拓哉	13	4.9	2.3
酒井法子	11	4.2	1.9
岡村寧次	11	4.2	1.9
三浦友和	11	4.2	1.9
中曽根康弘	11	4.2	1.9
藤野先生	10	3.8	1.8

人数 N = 263

件数 N = 568

表26 相手国の人物名を知ったきっかけ（日本・中国教師）

知ったきっかけ	調査対象	日本教師	中国教師
新聞、ニュース番組などの報道		30.2	42.7
漫画、雑誌		3.4	3.2
アニメなどの娯楽番組や映画		3.7	26.6
小説		8.8	5.1
学校の授業		49.7	22.0
その他		4.2	0.4

日本生徒・件数 N=623
中国生徒・件数 N=568

知ったきっかけを見ると、日本生徒は「学校の授業」と「アニメなどの娯楽番組や映画」が多く、知っている人物も教科書に出てくる人物や映画俳優が多い。これに対して、中国生徒の知ったきっかけは「新聞、ニュースなどの報道」、「アニメなどの娯楽番組や映画」、「漫画、雑誌」が多く、知っている人物も靖国参拝報道がされている小泉純一郎首相、サッカーのワールドカップで活躍した中田英寿、漫画やアニメのキャラクター、芸能人などが多い。特に、中国生徒が日本の芸能人やアニメ・漫画の原作者、主人公を知っていることには驚かされる。「表18 相手国に対する興味事項(中国生徒)」で日本の「現代文化」を上げる生徒が多かったが、それと同様の結果が出たと言えよう。また、日本教師と比較すると、中国教師が日本の芸能人を上げていることも興味深い。

このような調査結果を見ると、日本教師・生徒、特に日本教師が教科書から離れられないという現状が読み取れる。

なお、表22以外で、中国生徒が知っている日本人名として上げたものは、以下の通りである。なお人物名以外については、筆者が調べて記入した。

資料1 中国生徒が知っている日本人名

○アニメ・漫画・ゲームキャラクター：登場作品名

赤木春子	「スラムダンク」
金田一一	「金田一少年の事件簿」
上杉達也	「タッチ」
上杉和也	「タッチ」
大神一郎	「サクラ大戦」
月野うさぎ	「美少女戦士セーラームーン」
愛野美奈子	「美少女戦士セーラームーン」
小新	「クレヨンしんちゃん」野原しんのすけ
小当家	「中華一番」リュウ・マオシン
花沢類	「花より男子」
織田信長	「信長の野望」ゲームキャラクター
八神庵	「キングオブファイターズ」(ゲーム)
草薙京	「キングオブファイターズ」(ゲーム)
黒羽快斗	「名探偵コナン」怪盗キッド

浦木 宏	「機動戦士ガンダム」
大空翼	「キャプテン翼」
若林源三	「キャプテン翼」
ワタル	「魔神英雄伝ワタル」
ドラえもん	「ドラえもん」
孫悟空	「ドラゴンボール」
齋藤一	「るろうに剣心」
大久保利通	「るろうに剣心」
夕城未朱	「ふしぎ遊技」

○ゲーム作者等：主な活動

宮本茂	任天堂ゲームプロデューサー マリオブラザーズ
光田康典	台湾ソフト「第七封印」ゲーム音楽作曲家
小島秀夫	「メタルギア」監督

○漫画家：主な作品名

藤島康介	「サクラ大戦」
武内昌美	「魔法のSummer Star」
篠原千絵	「天は赤い河のほとり」
尾田一郎	「ワンピース」
井上雄彦	「スラムダンク」
北条司	「キャッツ・アイ」
藤子不二雄	「ドラえもん」
藤子・F・不二雄	
神尾叶子	「花より男子」
富樫義博	「幽遊白書」
鳥山明	「ドラゴンボール」「Dr. スランプ アラレちゃん」
CLUMP	「東京バビロン」
渡瀬悠宇	「ふしぎ遊技」
吉歩渉	「ママレードボーイ」
武内直子	「美少女戦士セーラームーン」
高橋留美子	「らんま1/2」
宮崎駿	「となりのトトロ」、「千と千尋の神隠し」
大川七瀬	「カードキャプチャーさくら」「魔法騎士レイアース」
桂正和	「電影少女」「D. N. A. 2」
和月伸宏	「るろうに剣心」

○芸能人

酒井法子 (九井法子)	高倉健	広末涼子
木村拓哉	山口百恵	友坂里恵 (ともさかりえ)
中島美雪	三浦友和	小松未歩
宇多田光	安室 美恵	中山美穂
濱崎歩	藤原紀香	橋本麗香

前田智恵
木野杉菜
小泉孝太郎
深田恭子

滝澤秀明
倉木麻衣
福山雅治
柏原崇

常盤貴子
反町隆史
菅野美穂
松島菜々子
堂本光一

○スポーツ：種目

北島康介 水泳選手
森島寛晃 サッカー選手
宮本恒靖 サッカー選手

中山雅史 サッカー選手
鈴木隆行 サッカー選手
川口能活 サッカー選手

○作家

村上春樹
小林多喜二
幸田明子
川端康成

大江健三郎
江戸川乱歩
井上靖

柯南道尔 (コナン・ドイル)
水上勉
芥川龍之介

○日中戦争・太平洋戦争：詳細

川島芳子 清朝の王女と生まれながら、幼い時に大陸浪人・川島浪速の養女となり、後には満州の関東軍司令の地位にまでのぼりつめるものの、第二次大戦終戦後には漢奸(中国人でありながら敵国・日本に協力した売国奴)として裁かれ、処刑される。

岡村寧次 陸軍大将、終戦命令を受け、45年9月降伏文書に調印。

松井石根 陸軍大将、極東国際軍事裁判(東京裁判)で南京大虐殺の責任を問われ、A級戦犯として死刑判決を受ける。

東 史郎 『わが南京プラトーン』作者、1993年に日本軍の名誉を傷つけたとして「名誉毀損」で告訴される。

○その他：詳細

石原慎太郎
加藤正夫
小林光一
西瓜太郎 伝説・昔物語
西瓜太姫 伝説・昔物語
桃太郎
中野良子
宮本武蔵

橋本龍太郎
中真紀子
神武天皇
明治皇帝
孝徳天皇
裕仁天皇
東山魁夷
松下幸之助

森英恵
黒沢明
紫式部
豊臣秀吉
盛田昭夫
おしん
寅次郎
伊藤博文

(詳細については、筆者が調べて記入した。)

5 相手国の首都の位置と首都名について

相手国の首都の位置と首都名を知っているかどうかという調査項目は、生徒調査にのみ取り入れた。(生徒用【5】を調査した。中国の首都の場合は、「北京」、「上海」、「重慶」、「台北」、「香港」を、日本の首都の場合は、「札幌」、「東京」、「大阪」、「福岡」、「那覇」をそれぞれの国の地図上に示し、その中から一つを選択させ、併せて首都名を記述させた。その結果は表27～30の通りである。

表27 相手国の首都の位置 (日本生徒)

首都位置	% (人数)
1 (北京)	49.5
2 (上海)	33.1
3 (重慶)	6.7
4 (台北)	0.8
5 (香港)	5.1
無回答	4.8

N = 644

表28 相手国の首都の位置 (中国生徒)

首都位置	% (人数)
1 (札幌)	7.6
2 (東京)	65.4
3 (大阪)	18.9
4 (福岡)	1.3
5 (那覇)	0.2
無回答	6.6

N = 471

表29 相手国の首都名 (日本生徒)

首都名	% (人数)
北京	82.3
上海	3.7
香港	2.0
ソウル	1.4
ピョンヤン	0.3
その他	1.7
無回答	8.5

N = 644

表30 相手国の首都名 (中国生徒)

首都名	% (人数)
東京	94.1
大阪	0.4
京都	0.2
南京	0.2
無回答	5.1

N = 471

この結果を見ると、首都名については、日本生徒、中国生徒ともに8～9割の生徒が正しく答えている。また、日本生徒は中国の首都の位置を知っているものが半数しかいないが、中国生徒は日本の首都の位置を知っているものが七割近くいる。両国とも、相手国の首都位置に関しては差があるものの、首都名はほぼ定着しているといえよう。

6 相手国の国家主席・首相について

相手国の国家主席・首相については、生徒用でのみ問うこととした(生徒用【6】)。

日本の生徒には中国の国家主席を、中国の生徒には日本の内閣総理大臣の名前を記述させた。その結果は表31・32の通りである。

日本生徒は「無回答」が最も多く、中国の国家主席についてほとんど知らない。中には韓国、北朝鮮と混同しているものもある。これに対して、中国生徒は日本の首相についてほとんどの生徒が知っている。中国生徒が日本の首相名を知っている割合の高さは注目される。この背景として、小

泉首相が靖国神社に参拝しそれを批判する報道が中国で行われていたことがあろう。

表31 相手国の国家主席について（日本生徒） 表31 相手国の首相について（中国生徒）

国家主席	% (人数)
江沢民	9.2
胡錦濤	3.3
金大中	3.4
盧武鉉	1.7
金正日	1.2
金日成	0.8
金 (姓のみ)	3.4
その他	7.1
無回答	69.9

N=644

首相	% (人数)
小泉純一郎	95.8
森喜朗	0.3
その他	0.5
無回答	3.4

N=644

7 相手国に対するイメージについて

生徒用と教師用の両方で、相手国に対してどのようなイメージを持っているかを調査した（生徒用【7】、教師用【5】）。ここでは、相手国のイメージを自由記述で三つまで書かせることとした。

まず最初に、日本生徒及び日本教師のもつイメージから整理したい。日本生徒及び日本教師の中国という国家・社会に対しては、二つのイメージが目立っている。第一のものは、「人口が世界で一番多い。」（日本生徒）、「人間の人数が世界一多い。」（日本教師）に代表されるように、人口の多い国・中国というものである。また、これに関連して「一人っ子政策」を上げるものが多かった。第二のものは、「中国四千年の歴史。」（日本生徒・日本教師）というような、歴史の長い国・中国というイメージである。また、物価の安い国、自転車の多い国、社会主義国などがめだった。これら日本生徒及び教師の代表的な中国イメージは教科書に書かれた中国像とほぼ一致していよう。

また、日本教師にはほとんど見られないが日本生徒に目立つものとして、「貧しく汚いイメージがある。」（日本生徒）、「清潔じゃなさそう。」（日本生徒）のように、衛生面できたない国・中国というイメージを持つ生徒が少なからずいた。その一方で、「町がにぎやか。」（日本生徒）、「都会的なイメージ」（日本生徒）のように、近代的で開発されたイメージを持つ生徒もいた。これらのイメージは、おそらくSARS報道や北京、上海の近代的な町並みなどをテレビ等の映像で見た視覚的イメージからえたものではなかろうか。

これに対して、日本生徒及び日本教師の中国人に対するイメージは、日本生徒の「ほとんどの市民が格闘家。」（日本生徒）、「少林寺って感じ。古武術系。」（日本生徒）というような、拳法を使う人たちというイメージがあるくらいであり、日本教師の持つ中国人イメージについての記述はほとんど見られなかった。

次に、中国生徒及び中国教師の日本イメージについて整理してみる。最も多いのは、いわゆる歴史認識問題に関するものである。かなり極端な例ではあるが、「日本に恨みをおぼえている。特に戦争時に中国で犯された罪である。日本人は中国で犯した罪を認めないのはみっともないと思っている。」（中国生徒）、「歴史を認めない。昔中国人を残酷に殺したがあるのに、なぜこの責任を負わな

いのか。これは仁義のない行為だ。」「日本国民は戦争に対する反省する気持ちが欠けている。」(中国教師)、「印象がよくない。第二次世界大戦の敗戦国は日本が深い罪を犯した。戦後以来日本は反省する気持ちを一つも見せていない。大和民族は負け振りの悪い民族である。自分の歴史を忘れることは過去を裏切ることと同様である。」(中国教師)のように、日本という国家と日本人をあまり区別をせず、侵略者(国)である日本(人)、過ちを認めない日本(人)というイメージを持つイメージが多かった。しかしその一方で、「歴史上の日本に対してあまりよい印象をもっていない。中国に対して犯された罪は、中国人としては忘れられない。しかし日本人の賢さ、勤勉さ及び苦しみや辛さに耐え忍ぶことに感心している。」(中国教師)、「私のイメージの中で、日本は反動的な侵略者であり、中国人と対抗的な存在である。ただし私は日本人の武士道精神に関心をもっている。」(中国教師)など、日本という国家と日本人を区別したイメージを持っている記述。

また、「日本に対する印象がよくない。先進国といえども、昔中国を侵略しことはあるので、好きにはならない。」(中国生徒)、「日本を恨んでいる。日本が悪い。日本以外の国をすべて受け入れられる。日本に負けられない。」(中国生徒)、「見た目では、謙虚で、礼儀正しくみえるが、心が冷たくて、時には残忍なこともする。例えば日中戦争の時は、沢山の中国人を殺したこと。」(中国教師)、「日中戦争のため、私はいつまでも日本によりよい印象をもつことはできない。」(中国教師)のように、現在と過去を区別しない日本(人)イメージを持つものもいた。このようなイメージは、繰り返される政治家の問題発言、歴史教科書問題、靖国神社問題などのため、過去のイメージが、現在のイメージと重なりあったため形成されたとも考えられる。

中国生徒と中国教師の持つ日本イメージとしては、「日本は近代化を達成した国である。」(中国生徒)、「島国、狭い、資源が乏しい」(中国生徒)、「人口が少ない。経済力が強い。資源が乏しい。輸入にたよる。」(中国教師)、「工業が発達しているが、ここ数年景気が悪い。」(中国教師)のように、我々日本人が予想する日本という国家・社会イメージが数多く回答されていた。しかし、日本生徒及び日本教師のもつ中国イメージと比較すると、中国生徒と中国教師は日本人イメージについて回答しているものが多かった。

中国生徒及び中国教師は、「日本人の生活が非常に保守的である。そして現在でも昔の生活習慣を保持し衣装を着続けている。」(中国生徒)、「日本の礼儀正しさに感心する。」(中国生徒)、「日本人が勤勉すぎて過労死がよくある。」(中国教師)、「苦しみや辛さに耐え忍ぶ民族精神がある。」(中国教師)のような肯定的なイメージを持っている。また、その反対に、「ビジネスマンが悪賢い」(中国生徒)、「社会全体に病理的な傾向がある。中国の道徳意識と違い、極端に保守的なタイプと極端に開放的なタイプと分かれている。」(中国生徒)、「残忍で、人間味がない。嫌い。」(中国教師)、「日本人が中国人を軽蔑している、中国の留学生が日本でいじめられている。」(中国教師)のような、日本人に対する否定的なイメージも見られた。

8 日中国交正常化時の首相、総理大臣について

調査実施年が日中国交正常化30周年の年でもあるため、そのときの日本の内閣総理大臣と中国の首相が誰であったかを、生徒用調査でのみ行った(生徒用【8】)。日本の内閣総理大臣の場合は、「吉田茂」、「佐藤栄作」、「田中角栄」、「細川護熙」、「村山富市」の中から一人を、中国の首相の場合は、「周恩来」、「華国鋒」、「趙紫陽」、「李鳳」、「朱鎔基」の中から一人を選択させた。その結果は表33・34の通りである。

日本生徒は「田中角栄」と答えた生徒が約六割であるが、中国首相が誰であったのかはについて

はほとんど知らないといえる。また、中国生徒は「周恩来」については七割を超え、「田中角栄」についても半数近くが答えられている。なお、中国生徒で「佐藤栄作」が多いのは、ある調査校の生徒全員が「佐藤栄作」と回答していたためである。おそらく、学校でそう学習したためであろう。

表33 日中国交正常化時の日本総理大臣

総理名	調査対象	日本生徒	中国生徒
吉田茂		16.9	3.8
佐藤栄作		9.5	29.5
田中角栄		58.3	42.9
細川護熙		4.3	5.1
村山富市		2.0	8.9
無回答		9.0	9.8

日本生徒 N = 644
中国生徒 N = 471

表34 日中国交正常化時の中国首相

総理名	調査対象	日本生徒	中国生徒
周恩来		22.0	73.9
華国鋒		12.0	3.8
趙紫陽		15.1	1.5
李鵬		23.7	5.5
朱容基		9.0	11.5
無回答		18.2	3.8

日本生徒 N = 644
中国生徒 N = 471

9 相手国の生徒に知ってもらいたい事項

相手国の生徒に知ってもらいたい事項を問う調査を、生徒用調査及び教師用調査で行った（生徒用【9】、教師用【6】）。ここでは、「政治」、「経済」、「衣食住などの人びとの日常生活」、「歴史」、「伝統文化」、「現代文化（流行、タレント、ファッション）」、「教育」、「スポーツ」、「自然・観光」、「工業・科学技術・IT」、「道徳心」、「その他」という十二項目を設定しその中から三つまでを選択させることとした。また、選択した項目に関する具体的事例も併せて記述してもらったこととした。その結果は以下の通りである。

表35 相手国の生徒に知ってもらいたいこと

興味事項	調査対象	日本生徒	日本教師	中国生徒	中国教師
政治		7.5	17.6	15.7	14.1
経済		5.3	22.1	9.3	22.8
衣食住など		26.4	36.9	10.2	17.5
歴史		21.3	49.1	75.4	75.7
伝統文化		29.5	37.8	37.8	48.7
現代文化		36.3	19.8	17.4	6.1
教育		8.1	14.4	18.9	11.8
スポーツ		30.4	9.9	11.7	4.9
自然・観光		31.7	23.4	43.7	45.2
工業・科学技術・IT		14.1	21.6	7.4	5.7
道徳心		3.3	5.4	19.5	19.4
その他		4.2	5.9	5.7	0.0

日本生徒 N = 644
日本教師 N = 222
中国生徒 N = 471
中国教師 N = 263

日本生徒を見ると、特に目立ったものはないが、「現代文化」、「スポーツ」などが、上位にある。具体的事例としては、「現代文化」に関してはファッション、日本の人気タレントなど、生徒自身のポピュラー文化に関するものが数多く上げられている。また、「スポーツ」に関してはサッカー、野球という人気スポーツとともに、柔道、剣道、すもう等の日本の伝統的スポーツが上げられている。日本生徒は、主に自分たちが、現在、興味関心を持っていることを中国生徒にも知ってもらいたいと思っていると言える。

日本教師を見ると、「歴史」、「伝統文化」、「衣食住など」などが上位にある。具体的事例を見ると、「衣食住」に関しては、現在の日本人の生活実態に関するものが多数上げられている。これに対して「歴史」と「伝統文化」に関しては、多少異なったものとなっている。「歴史」については、古くから日中間で交流があったことを上げるものが多い中で、「一方的な見方で歴史を注入されていると考えるから。」「反日教育ではない日本像を示す歴史。」のように、中国の歴史認識に対する不信感を示すものも少なくなかった。その一方で、若干ではあるが、「日本の植民地支配。」「世界大戦の中の中国侵略。」など、日本の中国侵略を上げた日本教師もいた。

また、「伝統文化」に関しては、「中国との密接な関係を持ちながらも独自の文化を作ったこと。」「中国からの影響と独自の文化。」など、中国に対する日本の文化的独自性を中国生徒に知ってもらいたいと考えていることがうかがえる。

中国生徒を見ると「歴史」、「自然・観光」、「伝統文化」が上位にある。このような傾向は、中国教師にも見られる。具体的事例を見ると、「中国を侵略した歴史。彼らの教養を高める必要がある。」「日本の侵略。9・18事変、7・7事変及び南京大虐殺」(中国生徒)、「昔中国を侵略したのに、歴史の事実を認めない。」「旅順大虐殺と南京大虐殺」(中国教師)など、中国を侵略した歴史を正しく認識してほしいと考えているものが非常に目立った。

10 相手国理解の授業において重視したいこと

日本及び中国の教師にのみ、自国生徒に対する相手国理解の授業において重視したいことを当調査項目を設定した(教師用【7】)。ここでも、「政治」、「経済」、「衣食住などの人びとの日常生活」、「歴史」、「伝統文化」、「現代文化(流行、タレント、ファッション)」、「教育」、「スポーツ」、「自然・観光」、「工業・科学技術・IT」、「道徳心」、「その他」という十二項目を設定しその中から三つまでを選択させるとともに、各々についてその理由を記述してもらった。その結果は以下の通りである。

表36 相手国理解の授業において重視したい事項

事項	調査対象	日本教師	中国教師
政治		30.6	16.3
経済		50.9	54.4
衣食住など		30.6	14.1
歴史		73.4	49.8
伝統文化		24.8	16.7
現代文化		6.3	8.4
教育		5.9	35.4
スポーツ		2.7	1.9
自然・観光		23.4	14.8
工業・科学技術・IT		15.8	30.0
道徳心		5.9	1.3
その他		4.1	0.4

日本教師 N=222
中国教師 N=263

日本・中国教師ともに、「歴史」、「経済」を相手国理解にとって重要と考えていることがうかがえる。とくに、日本教師の「歴史」に対するこだわりが非常に強いことがわかる。また、「教育」、「工業・科学技術・IT」、「道徳心」に関しては、中国教師は日本理解のために重要と考えているが、日本教師はそれほど重視していないという結果が読み取れる。

次に、日本と中国の教師がそれらを重要と考える理由について、「経済」を取り上げてみてみよう。日本教師が「経済」を重視する理由として三つのものが見られた。第一の理由は、「現在の中国の経済事情は、世界の経済を大きく左右するので。」に代表されるように、世界市場における中国の重要性を重視するものである。第二に、「中国製の安い品が日本に入ってくること。」のように、近年の中国の経済的発展を前提とした日本との経済的な関わりに関するものである。そして第三に、「経済成長の背景や都市と農村の格差を押さえたい。」のように、近年の中国社会の変化を資本主義の導入などの経済の視点からアプローチしようとするものである。

これに対して中国教師が「経済」に注目する理由として「日本の経済発展の経験を学ぶ。」「日本の経済発展を追い越さなければならない。」というものが代表されるように、戦後日本の経済成長の理由を探り、中国の経済発展に役立てようとするものに集中していた。

「9. 相手国の生徒に知ってもらいたい事項」では、日中両国の生徒及び教師ともに、自国の「経済」について知ってもらいたいという回答は高くなかったが、相手国理解のためには「経済」が高いというねじれ現象が起こっていることは興味深い。

また、「3. 相手国に対する興味について」で調査した結果ともズレが見られる。中国生徒に関しては、日本の「経済」についての興味は低くなく、日本理解のために「経済」を重視したいという中国教師の意識とも一致している。しかし、日本教師が中国理解のために「経済」を重視したいと思っているが、日本生徒は中国の「経済」に対する興味は非常に低いことがわかる。また、中国生徒は日本の「現代文化」に対する興味はかなり高いが、中国教師は日本理解において「現代文化」はかなり低くなっている。

11 相手国を教材化するときの困難点、課題

日本及び中国の教師にのみ、相手国を教材化するとき、教師がどのような困難さや課題に直面してきたかを調査する項目をもうけた(教師用【7】)。ここでは、「子どもにとって身近で、考えやすい教材をどこに求めるか。」、「時事的な問題をどのようにして反映させるか。」、「社会諸科学の成果をどのようにして反映させるか。」、「現在も論争下にある事象等をどのように扱うか。」、「その他」という五つの設問を用意し、その中から三つまでを選択してもらうこととした。なお、「その他」を選択した場合、それがどのようなものかを具体的に記述する欄をもうけた。その結果は以下の通りである。

表37 相手国を教材化するときの困難点、課題

困難点・課題	調査対象	日本教師	中国教師
子どもにとって身近		71.2	38.4
時事的な問題		65.3	59.7
社会諸科学の成果		18.0	37.6
論争下にある事象		64.4	49.8
その他		10.4	2.7

日本教師 N=222
中国教師 N=263

日本教師の場合「社会諸科学の成果をどのようにして反映させるか。」のみが低く、その他のものは高くなっており、困難点、課題と考えているものとそうでないものの差がはっきりとしている。特に、「子どもにとって身近で、考えやすい教材をどこに求めるか。」が最も高くなっている。これに対して中国教師の場合、「時事的な問題をどのようにして反映させるか。」が最も高いものの、選択肢間に日本教師ほどの差が見られない。

12 相手国理解のための具体的な教具・教材

教師調査特有の設問として、相手国について授業をする際、どのような教材・教具を望んでいるかを問うものを用意した(教師用【9】)。三つまで自由記述で書いてもらった。

なお、紙幅の関係上、この調査項目に関しては省略させていただく。

13 両国がより仲よくなるために

生徒調査、教師調査の最後の設問として、日本と中国が今後もっと仲よくしていくために必要なことについて問った(生徒用【10】、教師用【10】)。ここでは自分の考えを三つまで自由記述で答えてもらった。

まず最初に、日本生徒及び教師の回答から整理してみたい。これらの回答を整理すると、大きく六つのグループに整理できた。

第一のものは、日本の侵略を謝罪し、歴史認識問題の解決を図った上で、日中両国間の友好関係を気づいてゆこうというものである。このようなものとして以下の回答が上げられる。

日本生徒

- ・むかしの日本が中国に対してしたことについて深々とあやまる。
- ・日本が中国に昔のことを全部ばい償する。
- ・日本が中国に戦争のことを謝っていくこと。
- ・日本側がきちんと自分たちのおかした歴史をみつめ、子供にも伝え、今後について考える。

日本教師

- ・侵略等への過去の清算（対等な政治）。
- ・戦争の傷跡の清算。
- ・過去の問題について（戦争責任）あきらかにすること。
- ・日中戦争の戦争責任を明確にする。
- ・日中両国の本当の意味での謝罪と協調。
- ・日本の謝罪を含めた歴史認識の確認（共通理解）。

第二のものは、日中戦争などの過去の不幸な関係を水に流し、今から新しい関係を築いていこうというものである。これに属するものとして以下のような回答があった。

日本生徒

- ・昔のこと（戦争とか）を忘れる。
- ・昔の出来事にこだわりすぎないこと。
- ・過去のことは気にせず、積極的に接する姿勢も大切だと思う。
- ・いつまでも戦争のことを引きずらない。
- ・日本が中国に対して、歴史上悲惨なことをしてしまい、今でも中国の人は、その歴史をひきずって日本人をけいべつ目で見ている人がいるが、過去をいつまでも引きずっても、しょうがないから、今を楽しく生きていくためにも、許してほしいこと。
- ・過去にこだわらない。
- ・水に流す（南京）。
- ・昔のうらみは忘れて、新しい気持ちで国交を作っていけばいい。

→ 後に中国生徒及び教師の回答の分析でも述べるが、このような過去を水に流してあらたな日中友好関係を築こうという考えは、中国生徒及び教師の側からは出てこない。水に流すという発想は日本側に特有の考え方といえる。

日本教師

- ・過去の戦争責任云々を現代に持ち込まない。戦争を知らない子ども達に何の責任があるのか。この問題を引きずる限り、真の日中友好はあり得ない。
- ・いつまでも過去のコトをひきずらない。お互いに歩みよる為には、互いの主権を尊重していく必要がある。感情的になり過ぎると、子ども達が正しい判断ができなくなる。

第三のものは、ことあるごとに歴史認識問題を持ち出す中国に対して不快感を持ち、それが日中

関係を複雑にしている要因の一つと考えているものである。このような回答として以下のものが上げられる。

日本生徒

- ・中国の反日感情をなくす。
- ・中国が仲よくしようとする。

日本教師

- ・中国の「反日感情」の修正。
- ・中国が反日的な教育をやめる。
- ・日本に対して歴史問題を出さないこと。
- ・過去の歴史問題と現在の政治問題を切り離す。
- ・お互いの主権を尊重する。教科書問題etcは、日本国内の問題であり、他国からよけいな干渉を受ける質のものではない。靖国参拝問題も同じ。
- ・靖国問題について内政干渉をしないこと。
- ・歴史認識では決して共通化できないので、互いの認識を認め合うこと。
- ・すべての問題を戦争責任に直結させないこと。
- ・中国が日本との交渉に、戦争責任問題を切り札として使わない。
- ・靖国神社問題に口出ししない。
- ・中国は日本の内政に口を出さない。

第二のものは日本生徒に多かったが、第三のものは日本教師に多い回答であった。「日本が中国に対して、必要以上に下手に出ない。」「中韓の靖国や教科書問題への内政干渉をハネのける努力。」など、日本政府の対応への不満を示すものもあった。

第一から第三のものまでは、いわゆる歴史認識問題に関するものであった。これに対して第四のものは、現在の日本側の視点から日中両国の関係を考えようとするものである。これに該当するものとして以下の回答が上げられる。

日本生徒

- ・密入国者の中国人の管理。
- ・中国マフィアを日本から追い出す。
- ・中国人などによる外国人犯罪を減らす。
- ・中国人犯罪者に対する対策を、中国政府にとってもらう。
- ・日本の工業製品の図案を流さないでほしい。
- ・技術力を盗むことをなくす。
- ・日本の進んだ技術を盗まない。
- ・北朝鮮と手を切ってほしい。
- ・北朝鮮問題での協力。
- ・食糧問題（セーフガードとか）。
- ・輸入食品の安全性を確かめる。

- ・中国をもっと衛生上安全にする。

日本教師

- ・国際的犯罪の減少。
- ・犯罪を犯す外国人をつかまえ、良い人が多いことをもっとアピールする。

これらの回答を見ると、外国人犯罪問題、北朝鮮問題、輸入食品の安全性に関する問題、SARS問題など、現在の日本が直面している国際的問題の解決への協力を中国に求めるものである。

第四のものはいわば現在の問題を解決しようという後ろ向きのものであった。これに対して、第五のものは、経済的側面で日中関係をより強め友好な関係を築いていこうという前向きのものである。このような回答例として以下のものが上げられる。

日本生徒

- ・経済協力。
- ・さらに積極的な経済交流。
- ・手を取り助けあう（経済などで）。
- ・経済的につながる。共同で経済を発展させる。

日本教師

- ・経済援助。
- ・経済協力（技術移転だけでなく、共同での開発を積極的に）
- ・経済協力関係の発展。
- ・企業間での経済協力・技術協力。
- ・経済協力（相互支援）。
- ・経済面での協力、支援など。

第六のものは、日中両国間だけの関係というよりも、中国が中国国内でしか通用しない論理で行動することへの不信感を示す、中国側から見ると内政干渉とも思えるものである。そのような回答例として以下のものが上げられる。

日本教師

- ・中国が政治・経済の国際ルールを守ること（難しいが）。
- ・中国におけるデモクラシーの進展。
- ・中国の民主化。
- ・中国における人権問題の正常化。

次に、中国生徒及び教師の回答を整理してみたい。これらの回答は、大きく五つのグループに整理できた。

第一のものは、日中の友好関係を深めるためには日本の謝罪を前提とした歴史認識問題の解決が不可欠と考えるものである。このような回答例として以下のものが上げられる。

中国生徒

- ・南京大虐殺の罪を認め、中国人に謝罪する。
- ・昔中国で犯した罪を認めなければならない。
- ・侵略の歴史を否認してはいけない。
- ・歴史問題を正しく見てほしい、昔の過ちを素直に認めてほしい。
- ・昔中国人に与えられた苦痛を認める。
- ・中国を侵略する歴史を知り中国に謝罪することによって両国の関係を改善する。
- ・南京大虐殺を認め、被害者に賠償する。
- ・第二次大戦で被害を受けた人たちに賠償する。
- ・責任をもって、侵略戦争の残留問題を処理する。
- ・第二次世界大戦において犯された罪を認め、公の場で謝罪する。
- ・南京大虐殺を認め、歴史事実を教科書に書き入れる。
- ・靖国神社の参拝をやめる。
- ・日本の政治家の態度が一番重要である。
- ・過去を忘れることは、歴史を裏切ることを意味する。
- ・歴史教材を書き直してはいけない。
- ・日本国会は歴史を正しく捉え、現在の教科書を書き直す。
- ・日本は歴史教科書を書き換えることについて中国に謝罪するべき。
- ・歴史を認め、教訓を汲み取り、軍国主義を放棄する。
- ・靖国神社の参拝及び歴史教科書の問題を解決してほしい。
- ・総理大臣や内閣の大臣の靖国神社の参拝を中止する。
- ・日本は自分の罪を隠してはいけない。もし今後教科書を書き直したり、靖国神社を参拝したりしたようなことをするならば、南京の人でも東北の人でも、山東省の人でも許せないだろう。たとえ水泳でもかまわないが、私は絶対海に渡って日本に爆弾を落とす。

中国教師

- ・中国を侵略した歴史を認める。
- ・ドイツのように歴史問題を取り扱ってほしい。
- ・日本が中国を侵略する歴史を正しく認識する。
- ・正しく日中戦争を認識してほしい。
- ・教科書に歴史事実を書いてほしい。
- ・日本側が日中戦争を正しく捉えてほしい、そして中国人は昔のことを許す。
- ・靖国神社をぶっ壊さなければならない。
- ・靖国神社への参拝のようなことがないように。
- ・歴史を清算した上で、日中関係を発展させる。
- ・中国を侵略し、中国に及ぼした不幸を認めなければならない。

中国の生徒及び教師の回答の中で、歴史認識問題に関するものが最も多かった。

また、日本の生徒及び教師の中に見られた、いわゆる過去を水に流して新たな友好関係を築いていこうという発想は見られない。あくまでも謝罪を前提とした友好関係を築こうというのが、中国

の生徒及び教師の回答の特徴である。

第二のものは、第一の歴史認識問題とも関係するが、日本の軍事大国化に対する危惧を表明するものである。これに該当する回答として以下のものが上げられる。

中国生徒

- ・軍備の拡張をやめる。
- ・歴史を認め、教訓を汲み取り、軍国主義を放棄する。

中国教師

- ・日本は第二次世界大戦でおこした罪を反省しなければならない。戦争を起こす考えをやめてほしい。
- ・毎年軍事に使われている費用は、日本が世界第二位を占めている。これは東アジアの安定を妨げる要素である。
- ・軍事整備を放棄し、中国の領土、領海への占領の野心を放棄する。
- ・未来を向けて、軍国主義を拒絶する。

中国生徒及び教師の中には、日本の自衛隊は軍隊であり、日本は未だに軍国主義であるとの見方をしているものがあることがわかる。

ここまで示した第一及び第二のものが、歴史認識問題関連の回答である。歴史認識問題は単に日本及び日本人が自身の侵略を認め、謝罪し、賠償するのみならず、教科書記述、政治家の靖国参拝など、過去の問題のみならず現在の問題でもありとらえていよう。このようなとらえ方が、日本生徒及び教師の第二のものに代表されるような、日本側の反感となってあられるのであろう。

第三のものは、現在の中国側の視点から日中両国の関係を考えようとするものである。これに該当するものとして以下の回答が上げられる。

中国生徒

- ・日本のやくざが中国を侵略してはいけない。
- ・中国人を軽視してはいけない。
- ・我々が十分に発達してないからと言って、我々を見下さないようにしてほしい。
- ・日本で中国人をいじめてはいけない。
- ・中国労働者にたいして平等の態度を示すべき。
- ・中国に対する日本の偏見及び不正確な理解を無くす。
- ・中国に対する偏見を変えるべきである。
- ・中国人をいじめてはいけない。

中国教師

- ・在日中国留学生の権利を十分に尊重し、文化的な侵略はしない。
- ・日本と付き合うときに、経済侵略を警戒する必要がある。
- ・日本は経済力の強い国としては、アジアの諸国に対して尊重と平等の念をもたなければならない。

- ・日本国は空港では「中国人が出て行け」という看板を立てないこと。
- ・政治的な動きによって、民間の交流を妨げてはいけない。

これらの回答を見ると、日本における中国人への差別意識の改善、日本の経済的な侵略への警戒心などがうかがえる。

第四のものは、同様の意見が日本の生徒及び教師の回答にもみられたが、経済的側面で日中関係をより強め友好的な関係を築いていこうというものである。このような回答例として以下のものが上げられる。

中国生徒

- ・経済関係を強める。
- ・いま仲良くすることを装い、我が国の経済の力を高め、実力を身につける。日本に仕打ちをする。
- ・経済において互いのことを助け合う。
- ・経済における協力。
- ・経済の発展をともに達成する。
- ・経済面における協力を増やしましょう。

中国教師

- ・我が国の経済力を高め、両国の経済関係を強める。
- ・無条件に中国に経済及び技術面における援助を提供しなければならない。
- ・文化交流を行う。日本から科学技術を取り入れ、中国の発展を促進する。
- ・経済発展を促進し、ともに繁栄を成し遂げる。
- ・中国に対する経済援助。
- ・中国に無償援助を提供する。友好的な態度を示しながら、中国と付き合う。

中国生徒の回答を見ると、両国の経済協力、経済交流の親密化を述べるものが多い。これに対して中国教師の回答を見ると、中国生徒と同様に、中国に対する日本の経済援助を求める意見が目立った。

第五のものは、中国の内政への不干渉を求めるものである。このような回答例として以下のものが上げられる。

中国生徒

- ・中国は一つであると確認する。
- ・台湾は中国の一部であることを認める。
- ・一つの中国という考えを支持する。
- ・台湾の独立を支持してはいけない。
- ・アメリカの尻にくっついてはいけない。

中国教師

- ・政治において一つの中国を認めてほしい。
- ・台湾問題に対して慎重に対応するべきである。
- ・中国の統一を阻止してはいけない。
- ・相手国の主権を尊重し、内政を干渉しない。

中国生徒及び教師が内政干渉として考えていることは台湾問題であることがわかる。

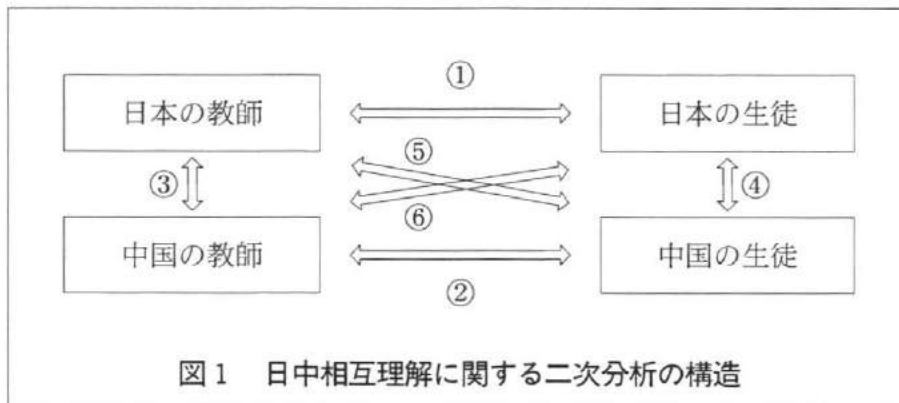
Ⅲ 調査結果の概要(2) — 二次集計

1 二次分析の構成

本調査では一次分析の結果をクロスさせる二次分析を想定して、表38に示したように、全く同じ選択枝を使った調査内容を用意した。

表38 共通の選択枝を活用した生徒調査及び教師調査

生徒用 調査票番号	調査内容		教師用 調査票番号
【3】	3. 相手国に対する興味事項	※	【3】
【9】	9. 相手国の生徒に知ってもらいたい事項	※	【6】
	10. 相手国理解の授業において重視したい事項	※	【7】



ここでは、以下の二点において二次分析を行った。第一のものは、中国生徒に望む日本理解事項に関するものである。中国生徒に日本理解を望むものとして三つの主体が考えられる。それらは、日本教師、日本生徒、そして中国教師という三つである。そこで、日本教師と日本生徒が中国生徒に望む日本理解のクロス分析(①)、日本教師と中国教師のクロス分析(③)、日本生徒と中国教師のクロス分析(⑥)を行った。

第二のものは、日本生徒に望む中国理解に関するものである。ここでも、日本生徒に中国理解を望む主体である中国教師、中国生徒、そして日本教師という三つの主体がある。そこで、中国教師と中国生徒が日本生徒の望む日本理解のクロス分析(②)、中国教師と日本教師のクロス分析(③)、そして中国生徒と日本教師のクロス分析(⑤)を行った。

2 中国生徒に望む日本理解事項のクロス分析

まず最初に、中国教師の回答から整理する。中国教師の回答を見ると、二つの日本理解が読み取れる。第一のものは、経済大国日本というものである。回答の順位を見ると、第1位に「経済」が、第4位に「工業・科学技術・IT」が入っている。ここから、工業の発展に支えられた経済大国という日本理解が読み取れる。第二のものは、「歴史」が第2位に入っているように、かつて中国を侵略した国である日本というものである。「教育」が第3位に入っているのも、いわゆる歴史教科書問題に関するものと考えられ、中国侵略を犯しながらもそれを認めない国という日本理解があるのではなかろうか。

これに対して日本教師の回答は、「歴史」、「伝統文化」、「衣食住」が上位に入っている。中国教師と同様に、日本教師も「歴史」（第1位）を重視していることがわかる。しかし、ここでいう「歴史」とは中国を侵略した歴史ではなく、古くから中国と交流のある国としての日本という意味であろう。また、第2位に「伝統文化」、第3位に「衣食住など」が入っており、日本文化を中国生徒に理解してほしいと考えていることが読み取れる。その一方で、中国教師では重視されていた「経済」（第5位）、「工業・科学技術・IT」（第6位）は、それほど重視されていない。

日本生徒の回答を見ると、中国教師や日本教師と異なる傾向が読み取れる。中国教師及び日本教師で上位に入っている事項は上位に入っていない。「経済」に至っては第10位であり、その割合も5.3%と非常に低いものとなっている。日本生徒で上位に入っているものを見ると、「現代文化」（第1位）、「スポーツ」（第3位）などがあり、日本生徒が中国生徒に望む日本理解事項として、自身が興味関心を持っていると思われる「現代文化」と「スポーツ」を重視していることがわかる。また、「自然・観光」（第2位）が上位に、「工業・科学技術・IT」（第7位）、「経済」（第10位）が下位にあり、産業構造という日本社会の特徴ではなく、日本の自然的特徴を、中国生徒に理解してもらいたいと考えていることがうかがえる。

これらの結果をふまえて、「表18 相手国に対する興味事項（中国生徒）」をみてみよう。中国生徒の日本に対する興味は、「政治」を除き、ほぼすべての事項において高い数値を示している。その中で、中国教師も日本教師も重視していないが、日本生徒が上位に上げている「現代文化」について、中国生徒が興味を強く持っていることが目立つ。

表39 中国生徒に望む日本理解事項

理解事項 \ 調査対象	日本生徒が望む事項	日本教師が望む事項	中国教師が望む事項
政治	7.5(9)	17.6(8)	16.3(7)
経済	5.3(10)	22.1(5)	54.4(1)
衣食住など	26.4(5)	36.9(3)	14.1(9)
歴史	21.3(6)	49.1(1)	49.8(2)
伝統文化	29.5(4)	37.8(2)	16.7(6)
現代文化	36.3(1)	19.8(7)	8.4(10)
教育	8.1(8)	14.4(9)	35.4(3)
スポーツ	30.4(3)	9.9(10)	1.9(11)
自然・観光	31.7(2)	23.4(4)	14.8(8)
工業・科学技術・IT	14.1(7)	21.6(6)	30.0(4)
道徳心	3.3(12)	5.4(12)	21.3(5)
その他	4.2(11)	5.9(11)	0.4(12)
	N=644	N=222	N=263

※カッコ内は順位を示す。

表18 相手国に対する興味事項（中国生徒）

興味事項 \ 興味の程度	とてももっている	わりともっている	あまりもっていない	もっていない	無回答
政治	18.3	29.7	28.9	21.4	1.7
経済	34.2	31.4	20.8	11.0	2.5
衣食住など	35.5	34.8	18.0	10.6	1.1
歴史	32.9	24.8	21.9	19.5	0.8
伝統文化	31.6	31.4	20.4	14.6	1.9
現代文化	43.9	32.1	12.3	10.6	1.1
教育	43.1	28.9	17.2	9.3	1.5
スポーツ	32.3	30.6	21.4	14.4	1.3
自然・観光	46.3	32.9	11.9	7.4	1.5
工業・科学技術・IT	35.7	31.0	17.8	13.4	2.1
道徳心	36.3	31.6	15.9	15.1	1.1
その他	17.2	2.5	0.8	1.7	77.7

N=471

3 日本生徒に望む中国理解事項のクロス分析

表40をみて気づくことは、上位に上げられた事項と下位の事項が明確に分かれている点である。日本教師が望む事項を見ると、「歴史」と「経済」のみが50%を超え、その他の事項を大きく引き離していることがわかる。日本教師の考える「歴史」とは「中国四千年の歴史」という言葉に代表さ

れる、古い歴史を持つ中国、あるいは日本と交流の深い歴史を持つ中国というものであることが考えられる。「経済」に関しては、近年の経済発展に注目した中国理解であろう。また、上位の事項からは差があるものの、「衣食住など」と並んで「政治」が第3位に入っているのは、社会主義国としての中国という理解を重視しているためであろう。

これに対して中国教師の場合は、「歴史」、「伝統文化」、「自然・観光」、中国生徒の場合は「歴史」、「自然・観光」、「伝統文化」という順番になっており、両者とも、その他の事項を大きな差が出ている点で共通している。とくに「歴史」が両者とも75%台と他の事項から突出しており、かつて日本が中国を侵略したことを日本生徒にも理解してほしいと考えていることがうかがえる。

「表17 相手国に対する興味事項（日本生徒）」を見ると、日本教師の中国に対する興味が全般的に低いことがわかる。特に、日本教師が重視している「政治」と「経済」という中国の社会構造に関する事項が特に低くなっている。言い換えるならば、日本生徒が興味をあまり持っていない事項を、日本教師は重要と考え授業で扱っているということになる。中国教師及び中国生徒が重要と考えている「歴史」、「伝統文化」、「自然・観光」に関しては、上位に並んでいるものの、「表18 相手国に対する興味事項（中国生徒）」と比較すると、その値の低さが非常に目立つ。

表40 日本生徒に望む中国理解事項

理解事項	調査対象	中国生徒が望む事項	中国教師が望む事項	日本教師が望む事項
政治		15.7(7)	14.1(7)	30.6(3)
経済		9.3(10)	22.8(4)	50.9(2)
衣食住など		10.2(9)	17.5(6)	30.6(3)
歴史		75.4(1)	75.7(1)	73.4(1)
伝統文化		37.8(3)	48.7(2)	24.8(5)
現代文化		17.4(6)	6.1(9)	6.3(8)
教育		18.9(5)	11.8(8)	5.9(9)
スポーツ		11.7(8)	4.9(11)	2.7(11)
自然・観光		43.7(2)	45.2(3)	23.4(6)
工業・科学技術・IT		7.4(11)	5.7(10)	15.8(7)
道徳心		19.5(4)	19.4(5)	5.9(9)
その他		5.7(12)	0.0(12)	4.1(12)
		N = 471	N = 263	N = 222

※カッコ内は順位を示す。

表17 相手国に対する興味事項（日本生徒）

興味事項	興味の程度 とてももっている	わりともっている	あまりもっていない	もっていない	無回答
政治	3.4	16.0	42.7	37.1	0.8
経済	5.3	14.1	42.9	37.1	0.6
衣食住など	16.6	37.6	26.1	18.9	0.8
歴史	23.0	36.3	26.6	13.4	0.8
伝統文化	14.9	32.6	32.3	19.3	0.9
現代文化	13.8	24.1	33.7	27.5	0.9
教育	5.6	16.6	44.1	32.8	0.9
スポーツ	17.9	28.3	33.4	20.2	0.3
自然・観光	18.3	31.5	28.3	21.1	0.8
工業・科学技術・IT	7.8	16.3	37.7	37.3	0.9
道徳心	6.8	12.6	39.0	40.2	1.4
その他	3.4	1.9	0	0.5	94.3

N=644

IV おわりに

最後に、「13. 両国がより仲よくなるために」における以下の回答を見ていただきたい。

日本生徒

- ・もうこれ以上仲良くせんでいいと思う。
- ・中国人をばかにする子供をぼくめつする。
- ・中国の方に対して差別をしない。
- ・両国の政治家、どうにかして下さい。

中国生徒

- ・必要がない。私は南京出身。
- ・たくさんの人を派遣し日本を攻める。
- ・爆弾で小泉を爆発する。
- ・日本を消滅する。
- ・関係を断ち切る。
- ・爆弾を落とす。

これらの回答は、ほんの数名の生徒の回答である。その回答の真意は聞き取り調査をしないとわからないが、学校教育における日中間の相互理解の必要性を指摘して、本調査結果の報告を終わりたい。

(戸田 善治)

【謝辞】

本アンケート調査の、中国生徒、中国教師の中国語版への翻訳、および回答の日本語への翻訳を

劉煜さん（中央大学大学院生）に担当していただいた。また、データの整理に当たって、千葉大学大学院教育学研究科社会科教育専攻1年生の干航さん、千葉大学教育学部小学校教員養成課程社会科選修1年生の酒井美幸さん、櫻井直輝君、古井丸祥子さん、佐々木陽平君、後藤健君に手伝っていただいた。特に、「4 知っている相手国の人物名について」におけるアニメ・漫画・ゲームキャラクター名については、彼らの協力なしには整理できなかった。ここに記して、御礼申し上げる。

日本と中国の相互理解に関する アンケート調査 (日本の生徒質問紙)

日本の中学生の皆さん、こんにちは。

1972年の国交正常化以来、日中関係は様々な分野で友好関係を築いてきました。また2002年には国交正常化30周年を迎えることになりました。そこで、日中両国の中学生にアンケート調査を行い、その結果を、お互いの理解と友好関係をより深めるために役立てたいと考えています。

これはテストではありませんし、個人名が明らかになることもありませんので、どうぞ、現在の自分の考えをありのままに答えてください。

日中相互理解研究会
星村 平和

=回答に際してのお願い=

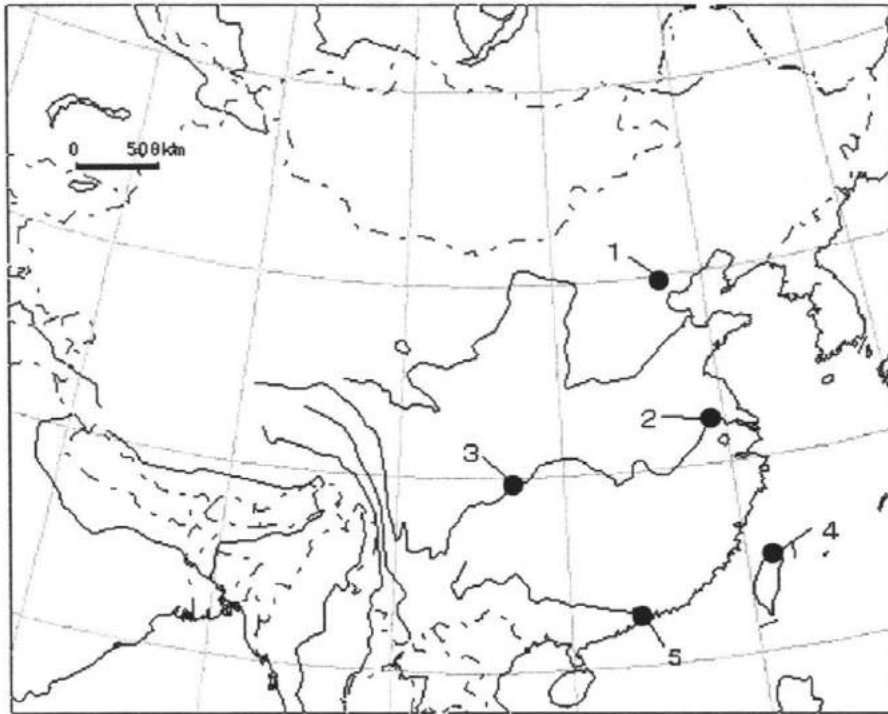
【回答方法】

- ・ 選択肢の場合 数字に○を付ける。
- ・ その他の場合 に直接記入する。

※記入して下さい

I	学校名	
II	学年	
III	性別	

【5】中国の首都はどこですか。その場所を地図上の1～5の中から選ぶとともに、首都名を書いてください。



中国の首都の位置

中国の首都名

【6】現在、日本の内閣総理大臣、中国の国家主席はだれですか。

日本の内閣総理大臣

中国の国家主席

【7】中国のイメージを簡潔に、短い言葉で表現するとどうなりますか。三つ以内で書いてください。

【8】日本と中国が国交の正常化（1972年）を行ったときの日本の内閣総理大臣と中国の国務院（内閣）総理はだれですか。以下の人物の中から選んでください。

ア. 日本の内閣総理大臣

1. 吉田茂 2. 佐藤栄作 3. 田中角栄 4. 細川護熙 5. 村山富市

イ. 中国の国務院（内閣）総理

1. 周恩来 2. 華国鋒 3. 趙紫陽 4. 李鵬 5. 朱鎔基

【9】中国の子どもに日本のどのようなことについて知ってもらいたいですか。以下の選択肢の中から三つ以内で選ぶとともに、その具体的な事例を書いてください。

1. 政治 2. 経済 3. 衣食住などの人々の日常生活 4. 歴史
5. 伝統文化 6. 現代文化（流行, メント, ファッション） 7. 教育 8. スポーツ
9. 自然・観光 10. 工業・科学技術・IT 11. 道徳心
12. その他

選択肢の番号

具体的な事例

【10】日本と中国が、今後もっと仲良くしていくために必要なことは何だと思えますか。三つ以内で書いてください。

日本と中国の相互理解に関する アンケート調査 (日本の教師質問紙)

1972年の国交正常化以来、日中関係は様々な分野で友好関係を築いてきました。また2002年には国交正常化30周年を迎えることになりました。そこで、我々は日中両国の相互理解のための教材開発の研究をすすめています。このアンケートは、その一環として日中両国の社会科の先生方を対象にして行い、その成果を研究の推進に役立てようとするものです。学校名や個人名を公表することはありません。どうぞ、現在の自分の考えをありのままに教えてください。

日中相互理解研究会
星村 平和

=回答に際してのお願い=

【回答方法】

- ・ 選択肢の場合 数字に○を付ける。
- ・ その他の場合 に直接記入する。

※記入して下さい

I	年齢		
II	性別		
III	教職経験年数		
	1 1～5年	2 6～10年	3 11～15年
	4 16～20年	5 21～25年	6 26年以上
IV	専門		
	1 地理	2 歴史	3 公民

【5】中国のイメージを簡潔に表現するとどうなりますか。三つ以内で書いてください。

【6】中国の子どもに日本のどんなところについて知ってもらいたいですか。以下の選択肢から三つ以内で選ぶとともに、その具体的な事例を書いてください。

1. 政治 2. 経済 3. 衣食住などの人々の日常生活 4. 歴史
5. 伝統文化 6. 現代文化（流行, タレント, ファッション） 7. 教育 8. スポーツ
9. 自然・観光 10. 工業・科学技術・IT 11. 道徳心
12. その他

選択肢の番号

具体的な事例

--

--

--

【7】日本の子どもに中国について授業する際に、どのような事柄を重視したいと考えていますか。以下の選択肢から三つ以内で選ぶとともに、その理由を書いてください。

1. 政治 2. 経済 3. 衣食住などの人々の日常生活 4. 歴史
5. 伝統文化 6. 現代文化（流行, タレント, ファッション） 7. 教育 8. スポーツ
9. 自然・観光 10. 工業・科学技術・IT 11. 道徳心
12. その他

選択肢の番号

理由

--

--

--

【8】中国について授業をする際に、どのような困難さや課題に直面してきましたか。以下の選択肢から三つ以内で選んで下さい。

1. 子どもにとって身近で、考えやすい教材をどこに求めるか
2. 時事的な問題をどのようにして反映させるか
3. 社会諸科学の成果をどのようにして反映させるか
4. 現在も論争下にある事象等をどのように扱うか
5. その他

具体的に

【9】中国について授業をする際に、「あったら使いたい、便利だ」と思うのはどのような教具・教材または資料ですか。三つ以内で書いてください。

【10】日本と中国が、今後もっと仲良くしていくために必要なことは何だと思えますか。三つ以内で書いてください。

2002 年度

关于中日相互理解情况的问卷调查

(学生用)

中国的中学生们,你们好。

1972 年中日邦交正常化以来,中日双方在各各领域建立了良好的关系。并在 2002 年迎来了中日邦交正常化 30 周年。我们对中日两国的学生进行问卷调查,期望将其结果作为增进中日两国相互理解的一项成果。我们将不会公开任何学校的名称和个人的姓名。请真实的表达您们的想法。

日中相互理解研究会

会長 星村 平和

回答此调查表时的注意事项

回答方法

选择的答案 请在数字上画○。

其他的情况 请在 直接填入。

请填写以下事项

1 学校名

2 学年 _____

3 性别 _____

1 你对于以下的国家，分别持有多大程度的亲切感？请在每一个国家中，分别选出一个与你的想法最接近的答案。

	非常亲切	比较亲切	不太亲切	不亲切
a. 日本	1	2	3	4
b. 北朝鲜	1	2	3	4
c. 韩国	1	2	3	4
d. 俄国	1	2	3	4
e. 美国	1	2	3	4

2 现在，你觉的中国和日本的关系好吗？请选出一个与你的想法最接近的答案。

1 非常好 2 比较好 3 不太好 4 不好 5 不知道

3 你对日本感兴趣吗？请从以下的答案中选出一个与你的想法最接近的。

	非常感兴趣	比较感兴趣	不太感兴趣	不感兴趣
a. 政治	1	2	3	4
b. 经济	1	2	3	4
c. 人们的衣食住等日常生活	1	2	3	4
d. 历史	1	2	3	4
e. 传统文化	1	2	3	4
f. 现代文化(流行,名人,时装)	1	2	3	4
g. 教育	1	2	3	4
h. 体育	1	2	3	4
i. 自然·观光	1	2	3	4
j. 工业·科学技术·情报技术	1	2	3	4
k. 道德意识	1	2	3	4
l. 其他()	1	2	3	4

4 请列举出 1 至 3 个日本人物的名字。并且从以下的答案中选出你知道途径。

人物名	<input type="text"/>	怎么知道的	<input type="text"/>
	<input type="text"/>		<input type="text"/>
	<input type="text"/>		<input type="text"/>

知道的途径 1. 报纸, 新闻节目等报导 2. 漫画, 杂志
 3. 动画片等娱乐节目或电影 4. 小说 5. 电子游戏
 6. 学校的教课内容 7. 其他()

5 日本的首都在哪里?请在以下 1 至 5 之中选出它的位置,并写出它的名称。



日本首都的位置

日本的首都名称

6 现在的中国的国家主席和现在的日本的内阁总理大臣分别是谁?

中国的国家主席

日本的内阁总理大臣

7 请简单的语言描述一下你对日本的印象, 在写在三个方格之中。

8 中国与日本在 1972 年恢复邦交时,中国的国务院总理与日本的内阁总理大臣分别是谁?请从以下的人物中选出一人。

a. 中国的国务院总理

1. 周恩来 2. 华国锋 3. 赵紫阳 4. 李鹏 5. 朱熔基

b. 日本的内阁总理大臣

1. 吉田茂 2. 佐藤荣作 3. 田中角荣 4. 细川户熙 5. 村山富市

9 你希望日本的儿童了解中国的哪一个方面?请从以下选择 1 至 3 个答案,并写出其具体例子。

1. 政治 2. 经济 3. 人们的衣食住等日常生活 4. 历史
5. 传统文化 6. 现代文化(流行,名人,时装) 7. 教育 8. 体育
9. 自然·观光 10. 工业·科学技术·情报技术 11. 道德意识
12. 其他()

选择项的号码

具体例子

10 为了今后中日关系进一步的发展,你认为什么是必要的?请写出 1 至 3 个内容。

关于中日相互理解情况的问卷调查 (教师用)

1972 年中日邦交正常化以来,中日双方在各各领域建立了良好的关系。并在 2002 年迎来了中日邦交正常化 30 周年。现在我们正在筹备增进中日两国的相互理解的教材的开发工作。这个问卷调查是作为此项工作的一部分,以日中两国的社会课教育的教师为对象进行的,其结果将作为推进本研究工作的一项成果。在此项调查工作中我们将不会公开任何学校的名称和个人的姓名。请真实的表达您们的想法。

日中相互理解研究会
会长 星村 平和

回答此调查表时的注意事项

回答方法

选择的答案 请在数字上画○。

其他的情况 请在 直接填入。

请填写以下事项

1 年龄

2 性别

3 教龄
1 1 - 5年 2 6 - 10年 3 11 - 15年
4 16 - 20年 5 21 - 25年 6 26年以上
4 担当科目
1 地理 2 历史 3 思想政治

1 你对于以下的国家，分别持有多大程度的亲切感？请在每一个国家中，分别选出一个与你的想法最接近的答案。

	非常亲切	比较亲切	不太亲切	不亲切
a. 日本	1	2	3	4
b. 北朝鲜	1	2	3	4
c. 韩国	1	2	3	4
d. 俄国	1	2	3	4
e. 美国	1	2	3	4

2 现在，你觉的中国和日本的关系好吗？请选出一个与你的想法最接近的答案。

1 非常好 2 比较好 3 不太好 4 不好 5 不知道

3 你对日本感兴趣吗？请从以下的答案中选出一个与你的想法最接近的。

	非常感兴趣	比较感兴趣	不太感兴趣	不感兴趣
a. 政治	1	2	3	4
b. 经济	1	2	3	4
c. 人们的衣食住等日常生活	1	2	3	4
d. 历史	1	2	3	4
e. 传统文化	1	2	3	4
f. 现代文化（流行，名人，时装）	1	2	3	4
g. 教育	1	2	3	4
h. 体育	1	2	3	4
i. 自然·观光	1	2	3	4
j. 工业·科学技术·情报技术	1	2	3	4
k. 道德意识	1	2	3	4
l. 其他（ ）	1	2	3	4

4 请列举出 1 至 3 个日本人物的名字。并且请从以下的答案中选出你是如何知道的。

人物名 怎么知道的

知道的途径 1. 报纸，新闻节目等报导 2. 漫画，杂志
3. 动画片等娱乐节目或电影 4. 小说 5. 学校的教课内容

8 将日本作为教课教材的内容时，迄今为止你碰到过哪些困难和课题？请从以下选项中选出 1 至 3 个答案。

1. 在哪里查找孩子容易理解的,他们身边的教材内容。
2. 如何将时事问题反应在教课,教材的内容当中。
3. 如何社会诸科学的成果反应在教课,教材的内容当中。
4. 如何去对待论争中的某个事情和现象。
5. 其他

具体是指

9 在课堂上讲解关于日本的内容时，“如果有的话，很想使用”的方便的教材·教具或资料是什么？请写出 1 至 3 个答案。

10 为了今后中日关系进一步的发展，你认为什么是必要的？请写出 1 至 3 个内容。

第Ⅲ部 中国側から見た日中相互理解

第1章 中国の教育課程改革と新しい社会系教科の構造と特色

1 教育制度及び教育課程の基準の概要

中国は、22省、5自治区、4直轄市（北京、天津、上海、重慶）、2特別行政区（香港、マカオ）から構成される。行政形態としては中央集権的な体制を採り、香港、マカオを除き中央政府が全国統一の教育制度を制定している。しかし、広大な国土と膨大な人口を抱え、各地方の経済、社会、文化状況が異なることから、制度面の画一的施行を求めることはせず、各地方の実情に合った弾力的な運用を認めている。

学校制度は、1922年の学制改革以来、一時的な変化はあったものの、初等中等教育6-3-3制を基本にした制度が維持されてきた。しかし、1966年に始まった文化大革命の中で各学校段階の就業年限が短縮され、5-2-2制や5-3-2制が採られた。1976年の文化大革命終結後、それ以前の制度が復活し、1980年代初頭から原則的に6-3-3制に復帰した。

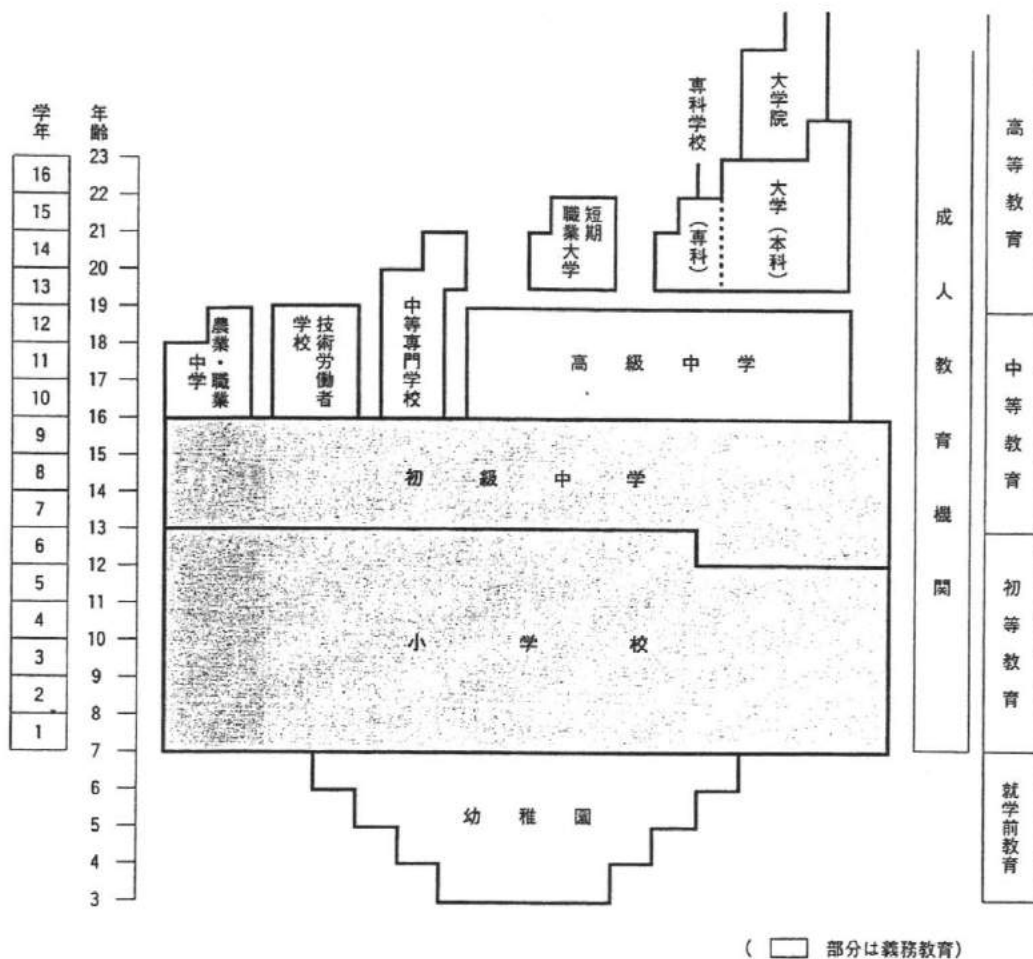
1986年には、中華人民共和国になってから初めての全国的な義務教育の実施を定めた「義務教育法」が制定、施行され、義務教育が6歳から9年間と規定された。しかし、現在でも財政的な理由から、依然小学校5年制をとる地域も少なくない。しかし、これらの地域でも初級中学を4年とし、9年間の義務教育が維持できるよう努力する方向にある。(図1)

教育課程においても、従来から国家統一の基準を定め、統一の教育内容に従い、統一の教科書を用いて学校教育を進めてきた。すなわち、教育課程の基準については、国（教育部）が教育課程の編成や授業時数を規定した「課程計画」、及び各教科の目的や内容等を規定した「教学大綱」を策定し、教科書については教育部の委託を受けた人民教育出版社が「教学大綱」に準拠して全国統一の教科書を編集・発行してきた。

しかし、1986年の教科書の国定制から審査制（検定制）への移行に伴い、教育部が指定した機関において、経済的、文化的に発展の異なる地域に対して多様な教科書を作成することが可能になった。その後、1988年に出された「九年制義務教育教材編纂規格方案」によって、多様な教科書と同時に地域独自の多様な教育課程の作成も可能になり、1989年以降、経済が発展し、就学条件が比較的良好な上海や北京、農村地域を多く抱える浙江省や四川省などで地域独自の教育課程や教科書づくりが進められている。

現在運用されている教育課程の基準は、小学校及び日本の中学校に当たる初級中学においては、1992年8月に発布され、1995年度からの学校完全週五日制の実施に伴って1994年に調整された「義務教育全日制小学、初級中学課程計画」（以下「課程計画」と略）（表1）と、それに基づいて1992年に「試用」版が発行され、その後2000年に修正された各教科の「教学大綱（修訂）」に基づいている。また、日本の高等学校に当たる高級中学においては、1996年3月に発行され、その後2000年に修正された「全日制普通高級中学課程計画（試験修正稿）」（表2）と、それに基づいて作成され、2002年に最終修正された各教科の「教学大綱」に基づいている。

図1. 中国の学校系統図



就学前教育……就学前教育は、幼稚園(幼児園)または小学校付設の幼児学級で、通常3～6歳の幼児を対象として行われる。

義務教育……9年制義務教育を定めた義務教育法が1986年に成立し、施行された。実施にあたっては、各地方の経済的文化的条件を考慮し地域別の段階的実施という方針がとられている。9年制の義務教育が実際に行われていない地域もまだ多く、2000年までに全国で基本的に実施する計画となっている。

初等教育……小学校(小学)は、7歳入学、6年制である。一部の都市では、6歳または6歳半入学が実施されている。現在農村部を中心にかなりの地域では5年制となっているが、これらの地域では今後も5年制を継続し、初級中学を4年とする方向にある。

中等教育……初級中学(3～4年)卒業後の後期中等教育機関としては、普通教育を行う高級中学(3年)と職業教育を行う中等専門学校(中等專業学校、一般に4年)、技術労働者学校(技工学校、一般に3年)、農業・職業中学(2～3年)などがある。

高等教育……大学(大学・学院)には、学部レベル(4～5年)の本科と短期(2～3年)の専科とがあり、専科のみの学校を専科学校と呼ぶ。また、近年地方都市が設置する専科レベルの短期職業大学がある。大学院レベルの学生(研究生)を養成する課程・機関(研究生院)が、大学及び中国科学院、中国社会科学院などの研究所に設けられている。

成人教育……上述の全日制教育機関のほかに、労働者や農民などの成人を対象とするさまざまな形態の成人教育機関(业余学校、夜間・通信大学、ラジオ・テレビ大学等)が開設され、識字訓練から大学レベルの専門教育まで幅広い教育・訓練が行われている。

(出典：本間政雄・高橋誠編『諸外国の教育改革』ぎょうせい、2000年、218頁)

表1. 調整後の九年制全日制義務教育における六・三制小中学校教育課程計画（1994年）

学校		小学校						中学校			授業時間数			
		一	二	三	四	五	六	一	二	三	小学 総時間数	中学 総時間数	九年間 総時間数	
週時間数 教科等	学年													
	国家 規 定 の 課 程	思想品德	1	1	1	1	1	1				204		404
思想政治								2	2	2		200		
語文		9	9	9	8	7	7	6	5	5	1666	534	2200	
数学		4	5	5	5	5	5	5	5	4*	986	468	1454	
外国語		(I)							3	3			204	204
		(II)							4	4	4		400	400
社会					2	2	2				204		557	
歴史								2	2	2		200		
地理								3/2	2			153		
自然		1	1	1	1	2	2				272		685	
物理									2	3		164		
化学										3		96		
生物								2/3	2			153		
体育		2	2	3	3	3	3	2	2	2	544	200	744	
音楽		2	2	2	2	2	2	1	1	1	408	100	508	
美術		2	2	2	2	2	2	1	1	1	408	100	508	
労働				1	1	1	1				136		336	
労働技術								2	2	2		200		
週総時間数			21	22	24	25	25	25	29	29	25	4828	2772	7600
活動課程		朝の会(帰りの会)	毎日10分間											
	学校、集団少年先鋒隊活動	1	1	1	1	1	1	1	1	1	204	100	304	
	科技文芸 体育活動	4	4	3	2	2	2	2	2	2	578	200	778	
	週活動時間	5	5	4	3	3	3	3	3	3	782	300	1082	
地方自主課程		1	1	2	2	2	2	1	1	5	340	228	568	
週総時間数		27	28	30	30	30	30	33	33	33	5950	3300	9250	

注：*印は外国語（I）を開設した場合の初級中学3年の数学の授業時間数。外国語（II）を開設した場合には、初級中学3年の数学の授業時間数は5時間になる。

出典：国家教育委員会「実行新工時制対全日制小学・初級中学課程(教学)計画進行調整的意見」(1994)

表2. 全日制普通高級中学課程計画（2000年）

科 目		週当たり時間数	必修、選択時間数	総時間数
思想政治	必修	6	184	184
語 文	必修	12	368	368
外 国 語	必修	12	368	368
数 学	必修	8	280	324～368
	選択	2～4	44～88	
情報技術	必修	2	70	70～140
	選択	2	70	
物 理	必修	4.5	158	158～294
	選択	5	136	
化 学	必修	4	140	140～259
	選択	4.5	119	
生 物	必修	3	105	105～171
	選択	3	66	
歴 史	必修	3	105	105～228
	選択	4.5	123	
地 理	必修	3	105	105～193
	選択	4	88	
体育・保健	必修	6	184	184
芸術(音楽・体育)	必修	3	92	92
総合実践活動	プロジェクト学習	必修	9	276
	労働技術教育		年間1週間(集中して設定しても分散して設定してもよい)	
	地域奉仕		課外の時間を利用	
	社会実践		年間1週間(集中して設定しても分散して設定してもよい)	
地方及び学校選択科目		11～19	340～566	

注：第1、2学年が35週、第3学年26週である。

出典：教育部「全日制普通高級中学課程計画(試験修正稿)」、2000年

尚、今日の教育課程改革の中で、拘束力の強い「教学大綱」を、地域や学校の実態に応じて弾力的運営が可能な「課程標準」へと移行する作業が進行している。小学校及び初級中学の義務教育段階においては、2001年に、従来の「課程計画」に代わって「義務教育課程設置実験方案」（以下「課程方案」と略）（表3）とそれに示された18の新教科の「課程標準」が発行され、2001年秋の新学期から全国38カ所の実験地区で実施され、2002年度はそれを500程度に拡大して試行実施された。今後、試行実践の結果を見て「課程標準」の修正を繰り返し、中国全地域で実施される予定である。高級中学については、遅れて、2003年に「普通高中課程方案(実験)」（表4）が示され、同様にそれに示された新教科の「課程標準」発行され、2003年秋の新学期から試行実験が開始されている。

このように今日中国では、一般地区では「課程計画」と「教学大綱」、実験地区では「課程設置方案」と「課程標準」という二組の教育課程の基準が並行して機能している。

小学校の教科目は、「課程計画」では、思想品德、語文、数学、社会（4～6年）、自然、体育、音楽、美術、労働（3～6年）の9教科、「課程方案」では、品德と生活（1～2年）、品德と社会（3～6年）、科学（3～6年）、語文、体育、芸術の6教科であり、すべて必修である。

初級中学の教科目は、「課程計画」では、思想政治、語文、数学、外国語、歴史、地理、物理、化学、生物、体育、音楽、美術、労働技術の13教科、「課程方案」では、思想品德、歴史と社会（或いは歴史、地理）、科学（或いは生物、物理、化学）、語文、数学、外国語、体育と健康、芸術、の8教科で、すべて必修である。

表3. 義務教育課程設置実験方案（2001年）

	学 年									九年間総時間数の パーセンテージ
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	
教 育 課 程 の 領 域	品德と生活	品德と生活	品德と社会	品德と社会	品德と社会	品德と社会	思想品德	思想品德	思想品德	7%～9%
							歴史と社会 (或は歴史・地理を選択)			3%～4%
			科学	科学	科学	科学	科 学 (或は生物,物理,化学を選択)			7%～9%
	語文	語文	語文	語文	語文	語文	語文	語文	語文	20%～22%
	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	数学	13%～15%
			外国語	外国語	外国語	外国語	外国語	外国語	外国語	6%～8%
	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育と健康	体育と健康	体育と健康	10%～11%
	芸術(或は音楽,美術を選択)									9%～11%
	総 合 実 践 活 動									6%～8%
	地方及び学校開発課程 或は 裁量課程									10%～12%
週総時間数	26	26	30	30	30	30	34	34	34	274
各学年の総時間数	910	910	1050	1050	1050	1050	1190	1190	1122	9522

注：1. 九年間の総時間数は毎学年を35週間として計算された時間数である。

2. 総合実践活動は主に情報技術教育, 研究的学習, コミュニティ活動と社会実践及び労働と技術教育を含める。

出典：教育部「義務教育課程設置実験方案」2001年

表4. 普通高級中学課程方案（実験）（2003年）

学習領域	科目	必修単位数 (計116単位)	選 択 I	選 択 II
語言と文学	語 文	10	社会の人材多様化の必要に応じて、生徒のそれぞれ異なる潜在能力と発展の必要に適應する共通必修の基礎の上に、各教科の課程標準は種類、段階に分けていくつかの選択ブロックを設置して、学生に選択させる。	学校は、各地域の社会、経済、科学技術、文化発展の需要と生徒の興味に基づいて、いくつかの選択ブロックを設置して、生徒に選択させる。
	外国語	10		
数 学	数 学	10		
人文と社会	思想政治	8		
	歴 史	6		
	地 理	6		
科 学	物 理	6		
	化 学	6		
	生 物	6		
技 術	技術(情報技術と実用技術を含む)	8		
芸 術	芸術(或いは音楽、美術)	6		
体育と健康	体育と健康	11		
総合実践活動	プロジェクト学習活動	15		
	地域奉仕	2		
	社会実践	6		

説明：

- (1) 年間52週。内授業40週、社会実践1週、休暇11週。
- (2) 毎学期を二つのブロックに分けて配置。一ブロック10週。内9週授業、一週復習試験。一ブロックは通常一科目週4時間、計36時間。
- (3) これを学習し、試験に合格すれば2単位。(内、体育と健康、芸術、音楽、美術は原則として一ブロック18時間で、1単位。技術の8単位は、情報技術、実用技術各4単位。)
- (4) プロジェクト学習は必修、3年間合計15単位。その他、毎年一週間の社会実践、各2単位。三年間に必ず10日以上地域奉仕、2単位。
- (5) 学生卒業単位要件。毎学年必修科目の一定の単位を取得しなければならない。3年間で116単位必修。(プロジェクト学習15単位、地域奉仕2単位、社会実践6単位を含む。) 選択IIにおいて最低6単位を取得。合計144単位が卒業要件単位数。

また、高級中学の教科目は、「課程計画」では、思想政治、語文、外国語、数学、情報技術、物理、化学、生物、歴史、地理、体育・保健、芸術（音楽・美術）の13教科、「課程方案」では、現代科学の総合化の趨勢を受けて、いくつかの科学を統合する上位概念として七つの「学習領域」（語言と文学、数学、人文と社会、科学、技術、芸術、体育と健康）が設けられ、その中に語文、外国語、数学、思想政治、歴史、地理、物理、化学、生物、技術、芸術(或いは音楽、美術)、体育と健康の12教科が設定された。これらの教科は、すべて必修と選択からなっている。

その他、「課程計画」では、活動課程として学校・集団・少年先鋒隊活動、科学技術文芸体育活

動、社会実践活動等が設置され、「課程設置方案」では、従来の活動課程の内容を含んで、小学校から高級中学まで日本の総合的学習の時間に当たる総合実践活動が新設された。

2 最近の教育課程改革の動向

(1) 応試教育から素質教育へ

1990年代後半から21世紀にかけての中国の教育改革の最大のスローガンは、「応試教育から素質教育への転換」である。改革・開放政策以降、社会主義の近代化をめざしている中国では、学歴社会の形成にともない受験戦争が激化してきている。その克服のため受験対応の教育、いわゆる「応試教育」を是正し、児童生徒の資質（思想道徳、教養や科学、心身健康、衛生や美的感覚、労働技術などの基本的資質）を全体として高めることを目標とした「素質教育」が叫ばれてきている。1999年6月には、国務院から「教育改革を深化し素質教育を推進する決定」が発表され、現在国をあげて素質教育の推進に取り組んでいる。

素質教育は、次の三つの具体的な方向転換を示唆している。

- ①英才教育から国民全体の資質の底上げへ
- ②知育偏重の教育から全面発達の教育へ
- ③進学目的から社会主義近代化の建設に資するという目的へ

このように受験偏重教育を克服し、徳育、知育、体育、美育等の全面発達をめざすのが素質教育の理念である。このような素質教育の理念は教育課程改革へも反映された。例えば、2001年（義務教育）及び2003年（高級中学）に発表された最新の教育課程では、これまで「過多で、難しく、偏っていて、古くさい」と批判されてきた教育内容を、児童生徒の実際の生活に関わる内容に改善し、全面発達の観点から、これまでの教科中心の教育課程の体系を打ち破り、日本の「総合的学習の時間」にあたる「総合実践活動」が新設された。また、教科指導においても、従来のような知識習得だけでなく、学習への関心や意欲を高めたり、思想や労働の教育と有機的に関連させて指導することがめざされている。

(2) 「教学大綱」から「課程標準」へ

これまで中国の学校における教育内容は「教学大綱」によって規定され、それに準拠する形で教科書が作成されてきた。すなわち、教科書の内容及びその配列は、「教学大綱」の内容、配列に従って構成され、それはすべての児童生徒が習得すべき内容として規定されてきた。また「教学大綱」は、教師の学習指導の方法や評価の基準をも規定してきた。しかし、今日の素質教育改革の中で、児童生徒の個性や主体性の重視という観点から、拘束力の強い「教学大綱」を弾力性ある手引きとしての「課程標準」へと移行することが図られた。

具体的には、1999年1月に国務院が発布した「21世紀に向けての教育振興行動計画」において、基礎教育の現代化の第一歩として「課程標準」を作成すること明記された。2001年6月には、教育部から「基礎教育課程改革綱領（試行）」が通知され、「先実践、後推敲」のスローガンの下、各教科の「課程標準」の作成が進められ、同年7月、義務教育段階の18教科の「課程標準（実験稿）」が北京師範大学出版社から発行された。（尚、小学校の「品德と生活」及び「品德と社会」の「課程標準」については、他教科に遅れて2002年6月に、初級中学の「思想品德」については、2003年5月に発行された。）

(3) 分化から統合へ

この「課程標準」の発行に遅れて、2001年11月、教育部は新しい義務教育課程の基準となる「義務教育課程設置実験方案」を通知した。これによって21世紀の中国の新しい教育課程の全体構造が正式に明らかになった。

これによると、新しい教育課程の特色として、教科の再編・統合がすすめられたことがあげられる。すなわち社会系教科においては、これまで小学校1～6学年におかれていた「思想品德」と小学校4～6学年におかれていた「社会」が統合され、4～6学年に新しく「品德と社会」という教科が新設された。また1～3学年の「思想品德」は従来の「自然」や「体育」の一部内容等と統合して「品德と生活」という新教科になった。また、中学校においても、これまで「歴史」「地理」に分化していた教科が「歴史と社会」という新しい統合教科になった。

自然系教科においても、従来中学校において「物理」「化学」「生物」と分化していた教科が、「科学」として統合され、これまで小学校に置かれていた「自然」が「科学」と名称変更されたことにより、小学校3学年から中学校3学年まで「科学」として一貫した教科構成となった。また「音楽」「美術」も小中学校を通して「芸術」として統合された。

さらに、児童生徒の個性や自主性の育成という素質教育の理念を受けて、児童生徒の興味・関心や活動、体験を重視する「総合実践活動」（日本の「総合的学習の時間」に当たる）が新設されたことも注目される。

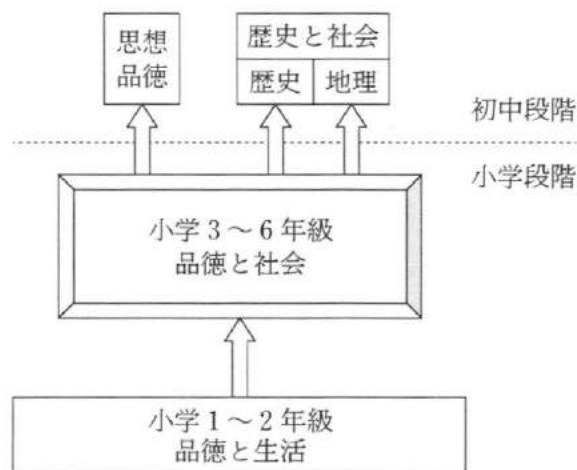
3 社会系教科の教育課程における位置づけ

ここでは、「課程設置方案」と「課程標準」に示された基礎教育（小学校及び初級中学校）の社会系教科について紹介する。先に示した「課程設置実験方案」にも明らかなように、新しい教育課程は各教科において九年一貫で示され、社会系教科は「品德と生活」（第1～2学年）→「品德と社会」（3～6学年）→「思想品德」（7～9学年）、及び「歴史と社会」（あるいは「歴史」「地理」）（7～9学年）の系統として示された。（図2）

すなわち、小学校1～2年に従来の「思想品德」に代わって「品德と生活」が新設され、3～6年では従来の「思想品德」と「社会」が統合されて「品德と社会」が新設された。過去において、1986年の「教学計画」の改訂で、それまで小学校高学年に置かれていた「歴史」と「地理」が統合され「社会」が新設されたが、今回の改訂で「社会」と「思想品德」が統合されて「品德と社会」が新設されたことは、教科の統合がさらに進められたことになる。また、中学校では、これまで1～3年に置かれていた「歴史」と、1～2年に置かれていた「地理」が、1～3年を通して「歴史と社会」という新しい統合教科になった。（表5、6参照）（なお、「歴史と社会」については、従来通り「歴史」及び「地理」を選択してもよいとしており、現状では「歴史」、「地理」を選択する学校がほとんどである。）

これらすべての教科は必修で、配当授業時数は9年間の総授業時数（9522時間）に対するパーセントで示され、「品德と生活」「品德と社会」「思想品德」は小中学校9年間併せて全体の7～9%

図2. 社会系教科の相関と発展



(667～857時間)、「歴史と社会」(或いは歴史、地理)は中学校3年間で全体の3～4%(286～381時間)である。

表5. 1991年の「教学計画」における社会系教科の構造

学 年	小学 1年	2年	3年	4年	5年	6年	初級中学 1年	2年	3年
社会系 教科	思想 品德	思想 品德	思想 品德	思想 品德	思想 品德	思想 品德	思想 政治	思想 政治	思想 政治
				社会	社会	社会	歴史/ 地理	歴史/ 地理	歴史

表6. 2001年の「課程設置実験方案」における社会系教科の構造

学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
社会系 教科	品德と 生活	品德と 生活	品德と 社会	品德と 社会	品德と 社会	品德と 社会	思想 品德	思想 品德	思想 品德
							歴史と社会 (或いは歴史、地理を選択)		

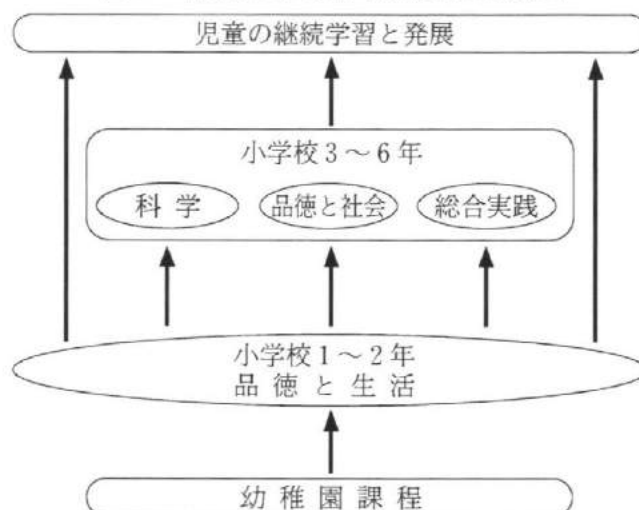
4 社会系教科の目標と内容構成

(1) 小学校「品德と生活」

「品德と生活」は、2001年に従来の「課程計画」に代わって発行された「課程方案」において、新しく小学校低学年の必修科目の一つとして新設された教科である。この教科は、従来小学校1～6学年に置かれていた「思想品德」の内容を改革し、自然や体育(健康)の内容の一部も統合したより総合的な教科として誕生した。

「品德と生活」は、その目標、内容、形態、実施方法において幼稚園課程と接続し、同時に小学校3年生以上に設置された「品德と社会」の他、「科学」や「総合実践活動」の基礎になる課程として位置づけられている。(図3)一貫した「品德と生活」→「品德と社会」→「思想品德」の3教科の9年間の総授業数は、9年間の教育課程全体の総授業数9522時間の7～9%、時間数に直すと667～857時間、各学年に均等にならすと74～95時間程度である。

図3. 「品德と生活」教科発展系統図



『品德と生活課程標準(実験稿)』によれば、「小学校低学年段階は、児童の品德、知力、生活能力等の形成と発展の重要な時期である。児童の品德教育の即応性と実行性を高めるために、彼らに正しい生活態度、良好な道徳と科学素質等を形成できるような基礎をしっかりと整えなければならない」とし、「『公民道徳建設実施綱要』の精神に則り、児童を導いて生活を身につけさせ、良好な公民としての道徳素質と主体的な探求、新しいものを創り出す科学精神を形成しなければならない」

としている。「生活と品德」は、このような資質の育成を目的としている。

そのために、「品德と生活」の教育課程の性格として、①生活性、②開放性、③活動性があげられている。また、「品德と生活」の基本理念として、次の4点があげられている。①道徳は児童の生活の中にある。②児童が生活を愛し、人間が教育課程の中心であることを学ぶように導く。③児童の生活の価値を重視し、児童の権利を尊重する。④児童と生活世界の関係の中に教育課程の意義を建設する。

「品德と生活」の内容は、児童の生活を規定する次の三つの「軸」と四つの「方面」から構成される。三つの軸とは、具体的には、

- ◆ 児童と自我
- ◆ 児童と社会
- ◆ 児童と自然

であり、四つの方面とは、

- ◆ 健康で安全な生活
- ◆ 楽しく積極的な生活
- ◆ 責任と思いやりのある生活
- ◆ 頭脳を働かせ創造性のある生活

である。

課程標準では、教科目標（課程目標）は、「総目標」と「分類目標」という形で示されている。課程標準に示された「品德と生活」の教科目標は次の通りである。（表7）

表7. 小学校「品德と生活」の目標

総目標 良好な道徳的品性と行動習慣をもち、積極的に物事を探究し、生活を熱愛する子どもを育成する。
分類目標 (一) 感情と態度 ◆親族を愛し年長者を尊敬し、集団を愛し、故郷を愛し、祖国を愛する。 ◆命を大事にし、自然を愛し、科学を愛する。 ◆自信を持ち、誠実で、向上心を持ち続ける。 (二) 行為と習慣 ◆良好な生活と労働の習慣の初歩を形成する。 ◆基本的な教養のある行為を形成し、規律を遵守する。 ◆有意義な活動に好んで参加する。 ◆環境を保護し、資源を大切に使う。 (三) 知識と技能 ◆自己の生活に必要な基本的知識と労働技能を身に付ける。 ◆生活の中にある自然や社会に関する常識の初歩を理解する。 ◆祖国に関する簡単な知識を理解する。 (四) 過程と方法

- ◆問題を提出し、問題探求の過程を体験する。
- ◆異なる方法を用いて探究活動を試みる。

また具体的「内容標準」は、前述した内容構成の四つの方面に分けて示される。(表8)

表8. 小学校「品德と生活」の内容標準

健康で安全な生活
<p>良好な生活と労働の習慣を形成する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 時間どおりに仕事と休みをし、身を入れて物事を成し遂げる。 2. 良好な飲食と衛生の習慣を形成する。 3. 労働を愛し、自分で生活する力を養う。 4. 家庭と公共の環境衛生を大切にする。 5. 健康に関する初歩的常識を知り、座る、立つ、歩く際の正しい姿勢を形成する。 <p>自己を保護する基本的な意識と能力を持つ</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 天気や季節の変化が生活に影響をもたらすことを理解し、自分で自分の世話をすることを身につける。 7. 衛生保健施設の役割を知り、大人の指導のもとで利用することができるようにする。 8. 身近な安全と交通の標識を認識し、交通規則を遵守し、安全に注意する。 9. 緊急時に助けを求める簡単な方法と自分を救助する方法を知る。 <p>学校生活に適応し、楽しく過ごす</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 学校で気持ちを落ち着かせ、心を愉快にする。 11. 学校の環境を熟知し、学校の施設を利用し自分の疑問を解決できるようにする。
楽しく積極的な生活
<p>愉快で、朗らかである</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クラスメイトや教師との交流を好み、喜んで学び、愉快に遊ぶ。 2. 自然とふれあい、大自然のなかで活動することを好み、自然の美しさを感じ取る。 3. 自分と他人の長所を認める。 4. 大人の援助を借りて自分の情緒を調整し、コントロールできるようにする。 <p>積極的に向上する</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 自分の成長と変化が意識でき、それを快く受け止める。 6. 計画的に、目標をたて自分の生活をアレンジする。 7. 心の中で理想を立て、絶え間なく成長していくように自分を励ます。 <p>挑戦にチャレンジする勇気をもつ</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 学習や生活のなかで困難に直面する際に前向きに解決方法を見出す。 9. 勇気をもってチャレンジに富んだ活動を試し、苦しさに怯えず、困難に屈しない。

責任と思いやりのある生活

誠実さと愛情を持つ

1. 非是を分別し、うそをつかず、誠実な子どもになる。
2. 自分でできることは自分でし、まじめにことをなし、ごまかさず、辛抱強く、強い意志でことを成し遂げる。
3. 自分が集団の一員であることを知り、集団から任された仕事をまじめに完成させ、クラスの名誉を大切にし、仲間に気をかけ愛する。
4. 自分の方法で父母と年長者を愛し、積極的に家事労働を分担する。喜んで他人を助け、特に年配の人と障害者に気を配る。花、草、樹木及び動物を大事にする。

社会規範を遵守する

5. エチケットを知り、秩序を守り、礼儀正しく振り舞う。
6. 規則と規律の役割を一応理解し、学校の規律を守る。
7. 公共の財産や他人の労働成果を大事にし、水、電気、紙などの資源を節約する。

故郷と祖国を愛する

8. 故郷の名所と資源を知り、故郷の発展変化に関心をもつ。
9. 周囲の環境を守るため、自分の力できることを為し、エコロジーの意識をもつ。
10. 国旗、国章に尊敬の念をもち、国歌を斉唱し、人民の英雄を敬い、自分が中国人であることに誇りをもつ。

頭脳を働かせ創造性のある生活

創造しようとする願望と興味をもつ

1. 好奇心をもち、好んで質問する。
2. 自然現象や生活の中の問題に対して探究しようとする関心をもつ。

手を動かし、頭を使う

3. 生活の中でもものをさまざまな目的に活用し、古いもののリサイクルを試みる。
4. 問題解決のため自分なりの見方と提案を示す。
5. 生活用品と学習用品を選択する際に自分の判断に任せ、盲目的に従わない。
6. 簡単な道具の使用ができる。

探求する習慣と探求する方法を養う

7. 観察、比較、ミニ実験などの方法を用いて簡単な探究活動を行うことを学ぶ。
8. 多様な方法を使い資料を収集し、簡単な整理と応用ができる。
9. 他人と協力し、交流し、感想や見方あるいは活動の成果をともに分かち合う。

知識を獲得し、経験を累積する

10. 異なる活動を通して生活の中でよく見られる自然現象とその他の科学知識を理解する。
11. 教師の助けのもとで、獲得された経験と情報をまとめて、読み取ることができる。

(2) 小学校「品德と社会」

小学校「品德と社会」は、児童の社会生活を基礎として構成されている。具体的には、個人、家庭、学校、地域社会（郷土）、祖国、世界が彼らの生活の場であり、そこにおける社会環境（時間、空間、人文環境、自然環境）、社会活動（日常生活、文化、経済、政治等の活動）、社会関係（人と人との関係、社会規範、規則、法律、制度等）がそれら社会生活を構成する要素である。

「品德と社会」の内容構造と各学年の内容分布を図示すると次のようになる。（図4・5）

図4

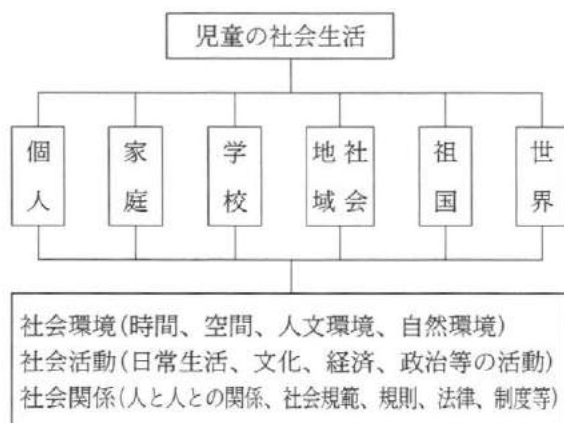
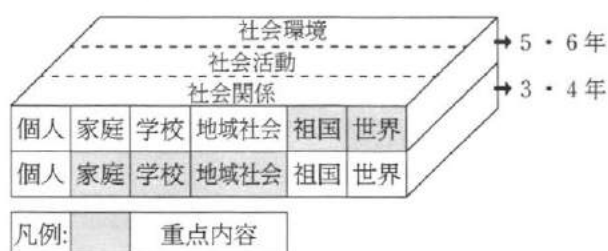


図5



課程標準では、教科目標（課程目標）は、「総目標」と「分類目標」という形で示されている。課程標準に示された小学校「品德と社会」の教科目標と分類目標は、次の通りである。（表9）

表9. 小学校「品德と社会」の目標

<p>総目標</p> <p>「品德と社会」課程は、生徒が社会を認識し、社会に参加し、社会に適応することによって、生徒の良好な品德の形成を促進し、生徒の社会性を発展させるとともに、思いやり、責任感、良好な行為習慣と個性を持った社会主義にふさわしい公民の基礎を培う。</p>
<p>分類目標</p> <p>(一) 感情・態度・価値観</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命を大切にし、生活を愛する。自分を大切にし、自分の意志で行い、楽観的に向上し、科学を愛し、労働を愛し、勤勉節約する態度を養う。 2. 生活の中で、礼儀正しく、誠実で約束を守り、友愛で寛容な、公平で公正な、集団を愛し、団結協力し、責任感のある資質を養う。 3. 民主、法制の観念と規則意識の基礎を形成する。 4. 祖国を愛し、祖国の歴史、文化伝統を大切にする。異なる国家と人民の文化の違いを尊重し、開放的な国際意識の基礎を身につける。 5. 自然に関心を持って愛し、大自然が人類にもたらしてくれた恵みに感謝し、生態環境を保護する意識の基礎を形成する。 <p>(二) 能力</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己を基本的に認識し、自己の情緒と行動をコントロールし、調整することができる。基

本的な自己保存と自己救出の技能を身につける。良好な生活と行動習慣を養う。

2. 自己の体験と考え方をはっきりと表現できる。他の人の意見を聞くことができる。他の人と平等に交流、協力ができる。民主的に集団生活に参加することを学ぶ。
3. 異なる角度から社会事象を観察、認識、分析することを学ぶ。合理的、創意的に生活の中の問題を探究し解決することを試みる。生活の中で出会った道德問題を正確に判断し、選択することを学ぶ。
4. 社会情報の収集、整理、分析と活用を学び、簡単な学習道具を使って問題を探索し、説明できる。

(三) 知識

1. 児童の基本的権利と義務、及び個人と集団の相互関係の基礎を理解する。社会の組織機構と社会規則を理解して、規則、法律が社会の公共生活にとって重要な意義をもつことが基本的にわかる。
2. 生産、消費活動と人間生活との関係の基礎を理解する。科学技術の人類の生存と発展に対する重要な影響を知る。
3. 基本的地理知識を理解し、人間と自然、環境との相互依存関係を理解し、今日の人類社会が直面する共通の問題を簡単に理解する。
4. 中国において長期に形成された民族精神と優良な伝統を知る。中国の発展に影響した重大な歴史事件の基礎を知る。
5. 世界歴史の発展に関する重要な知識と、異なる文化背景の下での人類の生活様式や風俗習慣を知る。社会生活の中の異なる集団、民族、国家間の友好的付き合いの重要な意義を知る。

内容は、各学習主題ごとに「内容標準」とそれに対応した「学習活動提案」という形で示されている。学習主題は、次の六つである。①成長する私、②私と家庭、③私と学校、④私の地域社会、⑤私は中国人、⑥世界に向かって。各学習主題ごとに示された「内容標準」は以下の通りである。(表10) (尚、各内容標準に対応して具体的な学習活動が提案されているが、ここでは省略する。)

表10. 小学校「品德と社会」の内容標準

①成長する私

1. 自己の特徴を理解し、自己のよいところを発揮し、自信を持つようにする。人間にはそれぞれ長所があることを知り、長所をもって短所を補い、他人を認めて尊重する態度を身につける。人に対して寛容である。
2. 人間としての自己尊重と自己愛がわかり、羞恥心を持ち、自己の名誉を大事にする。自己の生活と行為を反省する態度を学ぶ。
3. 生活と学習には困難があり、困難にあったら逃避せず、困難を克服し、成功を取めたという喜びを体験することを知る。積極的な生活態度を初歩的に形成する。
4. 生活の中の問題、圧力、衝突と挫折に正確に対応し、自己調節の方法を学び、適応能力を高める。

5. 人間として誠実に信用を守ることを理解し体験する。人を尊重することを体得する。
6. 喫煙、飲酒、ゲームへの没頭など不良生活への危害を理解し、不健康な生活スタイルを拒む。ドラッグの使用は違法行為であることを知り、毒物から遠ざかる。自己の生命に対して責任ある態度をもつ。
7. 悪い宗教の危害を知り、悪い宗教に反対する。
8. 安全についての常識を理解し、初歩的な安全意識と自分を守る能力をもつ。自己の身体と生命を大切にする。
9. 「義務教育法」「未成年保護法」「未成年犯罪予防法」等と児童・少年に関する法律の概要を理解し、法律を使って自己を保護することを学び、法律を遵守する意識を初歩的に養成する。

②私と家庭

1. 自己の成長は家庭と切り離すことはできず、父母や目上の人の養育の恩に感謝し、家族の愛情を体得する。適当な方法で彼らに対しての尊敬と思いやりを表す。父母と目上の人に孝行する。
2. 自己の生活を管理することを学び、できるだけ父母に迷惑をかけないようにする。家庭生活を省み、喜んで家事を分担し、家庭に対する一定の責任感をもつ。
3. 家庭経済の収入源の多様な様式を知り、家庭生活に必要な支出を理解する。合理的な消費と勤儉節約を学ぶ。
4. 健康で文明的な生活様式は、家庭の幸福と一人一人の心身の健康に有利であることを体得し、良好な生活習慣を養う。
5. 家庭生活の中でも道徳を尊重し、家庭に責任感をもつことを知り、家庭の成員がお互いにコミュニケーションをもち、平等に付き合い、自己と家族の間のトラブルを正しく処理することができるようにする。
6. 近隣と仲良く付き合い、家庭の周辺環境を愛護する。

③私と学校

1. 簡単な絵地図で学校及び周辺地域の簡単な平面図と路線図を描くことができる。
2. 学校の組織を知り、学校の移り変わりを理解し、学校に対する愛着を増し、先生及び学校で働いている職員の労働を尊敬する。
3. クラスメイトとの友愛の情を感じ取り、平等に付き合い、相互に助け合うことを学ぶ。
4. 誠実な付き合い、相互理解、相互信頼の大切さを体得する。クラスメイトや友人の間の真の友好を作り、男女の友好交流、相互尊重を身につける。
5. 時間を大切にし、合理的に時間を使うことを学び、良好な学習習慣を養い、自分で学習の任務を完成させ、他人のものを写したり、カンニングしたりしない。
6. 自己は集団の一員であることを知り、集団に関心を持ち、集団活動に参加し、集団の名誉を守り、自己の分担する任務に対して責任をもつ。他人と交流、協力し、喜びを分かち合

うことを学ぶ。

7. 集団生活の中の規則の働きを感じ取り、規則に対する意識の基礎を形成し、活動規則と校則を遵守する。
8. 学校、クラスなどの集団活動を通して、公平、公正、民主、平等の社会生活における現実的意義を理解し、現代の民主意識を培う。

④私の地域社会

1. 地図で自分の住んでいるところ(地域社会、県、市)、省及び省庁所在地を探し、自分の郷土は祖国の一部であることを知る。地図上の簡単な地図記号、方位、比例尺を正確に見分ける。
2. 郷土の自然環境と経済の特色及びそれと人間の生活との関係を理解し、郷土の移り変わりを感じ取り、郷土に対する愛情を芽生えさせる。
3. 郷土が輩出した優秀な人物を理解し、彼らに学ぶ。
4. 身の回りでいろいろな仕事をしている労働者を観察し、彼らの労働が人々の生活にもたらした便利さを感じ取り、彼らを尊重し、彼らに感謝し、彼らの労働成果を大切にすること。
5. 自分の郷土の商業の場所を理解し、商品の異なる価格を調査し、比べ、商品を選択する初歩の知識を学ぶ。簡単な生活用品や学習用品を自分で買うことのできる能力を身につける。初歩の消費者の自己保護意識を身につける。
6. 自分の郷土の交通秩序の現状を観察し、交通に関する常識を知り、自覚的に交通規則を遵守し、安全に注意する。
7. 公共施設が人々の生活にもたらした便利さを体験する。公共施設を大切にすることはすべての人の責任であり、自覚的に公共施設を大切にすることができる。
8. 公共秩序を遵守することを自覚し、公共の安全に注意する。礼儀正しい教養人になる。
9. いくつかの社会公益活動を知る。社会福祉機構や施設を理解し、障害者など弱い立場の人々に対しての社会の思いやりを体験的に理解する。弱い立場の人に対する同情と愛情ある心を持ち、彼らを尊重し、快く援助する。
10. 郷土の風俗習慣、民俗を理解し、それの人々の生活への影響を体得する。悪い風俗習慣と各種の迷信活動に自覚的に抵抗する。
11. 郷土の生態環境のいろいろな問題を理解し、環境意識と社会的責任感を樹立する。自分のできる環境保護活動に進んで参加する。

⑤私は中国人

1. 我が国の地理的位置、領土の面積、海陸の国境線、行政区画を知り、台湾は我が国の不可分の一部であり、祖国の領土は神聖で侵犯されないことを知る。
2. 我が国の自然の概況を理解し、我が国は国土が広大で、多くの名山、大河と名所旧跡をもつ国家であることを知り、国土を愛する感情を体得する。
3. 我が国は数千年の歴史をもつ文明の古い国であることを知り、中華民族の世界文明に対す

る重大な貢献を感じ取る。民族の誇りと自信を芽生えさせる。

4. 近代以来、外国列強の中国に対する侵略が中国人民にもたらした屈辱と危害を知り、中国人民の、特に中国共産党の指導の下で救国のため列強と戦った事例を知り、革命の先達を愛し、頑張って愛国志向を樹立する。
5. 新中国成立と改革開放以来勝ち取った成果を知り、中国共産党を愛する気持ちを深める。
6. 人民解放軍は祖国を守り、平和を維持する重要な力であることを知り、解放軍を愛する。
7. 我が国は一つの統一された多民族国家であることを知る。異なる民族の生活習慣と風土人情を理解し、異なる民族の文化を理解、尊重し、民族の団結を増進する。
8. 我が国の異なる地域の差異を理解し、その差異が人々の生産と生活への影響を探求する。異なる地域の人々の生活様式を理解し、尊重する。
9. 日常生活の中のある農産物を通して、農業生産と人々の日常生活の関係を探求し、農民が生産のために使った労働と知恵を体験する。
10. 身近な生活用品を通して、工業と人々の関係を探求し、工業労働者の生産労働の状況を理解する。
11. 交通発展の状況を理解し、交通が人々の生活の中で重要な働きをしていることを感じ取り、交通の発展に伴う問題について注目する。
12. 現代の通信についての種類と方法を知り、よく使われる通信の方法を身につけ、通信と人々の生活の関係を身に付ける。通信の基本的マナーとそれに関する法律、法規を学び、遵守する。
13. 新聞雑誌、放送、テレビ、インターネット等の現代の伝達媒体と人々の生活の関係を体験的に理解し、伝達媒体を利用して安全に友好に情報を手に入れることを学ぶ。インターネットの道德規範を遵守し、それぞれの情報を識別する能力の増進に努める。
14. かつて我が国に発生した重大な自然災害を理解し、大自然に抵抗できない一面を認識し、人々が危険で困難な状況の中で団結し助け合う精神の貴さを体得する。自然災害に直面した時の自己防衛と助け合う方法を学び、それに相応する能力を形成する。

⑥世界に向かって

1. 世界の海陸分布及び主な地形等基本的知識を初歩的に知る。
2. いくつかの文明遺産をおおまかに理解し、世界の歴史文化に対する興味をよびおこす。
3. いくつかの国家、地域、民族の異なる生活習慣、伝統行事、服飾、建築、食文化などの状況を比較し、多様な文化の差異性と豊かさを理解し、異なる民族と文化の創造に尊重と賛美の態度を形成する。
4. 日常生活用品を通して世界経済の発展との関係及びそれらが人々の生活にもたらした影響を体験的に学ぶ。
5. 科学技術と人々の生活、社会発展の関係を初歩的に理解し、科学技術が人類のために幸福を作らなければならないことを認識する。科学精神と科学態度を崇拝する。
6. 環境の悪化、人口の急増、資源の減少は現在の世界が直面している共通の問題であることを初歩的に理解し、人類と自然、人と人の平和的共存の重要性を理解し、「人類のただ一つ

の地球」という意味を体験的に学ぶ。

7. 平和のすばらしさ、戦争の人類にもたらした苦難を体験的に学び、平和を愛する。

8. 我が国が加入している国際組織を知り、これら国際組織の働きを理解する。

(3) 初級中学「思想品德」

国家教育委員会は、1997年3月に、他教科に先んじそれぞれこれまでの「教学大綱」に代わって「九年間義務教育小学思想品德及び初級中学思想政治科課程標準(試行)」を發表し、初等中等学校の思想政治教育の改革を行った。これは、改革開放の進展と社会主義の近代化の建設の推進という中国の国家政策に対応し、その教育的基盤となる思想政治教育の教授内容をより科学的に再構築し、小・中・高等学校の一貫性をもたせることがねらいであった。

その後、この新しい「課程標準」に準拠した教科書の作成が行われ、一部の地域で試行実践が行われた後、1999年の新学期から正式に全国の学校で使用されている。現在は、2001年10月に修正され、2002年の春学期から実施されている「修訂」版が最新のものである。

また、前述したように2001年11月に新しい「義務教育課程設置実験方案」が通知され、他教科とともに「思想品德」及び「思想政治」についても教科構成の改革がなされた。すなわち、従来小学校1～6年に置かれていた「思想品德」に代わって、1～2年に「品德と生活」が、3～6年に「品德と社会」が新設され、初級中学では1～3年に置かれていた「思想政治」に代わって「思想品德」(1?3年)が新設された。それに伴って、2002年11月、小学校段階の「全日制義務教育品德と生活課程標準(実験稿)」及び「全日制義務教育品德と社会課程標準(実験稿)」が発行され、遅れて2003年5月、初級中学の「全日制義務教育思想品德課程標準(実験稿)」が発行された。

課程標準の発行と前後する2003年3月には、教育部によって「小平理論の偉大な旗印を高く掲げ、『三つの代表』という重要な思想を全面的に貫き、過去を受け継ぎ、未来を切り開き、時代とともに前進し、いくらかゆとりのある社会を全面的に築き上げ、社会主義現代化の進歩を速め、中国の特色ある社会主義の事業の新しい局面を切り開くために奮闘しなければならない」を主題に掲げた「中国共産党第十六回全国代表大会の精神を中学校の政治思想科において貫徹する指導意見」が出され、中学校の思想政治科の内容と結び付けてこの精神を具体的に指導するよう通知された。

ここでは、2003年の「思想品德課程標準」に示された初級中学(第7～9学年)「思想品德」の課程目標及び内容(単元名と目標)を示す。(表11、12)

表11. 初級中学「思想品德」の目標

総目標

この課程は中学生の思想品德教育を強化することを主な任務とし、生徒に道徳的資質を高め、健康的な心理的品性を形成し、法律意識を樹立し、社会的責任感と社会的実践能力を強めることを援助する。また、生徒に基本的行為を遵守するという原則の基礎の上に立って、さらに高い思想的道徳目標を追求し、民族精神を高揚し、中国特色のある社会主義の共同理想を樹立し、徐々に正しい世界観、人生観及び価値観を形成するように導き、生徒をして理想、道徳、文化及び規律のあるよい公民になるような基礎を定める。

分類目標

(一) 感情・態度・価値観

- ・生命を愛し、自己を尊重、信頼し、楽観的に向上し、意志を堅持する。
- ・自然に親しみ、環境を愛護し、勤勉節約し、資源を大切に使う。
- ・父母に孝行し、他人を尊重し、助け合い、誠実に約束を守る。
- ・労働を愛し、実践を重視し、科学を愛し、勇敢に新しいものをつくり出す。
- ・規則を守り、権利を尊重し、法律を守り、公正を迫及する。
- ・集団を愛し、責任感をもち、競争意識をもち、団結協力と貢献精神をもつ。
- ・社会主義の祖国を愛し、平和を愛し、世界的視野をもつ。

(二) 能力

- ・自然を愛護し、鑑賞し、環境を保護する能力を培う。
- ・社会の公共生活を観察し、感受し、体験し、それに参加する能力を発展させる。つきあいとコミュニケーションの能力の基礎を培う。
- ・社会生活の複雑性の基礎を認識し、理解する。基本的な道徳的判断能力と善悪を弁別する能力を持ち、責任を持って選択できるようになる。
- ・自己を調整し、コントロールする能力を強め、自己の情緒を理性的にコントロールすることを身につける。
- ・徐々に社会情報を集め、処理し、運用する方法と技能を身につけ、絶えず高める。自立して思考し、疑問提出したり反省したりすることを身につける。
- ・法律の規定とその意義を理解し、社会生活の中の必要な規則を理解し、きまりと法律を遵守することができる。法律の保護を求める能力を高める。

(三) 知識

- ・青少年の心身発展の特徴を了解し、心身の健康的発展の過程を促進する。個人の発展と社会環境の関係を認識する。
- ・私と他人、私と社会、私と自然的道徳規範（の関係）を了解する。
- ・基本的法律知識を把握し、法律の基本的な働きと意義を了解する。
- ・我が国の基本的な国情、路線、国策と世界概況を了解する。

内容は、各学習主題ごとに具体目標、内容標準、学習活動提案という形で示されている。学習主題は、次の三つである。①成長する私、②私と他の人との関係、③私と集団、国家、及び社会との関係。各主題の具体目標は次の通りである。(表12) (尚、各主題ごとに内容標準と学習活動が提案されているが、ここでは省略する。)

表12. 初級中学「思想品德」の各単元の学習主題と具体目標

①成長する私

(一) 自己を認識する

- ― 絶えず正確に自己を認識し、生理的变化を前向きに納得し、青春期の心理を認識できる。
- ― 情緒を調整することを学び、自己をコントロールし、困難と挫折を引き受け、環境に適応する能力を高め、楽観的に向上する精神状態を形成する。

— 客観的に自分を評価し、健全な人格と良好な品詞を培う。

(二) 自己を尊重し、自己を強める

— 生命の尊さを体得し、生活を愛する。

— 自尊、自立、自強の精神を培う。

— 善悪が分別でき、自己の行為に責任を負うことを身に付ける。

(三) 法律を学び、法律を使う

— 法律は一種の特殊な行為規範であることを知り、法律の社会生活の中での働きを理解する。

— 我が国の法律の未成年に対する特別な保護を了解し、法律を使って合法的な權益を守ることを身に付ける。

— 我が国の法律は未成年の犯罪を予防する規定があることを了解し、自己防衛の意識を強める。

②私と他の人との関係

(一) つきあいとコミュニケーション

— 基本的なつきあいの礼儀を把握し、人との交流とコミュニケーション（の能力）を身に付ける。

— よく人と協力し、よい人間関係を作るよう努力する。

(二) つきあいの品徳

— 父母に孝行し、誠実で約束を守ることは人間としての根本であることがわかり、父母と年長者を尊敬し、誠実な人間になる。

— 他人を思いやり、尊重し、寛容し、理解することを学び、快く人を助け、人のために善をなす。

(三) 権利と義務

— 憲法と法律における公民の権利と義務についての規定を了解し、権利を正しく行使し、義務を果たすようにできる。

③私と集団、国家、及び社会との関係

(一) 積極的に社会の発展と進歩に適応する

— （自己の）成長している社会環境を認識し、生活適応能力を高める。

— 個人と集団の関係を認識し、祖国の発展と運命に関心をもつ。

(二) 社会的責任と負う

— 公平が社会安定に有利であることがわかり、公平意識を樹立する。

— 公平には正義が必要であることがわかり、社会的正義感を奮い立たせる。

— 自分には社会的責任があることを理解し、一人の責任を負う公民になるように努力する。

(三) 法律と社会秩序

— 法律によって国を治めることは我が国の方針であることを知り、法律意識を強める。

— 法律が社会秩序を維持する中で重要な働きをしていることを認識し、法律の権威を自覚的

に維持する。

(四) 国情を認識し、我が中華を愛する

- 改革開放以来、我が国の大きな成果を勝ち取ったことを感受し、中国共産党を愛する感情を強める。
- 全面的に豊かな社会建設の努力目標とその過程を了解し、中華民族の復興を実現するために、力を貢献する使命感を強める。
- 民族精神を高揚し培い、現在青年の社会責任を認識し、中国特色のある社会主義の共同理想を樹立し、祖国に奉仕する志をもつようにする。

(4) 初級中学「歴史と社会」

課程標準によれば、「歴史と社会」は「公民教育を推進するための総合文科課程であり、その価値は、歴史・人文地理、及びその他の人文・社会科学の関連知識及び技術を総合し、現代公民がもつべき人文素質と社会的責任感を育てる」教科であり、その基本的性格は、人文性、総合性、実践性である。(「課程標準(一)」)

「歴史と社会課程標準」は北京師範大学作成の(一)と人民教育出版社作成の(二)の二種類が発行され、教科書もそれぞれの課程標準に準拠して複数の出版社から編集、発行されている。これによって教育課程の基準づくり及び教科書編集における「多綱多本」の原則が現実のものとなっている。

「歴史と社会(一)」の教科目標(課程目標)は、「総目標」と「分類目標」という形で示され、さらに各学習主題の内容ごとに具体目標が示されている。「総目標」と「分類目標」次の通りである。(表13)

表13. 初級中学「歴史と社会(一)」の教科目標

<p>総目標</p> <p>生徒に対して公民教育と人文的資質の教育を進行させ、創造精神、社会实践能力、及び社会的責任感を育成し、生徒の社会性の発展を促進し、生徒が正確な世界観、人生観、及び価値観を形成し、社会主義現代化国家に適合した公民となるための基礎を固める。</p>
<p>分類目標</p> <p>(一)感情、態度と価値観</p> <ul style="list-style-type: none">●社会生活に注目し、それに参加する熱意を持ち、社会主義を熱愛し、集団主義意識を育成し、強烈な社会的責任感と歴史使命感を身につける。●生命の価値、自尊、自信、他人の尊重、協力、進歩向上を楽観する人生態度を重んじる。●社会实践を重んじ、歴史意識を強め、持続可能な発展の観念を樹立する。●現代社会が人権を尊重する意義を理解し、民主と法制の観念を増強する。●祖国と人類の命運に関心を寄せ、愛国主義の感情と開放的な世界意識を育成する。 <p>(二)技能・能力</p> <ul style="list-style-type: none">●感受性、観察、体験、社会生活に参加する能力を発展させる。●自ら考え、疑問を提出し、反省を行うことができる。

- 社会情報と歴史資料を収集・整理・活用する方法と技術を習得する。
- 分析・比較・総合などの方法を活用し、一般の社会現象と歴史問題を解釈する。
- 社会と歴史の現象に対する考えと観点を筋道だてて表現する。

(三)知識

- 青少年の身心の特徴を理解し、個人の発展と社会環境の関係を認識する。
- 経済、政治、文化方面の基礎知識を学習し、社会生活に参加する方法と道筋を理解する。
- 地域発展に関連する知識を理解し、人口、資源、環境と社会発展の関係を認識する。
- 中国と世界の歴史発展の基本的な筋道を理解し、中国と世界の文明の主要な成果を知り、歴史と現実の関係を理解する。
- 近現代における中国人民の奮闘の紆余曲折の道のりと、勝ちえた重要な成果を理解し、歴史の経験と教訓を汲み取る。

「歴史と社会（一）」の「内容標準」は、現実の社会生活を探究領域とする「私たちの社会生活」と人類の歴史を探究領域とする「人類文明のあゆみ」の二つの大きな内容によって構成される。さらに「私たちの社会生活」は、「社会の中における私たちの成長」、「私たちの身のまわりの経済・政治、及び文化」、「私たちの生活する地域と環境」の三つの学習主題に、「人類文明のあゆみ」は、「中国の歴史と文化」と「世界の歴史と文化」の二つの学習主題によって構成される。また「歴史と社会」では、学習の基礎として探求学習を強調し、もう一つの学習主題として「社会探究の技能と方法」が置かれている。(図6)

各学年主題の内容と目標は、次の通りである。(表14) (尚、具体的内容は、「内容標準」とそれに対応した「活動提案」という形で示されているが、ここでは省略する。)

図6. 初級中学「歴史と社会（一）」の内容構造

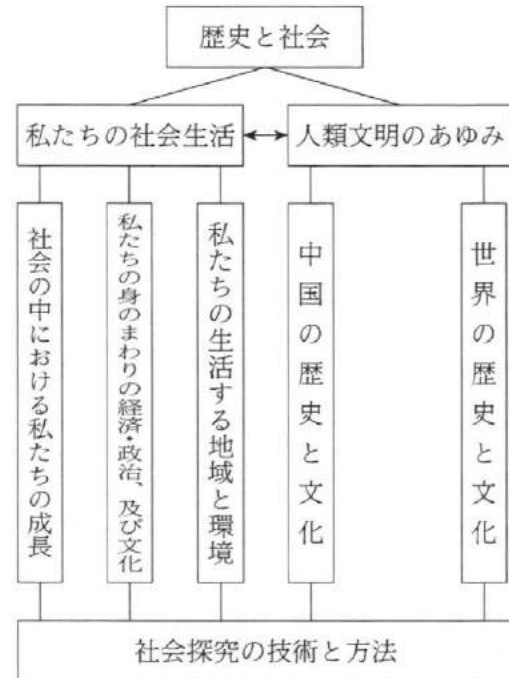


表14. 初級中学「歴史と社会（一）」の学習主題と内容

学習主題	内 容	目 標
一 私たちの成長 社会の中における	(一)自己を認識する	個人の成長と社会の関係の基礎を認識できる。
	(二)家庭生活	家庭生活の能力を向上させる。 家庭生活の中における個人の責任の重要性を認識する。
	(三)学校生活	学校生活の意義を理解する。 学校生活に積極的に参加する。
	(四)郷土生活	郷土の環境の自己の成長に対する重要な影響を理解する。 郷土の発展に貢献する意識を持つ。
	(五)マスメディアの影響	マスメディアの特徴と作用とを理解する。 健全なメディア内容を選択することを習得する。
二 私たちの身のまわりの 経済、政治、及び文化	(一)経済生活	社会主義市場経済に関連する内容を理解する。 経済活動に参加する能力を育成する。
	(二)政治生活	政治生活の基本内容を理解する。 政治生活に参加する意識を育成する。
	(三)文化生活	文化生活の多様性と時代性を知る。 文化生活の意義を理解する。
三 私たちの生活 する地域と環境	(一)人口、資源、及び環境	地域の人口、資源、及び環境の特徴を簡単に説明できる。 人口、資源、環境問題を解決するための基本的な方途を理解する。 中国の人口政策と資源・環境政策を理解する。
	(二)地域発展	中国の地域差異と世界の地域差異をおおまかに理解する。 地域の長所の発揮や地域発展に対する地域連携の強化の重要性を理解する。 郷土と祖国の発展の前途に関心を持つ。
四 中国の歴史 と文化	(一)前近代史のあゆみ	中国前近代の歴史と文化の発展の基本的な道筋を理解する。
	(二)古代(前近代)の文明	中国前近代文明の成果を理解する。 正確に歴史的文化遺産と対峙することができる。
	(三)近代の探索	近代中国が直面した危機を理解し、中国社会の変化に注目する。 中国人民の亡国をくいとめるための試行錯誤と奮闘を理解する。
	(四)現代の巨大な変化	新中国における紆余曲折の発展の過程と経験的教訓を知る。 中国の改革開放以来の成果を理解する。
五 世界の歴史と 文化	(一)古代(前近代)の文明	人類が文明社会に移行した意義を理解する。 世界の前近代文明の成果を理解する。 世界の前近代文化の遺産を尊重し、鑑賞することを習得する。
	(二)近代のうつりかわり	資本主義の歴史的な役割を理解する。 近代ヨーロッパ文明の成果とその代償を認識する。
	(三)20世紀の世界	人類が20世紀に獲得した偉大な進歩を認識する。 20世紀の歴史的教訓を吸収する。
	(四)チャンスとチャレンジ	グローバリゼーションの発展の趨勢を理解する。 中国の発展と世界進歩の関係を認識する。

六 社会探究の技術と方法	(一)資料の研究と活用	1. 地球儀、地図などの地理教具を活用する。 2. 図表と表とを学ぶ。 3. 教科書と副読本とを読む。 4. 一次資料と二次資料とを区別し、活用する。 5. 統計データを活用する。 6. 写真と図画とを解釈する。
	(二)体験と思考	1. ロールプレイ 2. 連想と想像 3. 因果関係の分析 4. 比較と分類 5. 帰納と演繹
	(三)協力と交流	1. グループ調査 2. インタビュー 3. 弁論と討論 4. 研究報告の作成

「歴史と社会（二）」の教科目標（課程目標）も、「総目標」と「分類目標」という形で示され、さらに各学習主題の内容ごとに具体目標が示されている。「総目標」と「分類目標」次の通りである。（表15）

表15. 初級中学「歴史と社会（二）」の教科目標

<p>総目標</p> <p>必要な人文・社会科学の知識と技術の基礎の上に、歴史と現実問題に対する総合的探究の過程と方法を進めることを体験し、人生と社会の発展にかかわる各種の問題に正確に向き合い、次第に集団主義、愛国主義と社会主義思想を樹立していき、科学的な世界観・人生観と価値観の基礎を形成する。</p>
<p>分類目標</p> <p>(一) 知識と技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人類が生活する自然環境の差異、異なった地域の人文的特徴、歴史の変遷、及び各種の問題を理解する。 ● 人々の政治、経済、文化生活の豊富な内容を理解し、人間の発展と自然、社会との関連の理解に及ぶ。 ● 人類の物質文明、精神文明、及び制度文明の発展の一般過程と基本趨勢を知る。 ● 多様な方法と現代の情報技術を使いこなし、社会情報を収集、保存、処理、及び評価する。 <p>(二) 過程と方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 歴史的・弁証法的な見方で現実問題を観察、評価することを試み、重大なことを見分ける能力を高める。 ● 優れた民族の伝統文化と外国文化の創造の過程を考え、現代青年が有すべき創造能力を育成する。 ● 社会生活の中の個人と集団の関係を体得し、うまく自分を表現し、他人を愛し、他人と協力

しあえるようになる。

- 違った角度から、多様な知識を総合して、社会問題を探究することを試み、社会实践に参加し、自主的に学習する能力を高める。

(三) 感情態度と価値観

- 中華文明の発展過程に関心を持ち、中華民族の偉大な復興を実現するために奮闘する志向を樹立し、中国独自の社会主義の共同理想を建設する。
- 現代の社会発展の要求に関心を注ぎ、科学的な態度と持続的発展を尊ぶ観念を形成する。
- 社会の公益活動に熱心であり、法に基づいて公民の権利と義務とを行使し、民主と法制の観念とを樹立し、社会的責任感を強化する。

「歴史と社会(二)」は、時間を縦糸に、空間を横糸にして、人類社会、特に中国社会の発展を主軸にすえ、現代社会の基本問題を総合的に認識することを立脚点とし、学習目標の段階構造と学習内容の論理的配列によって教育課程を全体的に計画している。(図7)

図7. 初級中学「歴史と社会(二)」の内容構造



第一のテーマである「私たちの生活する世界」は、社会がどのようになっているかを学習するもので、これは社会生活の要素を総合した内容である。第二のテーマである「私たちが受け継ぐ文明」は、社会がどうしてこのようになったのかを学習するもので、これは社会発展の史実についての総合した内容である。第三のテーマである「私たちが直面するチャンスとチャレンジ」は、社会がどのようにならねばならないかを学習するもので、これは現代社会が共同に関心を注がねばならない問題について総合した内容である。同時に、第一のテーマは、歴史、人文地理、社会などの学問の概念・要素と筋道の基本知識及び効果を伝達したうえで、他の二つの主題を総合的に学習するための基礎を固めることを意図したものである。このように、全体的に見れば、テーマの設置の本体は、各学習目標の階層を体現していることがわかる。三つのテーマは大まかに言って「どうになっているのか」、「どうしてこうなったのか」、「どのようにすべきなのか」の順に配列されている。

「歴史と社会(二)」の各学習主題ごとの目標を示すと次の通りである。(表16)(なお、具体的内容は、「内容標準」とそれに対応した「活動提案」という形で示されているが、ここでは省略する。)

表16. 初級中学「歴史と社会（二）」の学習主題と目標

<p>一 私たちが生活する世界</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 具体的な状況の中で、必要な道具、技術、及び方法を選択・利用し、関連する社会情報を分別、獲得、及び整理する。 2 異なる地域の自然的特徴と人文的特徴を観察、発見し、理解する。 3 人類社会発展の主要な道筋を認識、再現する。 4 現実社会の中の各種の規則や制度の意味を会得する。 5 経済生活の中で自分が担当することのできる各種の役割を試み、経済意識の基礎を作る。 6 教育、科学技術、文学、芸術、体育と文明生活との関係を感じ得する。 7 人々の思想と行動は、異なった時間・空間の条件では異なるところがあり、変化があることを感じ得する。
<p>二 私たちが受け継ぐ文明</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史上の人類の活動と自然環境の相互の影響を理解する。 2 人類文明のあゆみを回顧し、文明の発展が多種多様であることを認識する。 3 社会現象の変遷を考察し、文明継承の時間的・空間的連関を理解する。 4 重大な歴史事件と重要な歴史人物とを通して、人類社会の絶えざる進歩の趨勢を認識する。 5 一般人の生活に注意し、民衆が歴史の主人公であり、文明継承の主体であったことを理解する。 6 世界の文明の大きな背景の中における中華文明の発展の盛衰に注意する。
<p>三 私たちが直面するチャンスとチャレンジ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 中華人民共和国の成長の過程と現代世界の発展から、我々が直面するチャンスとチャレンジを明確に認識する。 2 現在の人口・資源、及び環境問題を理解し、社会の持続的発展に主体的に注目する。 3 国家の民主と法制の樹立に関心を持ち、自覚的に、法に基づいた公民の権利と義務とを行使する。 4 現在の科学技術の発展と経済成長の特徴を理解し、次第に社会進歩を促進する思想観念を形成する。 5 現在のグローバリゼーションの趨勢を理解し、積極的に国際社会に溶け込む意識を形成する。 6 現在の社会変動と向き合って、良好な心情・態度を保持するよう努力し、なごやかな人間関係を築き、自分が有する社会的責任を担う。

5 「課程標準」に示された社会系教科の特色

(1) 現在中国では、一般地区では「課程計画」と「教学大綱」、実験地区では「課程設置実験方案」と「課程標準」という二組の教育課程の基準が並行して機能している。

(2) 新しく出された「課程標準」では、義務教育段階の教育課程は、九年一貫で示され、社会系教科は「品德と生活」（第1～2学年）→「品德と社会」（第3～6学年）→「思想品德」（第7～9学年）、及び「歴史と社会」（或は「歴史」「地理」（第7～9学年）の系統として示されている。2001

年の「義務教育課程設置実験方案」及び2002年の「全日制普通高級中学課程計画」における社会系教科の教科構造は、図8の通りである。

(3) どの教科の「内容標準」にも、学年指定がない。また、「品德と社会」「歴史と社会(一) (二)」には、各学習主題の中の「内容標準」に対応して、具体的活動が提案されている。

(4) 「課程標準」には、上述した目標、内容の他、評価内容・方法、カリキュラム資源の活用と利用の仕方等が掲載されている。特に、評価の方法としては、「品德と生活」では、観察、ヒヤリング、アンケート、ポートフォリオ(成長資料袋評価)、児童の作品分析が、「品德と社会」では、教師の観察記録、自己評価、相互評価、作品評価、個別課題分析が、「歴史と社会(一)」では、主題活動評価、教師の観察記録、自己評価、グループ相互評価、個別課題分析、作業評価、「歴史と社会(二)」では、筆記試験、プロジェクト評価、教師の観察、ディスカッション、自己評価、相互評価、学習成長記録があげられている。

(5) 「品德と生活課程標準」には、上記の他、「実施提案」として教授活動例(討論、資料調査、現場調査、ごっこロールプレイ、操作的実践的活動、ゲーム、参観訪問、鑑賞、練習、物語を語る、言語教授)、評価の目標や特色(過程化、多様化)、方法等が掲載されている。

(6) その他、『歴史と社会課程標準(一)』には、専門用語解説が、『歴史と社会課程標準(一)(二)』には、いくつかの学習指導事例が掲載されている。

(7) また「課程標準」に準拠した教科書づくりのための基本原則(例えば「品德と生活」では、①思想性の原則、②科学性の原則、③現実性の原則、④総合性の原則、⑤活動性の原則)についても掲載されている。

図8. 2001年「義務教育課程設置実験方案」及び2002年「全日制普通高級中学課程計画」における社会系教科の教科構造

12	思想政治 (必修)	歴史 (必修と 選択)	地理 (必修と 選択)
11			
10	思想品德 (必修)	歴史と社会 (或いは歴史、地理) (必修)	
9			
8	品德と社会 (必修)		
7			
6	品德と生活 (必修)		
5			
4			
3			
2			
1			
学年			

【参考文献】

1. 課程教材研究所編『課程教材研究十年』人民教育出版社、1993年。
2. 課程教材研究所編『義務教育教材の研究と実験』人民教育出版社、1997年。
3. 国家教委基礎教育司・課程教材研究所共編『普通高中課程改革研究と実験』人民教育出版社、1997年。
4. 課程教材研究所編『課程教材研究15年』人民教育出版社、1998年。
5. 課程教材研究所編『課程教材改革之路』人民教育出版社、2000年。
6. 新教育課程実施過程中培訓問題研究課題組編写、教育部基礎教育課程教材發展中心組織『新課程の理念と創新』北京師範大学出版社、2001年。
7. 教育部基礎教育司組織編写、朱慕菊主編『走進新課程与課程實施者對話』北京師範大学出版社、2002年。
8. 任長松『走向新課程—面向21世紀基礎教育課程改革—』廣東教育出版社、2002年
9. 鐘啓泉他主編『為了中華民族的復興、為了每位學生的發展—《基礎教育課程改革綱要(試行)解讀》』華東師範大学出版社、2002年
10. 中華人民共和國教育部制訂『全日制普通高級中学課程計画』人民教育出版社、2002年
11. 中華人民共和國教育部制訂『全日制義務教育品德与生活課程標準(實驗稿)』北京師範大学出版社、2002年
12. 中華人民共和國教育部制訂『全日制義務教育品德与社会課程標準(實驗稿)』北京師範大学出版社、2002年
13. 中華人民共和國教育部制訂『全日制義務教育歴史与社会課程標準(一)(二)(實驗稿)』北京師範大学出版社、2002年

14. 中華人民共和國教育部制訂『全日制義務教育思想品德課程標準（實驗稿）』北京師範大學出版社、2003年
15. 中華人民共和國教育部制訂『普通高中課程方案（實驗）』人民教育出版社、2003年

（森茂 岳雄）

第2章 中国の中学生の「日本イメージ」と中国の社会科系教科教育 における日本学習の新たな課題 —「日本イメージ」から「日本理解」へ—

1 はじめに

ここ十数年の間、経済のグローバルゼーションの加速及び情報技術の発達にともない、日本の情報が大量でかつリアルタイムに中国大陸に流入した。また子どもたちは、学校教育や中央テレビ局を代表する公的なメディアのような特定の場で日本を知るだけでなく、それ以外、様々な経路を通して日本の情報を入手することが可能となった。

日本を知る手段の多様化によって、子どもの「日本イメージ」には大きな変化が現われた。中国の学校教育では、日本が近代以降中国との戦争を中心に教えられるため、そこで形成される「日本イメージ」は、「歴史上の悪者」、「侵略者」であり、また育まれる対日感情も、「侵略者に対する民族的な憎しみ」、「日本嫌い」である。一方日本に関する情報が大量に中国に流れ込んだことにつれて、漫画やアニメ及びトレンドィ・ドラマなどの日本のポピュラー文化を通して日本をイメージする子どもが増えてきた。そこで作り出される「日本イメージ」は、概して「先進国」、「裕福な暮らしぶり」及び「近代化達成後の都市風景」として表象され、また表出する対日感情も、「嫌悪感」から「日本好き」に取って代わられる。

以上のように、子どもの「日本イメージ」から、日本に対する二元的捉え方——すなわち「歴史的には日本が悪いが、現在の日本は素晴らしい」及び対日感情の矛盾が強く読み取れる。子どもの「日本イメージ」における分裂と矛盾を生み出す理由は、主に学校教育における日本の取り扱い方にあり、またこれらの分裂と矛盾が日本を知るルートの多様化によってさらに顕在化したと考えられる。

では学校教育の日本学習において、具体的にどのような問題点が存在しているのだろうか。まず指摘できるのは、日本を取り上げる視点の狭さである。かつて日本の植民地経験によるトラウマと、社会科教育のなかで「中国共産党の偉大さへの賞賛」、「愛国感情の喚起」及び「国民統合の達成」が主要な教育目標として掲げられるため、日本に関する学習は、つねに「戦争」や「侵略」というテーマをめぐって組織化され、それ以外の視点から日本を取り上げたり評価したりすることはほとんどなかった。また視点の一面性によって、そこで取り上げられる内容も、近代における日中の戦争史に集中することが多い。例えば小学校の「社会」及び中学校の「地理」では現代の日本社会に関する内容が多少取り上げられてはいるが、しかしそれらの内容は「日本は島国である」や、「経済が発達した国である」のような常識的なものにとどまるため、現代の日本社会の状況をより深く理解することにおいても、また子どもに全面的な「日本像」を形成させることにおいても非常に不十分なものと考えられる。

中国の小・中学校における日本学習の限界は、子どもの「日本イメージ」だけではなく、さらに「日本認識」、また「日本理解」にも大きな影響を及ぼすこととなった。まず学校教育で日本が戦争を中心に教えられたため、子どもはそれ以外の視点から日本を捉え、「日本像」を組み立てるのが極めて困難である。また日本のポピュラー文化に親しんだ子どもたちの「日本好き」は、見た目には現代の日本を好意的に受容し、それに応じて日本に肯定的な態度を示すように見えるが、しかしその「イメージ」を支える中身を追究すると、そこで露呈するのは日本のポピュラー文化のなかで消費

される一つの「虚像」にすぎない。とくに「虚像としての日本」は、そのまま「日本の姿」と直結されると、盲目的な日本崇拜に走りがちである。また虚像が消失すると、日本に対する感情は、日本に対する歴史記憶だけが残るだろう。ゆえにこの種の「日本好き」は、必ずしも健全な「日本認識」及び「日本理解」に貢献するものとはいえず、安易に評価することはできない。

そして最近子どもたちが日本のポピュラー文化を、さまざまな情報源として利用している¹。そのなかで日本のポピュラー文化による子どもへの悪影響も顕著となった。最近よく話題になったのは、日本のポピュラー文化に対する行政的規制を強めることによって、ポピュラー文化が子どもにもたらした悪影響を追放するという対応であった²。しかしメディアの発達及びVCD及びビデオの海賊版の流通が盛んになった今日の中国³では、日本のポピュラー文化の受容と消費の道を閉ざしたりコントロールしたりするために、行政の力量に訴える考えはもはや有効ではないだろう。

以上の意味において、現在子どもに日本のことを知り理解させるために、学校教育の役割をもっと強めるべきである。これは、社会科系教科教育における従来の日本学習のスタイルにみられる限界性を克服すると同時に、消費文化と対抗する意識をもち、子どもをポピュラー文化のなかで消費される日本の虚像から脱却させ、日本のポピュラー文化を、日本を認識する手段としての限界性を意識させながら、日本を知るための多様な通路及び豊かな教育的な環境を子どもに提供することである。このような教育的な取り組みを通して、子どもたちにより健全でかつ柔軟な「日本像」を形成させ、より深い日本理解につながることを期待できる。

本研究は、2003年中国の一部の地域——北京、上海及び大連における500人弱の中学生を対象に行われた「日本理解」の調査をもとに、現在の中学生の「日本イメージ」の特徴と問題点を明らかにしながら、中国の子どもが健全な「日本像」及び「日本理解」を形成することを可能にさせるために、中国の社会科系教科教育において、もっと多様な視点から日本を取り入れる必要があることを示唆したい。

2 中国の中学生における「日本イメージ」への現状把握

今回の調査を通して、中国の中学生が日本に対する全体的なイメージには幾つの特徴が現われていることがわかった。以下調査で入手したデータを用いながら、中学生がもった「日本イメージ」の特徴を簡単にスケッチする。

(1) 「日本イメージ」を生み出す情報源の多様化

表1に示されたように、現在中国の中学生の「日本イメージ」は多様である。その中に教科書で教えられるわずかな一部を除けば、中国の中学生の「日本イメージ」を形成する情報の多くは、教科書以外の内容であると考えられる。また実際日本に関する情報の入手ルートについて調べた結果、授業で学んだよりは、授業以外のところで獲得したものが圧倒的に多かった。下記の表2に示されたように、現在彼らが日本を知ったきっかけの91.4%は、学校以外のところである。

中学生の「日本イメージ」に関する記述において、「歴史上の日本イメージが悪く、現代の日本に対する印象はよい」という、「過去対現在」という捉え方が特徴的である。またこの捉え方の背後にある対日感情は、常にアンビバレントなものである。つまり過去戦争を起こした日本に対する強い嫌悪感と、現代の日本に大きな関心と憧れの念がともに併存していることである。また日本に対するイメージがよくなった理由には、たいてい「経済力が強い」、「科学技術が進んでいる」というような近代化を達成した先進国への憧れや、日本のポピュラー文化に対する親しみから評価されることが多くみられた。

表1 中国の中学生が日本に対する全体的なイメージ

時間的区分		日本イメージ	感情面の評価
地理的な情報		日本は島国である。国が狭くて資源が乏しい。 サクラと富士山が有名である。 着物、茶道及び生け花、刺身がある。	中立的な態度
歴史に関する情報		中国及びアジアの国を侵略した。 南京大虐殺では30万人の南京人が殺された。 小泉を含め何人かの首相が靖国神社を参拝したことがある。 歴史教科書を書き直して、過去犯した罪を認めない。	マイナスな感情及び評価の低い面
現代の情報	ポピュラー文化	日本はアジアのポピュラー文化の発信地である。 アイドルやタレントは格好いい。 日本のアニメと漫画は面白くて、好きである。 日本のテレビゲームは面白い。 日本のトレンドドラマは面白い。 日本の歌手は歌が上手である。もっと知りたい。	肯定的及び憧れの気持ち
	スポーツ	サッカーが強い。 日本の柔道が強い。	
	その他	経済力が強くて、科学技術は発達している。 日本の教育が進んでいる。 景色がきれいである。自然環境が良い。 礼儀を重んじる国である。 伝統文化が重視されている。	

表2 日本の人物名を知ったきっかけ

学校の授業以外のところ					学校の教授	その他
91.4					5.7	5.4
新聞、ニュース番組などの報道 41.0	アニメなどの娯楽番組や映画 28.2	漫画、雑誌 14.3	小説 3.2	テレビゲーム 2.3		

中国の生徒の件数 N = 1172

(2) 「日本イメージ」を支える情報の偏在化

日本の情報を獲得するルートの多様化及び情報量の増大は、必ずしも情報内容及び日本を捉える視点の多様化をもたらすとは限らない。むしろ中学生の「日本イメージ」を支える情報には、ある種の内容的な偏りがみられる。この点に関しては以下の調査項目からよく表れている。

まず「知っている日本の人物の名前を三人まであげる」という調査項目に対して、子どもたちが取り上げたのは、歴史教科書や時事問題に関わる人物以外、あとの半分以上が、日本のトレンドドラマ、漫画及びアニメといったポピュラー文化に関わる登場人物やキャラクターである。また表3にあるポピュラー文化関連の人物名は、子どもたちが挙げた上位に占めるものにすぎず、実際子どもたちがもっている日本ポピュラー文化の情報はずっと多いことが推測できる。これについて〈表4〉と〈表5〉を参照されたい。

日本のポピュラー文化が、中国の中学生の間で多大な影響をもっているということは、今回調査

の結果によって示されただけではなく、ここ数年メディア研究の領域でも幾つかの研究がなされた。たとえば中国の若者が日本のトレンドィ・ドラマや漫画を日本情報の発信地とみなしそこから「ファッション」や「日本の若者の生活感覚」といったものを見出したり、また日本のトレンドィ・ドラマのなかに描写されるライフスタイルを、積極的に自らの生活様式のなかに取り入れたりするといった指摘がなされている⁴。

しかし日本のポピュラー文化が中国の中学生に対するもう一つの影響があることをここで指摘したい。それは、日本のポピュラー文化が中国の中学生の「日本イメージ」をも強く規定していることである。例えばテレビドラマ「東京ラブストーリー」をみて、そのなかで描写された「物質生活の豊かさ」と「若者の気のままの生活スタイル」をそのまま「日本の姿」として理解し、「日本イメージ」を構成する中国の若者も少なくなかった。

日本のポピュラー文化が、中国の小中学生の間で大きな支持を受けている理由について、もちろんポピュラー文化自体の面白みや親しみやすさというところは否定できない。しかしそれ以外、現代の日本を知るルートが少ないため、中国の生徒が日本のポピュラー文化にたよって日本に関する情報を読み取るという状況も大きいからである。後に社会科系教科の教科書における日本の内容を提示することによって分かるように、現在学校教育では現代の日本に関する学習内容はほとんど用意されていない。その結果、小中学生は現代日本を知るため市場で流通されるポピュラー文化に依存するしかない。

表3 すぐに浮かびあがる日本の人物名

分類	人物名	件数	% (人数)	% (件数)	説明
漫画・アニメ・ゲーム	桜木花道	36	7.6	6.3	「スラムダンク」登場人物
	流川楓	22	4.7	3.9	「スラムダンク」登場人物
	一休	22	4.7	3.9	「一休さん」登場人物
	ちび丸子ちゃん	22	4.7	3.9	「ちび丸子ちゃん」登場人物
	コナン・工藤新一	17	3.6	3.0	「名探偵コナン」登場人物
	青山剛昌	17	3.6	3.0	漫画家、「名探偵コナン」登場人物
芸能人	浜崎あゆみ	35	7.4	6.2	歌手
	宇多田ヒカル	20	4.2	3.5	歌手
	酒井法子	50	10.6	8.8	芸能人
	木村拓哉	16	3.4	2.8	芸能人
	竹内豊	13	2.8	2.3	芸能人
	深田恭子	12	2.5	2.1	芸能人
	藤原紀香	10	2.1	1.8	芸能人
スポーツ選手	中田英寿	89	18.9	15.7	サッカー選手
	稲本潤一	33	7.0	5.8	サッカー選手
	小野信二	18	3.8	3.2	サッカー選手

政治家・歴史人物	小泉純一郎	209	44.4	36.8	現内閣総理大臣
	佐藤栄作	38	8.1	6.7	元内閣総理大臣
	田中角栄	36	7.6	6.3	元内閣総理大臣
	村山富市	18	3.8	3.2	元内閣総理大臣
	東条英機	19	4.0	3.3	元内閣総理大臣
	山本五十六	24	5.1	4.2	連合艦隊司令長官
その他	藤野先生	29	6.2	5.1	魯迅の先生

表4 知っている漫画・キャラクター

キャラクター名	登場作品	漫画家	代表作品名
金田一	「金田一少年事件簿」	藤島康介	「サクラ大戦」
上杉達也	「タッチ」	武内昌美	「魔法のSummer Star」
大神一郎	「サクラ大戦」	篠原千絵	「天は赤い川のほとり」
月野うさぎ	「美少女戦士セーラームーン」	尾田栄一郎	「ワンピース」
野原しんのすけ	「クレヨンしんちゃん」	井上雅彦	「スラムダンク」
花沢類	「花より男子」	北条司	「キャッツ・アイ」
怪盗キッド	「名探偵コナン」	藤子不二雄	「ドラえもん」
大空翼 若林源三	「キャプテン翼」	神尾葉子	「花より男子」
ワタル	「魔人英雄伝ワタル」	富樫義博	「幽遊白書」 「ハンター×ハンター」
ドラえもん	「ドラえもん」	鳥山明	ドラゴンボール
孫悟空	「ドラゴンボール」	CLUMP	「東京バビロン」
斎藤一	「るろうに剣心」	渡瀬悠宇	「不思議遊技」
夕城未朱	「不思議遊技」	吉歩渉	「ママレードボーイ」
		武内直子	「美少女戦士セーラームーン」
		武橋留美子	「らんま1/2」
		宮崎駿	「となりのトトロ」 「千と千尋の神隠し」
		大川七瀬	「カードキャプチャーさくら」 「魔法騎士レイアース」
		和月信宏	「るろうに剣心」

表5 知っている芸能人

芸能人	説明	芸能人	説明
反町隆史	タレント	安室奈美恵	歌手
滝沢秀明	タレント	宇多田ヒカル	歌手
福山雅治	タレント	倉木麻衣	歌手
常盤貴子	タレント	小松未歩	歌手
中山美穂	タレント	堂本光一	歌手
広末涼子	タレント	浜崎あゆみ	歌手
深田恭子	タレント	中島美雪	歌手
藤原紀香	タレント	ともさかりえ	タレント
松島菜々子	タレント		

3 小・中学校の社会科教育における日本学習の位置付け

では今回の調査で対象とされる中学2、3年生は、学校で日本についてどんなことを勉強していたのだろうか。中学校という段階までの生徒が学校で獲得する「日本像」は、おもに社会科系教科教育(表6)を参照されたい)のなかで身に付いたものと考えられる。日本に関する学習は、小学校の中高学年の「社会」及び中学校の「地理」と「歴史」(中国史と世界史)のなかに取り扱われている。以下中学校まで学校で勉強する「日本」の内容を教科書から抜き出し、学校で形成される「日本像」について具体的に検討していきたい。

表6 中国小中学校の社会科系教科教育の内容構成

学 年	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
社会科系教科	思想 品德	思想 品德	思想 品德	思想 品德	思想 品德	思想 品德	思想 政治	思想 政治	思想 政治
				社会	社会	社会	歴史/ 地理	歴史/ 地理	歴史/ 地理

(1) 中国の社会科教育に関する最近の動向

本題に入る前、本稿の内容との関連性から中国の教育課程に関するここ数年の動きについて解説的に少し触れておく。

1990年代以降生徒の主体的学習の重視及び教育方法の改善といった教育的動向にともない、2000年から中国の教育課程のなかでは大きな改革が行われるようになった。すなわち『教学大綱』(日本の「学習指導要領」に相当)の改訂及び新しい教科書の作成である。これまで中国の学校における教育内容は『教学大綱』によって規定され、それに準拠する形で教科書が作成されてきた。すなわち、教科書の内容及びその配列は、『教学大綱』に従って構成され、それはすべての子どもが習得すべき内容として規定されてきた。2000年に入り従来の『教学大綱』は『課程標準』に変わり、またそれに準拠する新しい教科書の作成も行われ始めていた。そのなかで社会科系教科教育向けの『課

程標準』と新しい教科書も作成され、そして現在少しずつ一部の実験区の学校では新しい教科書が試しに使用されるようになった。ゆえに現在中国の教育課程の基準は、『教学大綱』と『課程標準』という二つが、並行して運用され、またそれぞれに準拠し作成される教科書も同時に使用されている。

本稿では、現在大多数の生徒が受けた社会科系教科教育に対して問題提起するため、従来の『教学大綱』及び旧版の社会科系教科の教科書を考察対象とする。

(2) 社会科系教科教育における「日本学習」

以下、社会科の『教学大綱』に記述される教育目標及び社会科の教科書における日本の内容をそれぞれ提示することを通して、生徒に学校でいかなる「日本像」を形成させるかを中心に論じながら、そこから日本を取り扱う視点の限界性を指摘したい。

ア) 小学校の「社会」における日本の扱い

①「社会」の『教学大綱』

「社会」の『教学大綱』では、教育目標及び「世界」と「近代中国」の単元の内容とについて以下のように規定していた⁵。

目標

生徒に日常の社会事象と現象について認識させるとともに、郷土、祖国、世界についての基本的知識を教える。生徒に幼い頃より社会を正確に観察、認識させ、社会生活に適応する基本的能力を育成するとともに、愛国主義教育及び法制観念の啓蒙教育を行い、社会的責任感を育成する（傍線は引用者）。

内容

- 郷土と祖国の歴史、地理常識、及び我が国の国情国策を初歩的に知るように導くことによって、生徒に民族的な誇り及び、郷土と祖国の建設に尽くす気持ちを奮い立たせる（傍線は引用者）。
- 世界の社会常識及び祖国と世界の間係を知るように導き、人類に貢献する意識を育成する。

②「社会」の教科書⁶における内容

小学校の「社会」における「日本」の登場は、主に三ヶ所ある。第6学年の「世界」という単元に「日本」が独自の部分として取り扱われる以外に、他の2ヶ所は、第5学年の「近代の中国」という単元における「日清戦争」と「日中戦争」という日本の登場である。

学年	日本に関する学習内容
第5学年	第7单元「近代の中国(一)」 第3課「日清戦争」 内容： <u>黄海における戦い</u> <u>清の政府が敗北し国を裏切る</u> 第8单元「近代の中国(二)」 第6課「抗日戦争の勃興」 内容： <u>全国で展開する抗日と救国の高まり</u> <u>「七・七事変」</u> 第7課「抗日戦争の勝利」 内容： <u>中国兵士による抗日戦争</u> <u>敵の後方に入り込む</u>
第6学年	第4单元「世界の各地域における人々の生活」 第1課「日本」 内容： <u>桜と富士山</u> <u>人工島と地下の町</u> <u>資源が乏しい国と経済大国</u> <u>日本人の風習</u>

イ) 中学校の「地理」における日本の扱い

①「地理」の「教学大綱」⁷⁾に教育目標

- * 生徒に地球及び地図の初歩的知識、世界地理、中国地理(郷土地理を含む)の基本的知識を獲得させる。
- * 生徒に唯物弁証主義教育、愛国主義、国情と国策教育を受けさせ、真実に基づいて判断する科学的な態度と絶えず新しい知識を追求する精神を育成する。正しい資源・環境及び人口に対する基礎的で、正しい認識をもたせる。人類の発展と環境の協調的な関係を理解させ、生徒に一定の審美能力と事の是非を分別する能力を養う。祖国を胸に抱き、世界を見据え、中国の特色ある社会主義の近代化強国を建設する偉大な志を樹立する(傍線は引用者)。

②「地理」の教科書⁸⁾における内容

学 生	日本に関する内容
中学1年	東アジア 日本 内容： <u>自然地理の特徴</u> <u>臨海工業地域</u> <u>発達した漁業と単位面積当たりの生産性が高い</u> <u>東洋と西洋の文化の特徴を共有する</u>

ウ) 中学校の「歴史」

①「歴史」の『教学大綱』⁹⁾の教育目標

初級中学の歴史教育は、生徒に基礎的な歴史知識の学習と把握を要求する。すなわち、生徒

に中国歴史と世界史の発展の基本的な糸口を理解させ、重要な歴史事件、歴史人物と歴史現象及び重要な歴史概念を理解させることである。

初級中学の歴史教育は、生徒に初歩的な唯物弁証法主義と歴史唯物主義の教育、特に社会発展の規律の教育を行うことを施す。国情教育、愛国主義と国際主義教育を行う。中国社会主義初期段階の基本路線教育、革命伝統と道徳情操教育を行う。祖国の社会主義現代化の建設と人類の平和、進歩事業に、献身的な歴史的責任感をもつ生徒を育成する（傍線は引用者）。

②「歴史」の教科書¹⁰の内容

学年	内容
中学校1. 2年	<p>中国古代史(第二冊) 第5課「天下に知己がいる」 内容(一部)：<u>唐風が奈良中に溢れている</u> 第15課「五代、遼、宋、夏、金の時代における経済儒教(二)」 内容(一部)：<u>盛んな海外貿易(日宋貿易)</u></p> <p>中国近代史(第三冊) 第12課「甲午中日戦争(日清戦争)と民族的な危機の深まり」 内容：<u>甲午中日戦争</u> 『<u>馬関条約(下関条約)</u>』 <u>加速する帝国主義の列強の経済侵略と中国を分割する風潮</u></p> <p>中国近代史(第四冊) 第5課「日本が中国侵略した『九・一八』事変」 内容(一部)：<u>「九・一八」事変(柳条湖事変)の捏造</u> <u>「一・二八」事変(日本軍による上海侵略)</u> <u>日本による満州国の傀儡政権の成立</u> <u>「塘沽協定」の締結</u> <u>全国における抗日救国の運動の高まり</u></p> <p>第9課「日本侵略者による残虐な統治」 内容(一部)：<u>日本が中国を侵略した方針の変化</u> <u>日本軍の残虐な統治</u> <u>日本軍の野蛮な略奪</u></p> <p>第12課「抗日戦争の勝利」 内容(一部)：<u>日本帝国主義の降伏</u></p>
中学校3年	<p>世界史(第一冊) 第10課「東アジアと西アジア封建社会」 内容(一部)：<u>日本の大化改新</u> 第24課「日本の明治維新」</p> <p>世界史(第二冊) 第13課「独伊日のファシズム化」 内容(一部)：<u>日本軍部勢力の強化</u> <u>独伊日枢軸の形成</u></p> <p>第22課「世界情勢の新たな変化」 内容(一部)：<u>主要な資本主義国家の経済状況と国内社会の葛藤</u></p> <p>第23課：「現代の文化」 内容(一部)：<u>アジア、アフリカ及びラテン・アメリカの文学</u> <u>小林多喜二</u></p>

エ) 中学校の歴史教科書に登場した日本人物

最後に、今回のアンケート調査で子どもたちが取り上げた日本人の名前(表3、4、5)と比較するために、中学校の歴史教科書に登場する日本人の名前をリストする。アンケート調査において調査対象とされるのは、主に中学校2年生と3年生の子どもたちであった。ゆえに世界歴史に登場する日本人を除いて、その他の人物をすでに「歴史」のなかで勉強したと考えられる。

表7 中学校の歴史教科書に登場した日本の人物名

分類	人物名	登場する場面	教科書
日本のブルジョア革命	大塩平八郎	明治維新	世界歴史第一冊
	徳川慶喜	明治維新	世界歴史第一冊
	明治天皇	明治維新	世界歴史第一冊
戦争関係	伊藤博文	『下関条件』を締結する際の日本の総理大臣	中国歴史第三冊
	梅津美治郎	日中戦争時の軍人	中国歴史第四冊
	向井和野田	中国人を虐殺した日本軍人	中国歴史第四冊
	岡村寧次	日本の敗戦	中国歴史第四冊
	日本天皇(昭和天皇)	日本の敗戦	中国歴史第四冊 世界歴史第二冊
文化交流・文学	安倍仲麻呂	唐の時代における文化交流	中国歴史第二冊
	小林多喜二	日本プロタリア作家	世界歴史第二冊
友好関係	田中角栄	日中の国交回復	中国歴史第四冊

(3) 社会科学習が生み出す「日本認識」

以上、今回の調査で対象とされた中国の中学2、3年生が学校で日本についてどのような学習を行ったかについて、社会科学系教科の「教学大綱」及び教科書に記述される内容を中心に考察してきた。この考察を通して、現代の小・中学校の社会科学系教科における日本学習には、以下のような問題点が存在していることが指摘できる。

ア) 社会科学系教科教育の目標と日本を捉える視点について

『教学大綱』に記述される教育目標、とくに傍線の部分に示されたように、現在社会科学系教科において日本を捉える視点が非常に乏しくて一面的である。「社会」、「地理」及び「歴史」の目標が、「愛国教育」、「国民教育」及び「国情教育」という大枠によって規定されているため、「日本」に関する内容は、「ナショナリズムの高揚」と「愛国感情の喚起」のための反面教材にとして使われる場合が多い。例えば歴史教科書に登場する日本の人物に限ってみると、そこで登場するのは、ほとんど中国人にとって民族的な敵である。逆に「文学」、「芸術」、「民間交流」といった視点、歴史上の日本を描いたり、日本人を取り上げたりする内容が非常に少ない。子どもが近代以降の日本及び日本人について、一面的な知識しかもたずに、戦争から離れ、日本のことを理解することはとても困難である。

イ) 日本をめぐる社会科学系教科の教科書の語り方について

社会科学系教科の教科書における日本において、その大部分は近代における戦争の場面を占め、あ

とほんの一部は現代の日本社会の内容である。

すでに言及されるように近代の日本に関する語り方は、ほとんど「侵略戦争対反侵略戦争」を中心とするものである。

また小学校の「社会」や中学校の「地理」における現代日本に関する語り方は、教科書に提示される学習キーワード——「桜」「富士山」、「着物」、「経済大国」——のように、常に表面的な常識にとどまり、そして現代の日本社会を映し出すための写真があまり提示されないため、そこに現われる「日本の姿」は、年代の分からないリアリティの欠けた遠い存在であり、またそこに映し出される「日本社会」と「日本人」も、常に人間のぬくもりを感じないロボットのようなものが多い。

4 おわりに

第二次世界大戦が終結してから60年あまり経過した今日では、日本との政治体制の違い及び、日本による占領経験のトラウマから、中国の学校教育のなかでは、日本のことは常に特定の文脈——「抗日戦争」、「民族的な悲しみ・恨み」、「爱国感情の喚起」と結び付けながら語られてきた。

またここ十年、中国の門戸開放及び情報技術の発達によって、日本からの情報や物がさまざまなルートから大量に中国に流入し、新たな世代に大きな影響を与えるようになった。このような新たな変化に対して、子どもたちにナショナリズムの感情を保持させると同時に、子どもたちに日本、さらに世界のことをどのように認識させるか、あるいは世界を見るさいにいかなる「目」をもたせるかは、もはや中国の学校教育に要請されるもう一つの大きな課題である。この課題を解決するさいに、歴史上における特定の「日本」を子どもたちに語りつづけるだけでなく、さまざまな視点から日本を解読し、認識させるような教育的な環境を子どもたちに提供することが必要であろう。

(劉 焯)

【注】

- 1 張競「文化が情報になったとき」『世界』1998、4。
- 2 岩淵功一「グローバル化のプリズムとしてのアジアメディア交通」岩淵功一編『グローバル・プリズム——〈アジア・ドリーム〉としての日本のテレビドラマ』平凡社、2003。
- 3 ケリー・フー「再創造される日本のテレビドラマ」岩淵功一編『グローバル・プリズム——〈アジア・ドリーム〉としての日本のテレビドラマ』平凡社、2003。
- 4 注1を参照されたい。
- 5 中華人民共和国国家教育委員会編訂『九年義務教育全日制小学校社会教学大綱(試用)』人民教育出版社、1992。
- 6 九年義務教育全日制小学校社会『社会』(第4冊、第5冊)人民教育出版社、1996。
- 7 中華人民共和国国家教育委員会編訂『九年義務教育全日制初級中学地理教学大綱(試用)』人民教育出版社、1992。
- 8 九年義務教育全日制中学校『地理』(第1冊)人民教育出版社、1995。
- 9 中華人民共和国国家教育委員会編訂『九年義務教育全日制中学校歴史教学大綱(試用)』人民教育出版社、1992。
- 10 九年義務教育全日制中学校『中国歴史』(第2冊、第3冊と第4冊)及び『世界歴史』(第1冊)人民教育出版社、1995。